第２次丸亀城大手町地区
埋蔵文化財発掘調査報告書

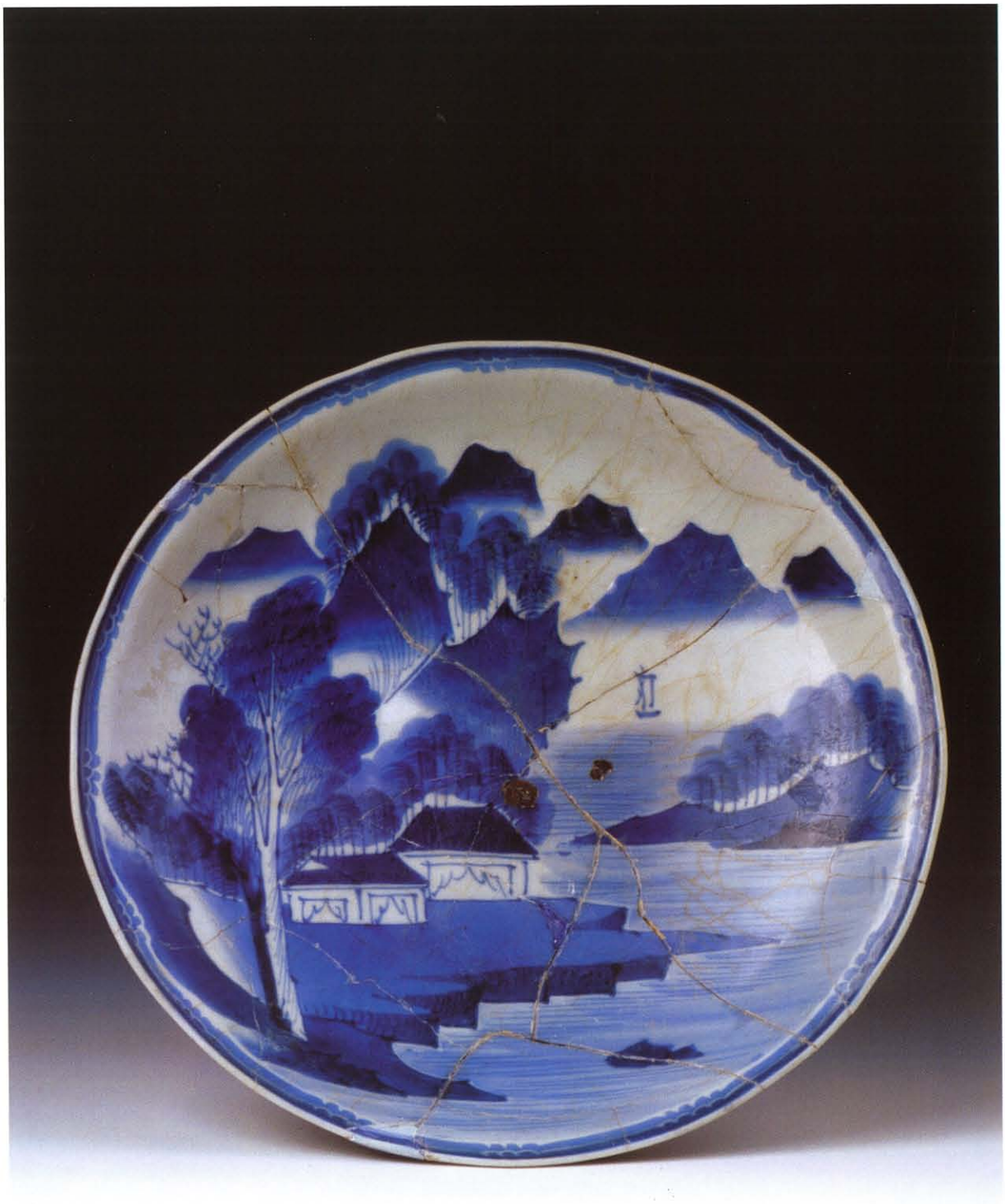
ロイヤルガーデン大手町建設に伴う埋蔵文化財発掘調査

平成２０年２月

株式会社和田コーポレーション
丸　亀　市　教　育　委　員　会

訂正

写真図版の出土遺物図版 5、102　SE01　1380 の丸瓦凸面の写真と CD 掲載の写真は、SD02 出土未報告丸瓦の写真でありましたので訂正します。



SK02出土遺物

巻頭写真２

SK02出土遺物

巻頭写真３

色絵陶器・磁器

例　言

・本書は、株式会社和田コーポレーションのマンション「ロイヤルガーデン大手町」建設に伴う埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

・調査地住所は丸亀市大手町三丁目１番23号で、敷地内の主要な遺跡は丸亀城跡の武家屋敷地遺構と近代の陸軍関係遺構である。

・株式会社和田コーポレーションと丸亀市が埋蔵文化財調査協定書を締結し、丸亀市教育委員会指導のもと丸亀市教育委員会文化課　東　信男と高畑　裕が埋蔵文化財発掘調査を担当した。

・埋蔵文化財調査協定書は（仮称）ロイヤルガーデン大手町建設に伴う埋蔵文化財調査管理業務とし、業務期間は平成18年５月８日から平成19年９月30日までとした。

・埋蔵文化財発掘調査は平成18年５月８日～平成18年７月31日まで実施した。

・整理作業は平成18年８月１日～平成19年７月31日まで実施し、土器の注記・実測作業、写真撮影、編集作業を実施した。

・報告書の執筆及び編集は東　信男がおこなった。

・報告書の作成に当っては、下記の方々のお世話になった。謝意をいたします。

株式会社和田コーポレーション　和田康博　内海祐一郎　三宅洋史
堀家守彦　遠藤　亮　片桐孝浩（香川県埋蔵文化財調査センター）　川畑　聡（高松市教育委員会）
大島和則（高松市教育委員会）　佐藤亜聖（財団法人元興寺文化財研究所）　乗岡　実（岡山市教育委員会）　福原茂樹（広島市文化財団）　荒木幸治（赤穂市教育委員会）　大北知美（丸亀市立資料館）　吉久由紀子（丸亀市立資料館）　吉澤加代子（多度津町教育委員会）

・記録類や出土品は、丸亀市飯山中央公民館、丸亀市金倉現場事務所で整理を行い、図版類は丸亀市生涯学習センターで、遺物は丸亀市綾歌町栗熊倉庫で保管している。

・作業員の雇用は株式会社和田コーポレーションと満岡組で行い、重機掘削・埋め戻しは満岡組で行った。

満岡組　満岡昌二郎・松村和夫・林　正弘
作業員　高木繁夫・松内朝彦・松本春夫・伊藤福島・喜岡　茂・末光甲正・窪田静夫・合田　貢・田中澤次・西村康夫・大川義久・辻村敏一・畑尾邦彦・宮武洋子・杉峰ヨシ子

・遺構平面図・土層断面図は丸亀市教育委員会で行い、写真測量による遺構平面図・井戸の断面図・溝跡石列の立面図等の作成を株式会社イビソクが行った。図面のトレースは北山多佳子、平井佑典が行った。

・陶磁器・墨書土器・擂鉢・石製品等の実測は株式会社イビソクが行い、陶器・瓦等の実測は東信男、北山多佳子、谷口　梢が行った。

・出土遺物図版の遺構番号右側の４桁の数字は写真整理番号で、株式会社イビソク受託のもと寿福写真工房が撮影した。整理番号のないものは、東が行った。

凡　例

方位・高さの表示方法

座標は世界測地系を用いている。座標北は磁北から7°10′4″東へ傾いている。標高は東京湾海水面を利用している。

遺構・遺物実測図の縮尺等

遺構平面図、土層図はS=1/50とし、縮尺の異なるものは図中に示している。

遺物の縮尺は、土器S=1/4、瓦S=1/6、石製品S=1/6。土製品などの小さなものはS=1/2、銭と泥面子、小型の土錘はS=1/1である。

本文中の土層及び遺物に関する表記『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修）に依拠した。

本　文　目　次

第１章　経過 …… 1
　第１節　調査の経過 …… 1
　第２節　整理作業の経過 …… 4

第２章　遺跡の位置と環境 …… 5
　第１節　地理的環境 …… 5
　第２節　歴史的環境 …… 5
　第３節　丸亀城の歴史 …… 7
　第４節　城絵図について …… 8

第３章　試掘調査の方法と成果 …… 11

第４章　発掘調査 …… 14
　第１節　土層序 …… 14
　第２節　遺構 …… 23
　第３節　遺物 …… 51

第５章　出土瓦の分類と変遷 …… 89

第６章　出土遺物の集計について …… 93

第７章　総括 …… 95

挿図目次

巻頭写真１　SK02出土遺物
巻頭写真２　SK02出土遺物
巻頭写真３　色絵陶器・磁器

第１図　遺跡位置図 …… 5
第２図　遺跡分布図 …… 6
第３図　丸亀城・武家屋敷・城下町 …… 8
第４図　讃岐国丸亀城絵図「大洲の図」（14-23） …… 9
第５図　寛文年間の絵図（14－11） …… 9
第６図　元禄年間の絵図（14－45） …… 9
第７図　丸亀城郭及び城下町古地図　享和二年（14－28） …… 10
第８図　天保十五年甲辰　九月　原文文政十一戌子（14－40） …… 10
第９図　嘉永七年　圓亀家中屋敷割（14－32） …… 10
第10図　試掘トレンチ位置図 …… 11
第11図　土層図(1) …… 12
第12図　土層図(2) …… 13
第13図　調査位置図 …… 15
第14図　土層位置図・土層図(1) …… 17
第15図　土層図(2) …… 19
第16図　土層図(3) …… 21
第17図　調査区設定図・東区上面遺構平面図 …… 23
第18図　遺構平面図 …… 25
第19図　第１期下層平面図・土層図 …… 27
第20図　SK82　平面図・土層図 …… 27
第21図　SK86・SK75　平面図・土層図 …… 28
第22図　SK67　平面図・土層図 …… 28
第23図　SK68　平面図・土層図 …… 29
第24図　SK91　平面図・土層図 …… 29
第25図　SK70　平面図・土層図 …… 30
第26図　SK26　平面図・土層図 …… 30
第27図　SK62　平面図・土層図 …… 31
第28図　SK65　平面図・土層図 …… 31
第29図　SK31　平面図・土層図 …… 32
第30図　SK18　平面図・土層図 …… 32
第31図　SK63　平面図・土層図 …… 33
第32図　SK69　平面図・土層図 …… 33

第33図　SE01　井戸・SK21　平面図・土層図 …… 34
第34図　SX10　平面図・断面図 …… 34
第35図　SE01　井戸　断ち割り図 …… 35
第36図　SK74　平面図・土層図 …… 36
第37図　SK32　平面図・土層図 …… 36
第38図　SK73　平面図・土層図 …… 37
第39図　造成土１・２　平面図 …… 38
第40図　SK28　平面図・土層図 …… 38
第41図　SX11　平面図・土層図 …… 39
第42図　SK88　平面図・土層図 …… 39
第43図　SK20　平面図・土層図 …… 40
第44図　SK90　平面図・断面図 …… 40
第45図　SK05　平面図・土層図 …… 41
第46図　SK56　平面図・土層図 …… 41
第47図　SD10　下層溝　平面図・土層図 …… 42
第48図　SD10　上層溝　平面図・土層図 …… 43
第49図　SB01　平面図・土層図 …… 44
第50図　SK49・50　平面図・土層図 …… 45
第51図　SK17　平面図・断面図 …… 45
第52図　SK52　平面図・土層図 …… 46
第53図　SK53・54　平面図・土層図 …… 46
第54図　SK03　平面図・土層図 …… 47
第55図　SK10　平面図・土層図 …… 47
第56図　SK04　平面図・土層図 …… 47
第57図　SK02・平面図・土層図 …… 48
第58図　SX12　平面図 …… 48
第59図　SD02　平面図・土層図 …… 50
第60図　SK82　出土遺物実測図 …… 51
第61図　SK86　出土遺物実測図 …… 51
第62図　SK67　出土遺物実測図 …… 51
第63図　SK68　出土遺物実測図 …… 51
第64図　SK75　出土遺物実測図 …… 51
第65図　SK91　出土遺物・瓦実測図 …… 52
第66図　SK70　出土遺物・瓦実測図 …… 52
第67図　SK26　出土遺物実測図 …… 52
第68図　SK62　出土遺物実測図 …… 53

第69図　SK65　出土遺物実測図 …… 53
第70図　SK65　出土瓦実測図 …… 53
第71図　SK31　出土遺物実測図 …… 54
第72図　SK31　出土瓦実測図 …… 55
第73図　SK18　出土遺物実測図 …… 55
第74図　SK18　出土瓦実測図 …… 56
第75図　SK63　出土遺物実測図 …… 56
第76図　SK69　出土遺物実測図（1） …… 56
第77図　SK69　出土遺物（2）・瓦実測図 …… 57
第78図　SE01　井戸掘り方・SE01井戸内・SX10　出土遺物実測図 …… 57
第79図　SE01　井戸内・SX10　出土石製品実測図（1） …… 58
第80図　SE01　井戸内・SX10　出土石製品実測図（2） …… 59
第81図　SE01　井戸内・SX10　出土瓦実測図（1） …… 59
第82図　SE01　井戸内・SX10　出土瓦実測図（2） …… 60
第83図　SE01　井戸内・SX10　出土瓦実測図（3） …… 61
第84図　SK21　出土遺物・瓦実測図 …… 62
第85図　SK74　出土遺物実測図 …… 62
第86図　SK32　出土遺物実測図 …… 62
第87図　SK73　出土遺物実測図 …… 63
第88図　SK73　出土瓦実測図 …… 64
第89図　造成土１　出土遺物実測図（1） …… 64
第90図　造成土１　出土遺物実測図（2） …… 65
第91図　造成土１　出土瓦実測図 …… 66
第92図　造成土２　出土遺物実測図 …… 66
第93図　SK28　出土遺物実測図（1） …… 67
第94図　SK28　出土遺物実測図（2） …… 68
第95図　SK28　出土瓦実測図 …… 69
第96図　SX11　出土遺物・石製品実測図 …… 70
第97図　SK88　出土遺物実測図 …… 70
第98図　SK20　出土遺物実測図 …… 71
第99図　SK90　出土遺物・瓦実測図 …… 71
第100図　SK05　出土遺物実測図 …… 72
第101図　SK05　出土瓦実測図 …… 73
第102図　SK56　出土遺物・瓦実測図 …… 73
第103図　SD10　出土遺物実測図（1） …… 74
第104図　SD10　出土遺物実測図（2） …… 75

第105図　SB01（SP48）出土遺物実測図 …… 75
第106図　SK49　出土遺物実測図 …… 75
第107図　SK50　出土遺物・瓦実測図 …… 75
第108図　SK17　出土遺物実測図 …… 76
第109図　SK17　出土瓦実測図 …… 76
第110図　SK52　出土遺物実測図・拓本 …… 77
第111図　SK54　出土遺物実測図 …… 77
第112図　SK54　出土瓦実測図 …… 77
第113図　SK53　出土遺物・瓦実測図 …… 78
第114図　SK03　出土遺物・石製品実測図 …… 79
第115図　SK03　出土瓦実測図 …… 80
第116図　SK10　出土遺物実測図 …… 80
第117図　SK04　出土遺物・瓦実測図 …… 81
第118図　SK02　出土遺物実測図（1） …… 82
第119図　SK02　出土遺物実測図（2） …… 83
第120図　SK02　出土遺物実測図（3） …… 84
第121図　SK02　出土遺物実測図（4） …… 85
第122図　SK02　出土遺物実測図（5） …… 86
第123図　SK02　出土遺物実測図（6） …… 87
第124図　SK02　出土瓦実測図 …… 88
第125図　SD02　出土遺物実測図 …… 88
第126図　SX12　出土遺物実測図 …… 88
第127図　軒丸瓦の文様の分類・変遷について …… 91
第128図　出土遺構変遷図 …… 97

表目次

第１表　出土遺物種類別集計表 …… 94
第２表　出土遺物時期別集計表 …… 94
出土遺物観察表 …… 100
出土瓦観察表 …… 112
層位表 …… 116

写真図版

遺構写真図版

遺物写真図版

第１章　経　過

第１節　調査の経過

調査の原因

丸亀城跡大手町地区は土器川などの河川によって形成された丸亀平野の中央部やや北寄りに位置する丸亀城跡の北側旧一番丁から四番丁、現丸亀市大手町にあたる。香川県丸亀市大手町三丁目１番23号に所在する遺跡である。遺跡は丸亀城外濠内に隣接する武家屋敷地であり、標高は約5.7～5.8m前後を計る。

この遺跡に隣接する南側では、平成４年度に丸亀郵便局新築工事に伴い埋蔵文化財発掘調査が行われ、外濠跡や建物、道路跡、水路、土こうなどが確認された。

当該地は平成17年８月２・３日に試掘調査を実施し、丸亀城外濠跡をはじめ江戸時代の遺構が確認され、丸亀城跡大手町地区として周知の埋蔵文化財包蔵地となった。

株式会社和田コーポレーションが、当該地へ分譲マンションであるロイヤルガーデン大手町の建設を予定したことから取り扱い協議を進めた。

取り扱い協議

平成18年４月18日と27日に株式会社和田コーポレーションと丸亀市教育委員会は、丸亀城跡大手町地区の（仮称）ロイヤルガーデン大手町建設に伴う遺跡の保存について協議し、マンション建設現状地盤から深度２m程度を掘削するために協定書を締結し、発掘調査を実施した。

遺構の保存協議

調査対象地の敷地は約1770.57㎡で、そのうちマンション建設工事部分は、最大幅約18m、最大長約32mあり、面積は約602㎡ある。

平成18年４月７日付け文化財保護法第93条第１項の埋蔵文化財発掘調査の届出を香川県教育委員会へ提出し、18教分第692－４号で周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事について発掘調査との回答があり、記録保存のための発掘調査を実施した。

埋蔵文化財発掘調査

丸亀市教育委員会は、平成18年５月８日から発掘調査を開始し、平成18年７月31日まで継続して調査を実施した。調査は、残土置き場確保のため調査区を東西２分割して西区・東区として実施した。

試掘調査の結果、最上層の遺構面は現況地盤より深度約80cm付近で確認される。遺構面は１～５面あり、調査面積は計約1,232㎡を測る。

全体計画

体制　　主体者　株式会社和田コーポレーション
　　丸亀市教育委員会文化部文化課
　　担当者　課　長　山田哲也
　　主　幹　秋山　徹

副課長　宮浦敬子
担当長　葛西祥志
主　査　東　信男
主　査　西風伸彦
主　任　近藤武司
嘱　託　大野宏和
調査補助　高畑　裕

作業の経過

主な発掘作業は以下のとおりである。

平成18年

5月8日(月)　調査区を西区と東区に分け、西区から調査を開始する。西区の重機掘削。

5月9日(火)　重機掘削。

5月10日(水)　重機掘削。

5月11日(木)　午前中、水抜き。午後、重機掘削。

5月12日(金)　重機掘削。

5月15日(月)　土層の清掃と精査、調査区略図作成、試掘トレンチ確認作業、SK05検出作業。

5月16日(火)　各遺構の精査、SD01掘り下げ。

5月17日(水)　基準点測量。水抜き。

5月18日(木)　壁面の土層写真撮影、土層実測（SK05・03・12、SD01・02・03）、人力による各遺構の検出作業。

5月19日(金)　西半分の精査。

5月21日(日)　水抜き。

5月22日(月)　北東部第5層・第6層造成土を重機による掘り下げ。SK05・16・17・18・19・20・10・8・9検出作業。SD01方向確認。SK22確認。SK04精査完了。SK03・07写真撮影、全体の写真撮影。

5月23日(火)　水抜き

5月24日(水)　中央部から東側の写真撮影。SK03完掘。SK02掘り下げ、土層実測、写真撮影。SK05掘り下げ。精査後遺構がないので重機掘削。

5月25日(木)　南側の重機掘削。SK05掘り下げ。SK25・26掘り下げ。SK24・16土層実測。SD04掘り下げ、土層実測。SK18掘り下げ、土層実測、写真撮影。SK33掘り下げ。SK20土層実測、掘り下げ。SK26掘り下げ、土層実測。SK02土層実測、掘り下げ。調査区南壁精査。

5月26日(金)　SK05最下層掘り下げ。写真撮影、土層実測。SK02人力掘削、レベル実測、写真撮影。SK18・21・28掘り下げ。SK16・24・25・26・28土層実測、写真撮影。

5月27日(土)　水抜き

5月29日(月)　SK02実測、写真撮影、完掘。SK17・18・19完掘。SK16・24・25・26・08・09・28・31・32掘り下げ。

5月30日(火)　SK19土層実測。SK28・31・32・33・30掘り下げ。SK34・32・33・31・28・19・29完掘。東壁土層実測。SD04掘り下げ。SK31・33・32・29掘りきれていないことを確認。

5月31日(水)　SK32・33掘り下げ、清掃。写真測量（1回目）。土器洗い、遺物分類。

６月１日(木)　重機掘削。基盤層の精査。土器洗い、整理。

６月２日(金)　重機掘削、人力による灰色粘質土掘り下げ、精査。

６月５日(月)　精査、清掃。

６月６日(火)　写真測量（２回目）。西壁・東壁・北壁土層実測。

６月７日(水)　SK21掘り下げ、土層実測。各壁面の土層写真撮影。重機による埋め戻し。

６月８日(木)　西区重機による埋め戻し。東区調査開始。重機掘削。

６月９日(金)　東区重機掘削。

６月12日(月)　重機掘削。土層精査。基準点測量。

６月13日(火)　基準点測量。第１面平面実測。精査。試掘トレンチの土取り除き。北側２面直上まで重機掘削。

６月14日(水)　１面SK40掘り下げ。精査。平面図・土層図作成。

６月16日(金)　基準杭設置。試掘６トレンチより北側精査。南側かく乱層取り除き。試掘６トレンチの土層精査。SX10精査。

６月19日(月)　試掘６トレンチより北側精査完了、清掃、写真撮影。SX04検出、SX10の石列検出作業。かく乱層取り除き。

６月20日(火)　SX04写真撮影、取り除き。SD10検出作業、土層実測。SX10石列、瓦の遺物廃棄状況の確認。SX20コンクリート取り除き後に検出作業。

６月21日(水)　SD10西側肩出し。SX04下層の黄色土取り外し。SD10西側石列の検出作業。SX20、検出作業、清掃、写真撮影。SX10、清掃、写真撮影、石列取り除き。SX12・13清掃、写真撮影、平面実測。

６月22日(木)　水抜き

６月23日(金)　水抜き

６月26日(月)　水抜き。SX10断面実測。

６月27日(火)　水抜き。平面図作成。SP11・13、SK57土層図作成。SP10、SK48完掘。SD10精査。SX14検出作業。SX10検出作業。SX20清掃。SK49・50・56精査、写真撮影。北側写真撮影。

６月28日(水)　水抜き。SD10検出作業。SX10は井戸を廃棄した遺構であることを確認、SE01とする。SE01掘り下げ。井戸跡を確認。SP12、土層、写真、完掘。北側清掃。SX20清掃。

６月29日(木)　水抜き。SD10清掃、写真。SK53・54・52精査、清掃。SK56・49・50掘り下げ、土層実測、完掘、写真撮影。SE01掘り下げ写真。写真測量（第３回）。

６月30日(金)　東区東壁、北壁土層実測。

７月３日(月)　水抜き。SD10石列外し、下部レベル実測、掘り下げ、写真撮影。重機掘削。下層の精査。

７月４日(火)　試掘６トレンチ南土層書き足し、北土層実測。SP14土層実測、写真撮影。SK68・67・59土層実測、写真撮影。SK59・60・61・63・64・65・66・73・74・67・68・69・70・71・72・75・76・77・SP14の平面実測。

７月５日(水)　SK59・62・63・79・71・72・70・67・68・69・SP14完掘、写真撮影。下層の灰白粘質シルトより須恵器片出土。SK60・65・75・SX15検出作業。

７月６日(木)　SK65完掘。平面実測。

７月７日(金)　SK83・76完掘。SK82・73掘り下げ。SK60・74・77・SE01土層実測、写真撮影。

7月9日(日)　水抜き

7月10日(月)　SE01清掃、写真、掘り下げ、井戸内石組み天端より3mまで瓦・石・コンクリート出土。SK60・73・94・78掘り下げ。北側包含層掘り下げ。SK82・81・85・86完掘。SK77完掘、肩掘り過ぎ。

7月11日(火)　SE01清掃、写真、写真測量。SK73・60掘り下げ、土層実測、完掘。SX74写真撮影、完掘。SD11土層実測、完掘、写真撮影。清掃。写真測量（4回目）。

7月12日(水)　北壁、東壁土層実測。SK88・89掘り下げ、土層実測、写真撮影。遺物選別。

7月13日(木)　SX11検出作業。宝篋印塔の塔身部出土。SK87・88写真撮影、完掘。重機掘削。精査。

7月14日(金)　下層精査。SX11・SK89検出作業。

7月18日(火)　SX11検出作業、写真撮影、掘り下げ。市営住宅跡地より土こう検出。北側精査。

7月21日(金)　SK90検出作業。SX11掘り下げ、土層実測、写真撮影。SK90・SX11平面実測、レベル実測。中央と西部の灰白粘質シルト取り除き。南側精査。

7月22日(土)　SK90清掃、写真撮影。SX11完掘、写真撮影。SE01検出作業。北側清掃。

7月23日(日)　SE01掘り下げ、井戸底の確認、完掘、清掃、写真撮影。北側清掃。

7月24日(月)　清掃、SE01清掃。

7月25日(火)　清掃、写真測量（5回面）。SE01写真測量。遺物運搬、道具片付け。

7月26日(水)　土層書き足し。SE01掘り方の確認。埋め戻し。

7月27日(木)　南壁土層実測。埋め戻し。道具運搬。

7月28日(金)　埋め戻し。

7月31日(月)　埋め戻し完了。写真撮影。調査完了。

第2節　整理作業の経過

体制　主体者　株式会社和田コーポレーション
　　丸亀市教育委員会文化課
　　担当者　東　信男
　　高畑　裕
　　谷口　梢
　　北山多佳子
　　株式会社イビソク
　　寿福写真工房

作業の経過

遺物の洗浄は、東信男、高畑裕の指導のもと発掘作業員が行った。

遺物の注記は株式会社イビソクが、陶磁器や擂鉢等の測量は株式会社イビソクと陶磁器、陶器、瓦の実測は谷口梢、北山多佳子が、瓦の拓本は谷口、北山が行った。

遺物の写真撮影は、株式会社イビソク受託のもと寿福写真工房で実施し、追加分は東が行った。

本文の執筆は東信男が行い、編集は東、高畑、谷口、北山が実施した。

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

第１図　遺跡位置図

香川県は四国東北部に位置する全国で最小の県である。北側は瀬戸内海を挟み岡山県と相対し、南側は阿讃山脈で徳島県と画している。土地面積に占める平野の割合は高く、主な平野は西から三豊平野・丸亀平野・高松平野・志度平野などがある。

丸亀平野は、土器川が主として形成した堆積平野である。北部の低地では土器川の古扇状地が沖積世初頭の海進で浅海に沈み、その後の海退で海面上に現れた海岸平野の上に、土器川や金倉川などの河川の堆積によって形成された沖積平野である。

地形はほとんど起伏がなく、河川上流地帯の地質に由来する砂礫あるいは泥によって形成されている。丸亀城のある亀山は、山上部の基盤岩は新第三紀讃岐層群の風化凝灰岩、南側は中生代白亜紀領家花崗岩類強風化花崗岩となっている。城内西側にある丸亀市立資料館と亀山の間にある「かぶと岩」はマグマが吹き出た沿道部が風化してできた岩頸と呼ばれるものである。

亀山北側の大手町の調査では、丸亀平野で見られる黄色粘質シルト層が検出される。

城跡北側の高い箇所は、古代以降には陸地になっていたものと考えられる。

角川書店　昭和60年『香川県地名大辞典37香川県』
丸亀市　平成７年『新編丸亀市史１　自然・原始・古代・中世編』
丸亀市・青葉工業株式会社　平成６年「平成６年度史跡丸亀城跡帯曲輪南石垣修理に伴う地質調査」
丸亀市・青葉工業株式会社　平成７年「平成６年度史跡丸亀城跡帯曲輪石垣修理に伴う地質調査」

第２節　歴史的環境

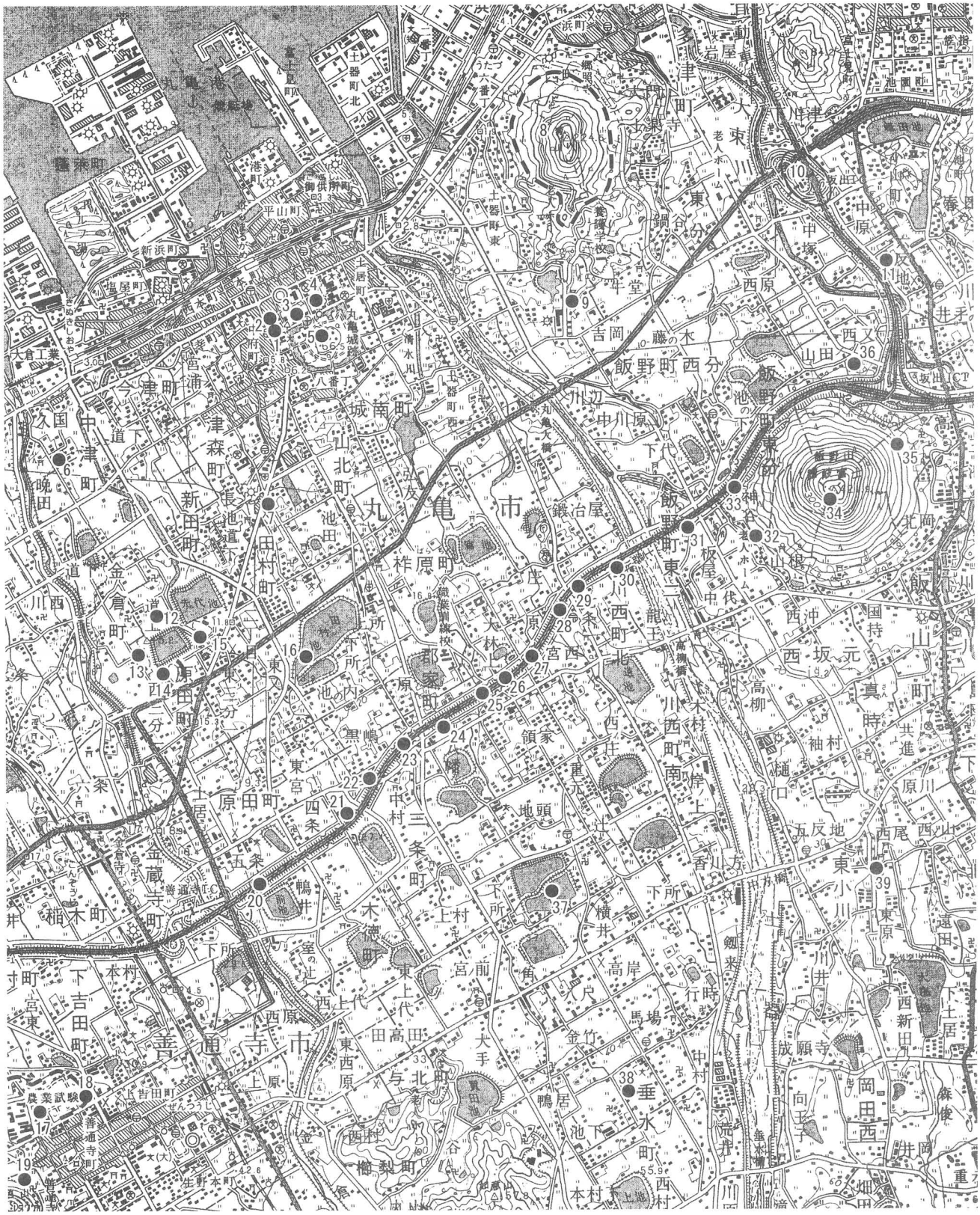
丸亀市内には旧石器時代から近世まで様々な遺跡が分布する。旧石器時代の主要な遺跡としては市のほぼ中央部を横断する四国自動車道の建設に伴い確認された丸亀市三条町の「三条黒島遺跡」がある。

縄文時代の遺跡としては、市の南西部の丸亀市総合運動公園周辺にある「平池西遺跡」や「平池南遺跡」で滋賀里期の土器を包含する河川跡などが見つかっている。

弥生時代の著名な遺跡としては、「平池西遺跡」などに隣接する弥生時代前期中ごろから中期初頭の多重環濠集落である「中の池遺跡」がある。飯野山山頂には弥生時代中期の祭祀遺構である「飯野山山頂遺跡」や飯野山西麓には後期の高地性集落である「飯ノ山西麓遺跡」がある。

古墳時代の遺構としては、前期古墳は、青ノ山南麓の市指定史跡である吉岡神社前方後円墳、飯野山東裾にある三ノ池前方後円墳、国道33号線沿いにある国指定史跡の快天山古墳や県指定史跡の陣の丸古墳がある。後期の横穴式石室をもつ古墳は青ノ山や飯野山に点在している。

古代の遺跡としては古代寺院である田村町に田村廃寺、郡家町に宝幢寺、飯山町に法勲寺、綾歌町に



1　第１次丸亀城大手町地区
2　第２次丸亀城大手町地区
3　第３次丸亀城大手町地区
4　第４次丸亀城大手町地区
5　丸亀城跡
6　中津城
7　田村遺跡（田村廃寺）
8　青ノ山古墳群
9　吉岡神社前方後円墳
10　下津川遺跡
11　川津下樋遺跡
12　中の池遺跡
13　平池西遺跡
14　平池南遺跡
15　平池東遺跡
16　田村池遺跡
17　旧練兵場遺跡
18　中村廃寺跡
19　善通寺旧境内
20　竜川五条遺跡
21　三条番ノ原遺跡
22　三条黒島遺跡
23　郡家原遺跡
24　郡家一里屋遺跡
25　郡家大林上遺跡
26　郡家田代遺跡
27　川西北原遺跡
28　川西北七条Ⅰ遺跡
29　川西北七条Ⅱ遺跡
30　川西北鍛冶屋遺跡
31　飯野東二瓦礫遺跡
32　飯野山西麓遺跡
33　飯野東分山崎南遺跡
34　飯野山山頂遺跡
35　三ノ池前方後円墳
36　川津東山田遺跡
37　宝憧寺跡
38　垂水妙見遺跡
39　法勲寺跡

第２図　遺跡分布図

横山廃寺などがある。

中世は市内南部の綾歌町の山なみには、市指定史跡の栗熊城跡や西長尾城跡がある。この西長尾城は長宗我部氏の家臣国吉甚左衛門が入城し国吉城とも呼ばれている。

近世は市の中心市街地に所在する国指定史跡である丸亀城跡があり、亀山を中心とした高石垣の城郭と武家屋敷、城下町が築かれた。生駒氏・山崎氏・京極氏が入城し、江戸後期以降、丸亀湊は金毘羅参詣の入港地として栄えた。

第３節　丸亀城の歴史

天正15年(1587)、生駒親正候が讃岐の領主として入封する。東讃に引田城を築城し、天正16年に香東郡野原庄に高松城を築城する。

慶長２年（1597）に西讃岐地方の押さえとして親正候と一正候が亀山に丸亀城築城を開始する。それに先立ち生駒氏は、慶長元年に宇多津の三浦より漁夫を移住させている。生駒氏の城郭は尊敬閣文庫や国会図書館所蔵の絵図によると山上の一ノ段～四ノ段、山下の五ノ段まであり、一ノ段中央部には高さ二間の天守台石垣が描かれている。現存する天守と場所は異なっており、縄張りも現在残っている形とはやや違っている。生駒氏の丸亀城は元和の一国一城令により、一旦廃城となり、生駒氏も寛永20年（1640）、お家騒動により改易となる。生駒氏のときの絵図には武家屋敷地や城下町の詳細な記載はなく不明である。

寛永21年、肥前国富岡から山崎家治候が西讃岐の領主として入封し、幕府の許可を得て正保元年（1643）に生駒氏の城跡地に築城を着手する。山崎氏は城地選定に時間を要したが、築城にあたっては幕府から参勤交代の免除と銀300貫が下賜されている。山崎氏の築城を知る手がかりとして、築城開始直後に作成された正保二年（1645）に幕府に提出した城絵図「正保城絵図」や改易時に作成されたと推測される「大洲の図」（市指定文化財）などの絵図から山崎氏の築城をうかがい知ることができる。現在の山上の縄張りは、ほぼ山崎氏の絵図と類似しており、現縄張りが山崎氏の手になるものであることを伺い知ることができる。また、「正保城絵図」には武家屋敷地や城下町の記載もあり、特に古町と書かれた箇所は生駒氏時代からあった町であると考えられる。山崎氏も嫡主なく絶家となり、万治元年（1658）、播磨国竜野から京極氏が入封する。京極氏は山崎氏の城整備を継続し、万治３年（1660）に丸亀城天守の完成、寛文10年（1670）に大手門を現在地へ建造する。

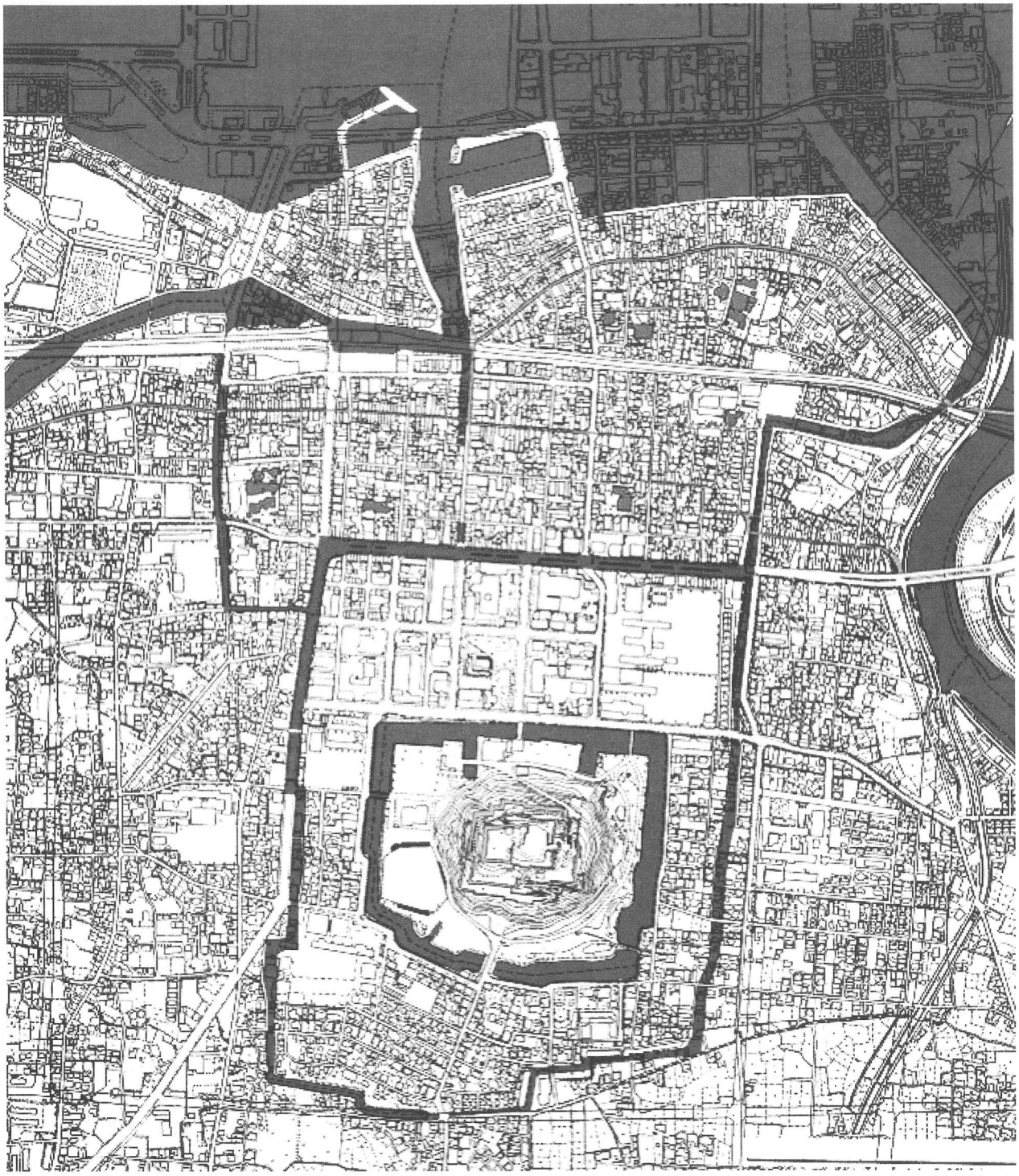
また、江戸後期になると丸亀城下町は金毘羅参詣の入港地として栄え、福島湛甫、新堀湛甫など港を整備し、多くの参詣客が丸亀を訪れた。

明治以後は陸軍省の管轄となり、明治７年には丸亀城北側と東側の一番丁から四番丁の武家屋敷地は立ち退きとなった。武家屋敷地跡には陸軍第十二連隊の営舎が築かれた。城内にも軍の仮司令室等の施設があり、城内やの武家屋敷地は陸軍の施設として戦後まで使用された。

戦後、軍の営舎の跡は大手町となり、官庁や学校等の教育施設が造られた。調査地は、昭和28年～29年にかけて耐火４階建て２棟48戸の市営「翠山荘アパート」が建設され近年まで使用された。

参考文献

丸亀市教育委員会　昭和63年『讃岐丸亀城研究調査報告書』
丸亀市　平成６年『新編丸亀市史２　近世編』
丸亀市　平成８年『新編丸亀市史３　近代・現代編』
丸亀市　平成８年『新編丸亀市史５　年表編』



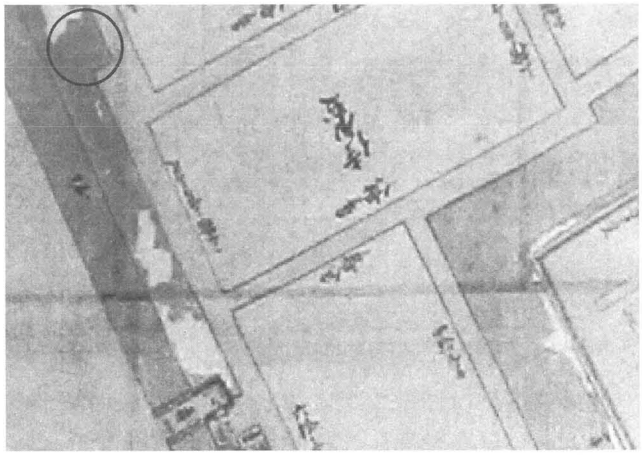
第３図　丸亀城・武家屋敷・城下町

第４節　城絵図について

丸亀市立資料館には、丸亀城の城郭絵図が残されており、これらの絵図をもとに調査箇所の変遷を見てみたい。

生駒氏時代の城郭絵図は内濠や外濠は描いているが、武家屋敷地を詳細に描いた図面は保管されていない。外濠の形も現状とは違っており詳細は不明である。

山崎氏時代の城郭絵図は、丸亀市指定の文化財で讃岐国丸亀城(14－23)、通称「大洲の図」と呼ばれる図面がある。これは、大洲市にあったもので、大洲藩主の加藤氏は生駒、山崎両氏の改易時ともに丸亀城の引き取りをした大名である。城の詳細な内容や縄張りから山崎氏の改易時の城受け取り状況を描いた図面であると思われる。この「大洲の図」は、山上部分の建物や石垣を詳細に記載するためややデフォルメされている。山下部分から武家屋敷地についての記載もあるが、屋敷地の地割りは詳細な記入はなく不明である。当該箇所の状況を見ると屋敷地と道路、土塁であると思われる。武家屋敷地や城下町の町割りやその間数、家臣の配置など詳細を描いた図面は京極氏入封以降のものとなる。

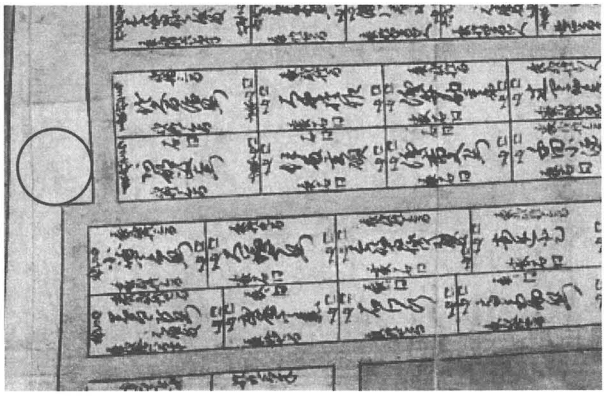


第４図　讃岐国丸亀城絵図「大洲の図」（14-23）

京極氏時代の当該地は丸亀城武家屋敷地、四番丁の一角にあり、外濠西面に接する。丸亀市立資料館所蔵の絵図で武家屋敷地を詳細に描いている絵図を外濠から郭内へ施設配置状況を見る。

①　寛文年間の絵図（14-11）1661～1672

外濠の土塁があり、鍵型に屈曲した道路と屋敷地が描かれる。当該地は外濠土塁内側の空白地となっている。

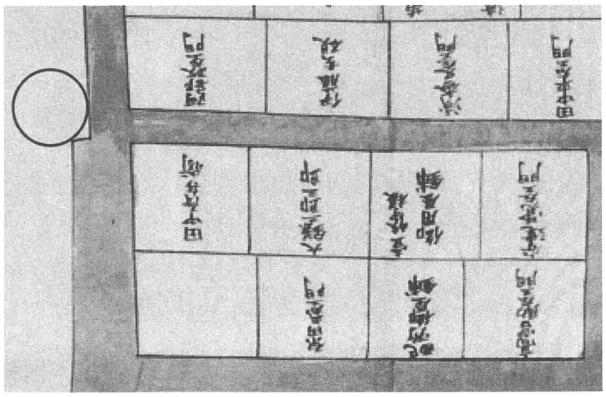


第５図　寛文年間の絵図（14-11）

②　元禄年間の絵図（14-45）1688～1703

寛文年間の絵図同様、外濠土塁、空白地、鍵型に屈曲した道路、屋敷地となっている。

外濠土塁内側にはまだ屋敷の記載がない。



第６図　元禄年間の絵図（14-45）

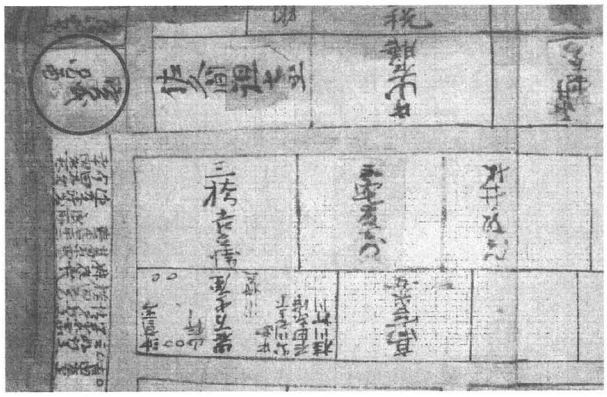
③　丸亀城郭及び城下町古地図　享和二年（14-28）1802

外濠、土塁、屋敷地、道路、屋敷地となる。上記の絵図との違いは濠端に屋敷地が築かれている。南北道路から外濠土塁の間は「御竹林」と記載があり、竹林があった。東西道路と南北道路が鍵型に交差する外濠方向に延長した先に竹林へ入場するための門であろうか建物が描かれている。また、この竹林の東側は南北道路に沿う水路も描かれている。竹林すぐ北の濠端には屋敷地の記載があり、勝田周蔵の名が見える。勝田周蔵は「多度津藩分限帳」によると寛政十二年（1800）多度津藩大目付の記載がある。この辺りの武家屋敷地は、壱岐様御用所や林求馬等の多度津藩の家臣名が伺える。

第７図　丸亀城郭及び城下町古地図
享和二年(14-28)

④　天保十五年甲辰（1845）九月　原書文政十一戌子（1828）（14－40）

外濠、土塁、屋敷地、道路、屋敷地となる。濠端にあった竹林には長屋が築かれ多くの家臣が居住している。また、鍵形に曲がる道路の北側の邸宅は勝田氏から宮武図南と記載されている。「丸亀藩分限帳一」に「御側医師　扶持持拾人」宮武図南と記録が見える。多度津陣屋は文政十年（1827）に完成し、同十二年に多度津へ移っているため、御用所は空白となり、郭内の家臣名も変更が見られる。

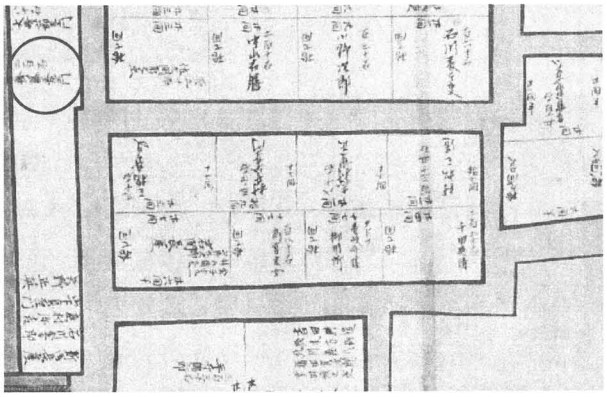


第８図　天保十五年甲辰　九月
原文文政十一戌子(14-40)

⑤　嘉永七年（1854）季春　圓亀家中屋敷割（14－32）

幕末の頃を示す絵図である。

外濠、土塁、屋敷地、道路、屋敷地となる。道路は鍵型となっている。長屋は「新御長屋」とあり、家臣名の記載が減少している。この北側の濠端の屋敷地は宮武氏に代わり二百石持ちの斉藤正左エ門と記載されている。「丸亀藩分限帳二」にある二百俵網干郡代斉藤勝左衛門（正左エ門）のことであろう。



第９図　嘉永七年　圓亀家中屋敷割(14-32)

これらの絵図を見ると京極氏時代の道路や屋敷割りはあまり変化がない。京極氏初期頃の外濠端の当該地の記載資料はなく不明であり、今後、資料を収集し検討する必要はあるが、19世紀初頭から幕末までの頃は絵図による変遷は可能である。19世紀初頭は勝田氏の屋敷地と竹林、19世紀中頃は宮武氏の屋敷地と長屋、幕末は斉藤氏の屋敷地と長屋として使用されていることが確認できる。

資料協力　丸亀市立資料館

讃岐國丸亀城　「大洲の図」　整理番号(14－23) 市指定文化財

寛文年間の絵図　整理番号(14－11)

元禄年間の絵図　整理番号(14－45)

丸亀城郭及び城下町古地図　享和２年　整理番号（14－28）市指定文化財

天保十五年甲辰（1845）九月　原書文政十一戌子　整理番号（14－40）

嘉永七年（1854）季春　圓亀家中屋敷割（14－32）

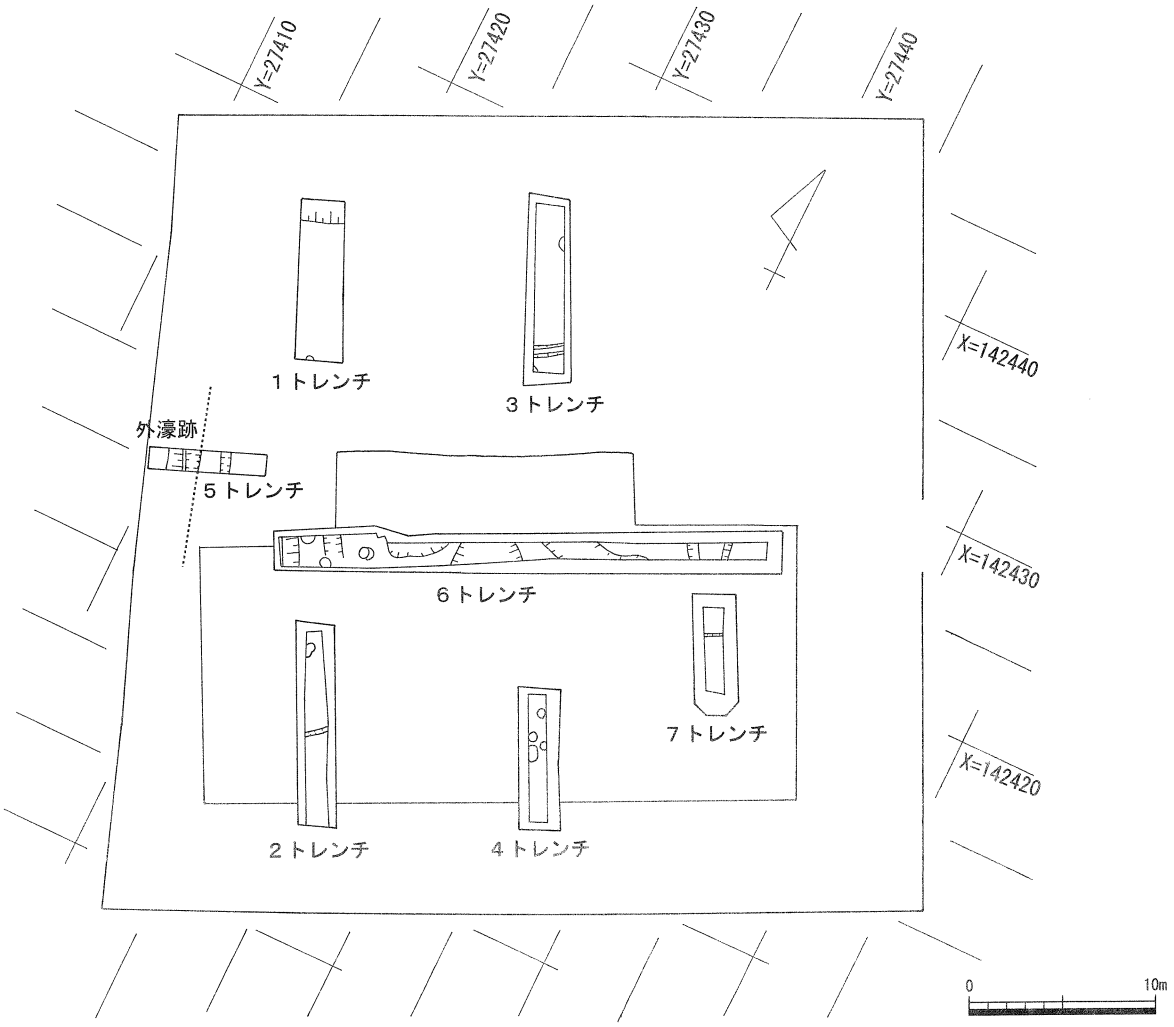
参考文献　　丸亀市　平成６年『新編丸亀市史４　資料編』

丸亀市　平成８年『新編丸亀市史５　年表編』

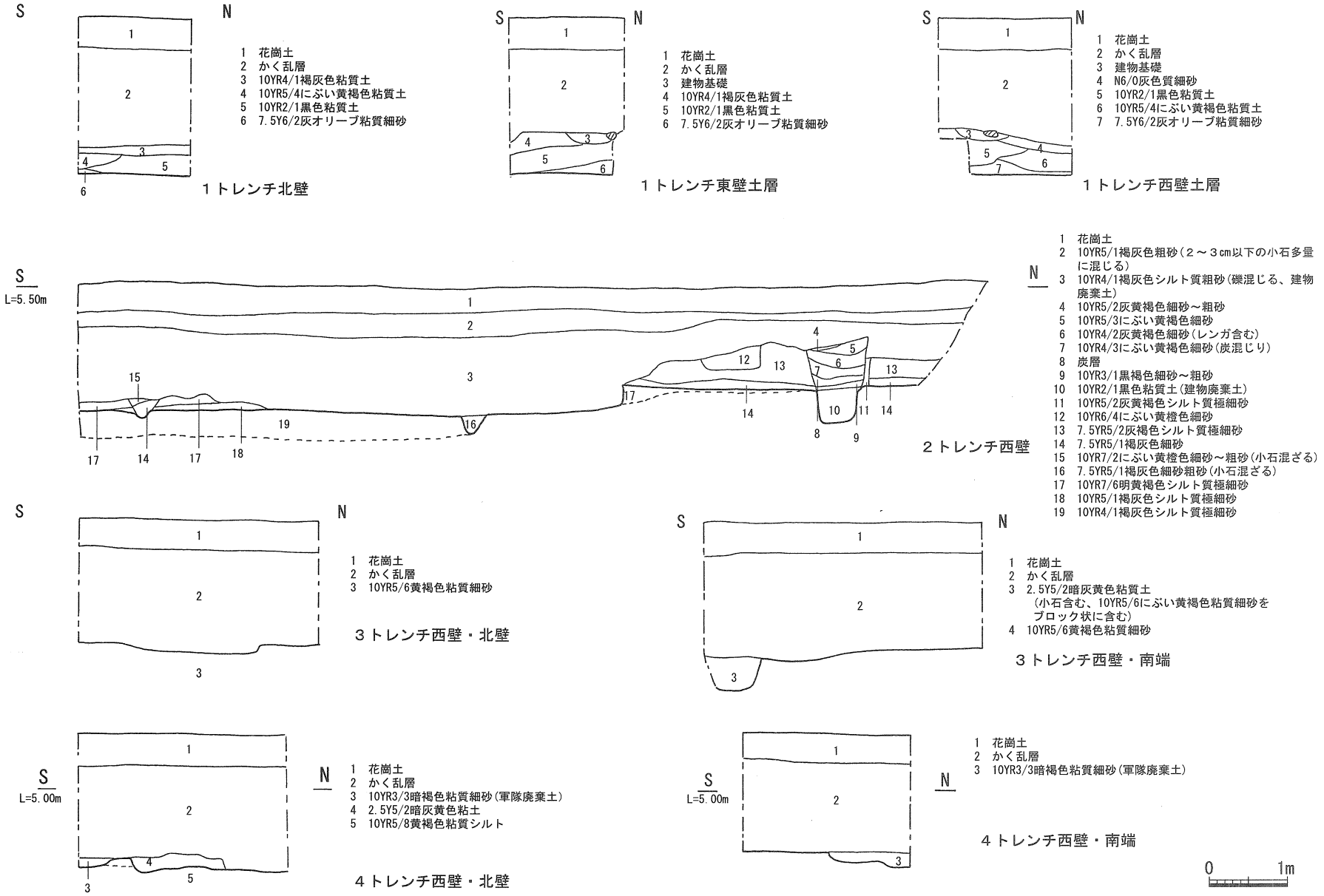
第３章　試掘調査の方法と成果

試掘調査の成果

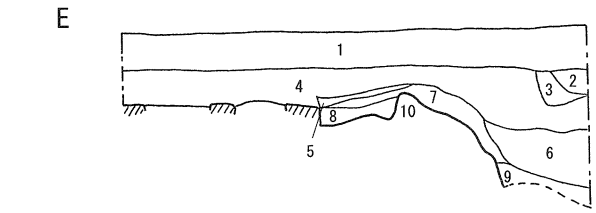
試掘調査は敷地内に所在する外濠の確認と遺跡の確認を実施した。外濠は調査地西端の第５トレンチで確認された。第１～４、７トレンチでは、市営「翠山荘アパート」に伴うかく乱を確認した。概ねどのトレンチも近代以降の軍隊施設等の建設による開発によりかく乱を受け、残りは悪いものの第６トレンチ東側や西側など遺構面が数面確認できた箇所もあり、外濠や武家屋敷地の変遷を知ることができる。



第10図　試掘トレンチ位置図

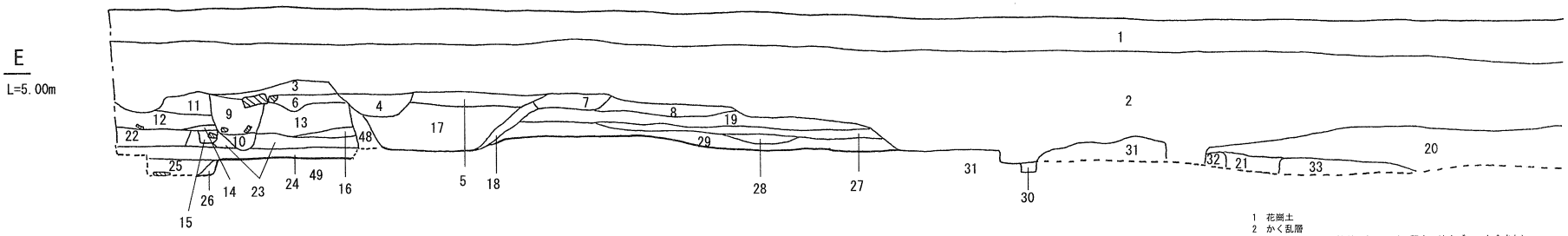

S
N
1 花崗土
2 かく乱層
3 10YR4/1褐灰色粘質土
4 10YR5/4にぶい黄褐色粘質土
5 10YR2/1黒色粘質土
6 7.5Y6/2灰オリーブ粘質細砂
1トレンチ北壁
1 花崗土
2 かく乱層
3 建物基礎
4 10YR4/1褐灰色粘質土
5 10YR2/1黒色粘質土
6 7.5Y6/2灰オリーブ粘質細砂
1トレンチ東壁土層
1 花崗土
2 かく乱層
3 建物基礎
4 N6/0灰色質細砂
5 10YR2/1黒色粘質土
6 10YR5/4にぶい黄褐色粘質土
7 7.5Y6/2灰オリーブ粘質細砂
1トレンチ西壁土層
S
L=5.50m
N
1 花崗土
2 10YR5/1褐灰色粗砂(2～3cm以下の小石多量に混じる)
3 10YR4/1褐灰色シルト質粗砂(礫混じる、建物廃棄土)
4 10YR5/2灰黄褐色細砂～粗砂
5 10YR5/3にぶい黄褐色細砂
6 10YR4/2灰黄褐色細砂(レンガ含む)
7 10YR4/3にぶい黄褐色細砂(炭混じり)
8 炭層
9 10YR3/1黒褐色細砂～粗砂
10 10YR2/1黒色粘質土(建物廃棄土)
11 10YR5/2灰黄褐色シルト質極細砂
12 10YR6/4にぶい黄橙色細砂
13 7.5YR5/2灰褐色シルト質極細砂
14 7.5YR5/1褐灰色細砂
15 10YR7/2にぶい黄橙色細砂～粗砂(小石混ざる)
16 7.5YR5/1褐灰色細砂粗砂(小石混ざる)
17 10YR7/6明黄褐色シルト質極細砂
18 10YR5/1褐灰色シルト質極細砂
19 10YR4/1褐灰色シルト質極細砂
2トレンチ西壁
1 花崗土
2 かく乱層
3 10YR5/6黄褐色粘質細砂
3トレンチ西壁・北壁
1 花崗土
2 かく乱層
3 2.5Y5/2暗灰黄色粘質土
(小石含む、10YR5/6にぶい黄褐色粘質細砂をブロック状に含む)
4 10YR5/6黄褐色粘質細砂
3トレンチ西壁・南端
S
L=5.00m
N
1 花崗土
2 かく乱層
3 10YR3/3暗褐色粘質細砂(軍隊廃棄土)
4 2.5Y5/2暗灰黄色粘土
5 10YR5/8黄褐色粘質シルト
4トレンチ西壁・北壁
1 花崗土
2 かく乱層
3 10YR3/3暗褐色粘質細砂(軍隊廃棄土)
4トレンチ西壁・南端
0 1m

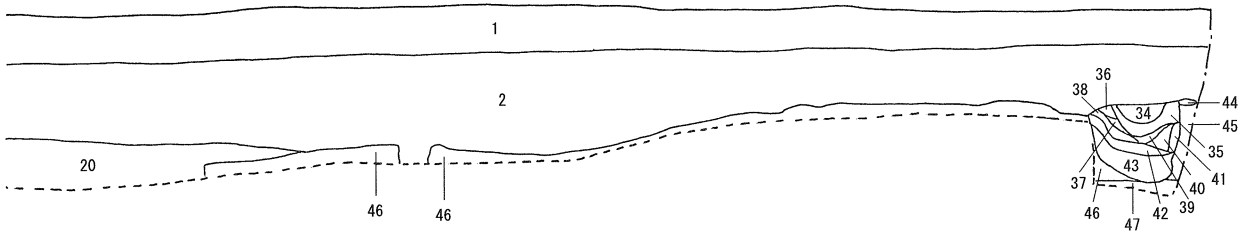
第11図 土層図(1)



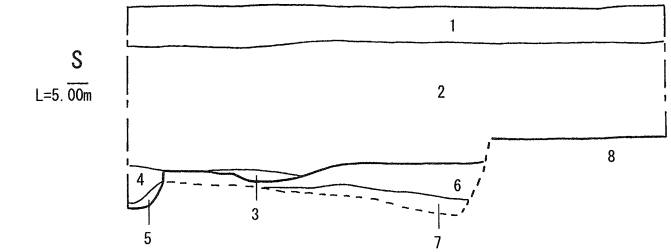
1 花崗土
2 2.5Y4/1黄灰色粘質土
3 2.5Y4/2暗灰黄色粘質土
4 2.5Y5/1黄灰色粘質土(地山ブロック含む)
5 10YR2/1黒色粘質細砂(炭含む)
6 10YR3/1黒褐色粘質土
7 2.5Y6/3にぶい黄色細砂
8 2.5Y6/3にぶい黄色粘質細砂
9 5Y5/1灰色粘質土(マンガン含む、堀の埋土)
10 10YR7/1灰白色粘質土

5トレンチ南壁・西端





6トレンチ南壁



1 花崗土
2 かく乱層
3 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト
4 2.5Y4/2暗灰黄色粘質細砂(5～10cmの円礫含む)
5 2.5Y4/2暗灰黄色粘質細砂(5～10cmの円礫含む)
6 10YR5/6黄褐色粘質細砂(地山)
7 10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト
8 2.5Y5/2暗灰黄色粘質シルト

7トレンチ西壁・北端

0 1m

1 花崗土
2 かく乱層
3 10YR4/2灰黄褐色粘質土(小石、1cm程度の地山ブロック含をむ)
4 2.5Y8/2灰白色砂層
5 2.5Y4/1黄灰色粘質シルト
6 10YR4/2灰黄褐色粘質土(22層をブロック状に含む)
7 10YR3/4暗褐色土
8 10YR4/2灰黄褐色粘質土(22層をブロック状に含む)
9 2.5Y6/2灰黄色粘質シルト
10 10YR4/1褐灰色粘質細砂(10YR7/2にぶい黄橙色粘質土をブロック状に含む)
11 10YR4/3にぶい黄褐色粘質土
12 10YR3/2黒褐色粘質土
13 10YR5/4にぶい黄褐色粘質土(22層をブロック状に含む)
14 2.5Y6/2灰黄色粘質細砂
15 2.5Y5/1黄灰色粘質細砂(川原石、花崗岩含む)
16 10YR6/4にぶい黄褐色粘質シルト
17 2.5Y4/2暗灰黄色粘質土細砂
18 10YR7/4にぶい黄橙色粘質土
19 10YR5/4にぶい黄褐色粘質土(地山混じる)
20 10YR4/2灰黄褐色粘質土
21 10YR4/2灰黄褐色粘質土
22 2.5Y6/2灰黄色粘土
23 2.5Y5/2暗灰黄色細砂
24 2.5Y4/1黄灰色シルト
25 2.5Y4/2暗灰黄色粘質細砂(少し粗い)
26 2.5Y4/1黄灰色細砂
27 2.5Y3/2黒褐色粘質土
28 10YR6/6明黄褐色粘質シルト(地山)
29 10YR6/6明黄褐色シルト
30 2.5Y5/2暗灰黄色粘質シルト
31 10YR4/4褐色シルト
32 10YR4/4褐色シルト(31層と同じ)
33 10YR5/3にぶい黄褐色粘質細砂(円礫、地山ブロック含をむ)
34 10YR4/2灰黄褐色粘質土(小石、1cm程度の地山ブロックを含む)
35 10YR4/3にぶい黄褐色粘質土
36 10YR4/2灰黄褐色粘質土(45層をブロック状に含む)
37 10YR4/2灰黄褐色粘質土
38 10YR3/2黒褐色粘質土
39 10YR4/2灰黄褐色粘質土(45層をブロック状に含む)
40 10YR3/4暗褐色土
41 10YR5/4にぶい黄褐色粘質土(45層をブロック状に含む)
42 10YR5/4にぶい黄褐色粘質土(地山混じる)
43 2.5Y3/2黒褐色粘質細砂
44 10YR6/6明黄褐色粘質細砂
45 2.5Y6/2灰黄色粘土
46 2.5Y6/2灰黄色粘土
47 2.5Y5/4黄褐色粘質シルト(地山)
48 2.5Y5/3黄褐色粘質細砂
49 10YR6/6明黄褐色粘質シルト(地山)

第12図 土層図(2)

当該調査の実施に当たって設定された目的や課題

試掘調査西端で検出された丸亀城外濠跡は掘削が及ばないことから現況保存とし、ロイヤルガーデン大手町建設に係る箇所の記録のための発掘調査を実施した。

調査地は第13図調査位置図のとおりである。

調査地は、近代以降に軍施設として使用され、その後、市営翠山荘アパートとして、最近まで利用されていた場所である。近現代のかく乱が著しいなかで、造成に伴う生活面の形成をどれだけ検出できるか、また、調査事例も少ないことからどのような遺構が残っているか把握することに努めた。

第４章　発掘調査

第１節　土層序

現況地面は標高5.7～5.8mである。市営翠山荘アパートを解体した後に造成した花崗土が約0.4m程度あり、その下はかく乱層が全体に広がる。

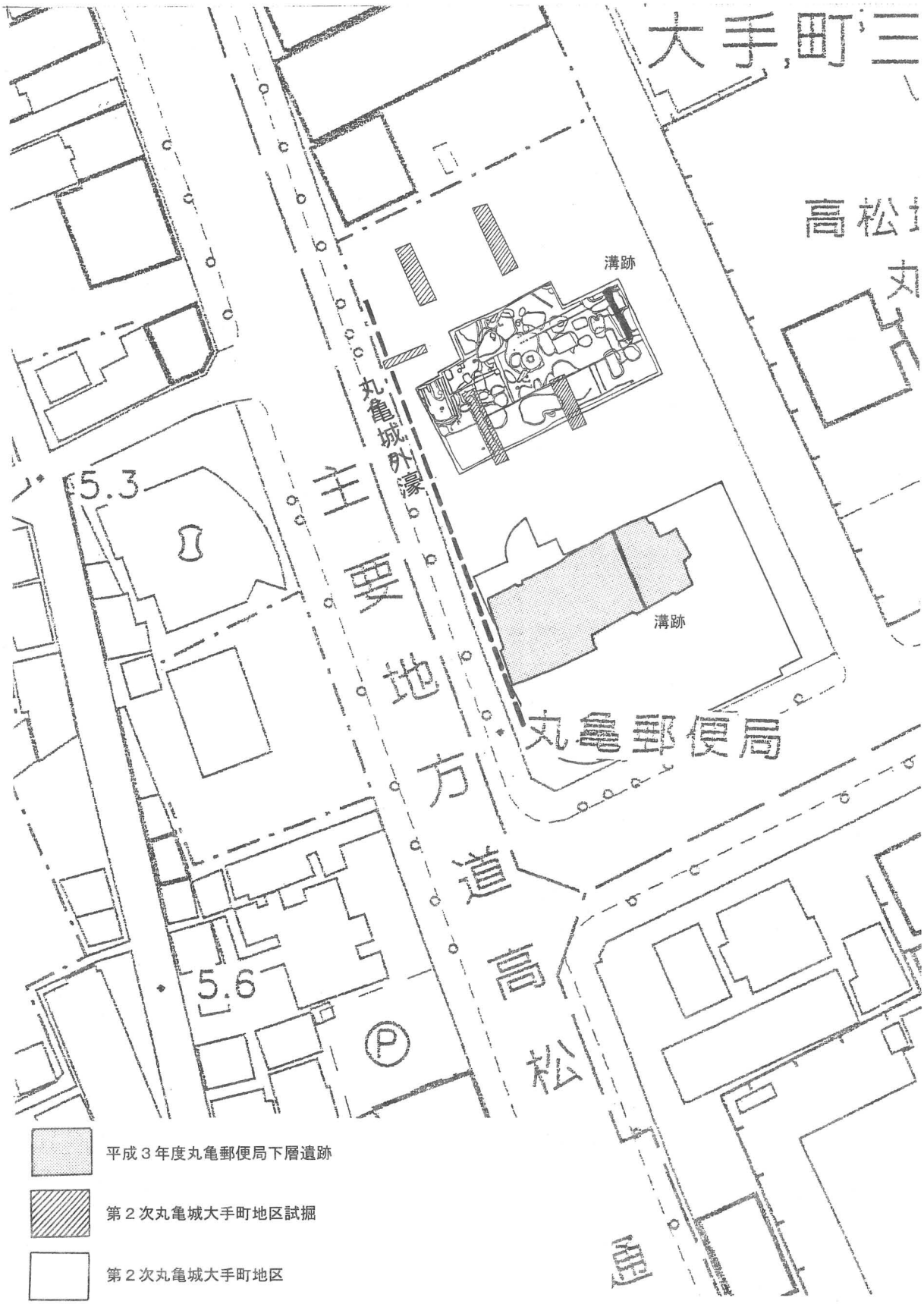
調査地で遺構面が残っているところは西面で標高5.2m、北面で4.8m、東面4.5～4.6m、南面で4.3m、中央南北断面で4.6mである。

遺構面は５面検出しているが、第5面は近現代で標高5.0～5.2m以上でかく乱を受けているため残りが悪い。第４面は標高4.8～4.9mである。第３面は標高4.7mである。第２面は標高4.6mである。第１面4.2mである。標高4.2m～4.3mは黄色粘質シルト層の基盤層であり、この層より下層での遺構は検出されなされなかった。

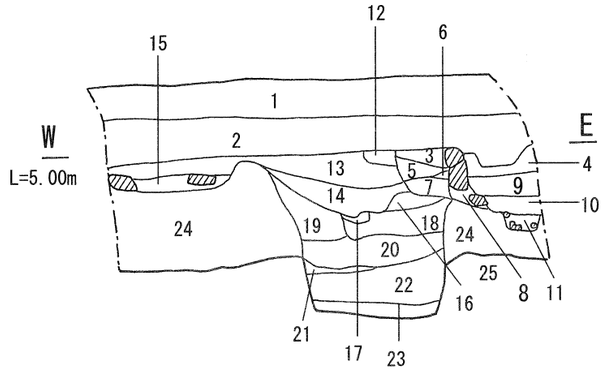
調査区南側の市営翠山荘アパート建設及び解体に伴う掘削は基盤層より下まで掘削が及び遺構の残りが悪く、調査区全体にも近代以降のかく乱が多く全体的に残りは悪かった。

ただ、東北側の残りは良く遺構も良好に残っていた。

調査地の堆積状況から丸亀城北西側の当地は、須恵器や石器片が出土していることから古墳～古代頃にはすでに海ではなく安定した陸地となっていたことが分かる。

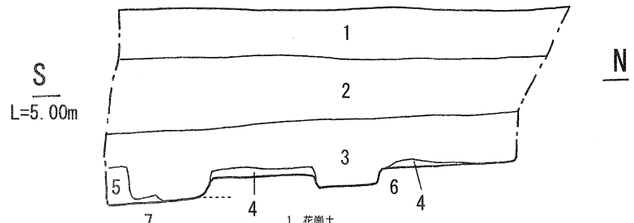


第13図　調査位置図（S=1/800）



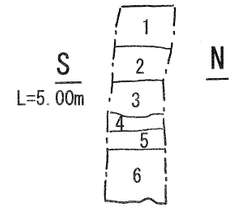
土層①

1 花崗土
2 かく乱層
3 2.5Y7/4浅黄色細砂(小石を多量に含む。石の裏込め)
4 10YR7/1灰白色粘質細砂(小石、炭を多量に含む)
5 10YR8/2灰白色シルト(10YR8/6黄橙粘質シルトを含む)
6 2.5Y7/2灰黄色粘質細砂
7 2.5Y7/2灰黄色細砂(小石を含む)
8 2.5Y7/2灰黄色粘質シルト
9 10YR6/4にぶい黄橙色粘質シルト
10 2.5Y3/2黒褐色細砂(灰、しっくい含む)
11 2.5Y3/2黒褐色粘質土
12 2.5Y5/1黄灰色(灰)
13 2.5Y4/4オリーブ褐色粘質細砂(かなり固い)
14 2.5Y5/6黄褐色細砂(1～2mmの小石を多量に含む)
15 2.5Y5/1黄灰色粘質細砂(かく乱をうけている)
16 2.5Y5/6黄褐色細砂(小石と礫を含み固い)
17 2.5Y5/4黄褐色細砂
18 2.5Y3/3暗オリーブ褐色細砂(粘質土、コンクリート片含む)
19 2.5Y4/3オリーブ褐色細砂上層は2.5Y5/4黄褐色細砂層とやや明るい砂(炭含む)
20 10YR3/4暗褐色粘質細砂(小石、瓦、遺物含む)
21 2.5Y3/1黒褐色粘質細砂 (砂質が粗い。貝殻等含む)
22 2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘質細砂(遺物、貝殻等含む)
23 5Y3/1オリーブ黒粘質細砂
24 10YR6/3にぶい黄橙色粘質土
25 10YR6/4にぶい黄橙色粘質シルト



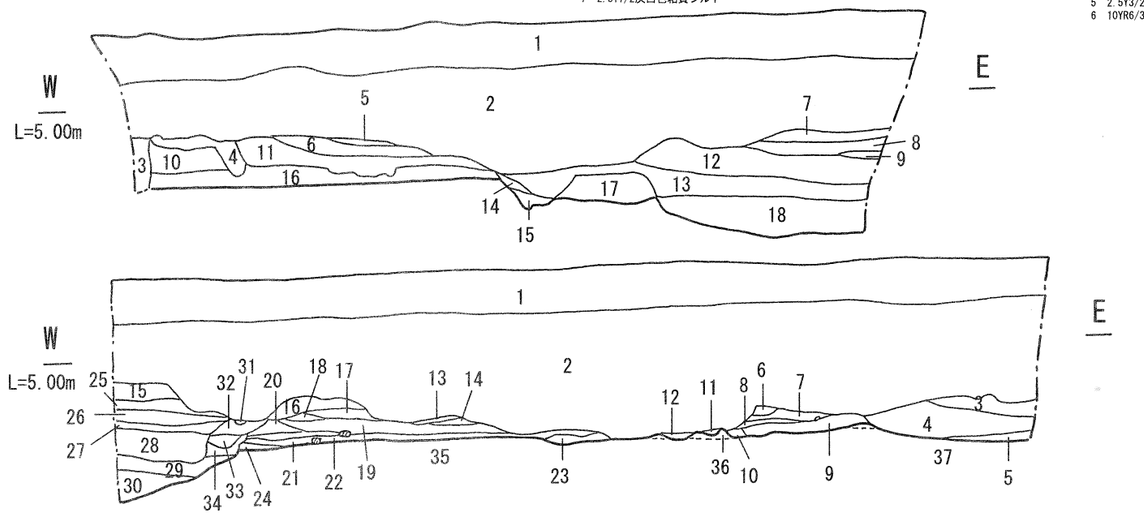
土層④

1 花崗土
2 5Y3/2オリーブ黒色細砂
3 かく乱層(炭層及び軍隊のレンガ含む)
4 10YR6/2灰黄褐色粘質シルト
5 2.5Y5/3黄褐色粘質シルト(中～下層にかけて2.5Y7/3浅黄色シルトが攪拌したように含む)
6 10YR8/6黄橙色粘質シルト
7 2.5Y7/2灰白色粘質シルト



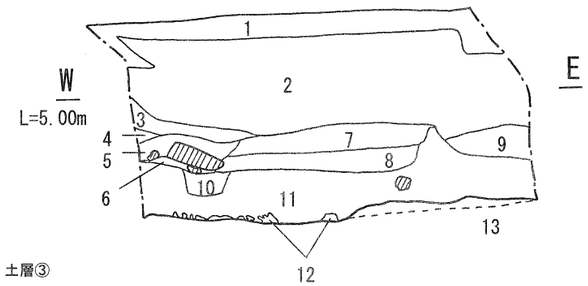
土層②

1 花崗土
2 かく乱層
3 10YR7/1灰白色粘質細砂(小石、炭を多量に含む)
4 10YR6/4にぶい黄橙色粘質シルト
5 2.5Y3/2黒褐色細砂(灰、しっくい含む)
6 10YR6/3にぶい黄橙色粘質土



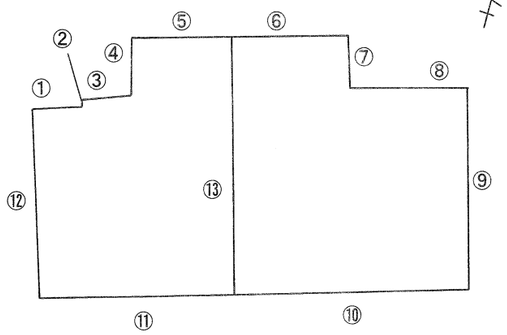
土層⑥

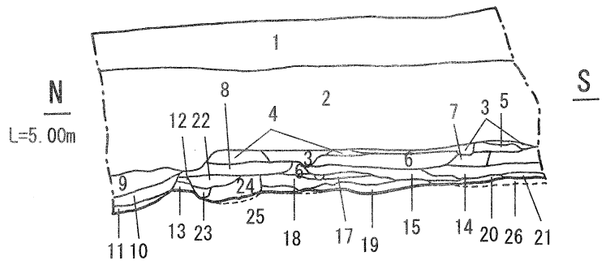
1 花崗土
2 かく乱層
3 2.5Y5/4黄褐色粘質細砂
4 2.5Y5/1黄灰色粘質細砂
5 10YR4/3にぶい黄褐色シルト(黄色シルト含む)
6 2.5Y5/4黄褐色細砂(黄色粘土含む)
7 2.5Y6/2灰黄色細砂(2.5Y6/6明黄褐色粘質細砂と小石を含む)
8 2.5Y4/4オリーブ褐色細砂
9 2.5Y5/4黄褐色粘質シルト(黄色粘土粒状に含む)
10 2.5Y5/4黄褐色シルト
11 2.5Y6/3にぶい黄色粘質シルト
12 2.5Y5/4黄褐色粘質シルト
13 2.5Y5/2暗灰黄色粘質土
14 10YR5/2灰黄褐色粘質細砂(小石含む)
15 2.5Y4/4オリーブ褐色粘質細砂(炭含む)
16 10YR6/4にぶい黄橙色粘質シルト
17 10YR6/3にぶい黄橙色粘質シルト(礫含む)
18 2.5Y6/4にぶい黄色粘質シルト
19 10YR7/8黄橙色粘質細砂(小石、遺物含む)
20 2.5Y6/4にぶい黄色粘質細砂(礫含む)
21 2.5Y5/4黄褐色粘質細砂(1～2cmの小石多量に混じり、固くしまる)
22 10YR6/3にぶい黄橙色粘質シルト
23 2.5Y4/4オリーブ褐色粘質細砂(炭含む)
24 2.5Y5/4黄褐色シルト(瓦含む)
25 2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘質細砂(炭含む)
26 10YR4/4褐色粘質細砂(小石が多量に混じり、固くしまる)
27 10YR4/4褐色粘質細砂(小石、遺物含む)
28 10YR5/8黄褐色細砂(礫含む)
29 10YR4/4褐色粘質細砂層(炭上層に広がり2～5cm程度の礫含む遺物包含層)　盛成土1
30 10YR5/6黄褐色粘質細砂(2mm程度の小石を含む)　SK32
31 2.5Y6/6明黄褐色粘質細砂
32 2.5Y6/4にぶい黄色粘質細砂(小石、遺物含む)
33 2.5Y5/3黄褐色粘質細砂(5～10cmの河原石を含み、固くしまる)
34 2.5Y5/4黄褐色細砂(小石含む)
35 2.5Y6/6明黄褐色シルト
36 2.5Y6/6明黄褐色粘質シルト
37 10YR7/8黄橙色粘質シルト



土層③

1 花崗土
2 5Y3/2オリーブ黒色細砂
3 10YR7/1灰白色粘質細砂(小石と炭を多量に含む)
4 10YR6/4にぶい黄橙色粘質シルト
5 10YR4/4褐色炭(2～5mm程度の礫含む。遺物含む)
6 2.5Y4/2暗灰黄色粘質シルト (小石含む)
7 かく乱層(炭層及び軍隊のレンガ含む)
8 10YR2/3黒褐色炭
9 かく乱層(炭層及び軍隊のレンガ含む)
10 2.5Y4/4オリーブ褐色粘質細砂(遺物、炭含む)
11 2.5Y5/3黄褐色粘質シルト(中～下層にかけて2.5Y7/3浅黄色シルトが攪拌したように含む)
12 2.5Y7/3浅黄色シルト
13 2.5Y7/2灰白色粘質シルト



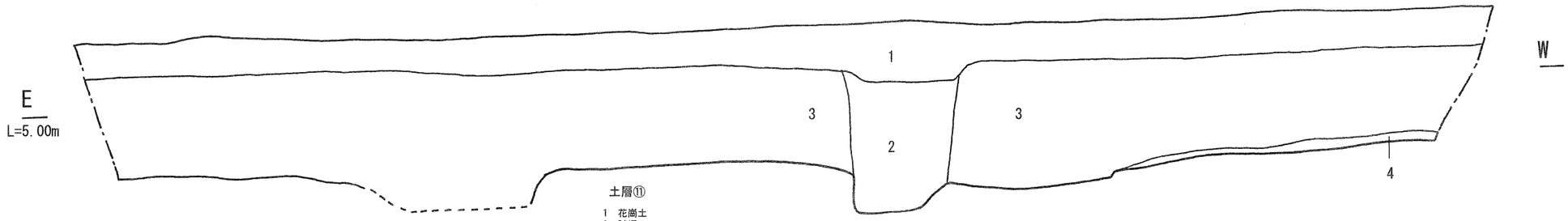


土層⑦

1 花崗土
2 かく乱層
3 炭層
4 2.5Y4/6オリーブ褐色極細砂
5 2.5Y5/4黄褐色粘質極細砂
6 2.5Y4/6オリーブ褐色極細砂
7 2.5Y5/4黄褐色粘質土(小石を含み、固くしまる。上面に小石がならぶ遺構面)
8 2.5Y4/6オリーブ褐色粘質細砂
9 2.5Y5/4黄褐色粘質細砂
10 2.5Y5/1黄灰色粘質細砂
11 10YR4/3にぶい黄褐色シルト(黄色シルト含む)
12 10YR7/4にぶい黄橙色シルト
13 10YR6/4にぶい黄橙色シルト(上層に小石を含む)
14 2.5Y4/3オリーブ褐色粘質細砂(小石を多量に含む)
15 10YR6/6明黄褐色粘質細砂(小石を含み、固くしまる)
16 欠番
17 10YR7/3にぶい黄橙色シルト
18 10YR6/3にぶい黄橙色粘質シルト
19 10YR6/8明黄褐色粘質シルト(鉄分を含む)
20 10YR6/4にぶい黄橙色シルト
21 10YR6/6明黄褐色粘質細砂(小石を含み、固くしまる)
22 10YR6/8明黄褐色粘質シルト　SK63
23 10YR6/6明黄褐色細砂(1～2mmの小石を含む)　SK63
24 2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘質細砂　SK63
25 10YR7/8黄橙色粘質シルト
26 10YR6/3にぶい黄橙色粘質シルト

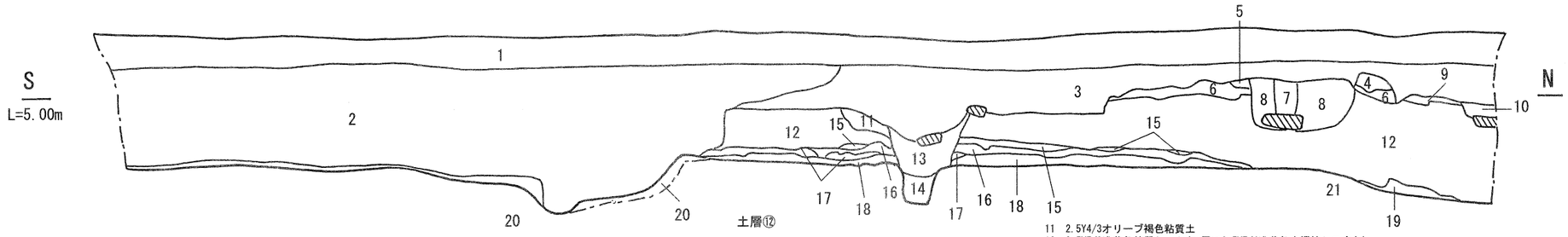
0　1m

第14図　土層位置図・土層図 (1)



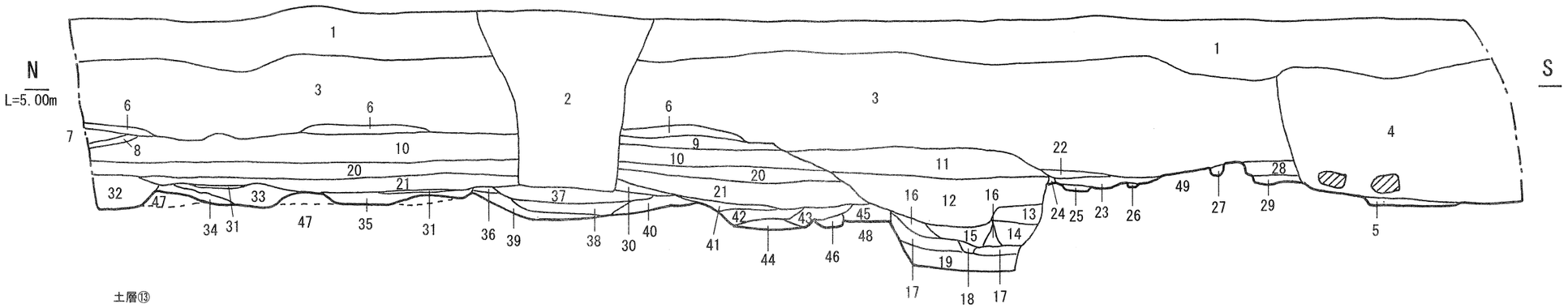
土層⑪

1　花崗土
2　試掘トレンチ
3　かく乱層(市営住宅による)
4　10YR8/6黄橙色シルト質粘質土



土層⑫

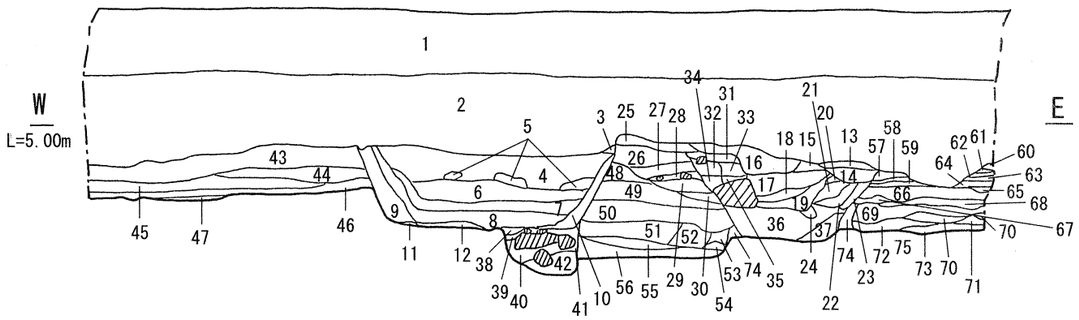
1　花崗土
2　かく乱層（市営住宅による）
3　かく乱層
4　2.5Y5/6黄褐色粘質細砂
5　10YR6/4にぶい黄橙色粘質土
6　10YR6/4にぶい黄橙色粘質土
7　2.5Y3/2黒褐色細砂(灰含む)
8　2.5Y5/6黄褐色細砂（2.5Y7/3浅黄色粘質シルト含む）
9　2.5Y6/4にぶい黄色粘質シルト
10　2.5Y5/6黄褐色粘質細砂
11　2.5Y4/3オリーブ褐色粘質土
12　2.5Y7/3浅黄色粘質シルト(下層に2.5Y7/4浅黄色を攪拌して含む)
13　2.5Y4/3オリーブ褐色細砂(コンクリートがら含む)
14　2.5Y4/3オリーブ褐色細砂(コンクリートがら含む)
15　10YR5/4にぶい黄褐色細砂質シルト
16　2.5Y6/2灰黄色シルト(7.5YR5/8明褐色シルト層マンガン多量に含む)
17　10YR6/6明黄褐色粘質シルト(マンガン含む)
18　10YR7/2にぶい黄橙色シルト(マンガン稀に含む)
19　2.5Y6/4にぶい黄色シルト＋2.5Y7/4浅黄色シルト
20　10YR7/6明黄褐色粘質シルト
21　2.5Y6/2灰黄色粘質シルト(2.5Y7/4浅黄色シルトとマンガン含む)



土層⑬

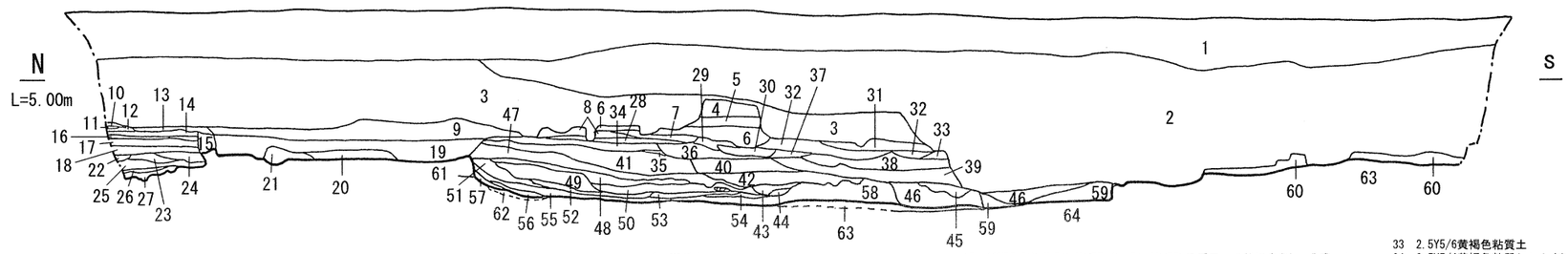
1　花崗土(造成土)
2　試掘トレンチ
3　5Y3/2オリーブ黒色細砂(10YR7/6明黄褐色粘質土、灰層、コンクリートがら含むかく乱層)
4　5Y3/2オリーブ黒色細砂(10YR7/6明黄褐色粘質土、灰層、コンクリートがら含むかく乱層)
5　2.5Y5/2暗灰黄色粘質シルト
6　2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘質細砂(炭、小石含む)
7　2.5Y4/4オリーブ褐色粘質細砂（礫と2.5Y5/6黄褐色砂をブロック状に含む）
8　10YR4/4褐色粘質極細砂
9　2.5Y5/4黄褐色細砂(固く、小石や炭含む)
10　10YR5/8黄褐色細砂（礫含む）
11　2.5Y5/3黄褐色細砂(10YR6/8明黄褐色粘質土をブロック状に含む。小石も稀に含む)
12　2.5Y4/3オリーブ褐色細砂(2～4cmの小石を多量に含む)
13　2.5Y4/2暗灰黄色やや粗い細砂
14　炭
15　10YR6/8明黄褐色粘質土(小石を含む)　SE01
16　2.5Y5/3黄褐色粘質細砂(小石含む)　SE01
17　10YR8/2灰白色粘質土　SE01
18　2.5Y5/3黄褐色細砂　SE01
19　2.5Y5/3黄褐色細砂(小石と2mm程度の小石を多量に含む)　SE01
20　10YR4/4褐色細砂（炭含む）　造成土1(上層)
21　10YR4/3にぶい黄褐色粘質細砂(炭、遺物を含む)　造成土1(下層)
22　10YR5/4にぶい黄褐色細砂
23　10YR5/4にぶい黄褐色細砂(地山ブロック・炭含む)
24　10YR6/3にぶい黄橙色粘質シルト
25　10YR7/3にぶい黄橙色粘質シルト
26　10YR6/3にぶい黄橙色粘質シルト
27　10YR6/3にぶい黄橙色シルト質細砂
28　2.5Y5/2暗灰黄色粘質細砂(炭・小石を多量に含む)
29　2.5Y5/3黄褐色粘質細砂
30　10YR6/2灰黄褐色細砂(10YR8/6黄橙色粘質土と小石を含む)
31　炭
32　10YR7/2にぶい黄色細砂（10YR8/8黄橙色粘質細砂をブロック状に含む）　SK32
33　10YR4/6褐色細砂(10cm程度の河原石を含む)　SK65
34　10YR6/2灰黄褐色シルト質細砂・10YR8/8黄橙色粘質シルト　SK65
35　10YR6/2灰黄褐色シルト質細砂（10YR8/8黄橙色土をブロック状に多く含む）　SK65
36　10YR6/6明黄褐色粘質極細砂
37　10YR4/3にぶい黄褐色粘質土(小石をまばらに含む)
38　10YR6/2灰黄褐色粘質細砂(7.5Y5/8明褐色細砂を含む)
39　10YR7/2にぶい黄橙色粘質土(小石含む)
40　10YR5/3にぶい黄橙色粘質細砂
41　2.5Y5/2暗灰黄色粘質シルト　SK28
42　2.5Y5/3黄褐色粘質細砂　SK28
43　2.5Y5/3黄褐色粘質細砂(粘性が強い)　SK28
44　10YR6/2灰黄褐色粘土
45　10YR6/3にぶい黄橙色粘質シルト
46　10YR5/4にぶい黄褐色粘質細砂(小石、炭含む)
47　10YR6/2灰黄褐色粘質シルト
48　2.5Y7/3浅黄色シルト質細砂
49　10YR8/8黄橙色粘質シルト

第15図　土層図（2）



土層⑧

1 花崗土
2 かく乱層
3 2.5Y5/4黄色褐色細砂
4 2.5Y4/3オリーブ褐色細砂（灰含む。黄色粘土ブロック状に含む）
5 2.5Y5/4黄色褐色砂
6 2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘質細砂（小石まれに含む）
7 2.5Y4/1黄灰色粘質土
8 2.5Y6/4にぶい黄色粘質シルト
9 2.5Y5/4黄褐色細砂（2.5Y7/2灰黄色粘質シルトをブロック状に含む）
10 2.5Y6/4にぶい黄色粘質シルト
11 2.5Y6/4にぶい黄色粘質シルト（小石を含む）
12 10Y5/2オリーブ灰色細砂
13 欠番
14 2.5Y4/4オリーブ褐色細砂
15 2.5Y4/6オリーブ褐色細砂
16 2.5Y5/6黄褐色粘質シルト
17 2.5Y4/3オリーブ褐色粘質シルト
18 2.5Y5/2暗灰黄色砂
19 2.5Y4/4オリーブ褐色砂
20 2.5Y5/3黄褐色粘質シルト
21 2.5Y4/4オリーブ褐色粘質細砂
22 2.5Y4/3オリーブ褐色粘質シルト
23 2.5Y4/3オリーブ褐色粘質シルト
24 2.5Y5/3黄褐色細砂
25 2.5Y5/6黄色褐色粘質細砂（小石を含む）
26 2.5Y5/4黄褐色粘質細砂
27 2.5Y4/6オリーブ褐色細砂
28 2.5Y4/6オリーブ褐色細砂
29 2.5Y4/4オリーブ褐色粘質シルト
30 2.5Y6/4にぶい黄色細砂
31 2.5Y5/4黄褐色粘質細砂（黄色粘土ブロック状に含む）
32 2.5Y4/4オリーブ褐色粘質シルト
33 2.5Y6/4にぶい黄色粘質シルト
34 2.5Y4/4オリーブ褐色粘質シルト
35 2.5Y5/3黄褐色粘質細砂
36 2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘質土
37 2.5Y5/4黄褐色粘質シルト（ﾍﾞｰｽ土ブロック状に含む）
38 2.5Y5/4黄褐色粘質シルト
39 10Y5/2オリーブ灰色細砂
40 2.5Y6/4にぶい黄色粘質シルト（小石を含む）
41 10Y5/2オリーブ灰色細砂
42 礫層
43 2.5Y4/3オリーブ褐色細砂
44 2.5Y6/3にぶい黄色粘質細砂
45 2.5Y4/3オリーブ褐色粘質細砂（小石を多く含む）
46 10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト（マンガン・小石含む）
47 10YR4/4褐色粘質細砂
48 2.5Y5/6黄褐色粘質細砂
49 2.5Y4/6オリーブ褐色粘質シルト（小石を多く含む）
50 2.5Y5/4黄色褐色粘質シルト（黄色粘土ブロック状に含む）
51 2.5Y6/2灰黄色粘質細砂（小石含む） SK82
52 2.5Y5/3黄褐色粘質土 SK82
53 2.5Y5/2暗灰黄色粘質土（黄色粘土ブロック状に含む） SK82
54 2.5Y5/2暗灰黄色粘質シルト SK82
55 2.5Y5/2暗灰黄色粘質シルト SK82
56 2.5Y6/2灰黄色粘質シルト（小石含む）
57 2.5Y4/6オリーブ褐色粘質シルト（炭含む） SK82
58 2.5Y4/4オリーブ褐色細砂
59 2.5Y4/3オリーブ褐色粘質細砂（小石を多く含み、炭混じる 遺構面）
60 2.5Y4/4オリーブ褐色細砂
61 5Y4/2灰オリーブ色粘質細砂（炭含む）
62 2.5Y5/3黄褐色細砂
63 2.5Y4/4オリーブ褐色細砂
64 2.5Y4/3オリーブ褐色粘質細砂（小石を多く含み、炭混じる）
65 2.5Y7/6明黄褐色粘土
66 2.5Y4/6オリーブ褐色細砂 造成土2
67 2.5Y5/3黄褐色細砂（灰色粘質土含む） 造成土2
68 2.5Y4/4オリーブ褐色粘質細砂
69 2.5Y4/2暗灰黄色細砂（地山をブロック状に含む）
70 10Y6/8明黄褐色粘質土（小石を含む）
71 2.5Y6/3にぶい黄色粘質土（細砂・小石含む）
72 2.5Y5/4黄褐色細砂
73 2.5Y5/3黄褐色粘質シルト
74 2.5Y7/6明黄褐色粘質シルト
75 2.5Y6/4にぶい黄色粘質シルト

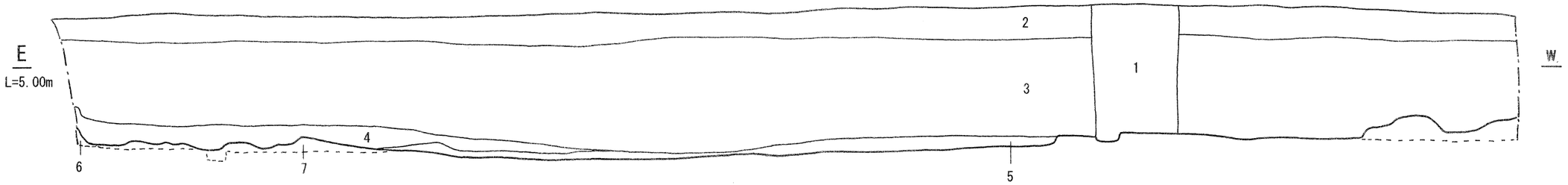


土層⑨

1 花崗土
2 かく乱層
3 かく乱層（炭含む）
4 2.5Y6/4にぶい黄色粘質シルト
5 2.5Y5/6黄褐色粘質土（小石含む）
6 2.5Y5/3黄褐色粘質土（小石を多く含む）
7 10YR5/6黄褐色粘質土 SK53
8 2.5Y5/4黄褐色粘質細砂（小石を多く含む） SK54
9 2.5Y4/4オリーブ褐色粘質細砂
10 2.5Y5/4黄褐色粘質シルト
11 5Y4/2灰オリーブ色粘質細砂（炭含む）
12 2.5Y5/4黄褐色粘質細砂
13 2.5Y4/6オリーブ褐色粘質細砂（小石含む）
14 2.5Y5/4黄褐色細砂
15 10YR5/3にぶい黄褐色粘質細砂
16 2.5Y4/4オリーブ褐色粘質細砂（小石含む）
17 10YR5/8黄褐色粘質細砂（黄色粘質細砂をブロック状に含む） 造成土2
18 2.5Y4/3オリーブ褐色粘質細砂 成土2
19 2.5Y5/2黄褐色粘質土（河原石多く含む） SK52
20 2.5Y5/2黄褐色粘質土（地山ブロック含む）
21 2.5Y5/4黄褐色粘質土
22 2.5Y4/3オリーブ褐色粘質細砂
23 2.5Y4/4オリーブ褐色細砂（1cm程度の小石を稀に含む）
24 2.5Y5/4黄褐色粘質細砂（1～5cm程度の小石を含む）
25 2.5Y5/1黄灰色細砂（5cm程度の小石と炭を含む）
26 2.5Y6/6明黄褐色粘質シルト
27 2.5Y5/2暗灰黄色細砂
28 2.5Y4/3オリーブ褐色粘質細砂 SK54
29 2.5Y6/6明黄褐色粘質シルト（マンガン含む） SK53
30 2.5YR5/8明赤褐色粘質シルト（焼土） SK53
31 2.5Y5/3黄褐色粘質土（小石を多量に含む）
32 10YR5/6黄褐色粘質土（小石を含む） SK53
33 2.5Y5/6黄褐色粘質土
34 2.5Y5/4黄褐色粘質シルト（小石と黄色粘土ブロックを稀に含む）
35 2.5Y6/3にぶい黄色細砂
36 2.5Y4/3オリーブ褐色細砂 SK54
37 2.5Y6/6明黄褐色粘質シルト SK53
38 2.5Y4/3オリーブ褐色細砂 SK53
39 2.5Y5/2暗灰黄色粘質細砂 SK53
40 2.5Y5/4黄褐色粘質細砂 SK54
41 2.5Y5/4黄褐色粘質シルト（小石を多量に含む）
42 2.5Y5/2暗灰黄色粘質細砂 SK54
43 2.5Y6/3にぶい黄色シルト SK70
44 2.5Y3/2黒褐色粘質細砂（有機物含む） SK70
45 2.5Y5/3黄褐色細砂
46 2.5Y5/2暗灰黄色粘質シルト（5Y7/4浅黄色シルト含む）
47 2.5Y6/6明黄褐色細砂（小石を稀に含む）
48 2.5Y5/3黄褐色粘質細砂 SK70
49 10YR6/8明黄褐色粘質細砂（5YR5/8明赤褐色焼土を含む） SK70
50 2.5Y5/3黄褐色粘質シルト SK70
51 10YR6/8明黄褐色粘質細砂 SK70
52 2.5Y5/3黄褐色粘質細砂（有機物含む） SK70
53 2.5Y4/2暗灰黄色粘質土（有機物含む） SK70
54 2.5Y5/3黄褐色粘質シルト SK70
55 2.5Y5/2暗灰黄色粘質土 SK70
56 2.5Y6/4にぶい黄色シルト（黄色粘質土混じる） SK70
57 2.5Y4/2暗灰黄色粘質土（有機物含む） SK70
58 2.5Y5/4黄褐色粘質土
59 10YR5/3にぶい黄褐色粘質土
60 10YR7/6明黄褐色粘質シルト
61 2.5Y7/3浅黄色シルト
62 2.5Y6/3にぶい黄色細砂
63 5Y6/2灰オリーブ色細砂
64 2.5Y5/3黄褐色細砂

土層⑩

1 試掘トレンチ
2 花崗土
3 かく乱層
4 2.5Y7/4浅黄色シルト（市営住宅かく乱）
5 10YR5/1褐灰色粘質シルト
6 2.5Y7/4浅黄色シルト
7 10YR7/1灰白色粘質シルト



0 1m

第16図 土層図（3）

第２節　遺構

時期

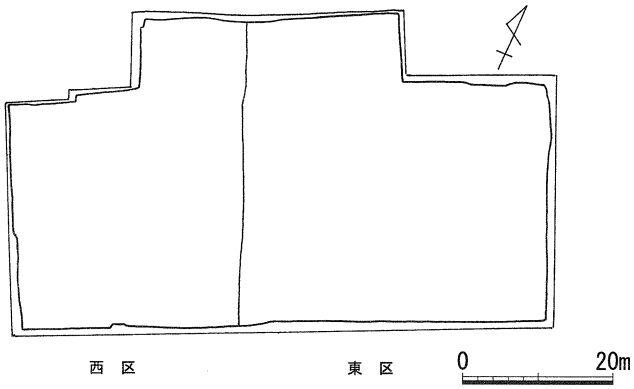
須恵器の破片等が出土しており、古代の遺構があると思われるが遺物を包含する遺構はなく不明である。主要な遺構は江戸時代や近代の遺構で、現在の建物跡の基礎もある。

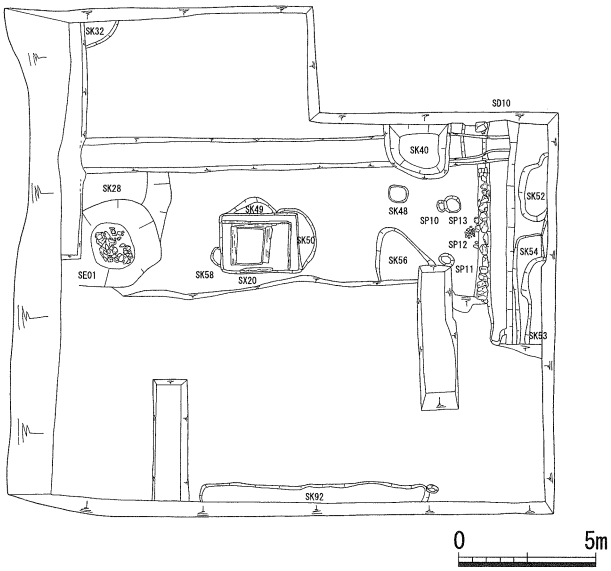
検出面

第１面は、標高4.0cm～4.2m、下層が4.0m、上層が4.2m。第２面は4.6m。第３面は4.7m。第４面は標高4.9mに遺構面がある。西端で最も残りのよいところは5.2mで東端の最も残りのよいところは4.9mである。最上層で検出される近現代の遺構である。

全体の概要

調査地全体に近代～現代のかく乱による遺構破壊は著しいものの、その中にありながら調査地東側は最も保存状態が良い。





第17図　調査区設定図・東区上面遺構平面図

丸亀城は生駒、山崎、京極氏三代が入城した。生駒氏は慶長２年（1597）～寛永17年（1640）まで、山崎氏は寛永18年（1641）～明暦３年（1657）まで、京極氏は万治元年（1658）～幕末まで入封している。また、明治７年に郭内の民家取り払いが行われ、それ以降に軍隊の営舎が築かれる。丸亀城及び武家屋敷地の大きな画期があるとするとこれらの時期と当該地辺りの屋敷地割りには多度津藩の家臣名が見られる。多度津藩関係者は文政12年（1829）に多度津陣屋へ移住することからこれら少なくとも５期の画期があると思われる。

調査地の遺構面の残りは悪く、虫食い状態でかく乱が深く及ぶところもあり、それぞれの遺構を面で捕らえることは困難である。報告は土層の上下関係や出土遺物や画期となる事象等を考慮し、第１～５期に分類した。

第１期下層は、屈曲する落ち込みがあり、生駒氏時代のものかそれ以前のものであるが、遺物の出土がなく時期不明である。第１期上層は、調査地東側で検出されたSK82やSK86などの土こうがあたり、遺物や検出面の状況から江戸初期の遺構、生駒氏時代のものと考えられる。

第２期は、西側に少し屈曲する落ち込みがあり、外濠土塁の境界線である。調査地東側のSK75、SK67、SK68、SK70、SK91などの土こうがこれにあたる。山崎氏か京極氏初期頃の遺構である。

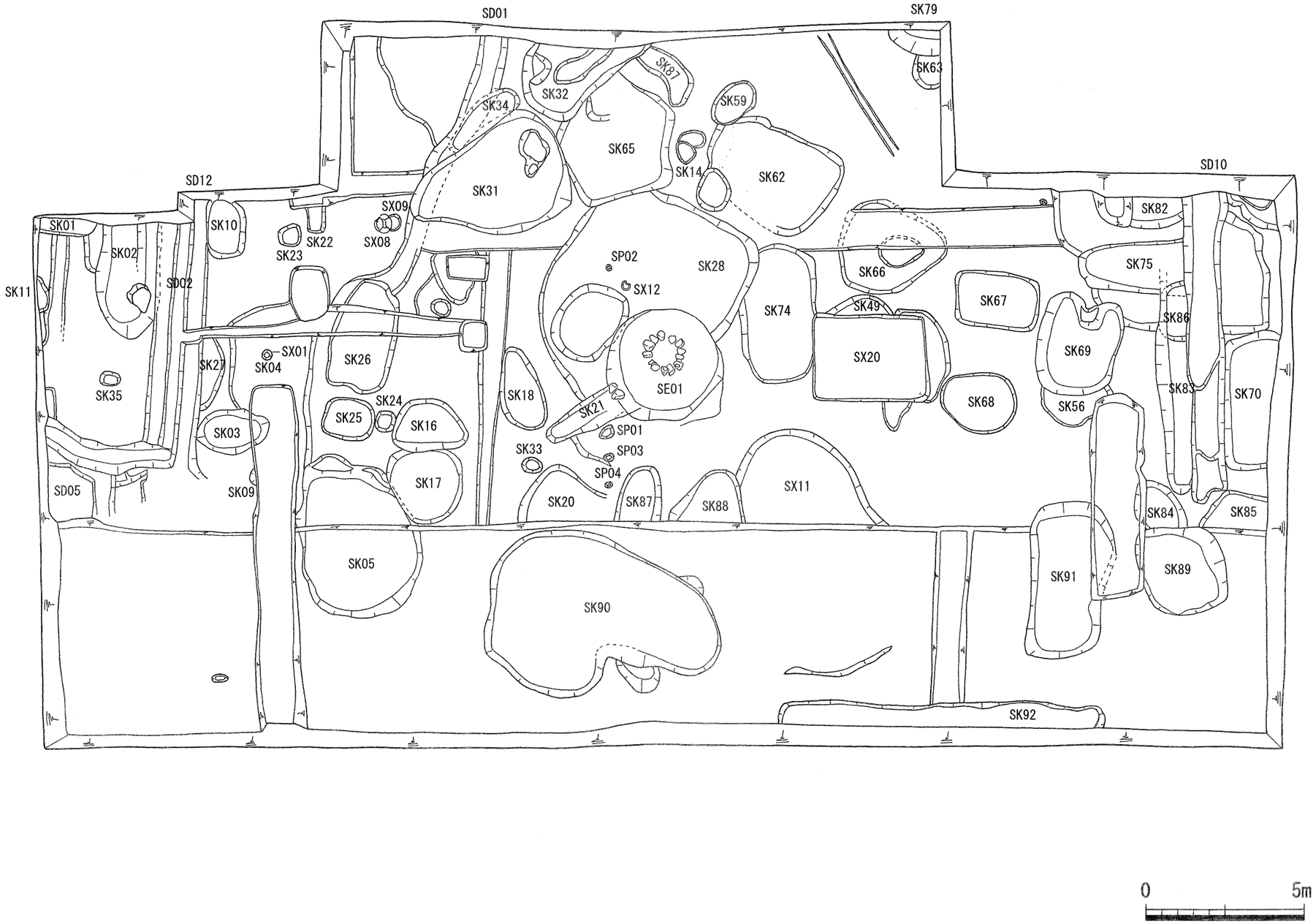
第３期は、土塁内側にはSK63、SK31、SK18、SK32、SK65、SK21、SK26、SK69、SK73、SK74、SK56、SK62などの廃棄された遺物を多く包含する土こうも見られる。また、井戸（SE01）もこの時期には石組み井戸が造られる。SD10西側の掘り込みも遺物の出土はないが先行する溝跡と考えられる。17世紀後半から18世紀中頃の遺構である。

第４期は、土塁内側は造成土１による造成がなされる。また、その南側の竹林となっている場所にはSK90、SK88、SK48、SK28、SK05、SK20などの土こうが見られる。屋敷地内は礫敷き遺構であるSX11などがある。SX11からは宝篋印塔の相輪が出土しており、庭園などあった可能性もある。SD10は調査地東側で検出された素掘り溝である。第４期は19世紀初頭までの遺構である。

第５期は溝跡SD10の西側に石列が配される。この溝は明治７年の軍隊関連施設建設による武家屋敷立ち退き時に埋められたと考えられる。また、この時期には溝のすぐ西側にSB01も確認されている。

SK02、SK03、SK04、SK10、SK17、SK53、SK54、SK52などの土こうがあるが、これらの土こうからは主に19世紀初～中頃の遺物が出土している。主に幕末から明治初頭頃までの遺構である。特に遺物が多く廃棄されている土こうは、明治７年の武家屋敷地の立ち退きにあたる廃棄土こうと思われ、これらの遺物は幕末に当該地に居住していた網干郡代斉藤氏の生活雑器の可能性がある。

近現代は軍隊の遺構があり外濠へ排水する溝跡SD02・03・05が確認された。建物跡では調査地の西側の外濠端で建物礎石やコンクリート基礎、地下貯蔵庫のある木枠のある建物SX20や水溜施設と考えられる施設SK40、SX08・09は厠の受け甕と考えられる遺構が検出された。調査地の南側は市営翠山荘アパート建設及び取り壊しによるかく乱を受けていた。

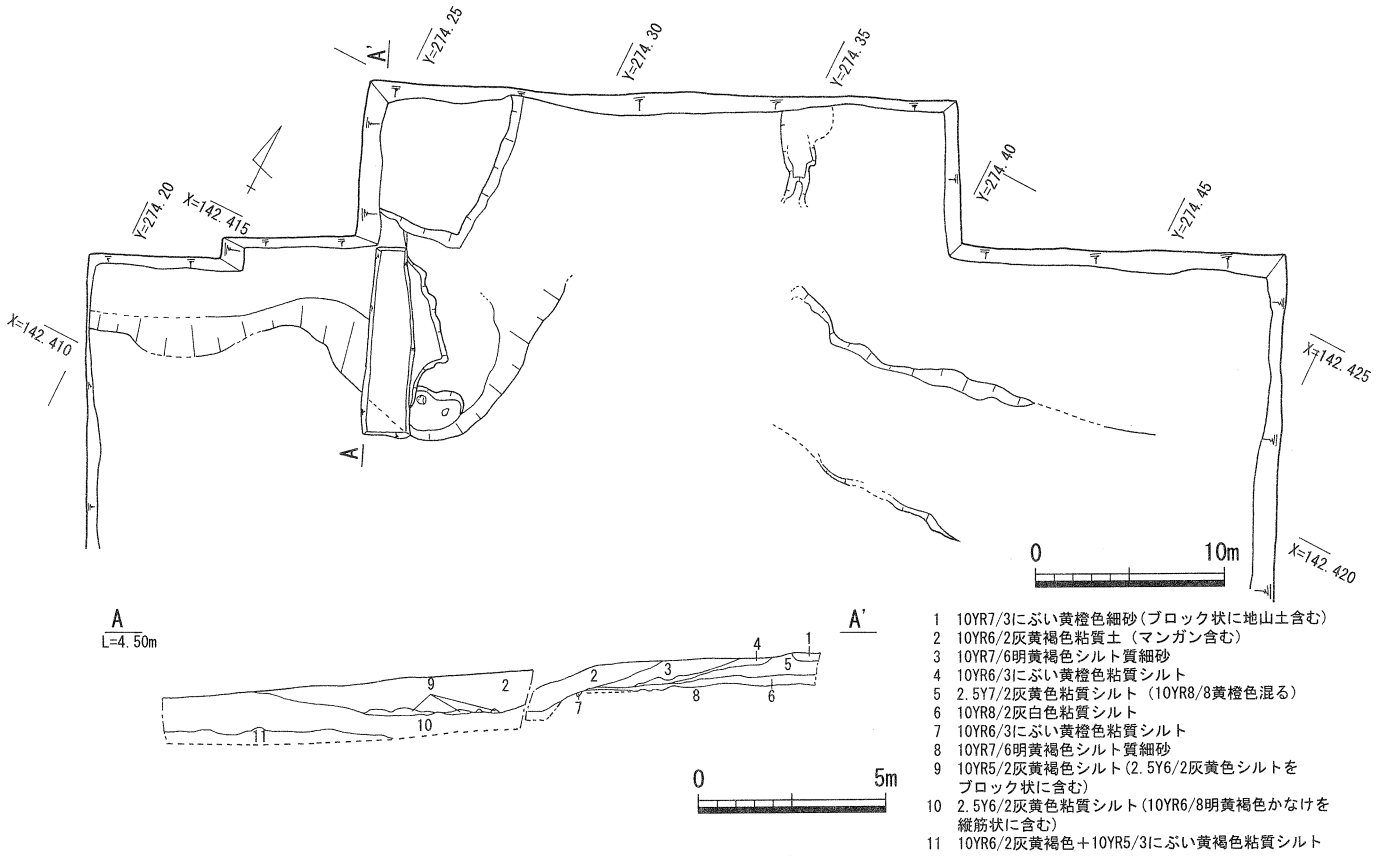

SD01
SK79
SK63
SK87
SK32
SK34
SK59
SK65
SK14
SK62
SK31
SD12
SD10
SK82
SK01
SK10
SX09
SK22
SX08
SK23
SK02
SD02
SK11
SP02
SK28
SX12
SK66
SK75
SK67
SK74
SK49
SK86
SX01
SK04
SK27
SK26
SX20
SK69
SK35
SK24
SK18
SE01
SK68
SK56
SK83
SK70
SK25
SK16
SK21
SP01
SK03
SK33
SP03
SP04
SK17
SX11
SD05
SK09
SK20
SK87
SK88
SK84
SK85
SK05
SK91
SK89
SK90
SK92
0
5m

第18図　遺構平面図

遺構

第１期下層

調査地の西側（西区）で屈曲する落ち込みを検出している。江戸時代初期頃より古い遺構であるが出土遺物がなく時期の特定はできていない。

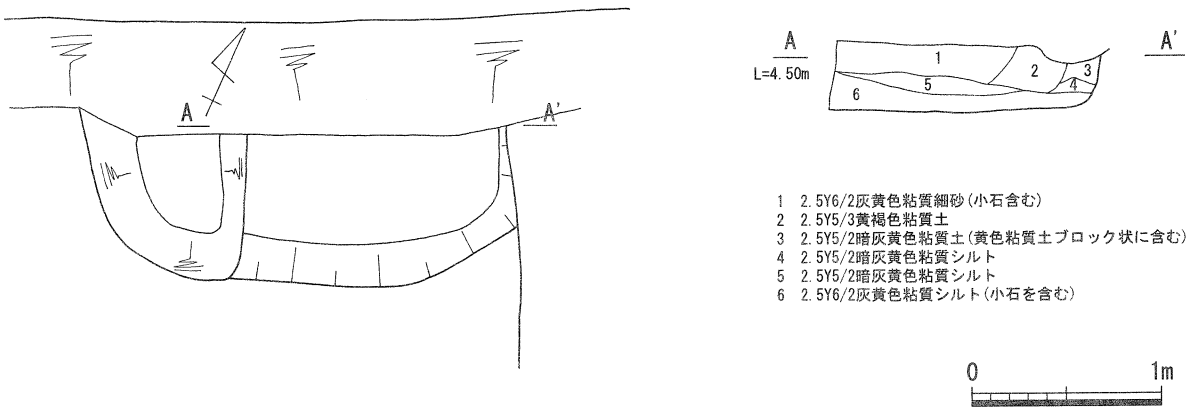


第19図　第１期下層平面図・土層図

第１期上層

SK82

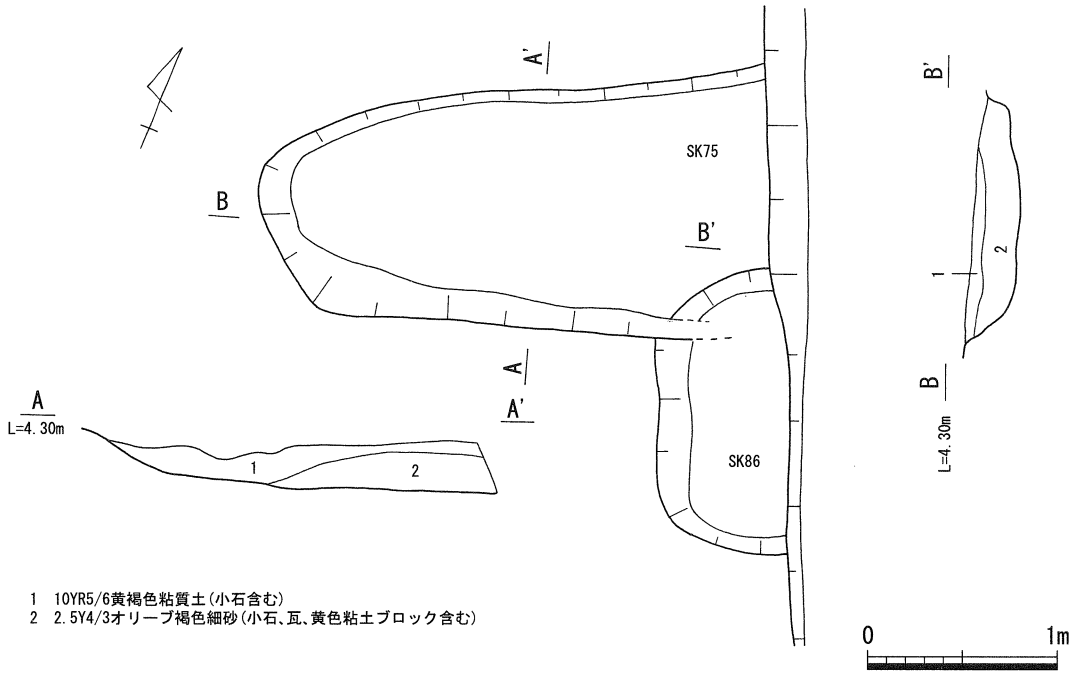
長径240cm以上、短径80cm以上、深さ35cmの土こうである。17世紀前葉の唐津産の皿が出土している。



第20図　SK82　平面図・土層図

SK86

長径150cm、短径67cm、深さ52cmの土こうである。17世紀前半の唐津産の灰釉碗が出土している。

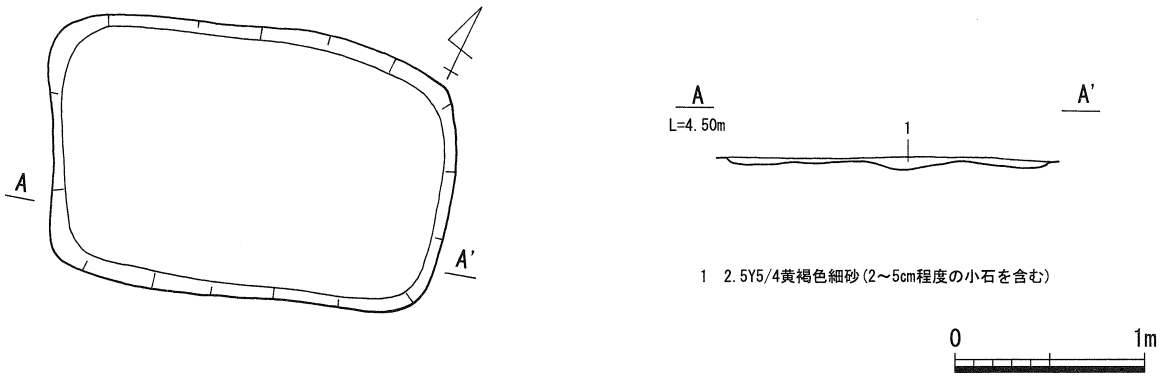


第21図　SK86・SK75　平面図・土層図

第２期

SK67

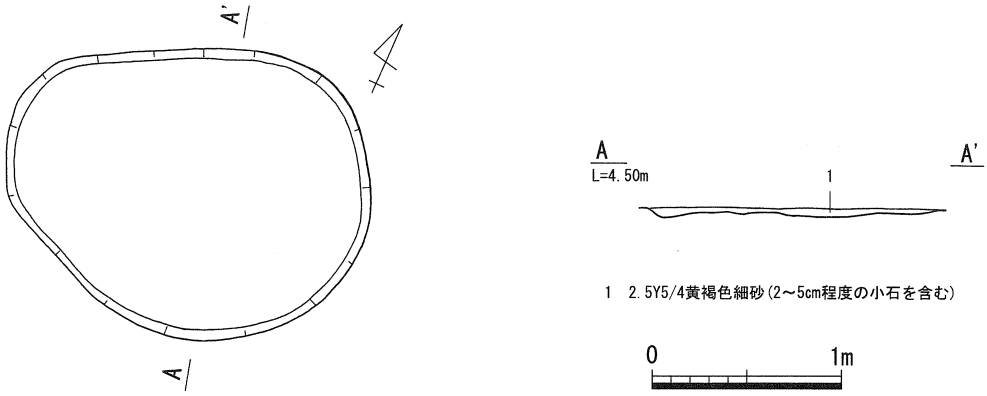
長辺217cm、短辺143cm(土層位置170cm)、深さ５cmの土こうである。土師質皿が２点出土している。



第22図　SK67　平面図・土層図

SK68

長径198cm、短径151cm(土層位置)、深さ５cmの土こうである。白磁の小杯が出土している。



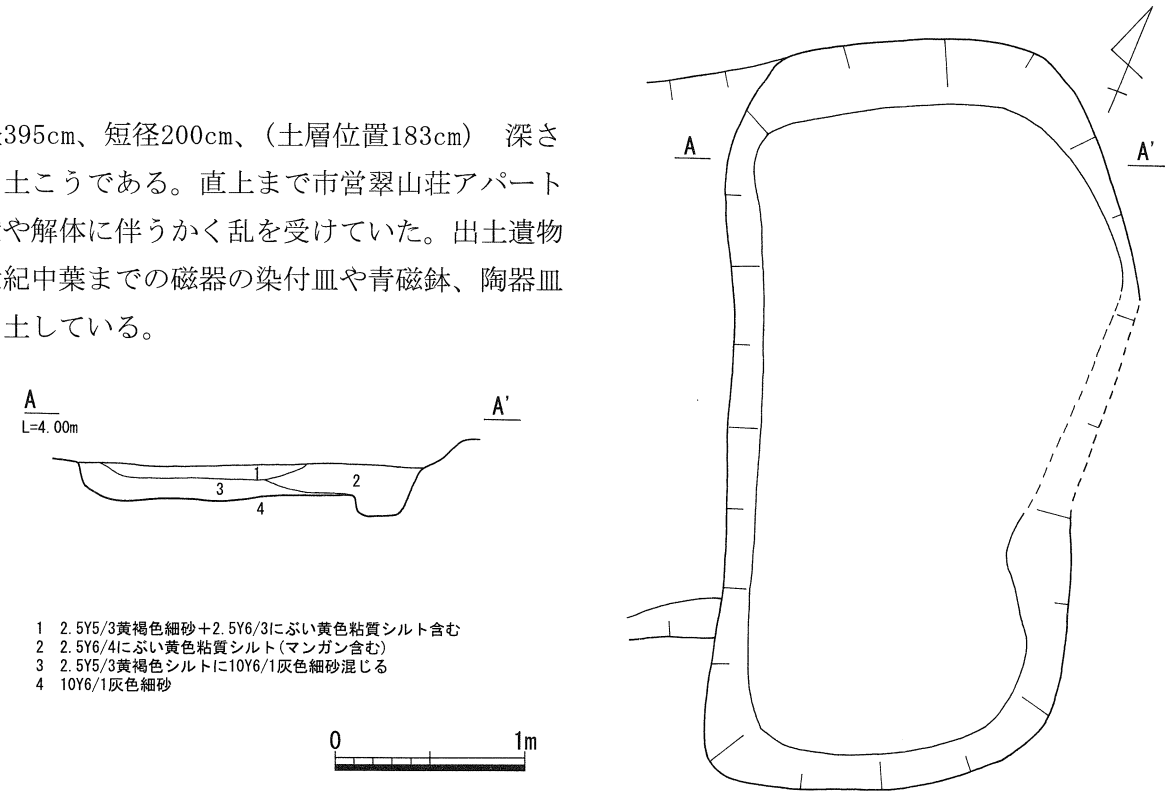
第23図　SK68　平面図・土層図

SK75（第21図参照）

長径215cm以上(土層位置)、短径130cm以上(土層位置)、深さ30cmの土こうである。青磁の製品が出土している。

SK91

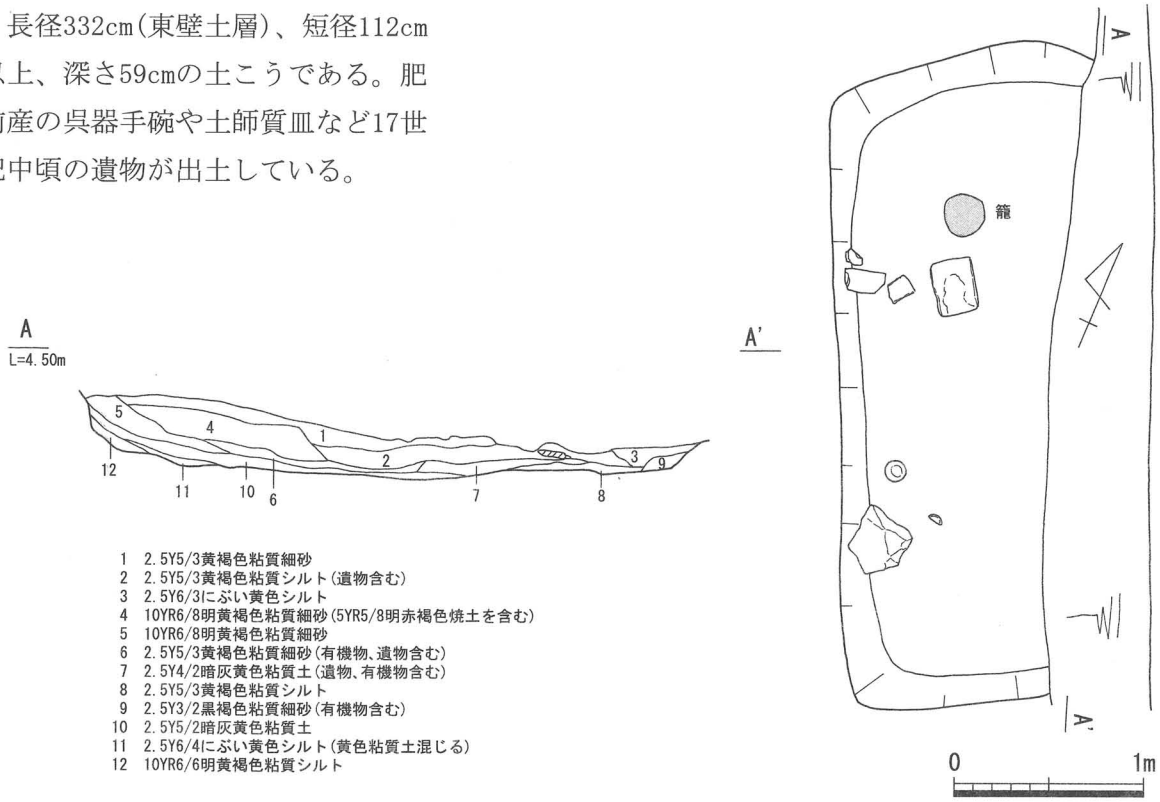
長径395cm、短径200cm、(土層位置183cm)　深さ26cmの土こうである。直上まで市営翠山荘アパートの建設や解体に伴うかく乱を受けていた。出土遺物は17世紀中葉までの磁器の染付皿や青磁鉢、陶器皿等が出土している。



第24図　SK91　平面図・土層図

SK70　17c中葉～後半

長径332cm(東壁土層)、短径112cm以上、深さ59cmの土こうである。肥前産の呉器手碗や土師質皿など17世紀中頃の遺物が出土している。



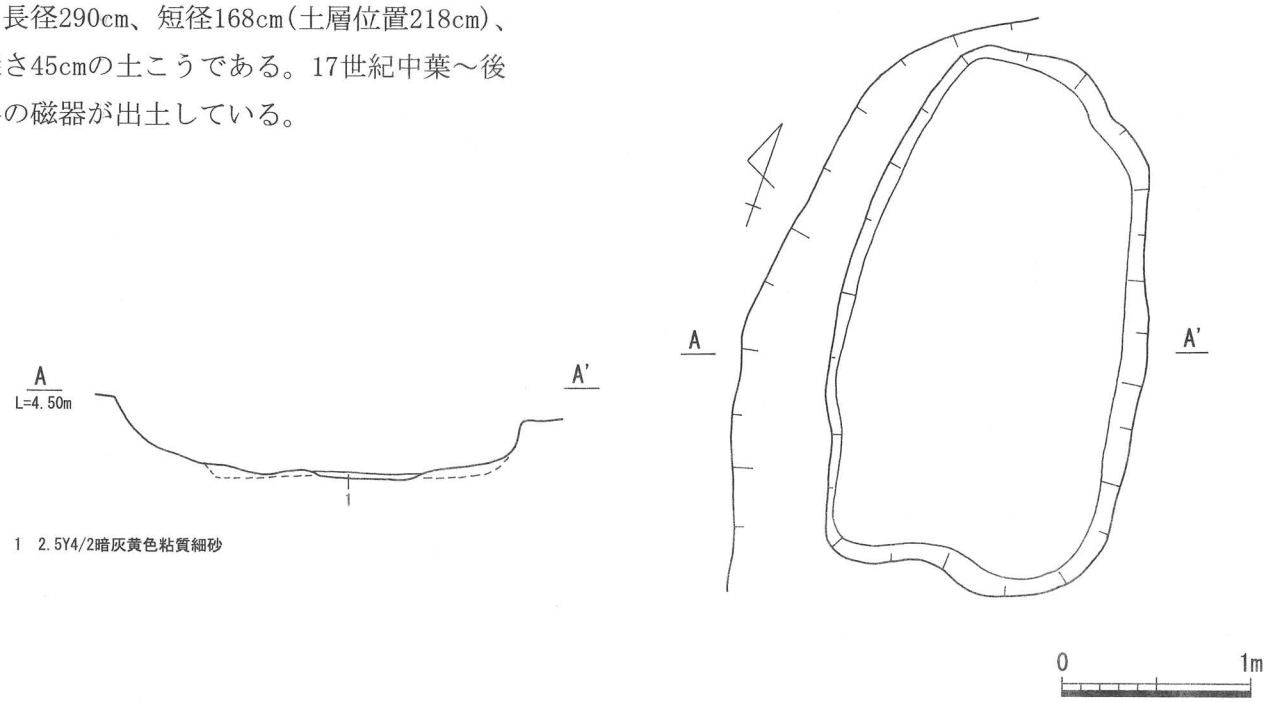
1　2.5Y5/3黄褐色粘質細砂
2　2.5Y5/3黄褐色粘質シルト(遺物含む)
3　2.5Y6/3にぶい黄色シルト
4　10YR6/8明黄褐色粘質細砂(5YR5/8明赤褐色焼土を含む)
5　10YR6/8明黄褐色粘質細砂
6　2.5Y5/3黄褐色粘質細砂(有機物、遺物含む)
7　2.5Y4/2暗灰黄色粘質土(遺物、有機物含む)
8　2.5Y5/3黄褐色粘質シルト
9　2.5Y3/2黒褐色粘質細砂(有機物含む)
10　2.5Y5/2暗灰黄色粘質土
11　2.5Y6/4にぶい黄色シルト(黄色粘質土混じる)
12　10YR6/6明黄褐色粘質シルト

第25図　SK70　平面図・土層図

第３期

SK26

長径290cm、短径168cm(土層位置218cm)、深さ45cmの土こうである。17世紀中葉～後半の磁器が出土している。

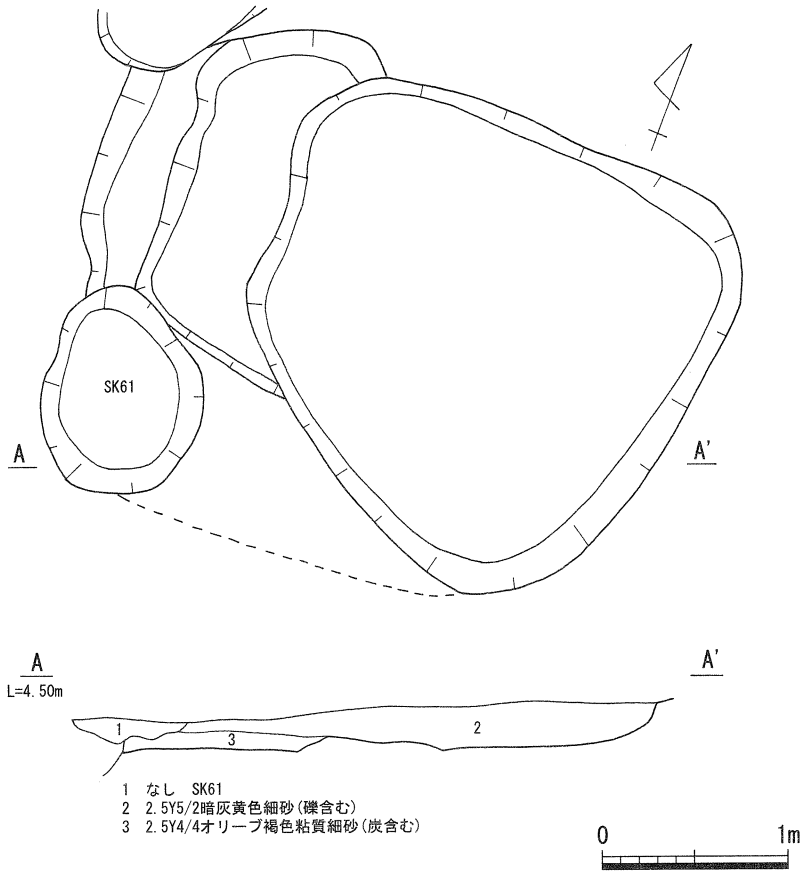


1　2.5Y4/2暗灰黄色粘質細砂

第26図　SK26　平面図・土層図

SK62

長径276cm、短径257cm(土層位置288cm)　深さ25cmの土こうである。18世紀中葉の遺物含む。第４期直前頃の遺構である。

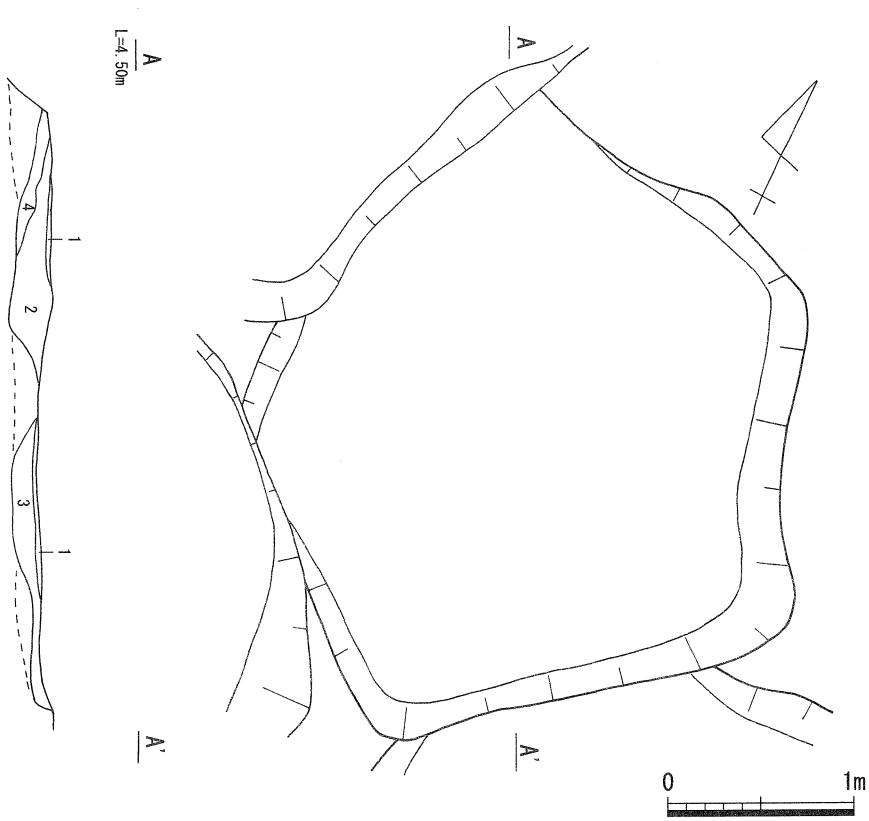


第27図　SK62　平面図・土層図

SK65

長径313cm(西区東壁土層より)、短径294cm、深さ22cmの土こうである。

18世紀前半の遺物を含む。

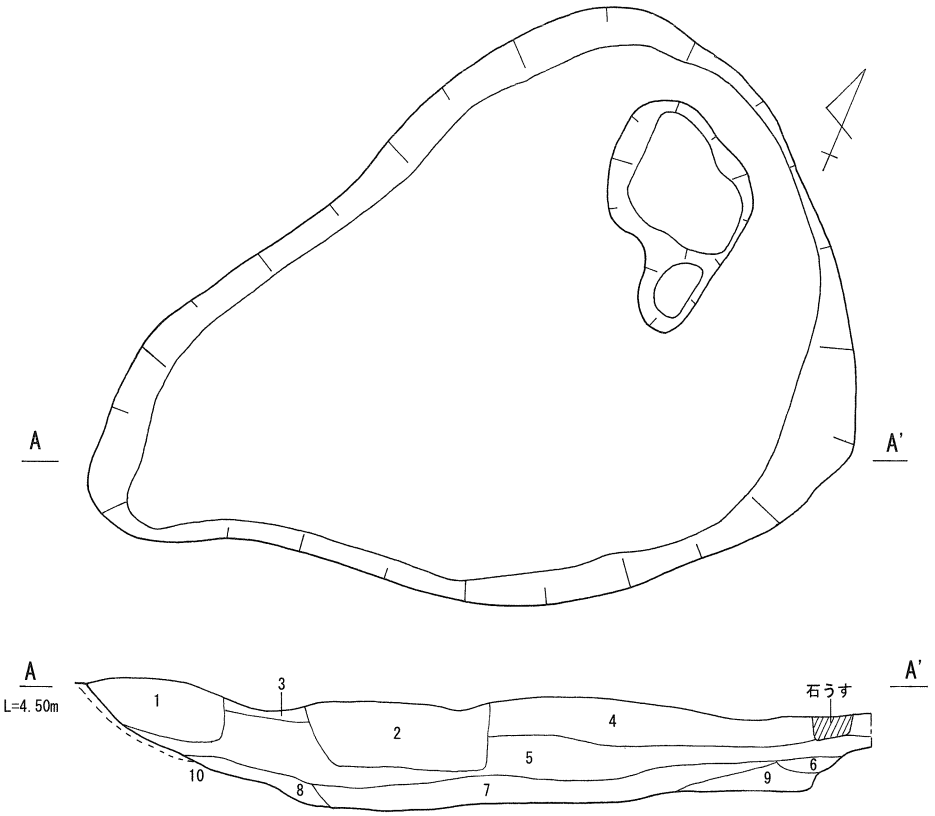


第28図　SK65　平面図・土層図

SK31

長径417cm、短径257cm深さ14cm以上の土こうである。18世紀前半頃までの遺物を含む。

下層(土層図７層)や最下層(土層図８・９層)から瓦が多く出土している。

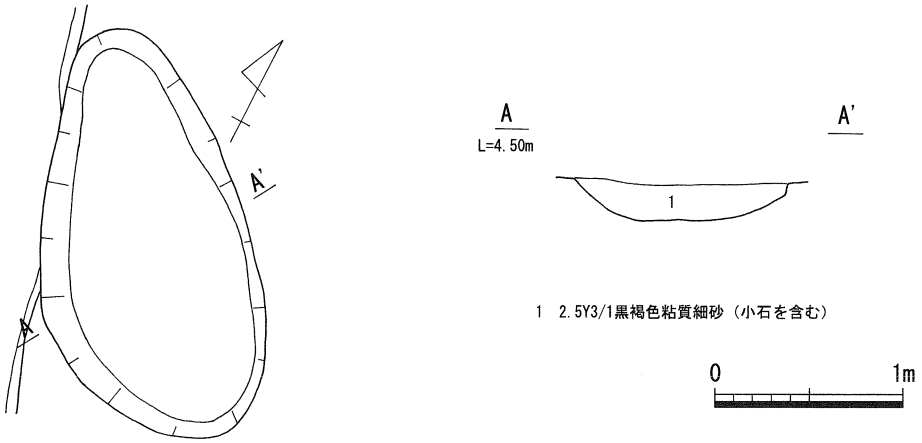


1　2.5Y5/2暗灰黄色細砂(2.5Y6/6明黄褐色粘質土をブロック状に含む。)　かく乱層
2　2.5Y5/3黄褐色細砂(コンクリート基礎の埋土)
3　2.5Y4/4オリーブ褐色粘質細砂(小石含む)
4　10YR5/8黄褐色細砂
5　10YR4/4褐色細砂(炭・遺物含む)
6　2.5Y6/2灰黄色粘質土(小石多量に含む)
7　2.5Y5/2暗灰黄色粘質細砂(小石含む)　下層
8　10YR5/3にぶい黄色粘質土　最下層
9　2.5Y6/3にぶい黄色細砂　最下層
10　2.5Y5/3黄褐色粘質土

第29図　SK31　平面図・土層図

SK18

長径193cm、短径116cm(土層位置)、深さ22cmの土こうである。磁器皿や刷毛目碗など18世紀前半頃までの遺物を含む。

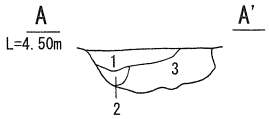


1　2.5Y3/1黒褐色粘質細砂（小石を含む）

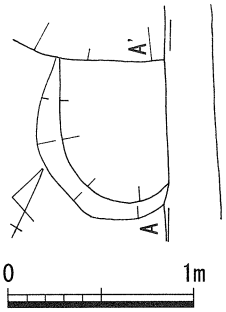
第30図　SK18　平面図・土層図

SK63

長径98cm以上、短径74cm以上(土層位置68cm)、深さ23cmの土こうである。17世紀前半の瀬戸美濃産の天目茶碗が出土している。



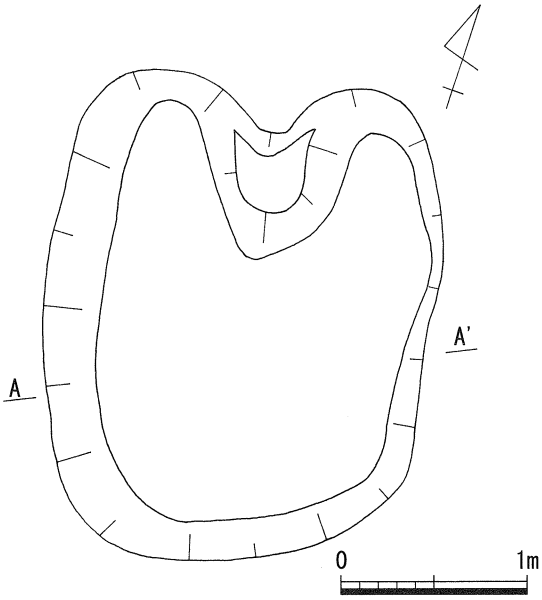
1　2.5Y5/4黄褐色粘質細砂
2　2.5Y5/1黄灰色粘質細砂
3　10YR4/3にぶい黄褐色シルト(黄色シルト含む)

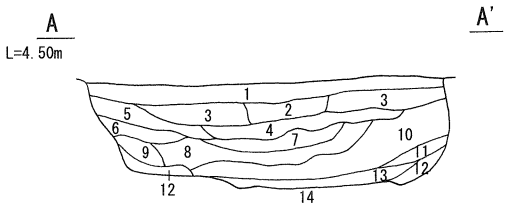


第31図　SK63　平面図・土層図

SK69

長径252cm、短径193cm(土層位置)、深さ57cmの土こうである。18世紀初頭までの遺物が出土している。





1　10YR5/3にぶい黄褐色粘質細砂(黄灰粘土ブロック含む)
2　10YR7/6明黄褐色粘質シルト(小石を含む)
3　2.5Y4/4オリーブ褐色粘質細砂(10YR6/6明黄褐色粘質シルトをブロック状に含む)
4　10YR5/2灰黄褐色粘質細砂(遺物を多量に含む)
5　10YR5/2灰黄褐色粘質細砂(シルトを多く含む。遺物含む)
6　10YR6/2灰黄褐色粘質細砂
7　10YR7/3にぶい黄橙色細砂(マンガン含む)
8　10YR6/2灰黄褐色粘質シルト
9　10YR5/2灰黄褐色粘質シルト
10　10YR6/3にぶい黄橙粘質シルト(細砂層を含む)
11　10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト
12　10YR6/3にぶい黄橙色粘質土
13　10YR5/2灰黄褐色粘質シルト
14　2.5Y7/2灰黄色粘質シルト

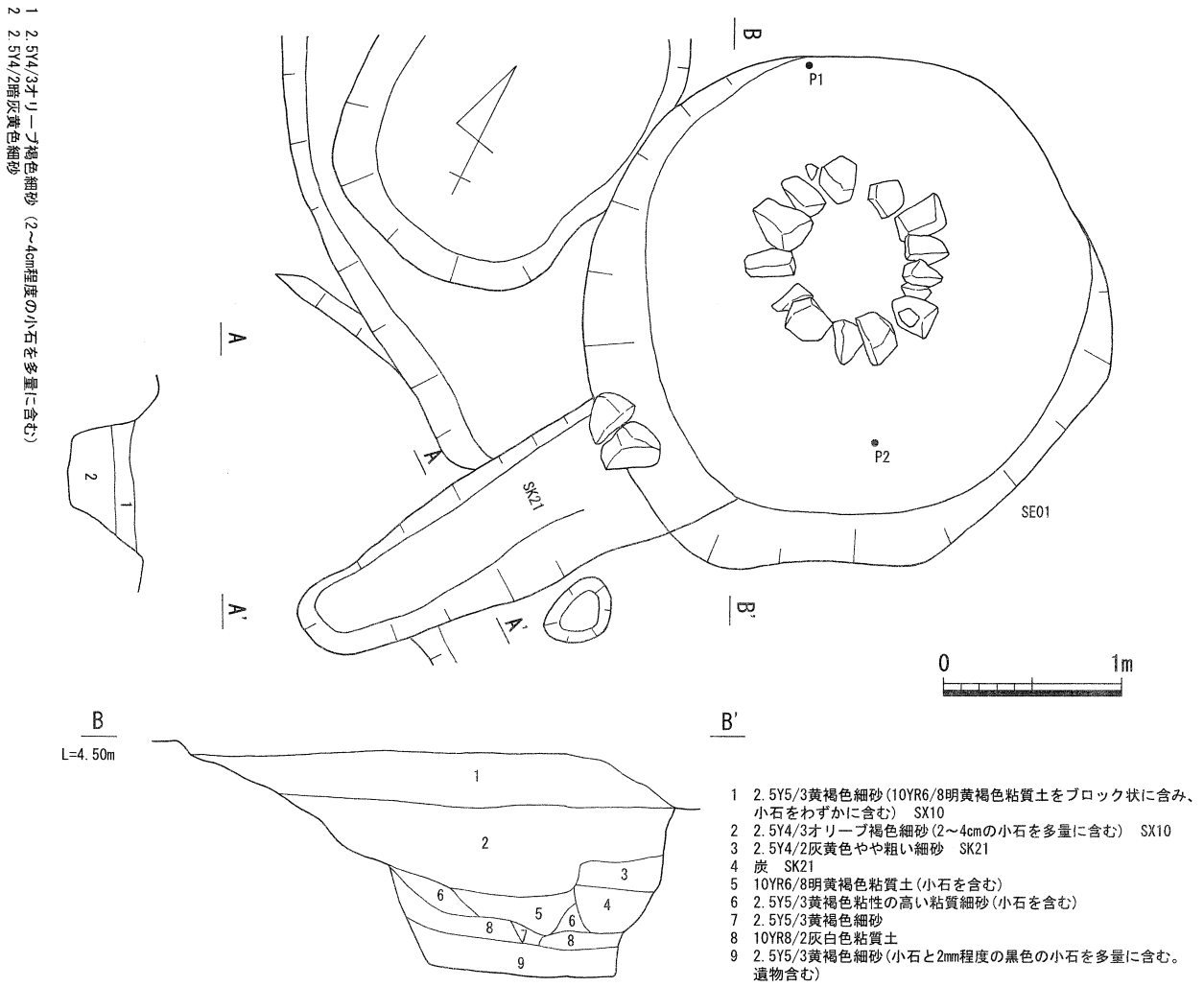
第32図　SK69　平面図・土層図

SE01

石組みの井戸である。井戸の掘り方から出土した遺物によると17世紀後半から18世紀初頭の開削が推測される。内径90cm、深さ５ｍで海水面より深くなる井戸である。上部掘り方は３ｍ、底部の掘り方1.5ｍある。上部から２ｍ地点で掘り方が2.5ｍと絞られて周囲に礫を配し土留めを行っている。その下部の掘り方は2.5ｍとやや膨らむ上下二段に掘り分けられている。この井戸の掘り方上段の西側で、階段状になるSK21が接続し、井戸建設のための資材搬入路となっていた可能性もある。底は木枠等の設置もなく、砂層に直接石を設置している。底からは真水が湧き出ている。

SK21

長径210cm以上、短径74cm(土層位置45cm)、深さ40cmある。井戸に関連す遺構と思わる。

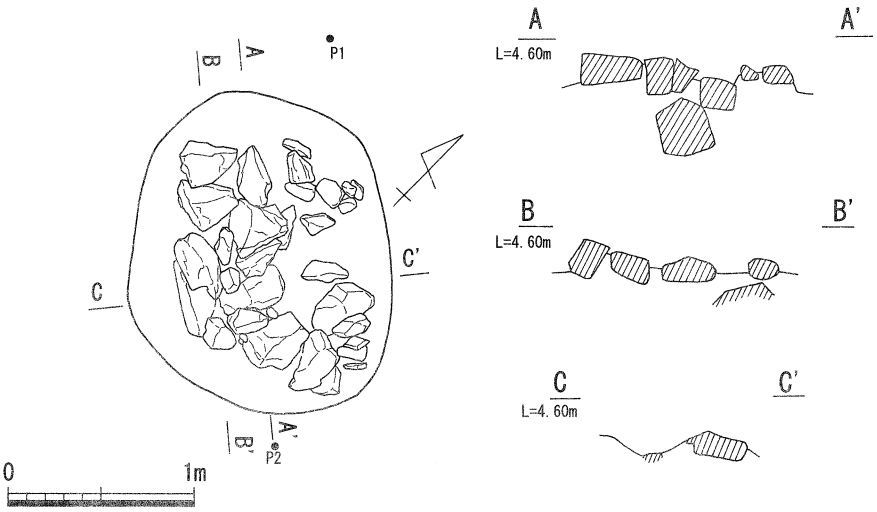


第33図　SE01　井戸・SK21　平面図・土層図

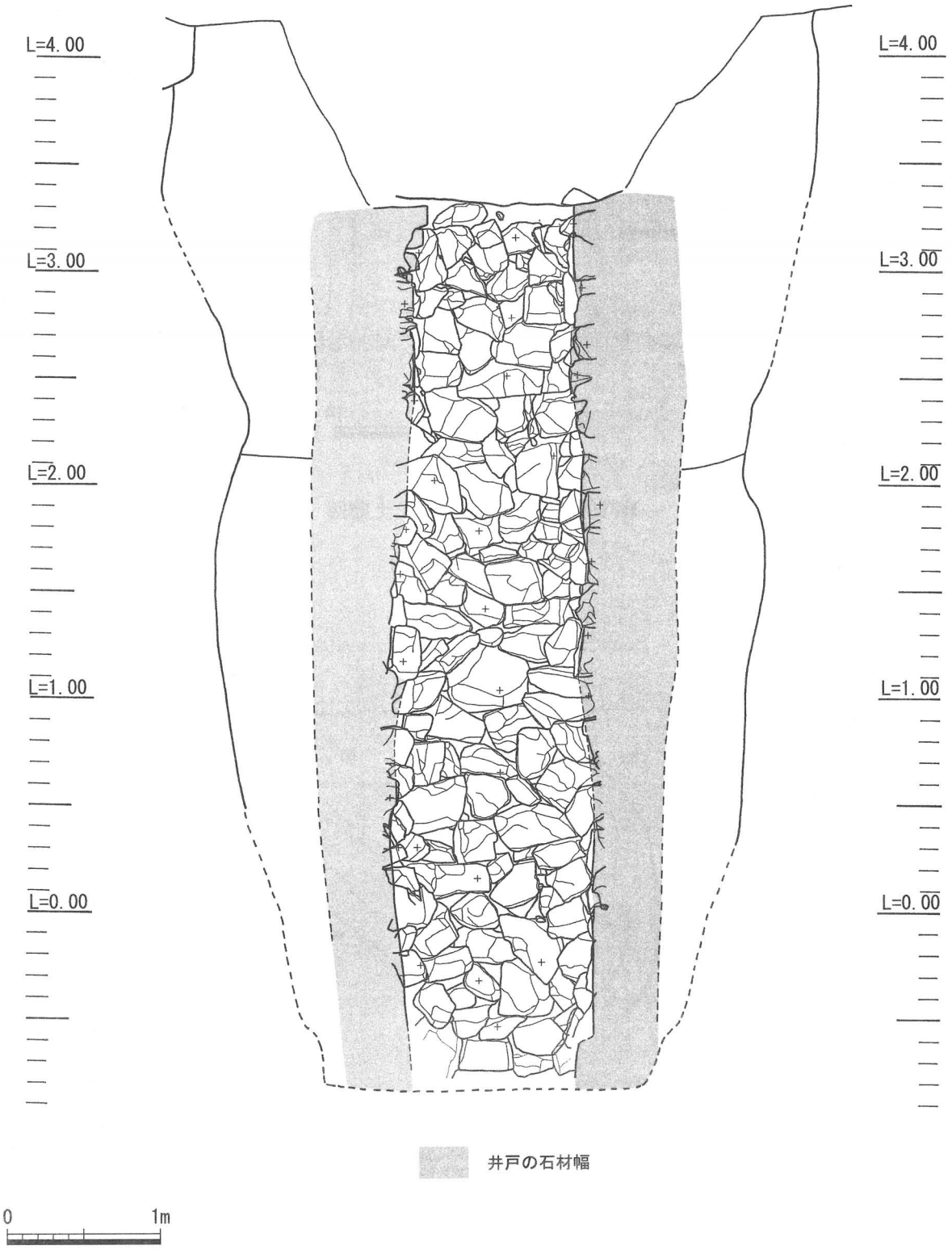
井戸の開削時に伴うもので、石材等の搬入路等の可能性があると思われる。

SX10（近代）

井戸の廃棄状況は、約80cmまで掘削し、井戸枠の石材を取外している。埋めた後に井戸枠の石材を配置していた。井戸石組み天端より３ｍまで瓦や凝灰岩の流しや建物基礎と思われる石製品、石、コンクリートが出土している。軍隊時も使用された可能性がある。



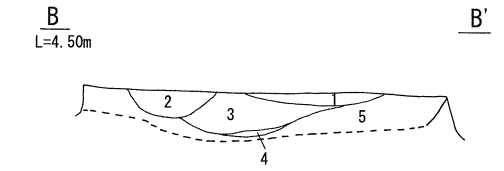
第34図　SX10　平面図・断面図



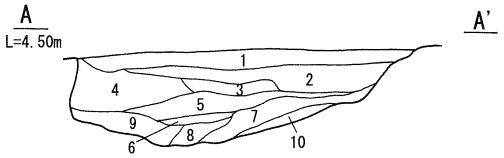
第35図　SE01　井戸　断ち割り図

SK74

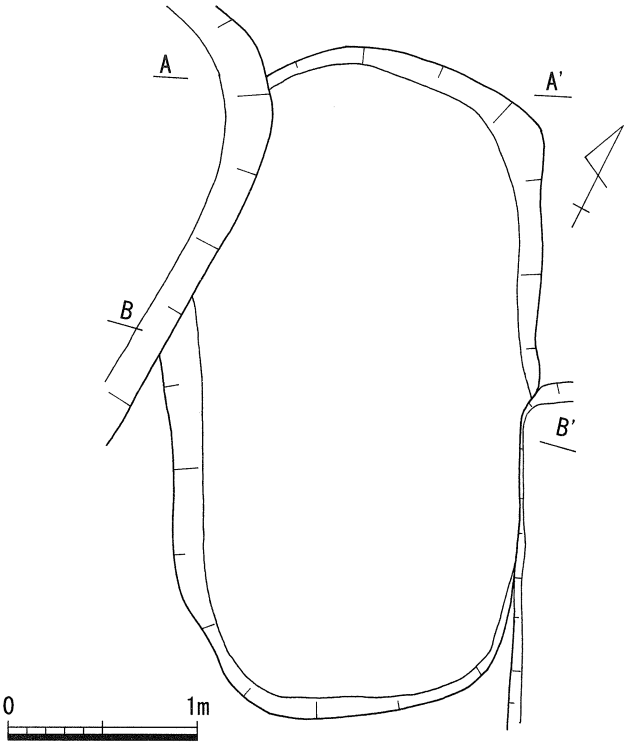
長径355cm、短径198cm、(土層位置136cm)、深さ22cmの土こうである。小石を多く含む層や炭を含む層があった。



1　2.5Y5/6黄褐色細砂
2　10YR5/2暗灰黄色砂(粘質土が混じる)
3　10YR5/4にぶい黄褐色細砂
4　2.5Y2/1黒色炭
5　10YR5/4にぶい黄褐色粘質土(小石と細砂含む)



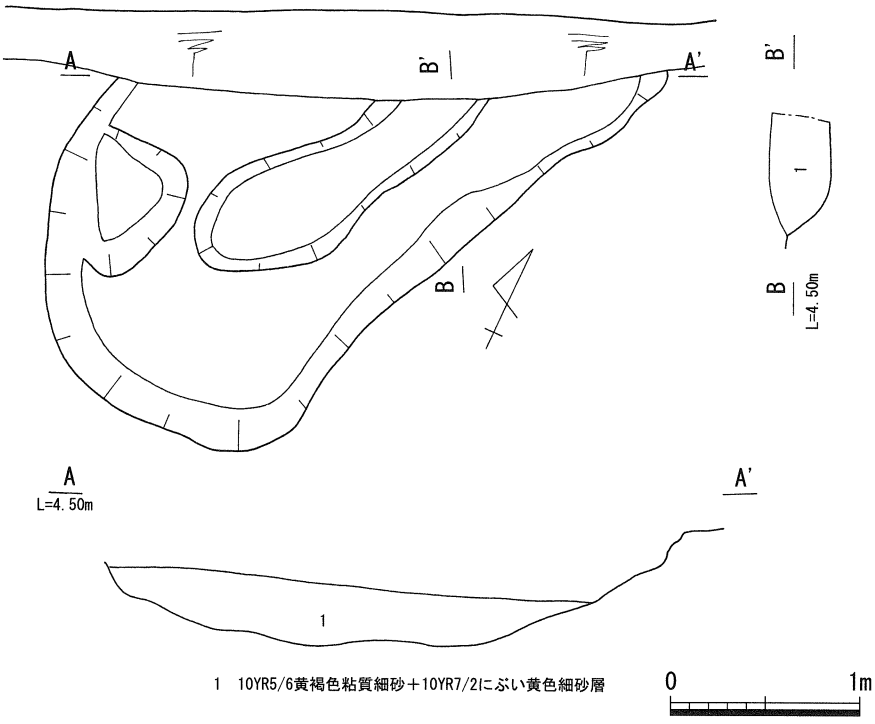
1　2.5Y6/3にぶい黄色粘質細砂(小石含む)
2　10YR5/3にぶい黄褐色細砂
3　10YR7/6明黄褐色粘質シルト
4　10YR6/4にぶい黄橙色粘質土(小石を多量に含み、固くしまる)
5　2.5Y6/4にぶい黄色細砂(炭を多量に含む)
6　2.5Y6/4にぶい黄色粘質シルト(マンガン含む、遺物包含層)
7　10YR6/6明黄褐色シルト
8　10YR6/3にぶい黄橙色粘質シルト(粒子が細かい)
9　10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト
10　2.5Y6/3にぶい黄色粘質細砂(小石含む)



第36図　SK74　平面図・土層図

SK32

長径206cm、短径190cm、深さ32cm～70cmの土こうである。上部はかく乱にあっているが出土遺物は磁器皿や片口鉢、備前産擂鉢など17世紀後半～18世紀前半の遺物を含む。



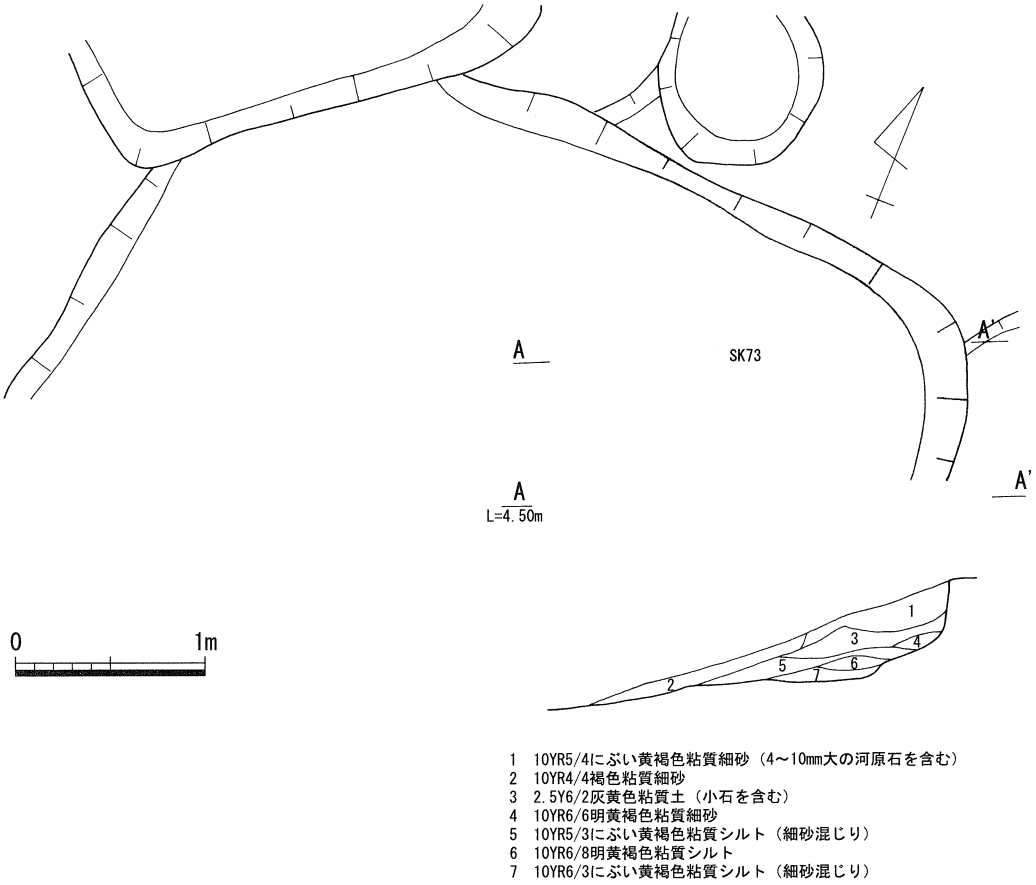
1　10YR7/2にぶい黄橙色細砂(10YR8/8黄橙色粘質細砂ブロック状に含む)

1　10YR5/6黄褐色粘質細砂＋10YR7/2にぶい黄色細砂層

第37図　SK32　平面図・土層図

SK73

深さ50cm以上の土こうであるが上層の造成土１の掘り込みのため底部の残りのみで遺構の全体の形は不明である。遺物も造成土１のものを混ぜて取り上げている可能性が高い。



第38図　SK73　平面図・土層図

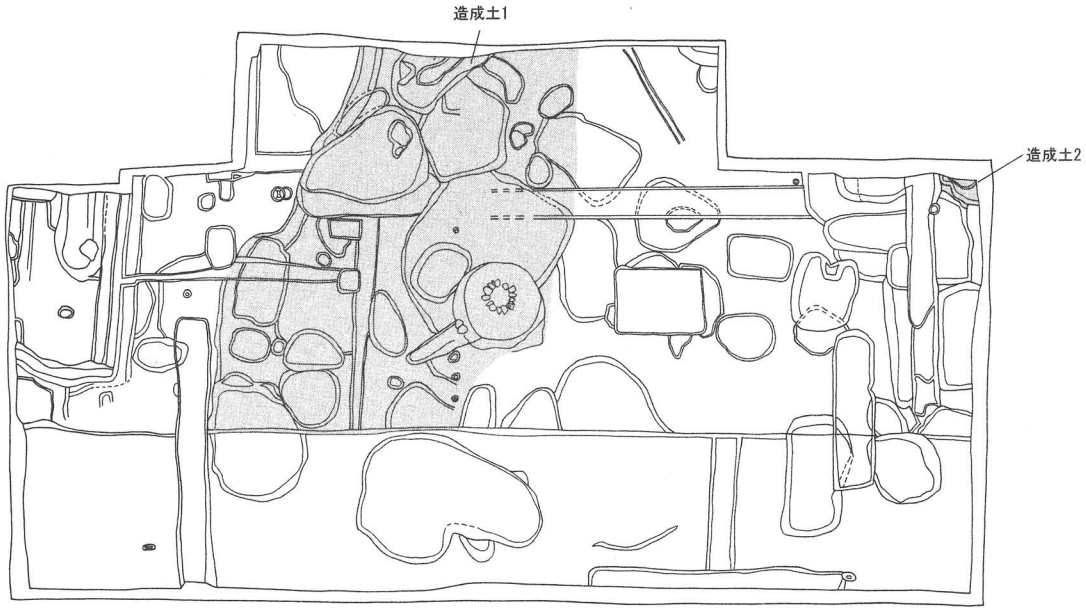
第４期

造成土１（第15図　土層⑬　20・21層）

主に18世紀中葉頃の遺物が多いが18世紀後半の遺物も含む造成土である。当初21層を土こうとして遺物のとりあげを行ったが、広範囲に広がることから造成土１の下層とした。上層からの掘り返しを受けており、取り上げ時に新しい遺物が混入した可能性もある。

造成土２（第16図　土層⑧　66～68層）

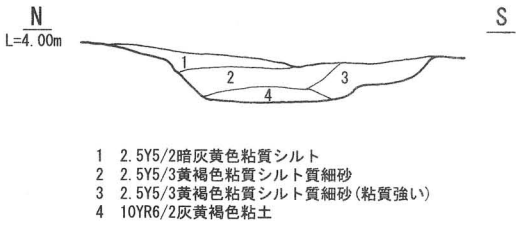
調査区東端の北東部で、SD10の東側で検出した造成土である。規模等の詳細は不明であるが、上層には小石が混ざり固められた層であり、道路遺構の可能性が高い。

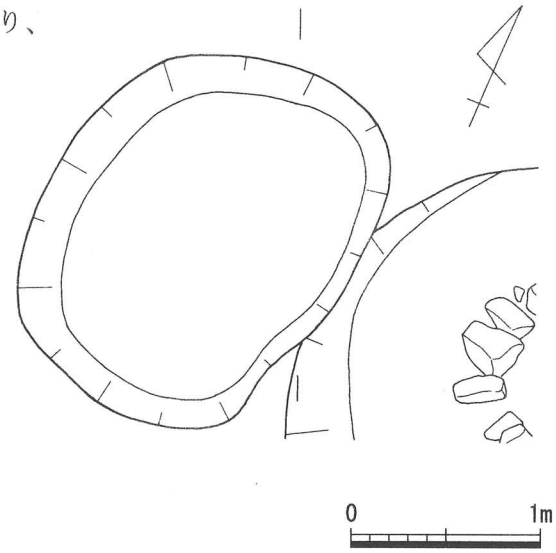


第39図　造成土１・２　平面図

SK28

長径204cm、短径163cm(東壁土層位置134cm)、深さ19cmの土こうである。上部はかく乱にあっており、新しい時期の遺物が含まれている。主に18世紀中葉頃までの遺物が多く、19世紀初頭の遺物も含むが、上部はかく乱されており、新しい時期の遺物が混入した可能性はある。

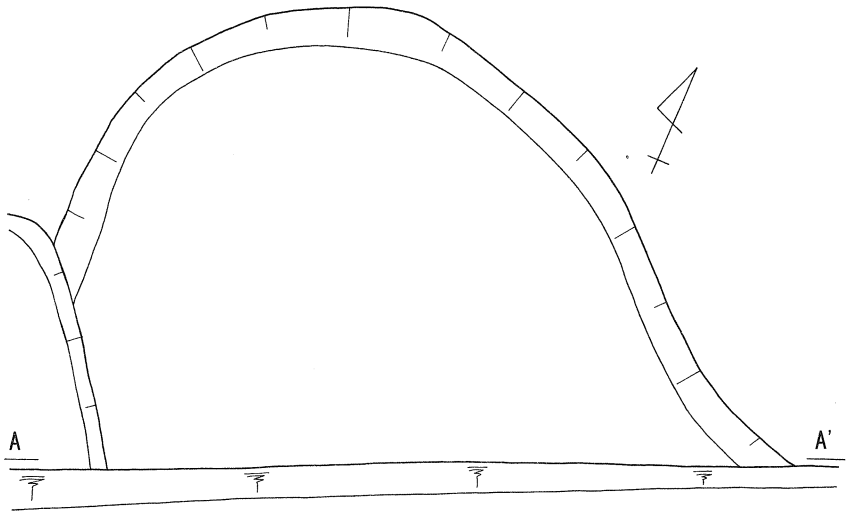


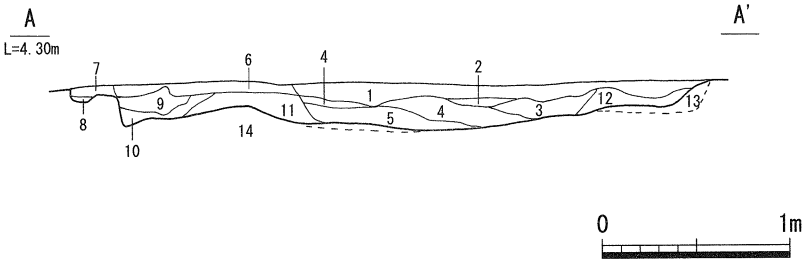


第40図　SK28　平面図・土層図

SX11

幅236cm、深さ12cmある土こうであるが、土こう内には礫を配している。南側は市営翠山荘アパートの建設や解体時にかく乱を受け全体の形は不明であるが、この層中から宝篋印塔の相輪が出土しており、庭園施設の可能性もある。礫の配されたのは18世紀末～19世紀初頭頃の遺物が出土しており、それ以降の遺構であると思われる。



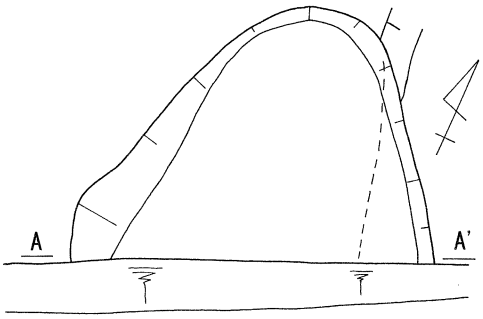


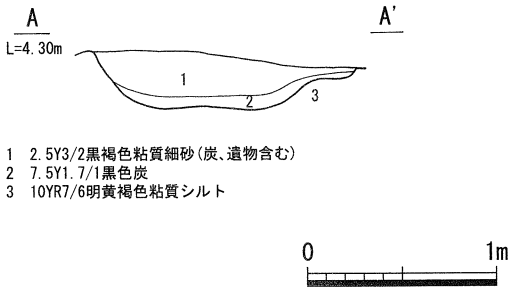
1　2.5Y5/3黄褐色粘質シルト(5～10cm程度の石と遺物含む)
2　2.5Y5/3黄褐色細砂
3　10YR6/4にぶい黄橙色シルト
4　10YR4/4褐色粘質土
5　10YR5/6黄褐色粘質シルト
6　2.5Y5/3黄褐色粘質シルト（砂層混じる）
7　10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト
8　10YR5/2灰黄褐色細砂
9　10YR6/3にぶい黄橙色粘質シルト
10　10YR7/6明黄褐色粘質シルト
11　2.5Y5/3黄褐色シルト+2.5Y6/6明黄褐色シルト含む
12　2.5Y5/3黄褐色シルト+2.5Y6/6明黄褐色シルト含む
13　10YR6/6明黄褐色粘質シルト
14　10YR5/2灰黄褐色粘質シルト

第41図　SX11　平面図・土層図

SK88

径142cm、深さ30cmの土こうである。南側は市営翠山荘アパートの建設・撤去により全体の形は不明である。



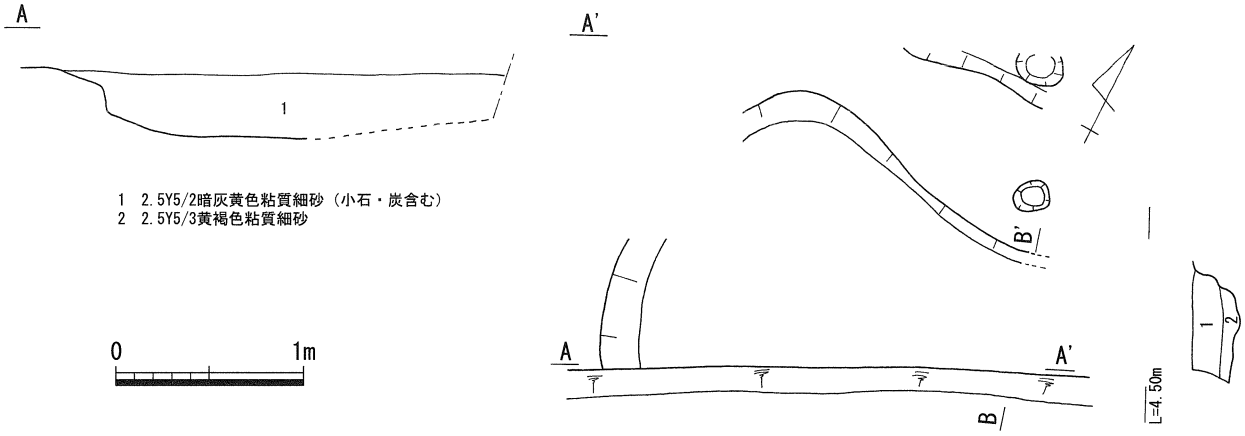


1　2.5Y3/2黒褐色粘質細砂(炭、遺物含む)
2　7.5Y1.7/1黒色炭
3　10YR7/6明黄褐色粘質シルト

第42図　SK88　平面図・土層図

SK20

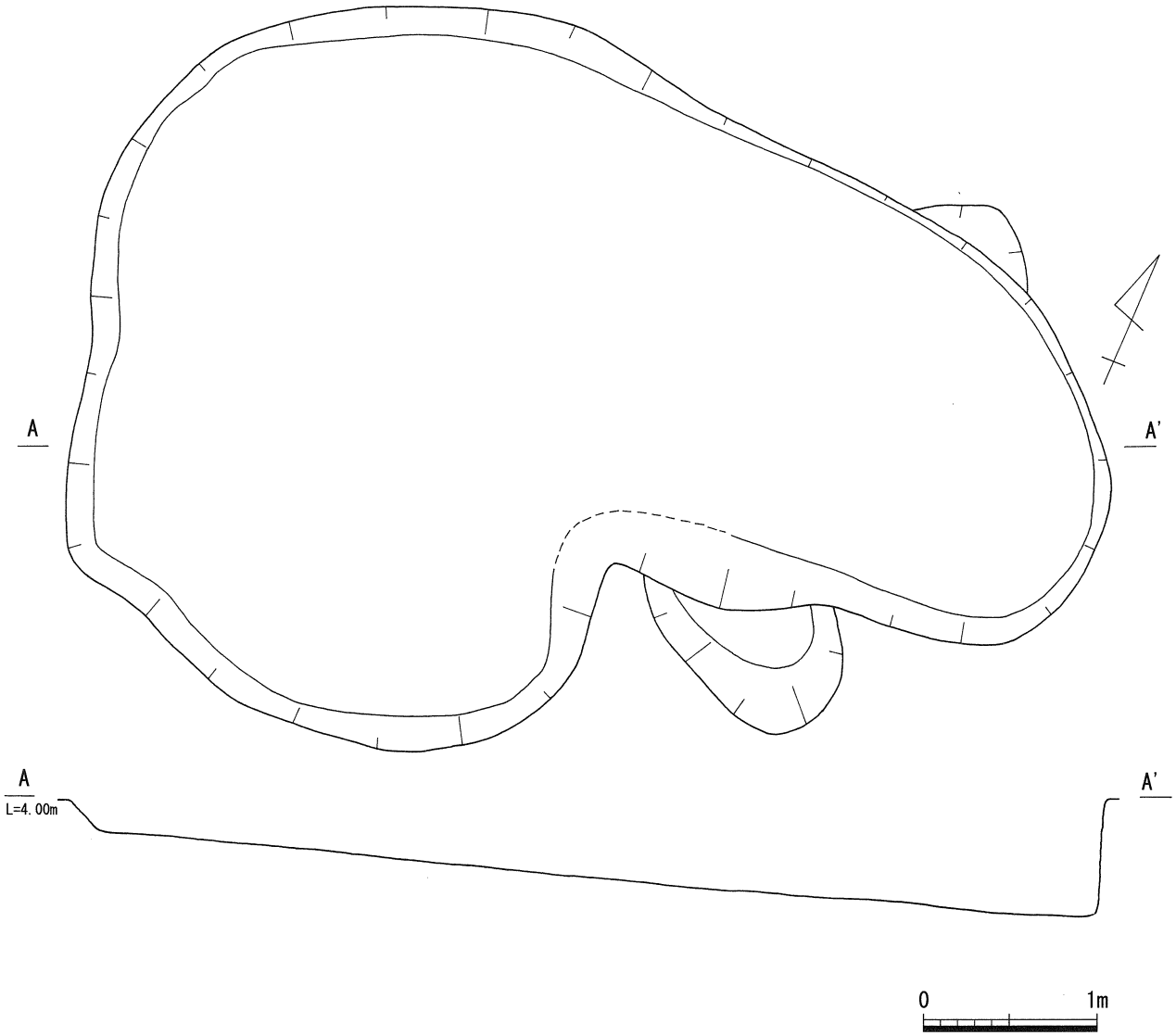
長径246cm以上、短径143cm、深さ24cmの土こうである。18世紀後半までの遺物を含む。南側は市営翠山荘アパートの建設及び解体のときにかく乱を受け全体の形は不明である。



第43図　SK20　平面図・土層図

SK90

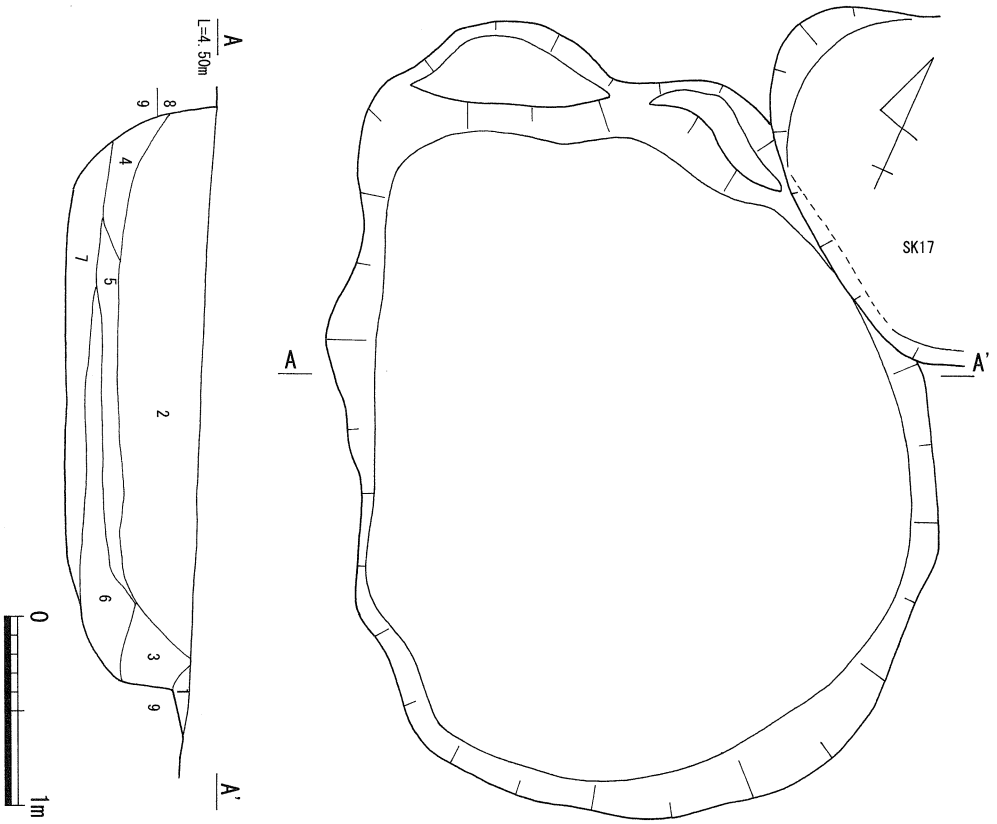
長径600cm、短径374cm、深さ55cmの土こうである。直上まで市営翠山荘アパートの建設や解体時のかく乱にあっている。



第44図　SK90　平面図・断面図

SK05

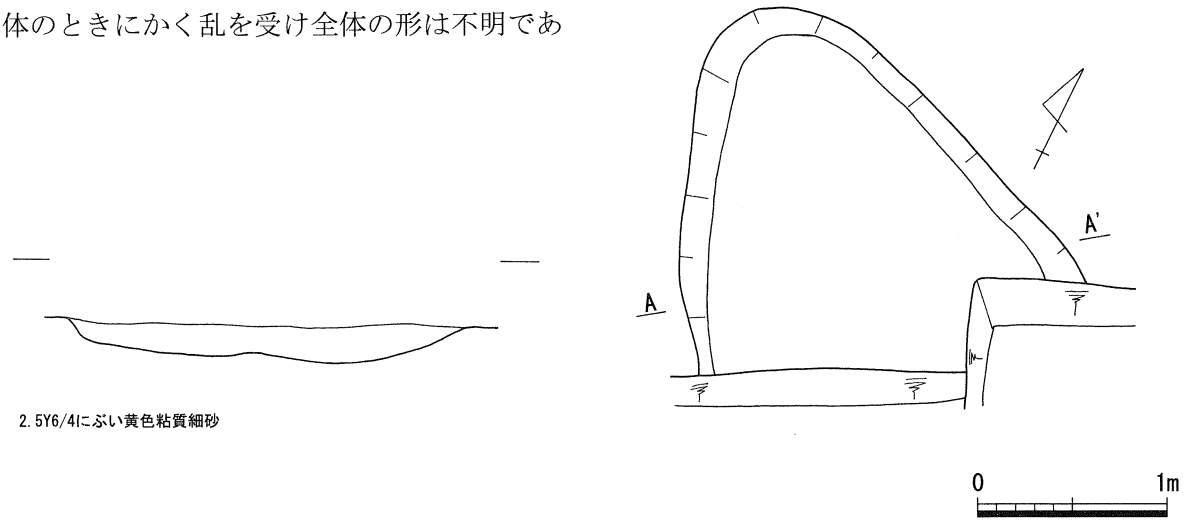
長径430cm、短径294cm(土層位置310cm)、深さ80cmある。遺物の廃棄土こうである。



第45図　SK05　平面図・土層図

SK56

長径173cm以上、短径210cm(土層位置)、深さ20cmの土こうである。南側は市営翠山荘アパートの建設及び解体のときにかく乱を受け全体の形は不明である。



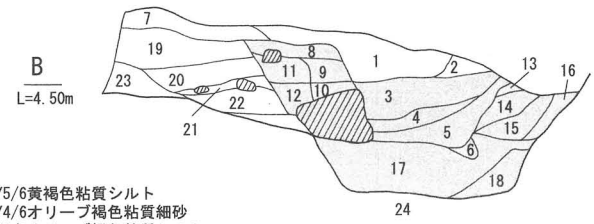
第46図　SK56　平面図・土層図

SD10

下層は素掘り溝で、上層は片側に石列を配する溝となる。

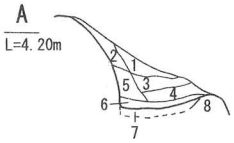
素掘り溝は幅約1.3m、深さ約70cmある。その西側の掘り込み①も溝跡と考えられる。17世紀中頃の山崎氏時代まで遡る可能性がある。

下層溝土層図

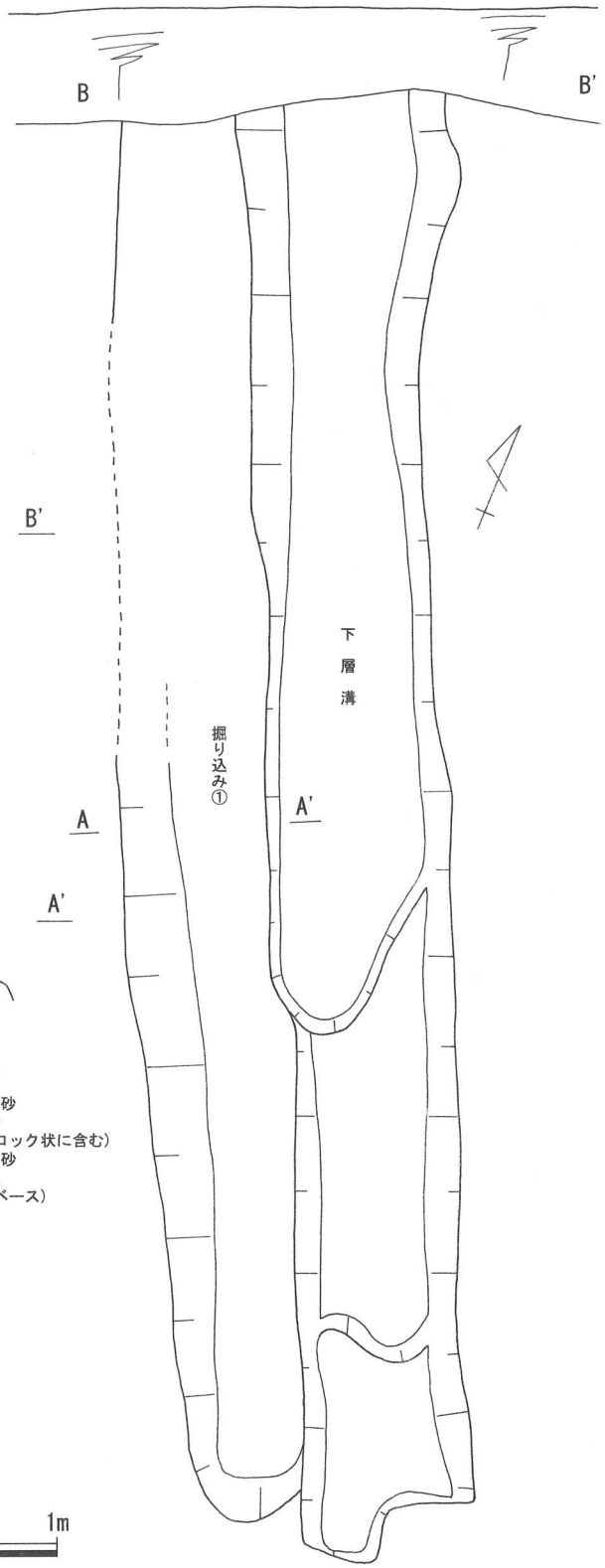


1 2.5Y5/6黄褐色粘質シルト
2 2.5Y4/6オリーブ褐色粘質細砂
3 2.5Y4/3オリーブ褐色粘質シルト
4 2.5Y5/2暗灰黄色砂
5 2.5Y4/4オリーブ褐色砂
6 2.5Y5/3黄褐色細砂
7 2.5Y5/6黄褐色粘質細砂(小石を含む)
8 2.5Y5/4黄褐色粘質細砂(黄色粘土ブロック状に含む)
9 2.5Y6/4にぶい黄色粘質シルト
10 2.5Y5/3黄褐色粘質細砂
11 2.5Y4/4オリーブ褐色粘質シルト
12 2.5Y4/4オリーブ褐色粘質シルト
13 2.5Y5/3黄褐色粘質シルト
14 2.5Y4/4オリーブ褐色粘質細砂
15 2.5Y4/3オリーブ褐色粘質シルト
16 2.5Y4/3オリーブ褐色粘質シルト
17 2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘質土
18 2.5Y5/4黄褐色粘質シルト(ベース土ブロック状に含む)
19 2.5Y5/4黄褐色粘質細砂
20 2.5Y4/6オリーブ褐色細砂(小石を稀に含む)
21 2.5Y4/6オリーブ褐色粘質細砂(小石を稀に含む)
22 2.5Y4/4オリーブ褐色粘質シルト
23 2.5Y5/6黄褐色粘質細砂
24 2.5Y6/4にぶい黄色細砂

掘り込み土層図



1 10YR6/6明黄褐色細砂
2 10YR6/8明黄褐色粘質土
3 2.5Y5/2暗灰黄色細砂
4 2.5Y4/3オリーブ褐色細砂
5 10YR5/6黄褐色粘質細砂
(黄色粘質シルトをブロック状に含む)
6 2.5Y5/2暗灰黄色粘質細砂
7 2.5Y5/2暗灰黄色粘質土
8 2.5Y6/2灰黄色シルト(ベース)



第47図　SD10　下層溝　平面図・土層図

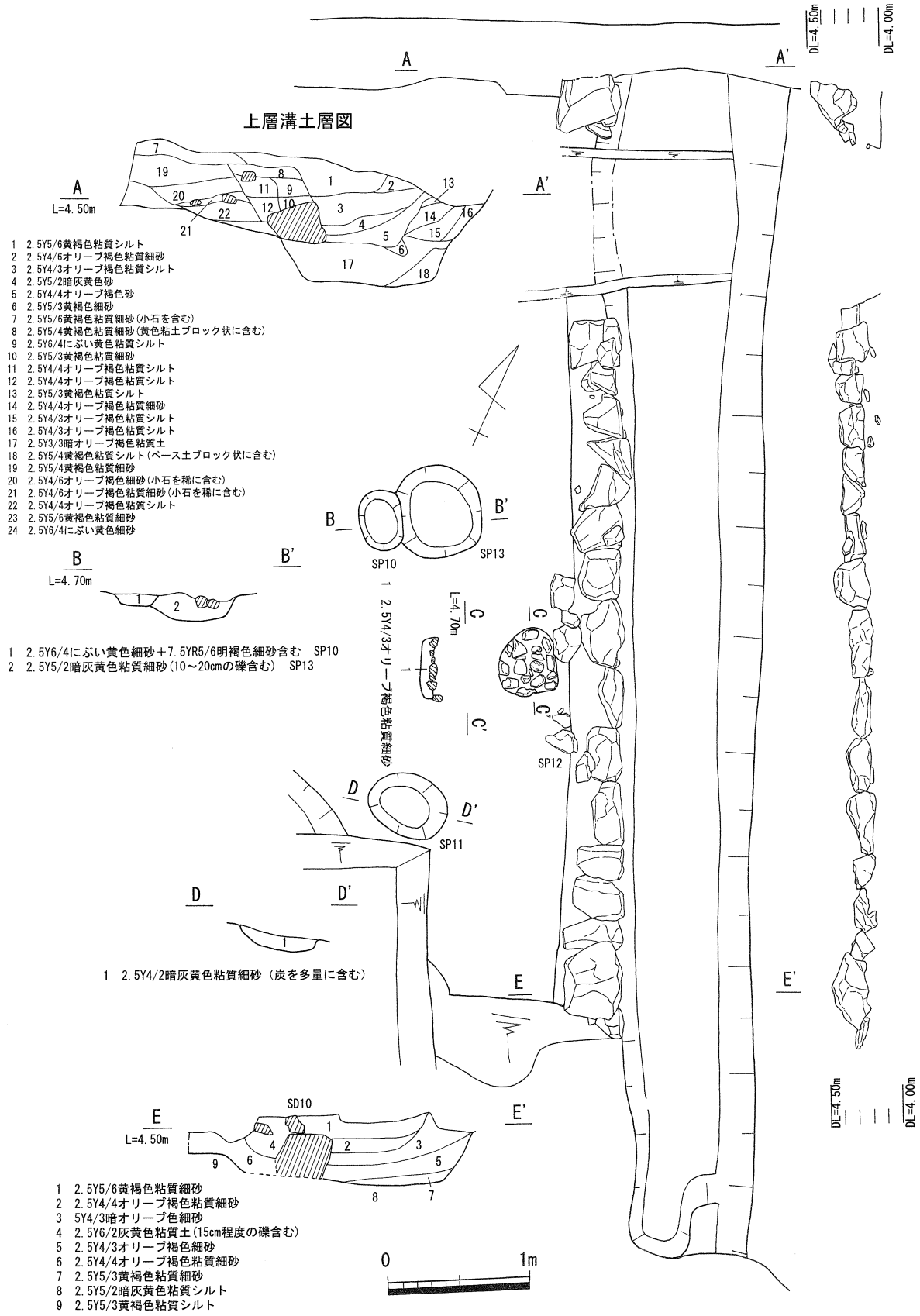
第５期

SD10

下層の素掘り溝は埋められ、上層は第５期で西側へ石列が配されるようになる。長さ500cm以上、幅86cm。深さ50cmある。

また、SP10、12、13はこの溝に伴う柱穴である。特にSP12の底には礫が敷かれている。

溝は軍隊施設の建設時に埋められている。

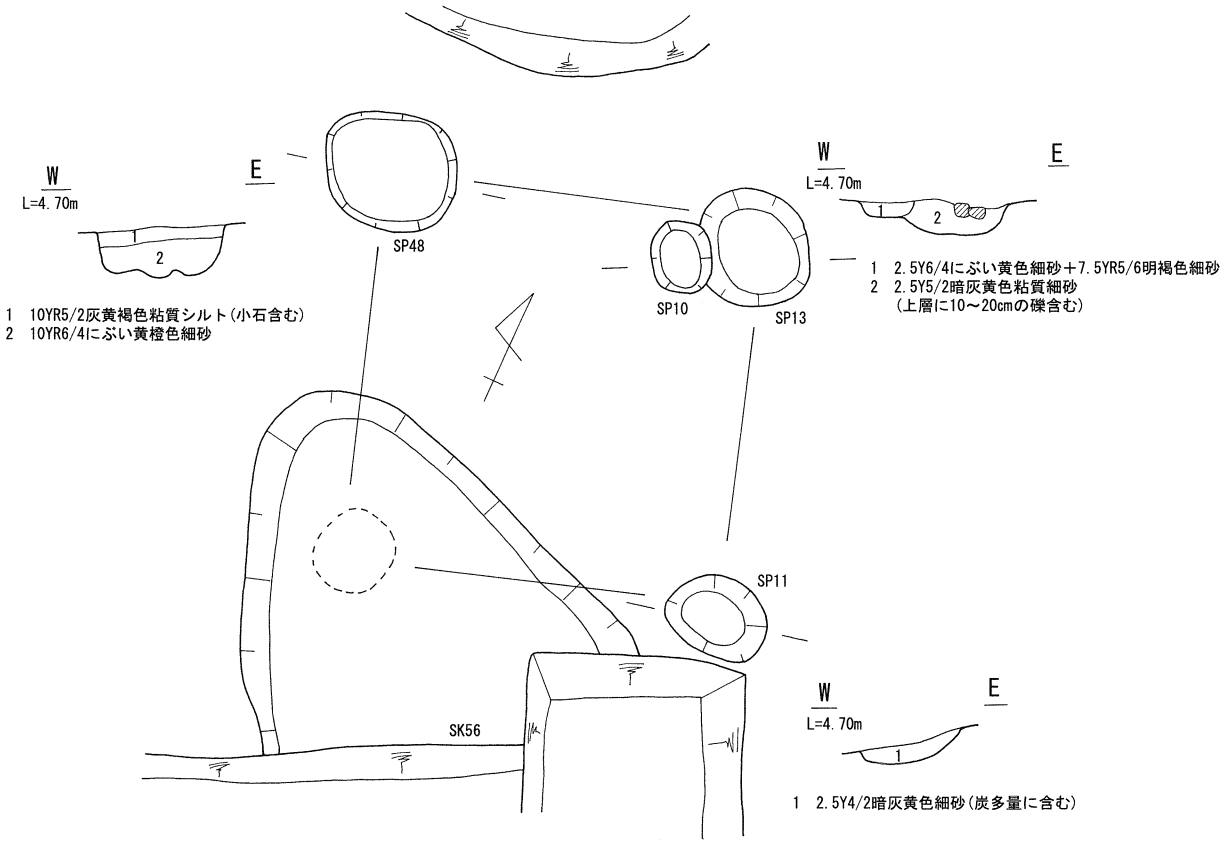


第48図　SD10　上層溝　平面図・土層図

SB01

１間×１間の建物で、柱間２ｍある。

SP10は径29cm、深さ９cmである。SP13は径29cm、深さ９cmである。SP12は長径42cm、短径40cm、深さ12cmで、底に石を敷き詰めている。SP11は径55cm深さ18cmである。SP48は長径68cm、短径63cm、深さ27cmである。上部はかく乱により削平を受けているので、深さは検出高よりも実際は深いものと思われる。



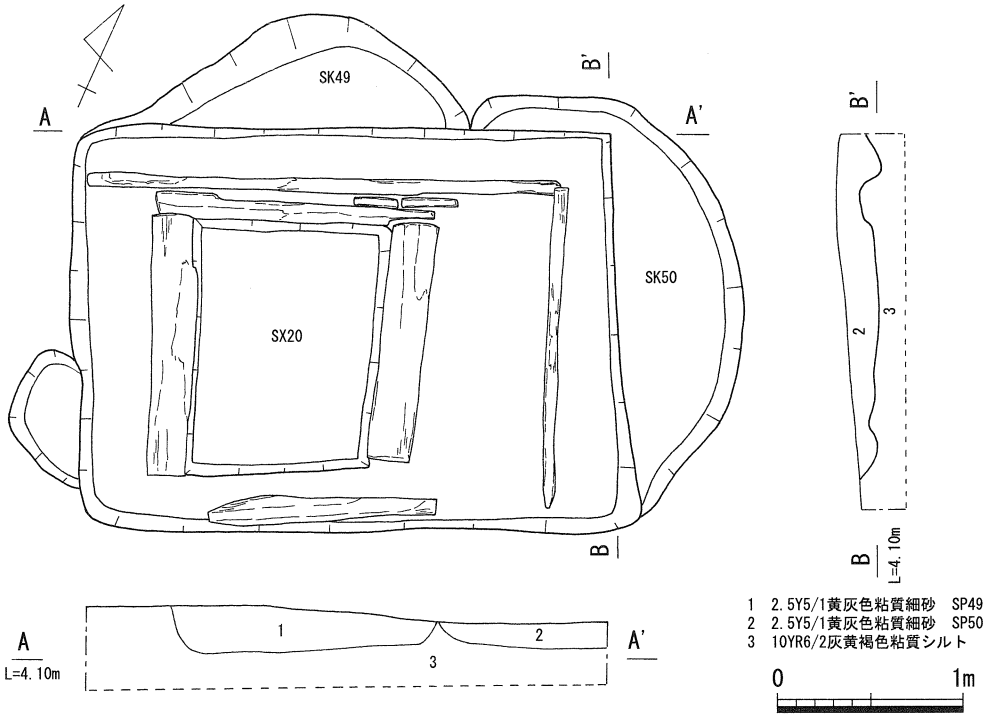
第49図　SB01　平面図・土層図

SK49

長径213cm(土層では144cm)以上、短径56cm以上、深さ28cmの土こうである。SK50ともども軍隊時の建物SX20によりかく乱を受けている。肥前産呉器手碗が出土しているが埋土を見ると時期は新しい。

SK50

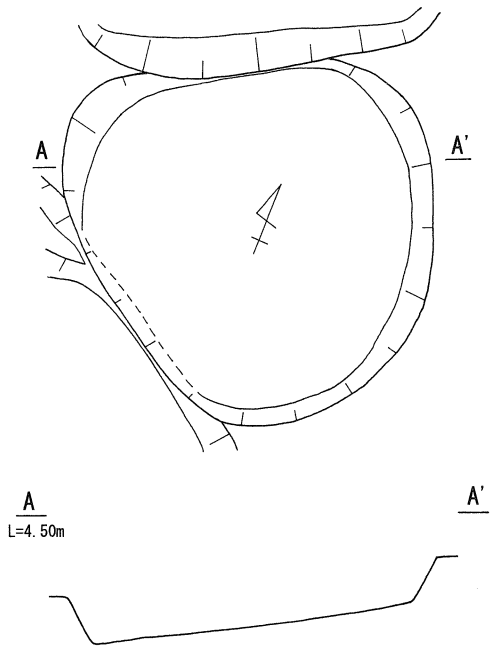
長径240cm、短径66cm以上(土層185×90)、深さ14cmの土こうである。磁器碗、土師質皿、瓦等が出土しているが埋土を見るとSK49と同様に時期は新しい。



第50図　SK49・50　平面図・土層図

SK17

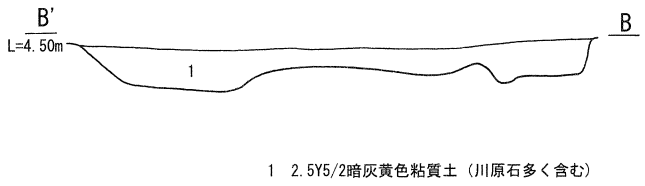
長径213cm、短径183cm、深さ30cmの土こうである。
瓦が多く出土している。

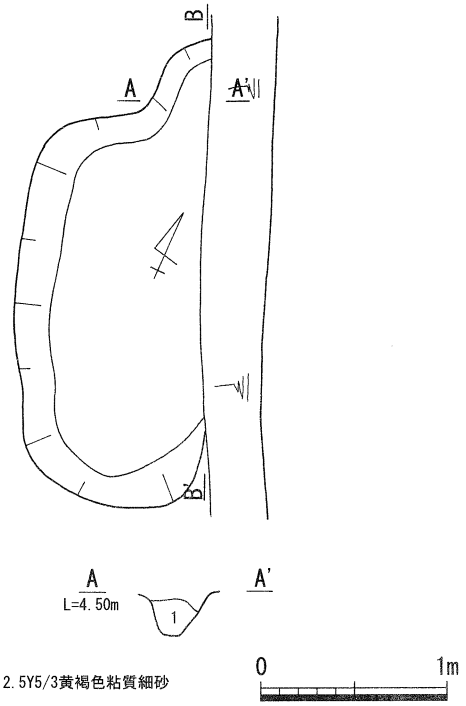


第51図　SK17　平面図・断面図

SK52

長径253cm(東壁土層274cm)、短径97cm以上、深さ20cmの土こうである。東端にある土こうで本来の規模は不明である。





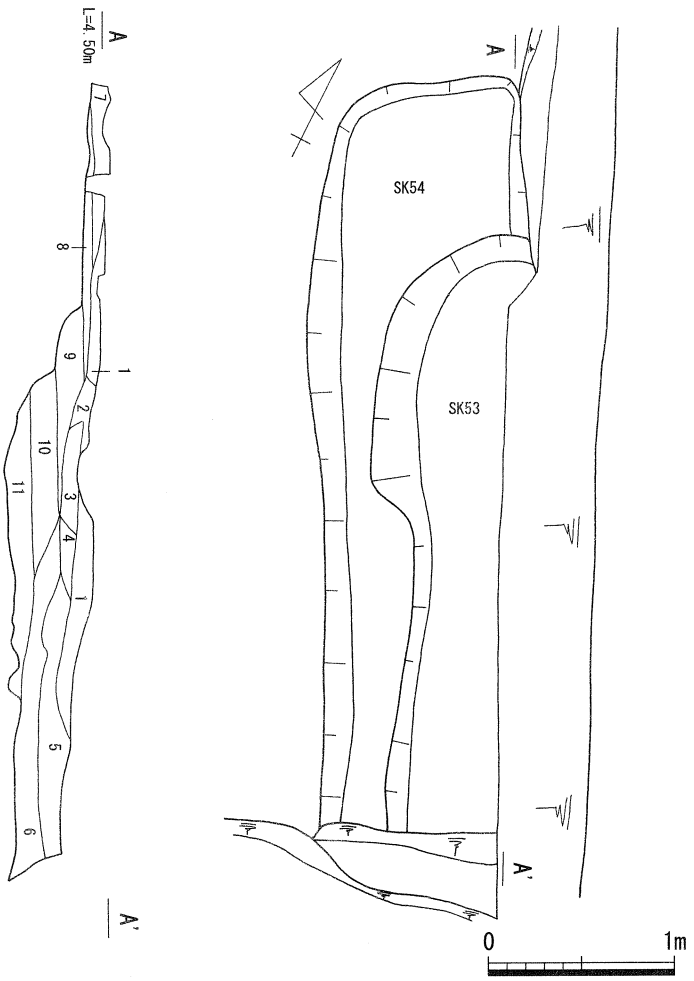
第52図　SK52　平面図・土層図

SK54

長径393cm(土層位置164cm)以上、短径100cm以上、深さ15cmの土こうである。焼土層が混ざる。

SK53

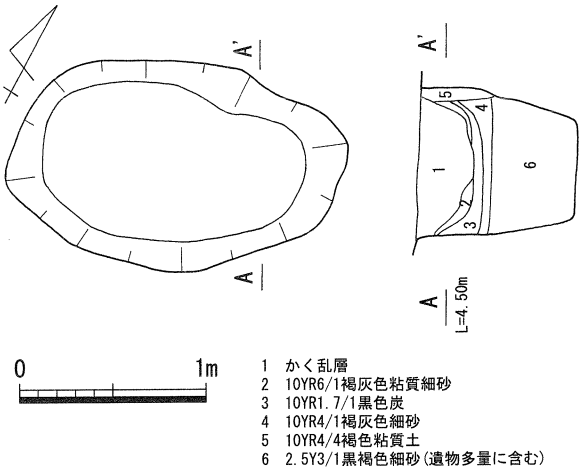
長径313cm(東壁土層294cm)以上、短径46cm以上、深さ12cmの土こうである。SK54より上層遺構である。上部までかく乱が及ぶ。東端にある土こうで本来の規模は不明である。



第53図　SK53・54　平面図・土層図

SK03

長径187cm、短径108cm、(土層位置74cm)、深さ88cmの土こうである。SK02と同時期遺物廃棄土こうと思われ、幕末頃の遺物を多量に包含する。近現代に掘り返されかく乱を受けている。

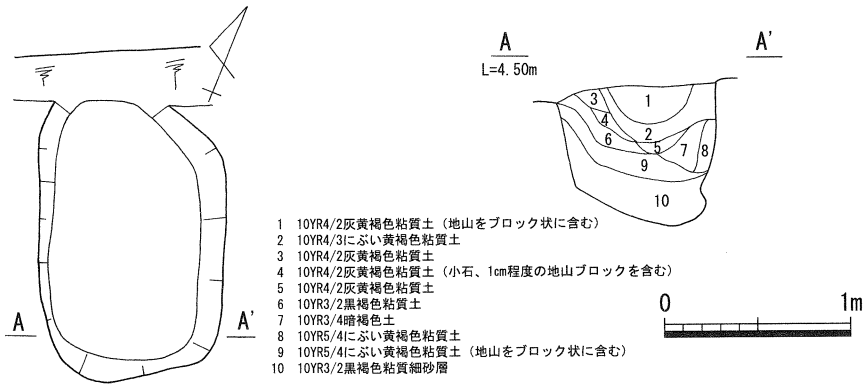


第54図　SK03　平面図・土層図

SK10

長径150cm、短径100cm、深さ約80cmの土こうである。

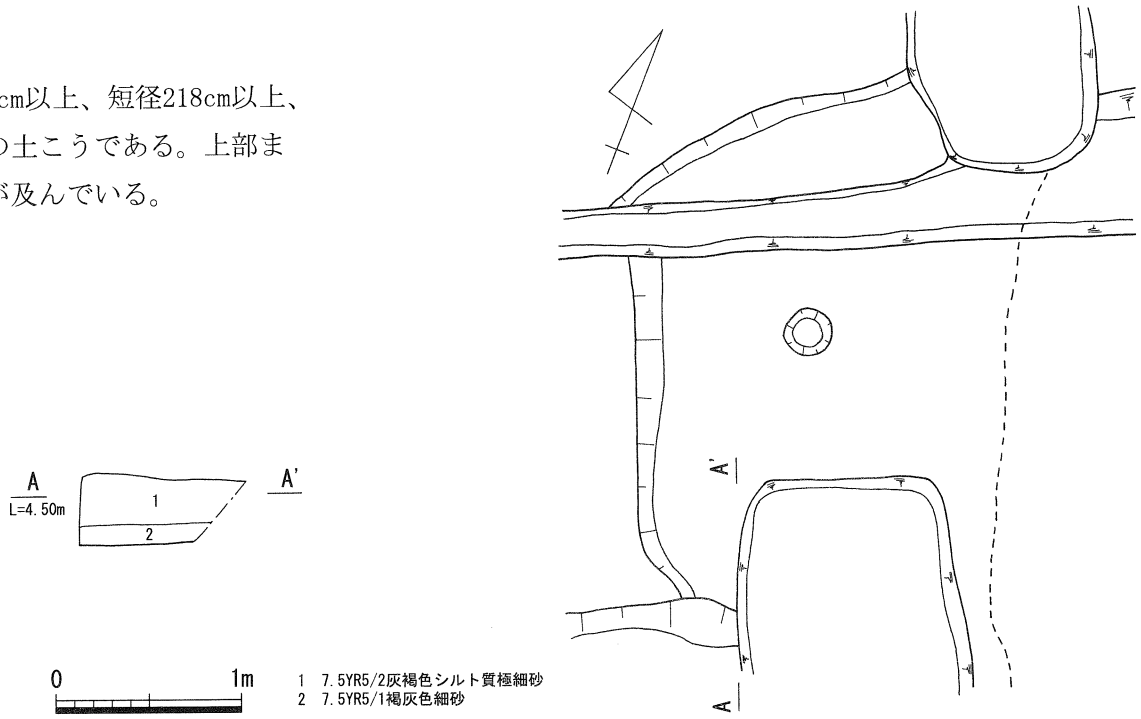
幕末の廃棄土こうであるが、一度掘り返されている。また、明治期以降のSD02の掘り方により削平を受けている。



第55図　SK10　平面図・土層図

SK04

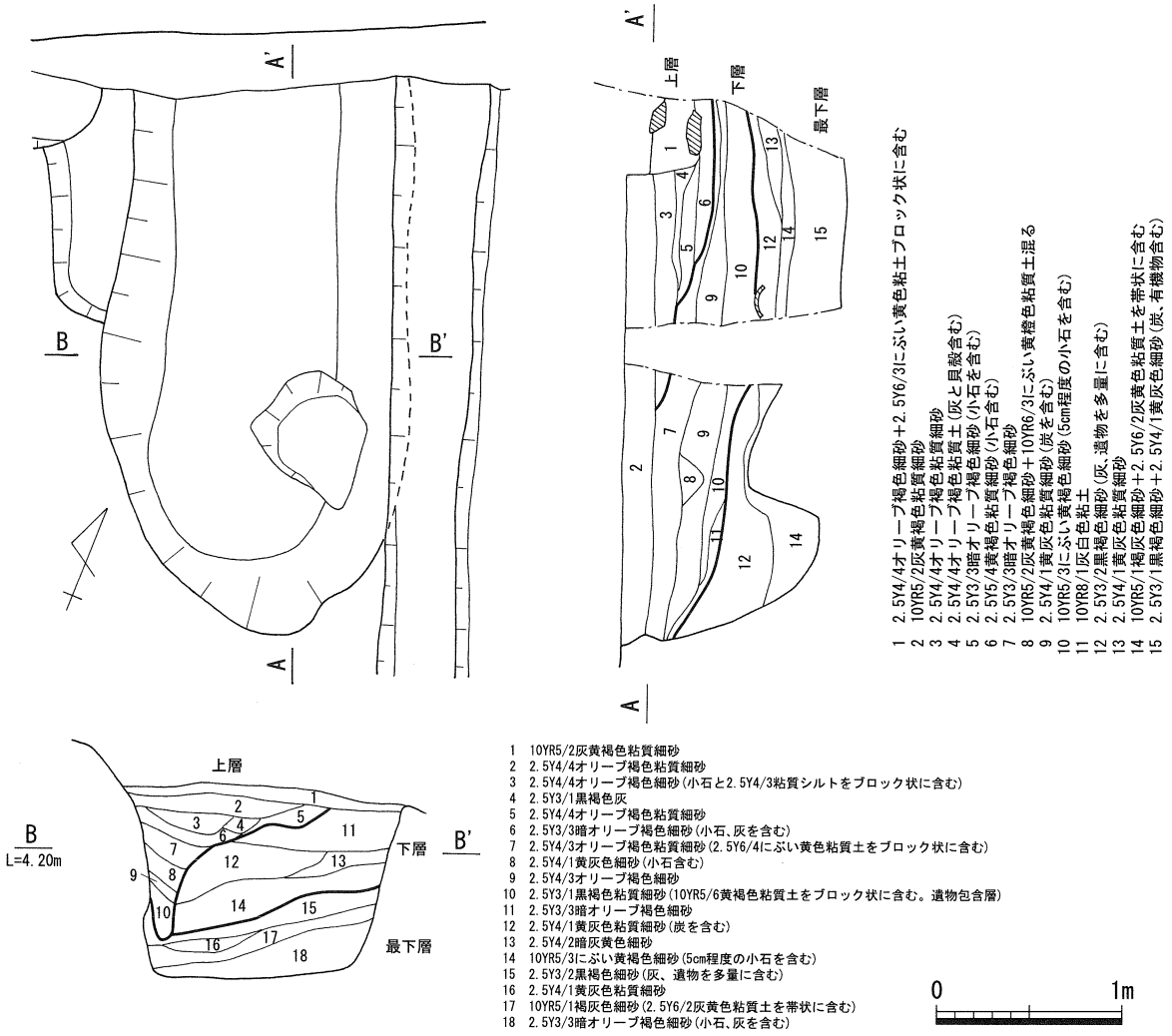
長径307cm以上、短径218cm以上、深さ22cmの土こうである。上部までかく乱が及んでいる。



第56図　SK04　平面図・土層図

SK02

長径293cm以上(南北土層)、短径157cm(東西土層)、深さ137cmの土こうである。最下層からは幕末頃の遺物が多量に出土している。明治７年に完成する一～四番丁一帯への陸軍の丸亀営舎建設に伴う立ち退き時の遺物廃棄土こうと思われるが、近代現代に掘り返されかく乱を受けている。

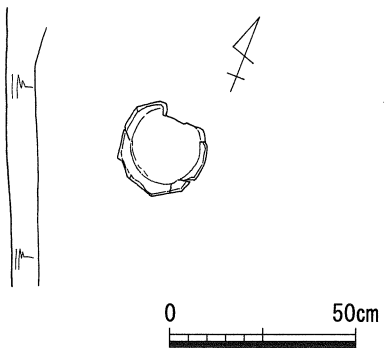


第57図　SK02　平面図・土層図

時期不明遺構

SX12

土師質甕が埋められた状態で出土しているが、上部掘削にあい底部しか残っていない。時期不明である。



第58図　SX12　平面図

第５期（近代）

近代の遺構は礎石をもつ建物跡やSX20の木枠を組んだ建物遺構、SK40のように粘質土を貼り付けた土こう、コンクリート基礎、SX08・09の埋め甕は軍隊時のトイレ甕、溝跡を検出した。特に西側では外濠へ排水する溝跡を検出した。石組井戸も引き続き使用されていたようである。

溝跡を報告する。

SD02

この場所は外濠内側に沿う溝であり、SD02は南北方向の長さ560ｍ以上、幅72cm、深さ43cm、西壁での深さ約80cmある。ほぼ直角に屈曲して外濠へ排水するようになっている。屈曲部付近でSD05と接続する。

北壁土層断面を見ると本来は20～50cm程度の石材を２段積みした石組溝であったようであるが、石材は取り除かれ残っていない。溝に伴う掘り方は長さ560cm以上、幅135cm。SD02の施工に伴う掘削である。

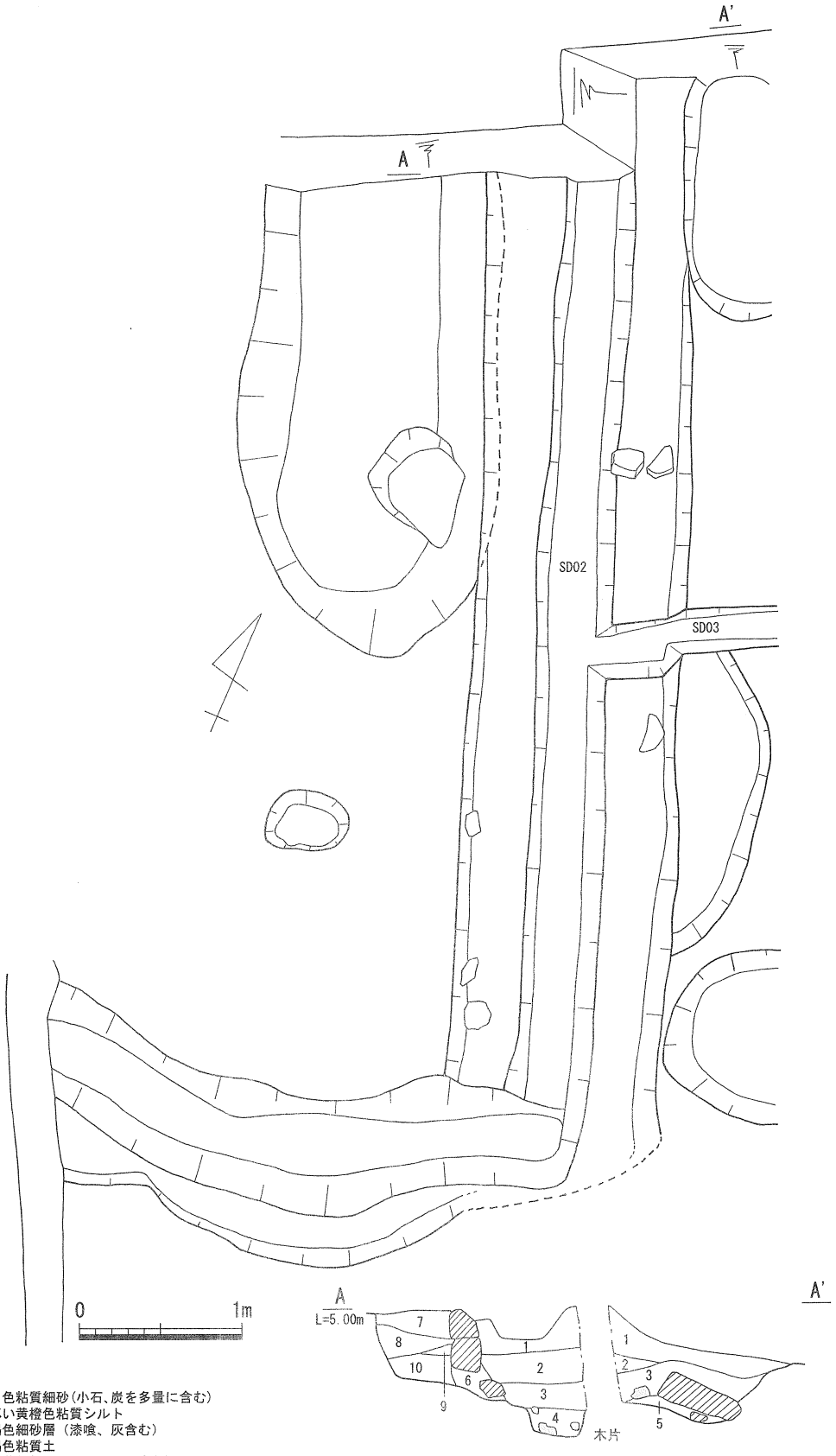
本来この場所には元から溝があり、軍隊時に造りかえられた溝である可能性もある。

SD03

東西方向で長さ700cm、幅24cm、深さ34cm、軍隊施設に伴う溝である。

SD05（第18図遺構平面図参照）

南北方向で長さ100cm以上、幅48cm、深さ40cmある。SD02と接続する溝であり、南側へ延長するものと思われるが、以前の市営翠山荘アパート建設による掘削で消失している。



1　10YR7/1灰白色粘質細砂(小石、炭を多量に含む)
2　10YR6/4にぶい黄橙色粘質シルト
3　2.5Y3/2黒褐色細砂層（漆喰、灰含む）
4　2.5Y3/2黒褐色粘質土
5　2.5Y4/2暗灰黄色粘質シルト（小石含む）
6　2.5Y7/2灰黄色粘質シルト
7　2.5Y7/4浅黄色細砂(小石を多量に含む。石の裏込め)
8　10YR8/2灰白色シルト（10YR8/6黄橙粘質シルトを含む）
9　2.5Y7/2灰黄色粘質シルト
10　2.5Y7/2灰黄色細砂(小石を含む)

第59図　SD02　平面図・土層図

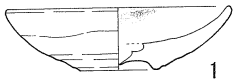
第３節　遺物

遺物について報告する。詳細は遺構観察表を参照していただきたい。

第１期

SK82

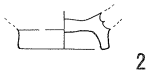
１は陶器皿。唐津産の皿で内面と外面口縁に釉薬が掛かる。底部は低く削りだした高台をもつ。



第60図　SK82　出土遺物実測図（S=1/4）

SK86

２は陶器碗。唐津産の灰釉碗の底部である。



第61図　SK86　出土遺物実測図（S=1/4）

第２期

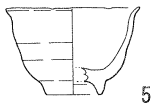
SK67

３、４は土師質皿。どちらも底部静止糸切りされている。

第62図　SK67　出土遺物実測図（S=1/4）

SK68

５は白磁の小杯である。



第63図　SK68　出土遺物実測図（S=1/4）

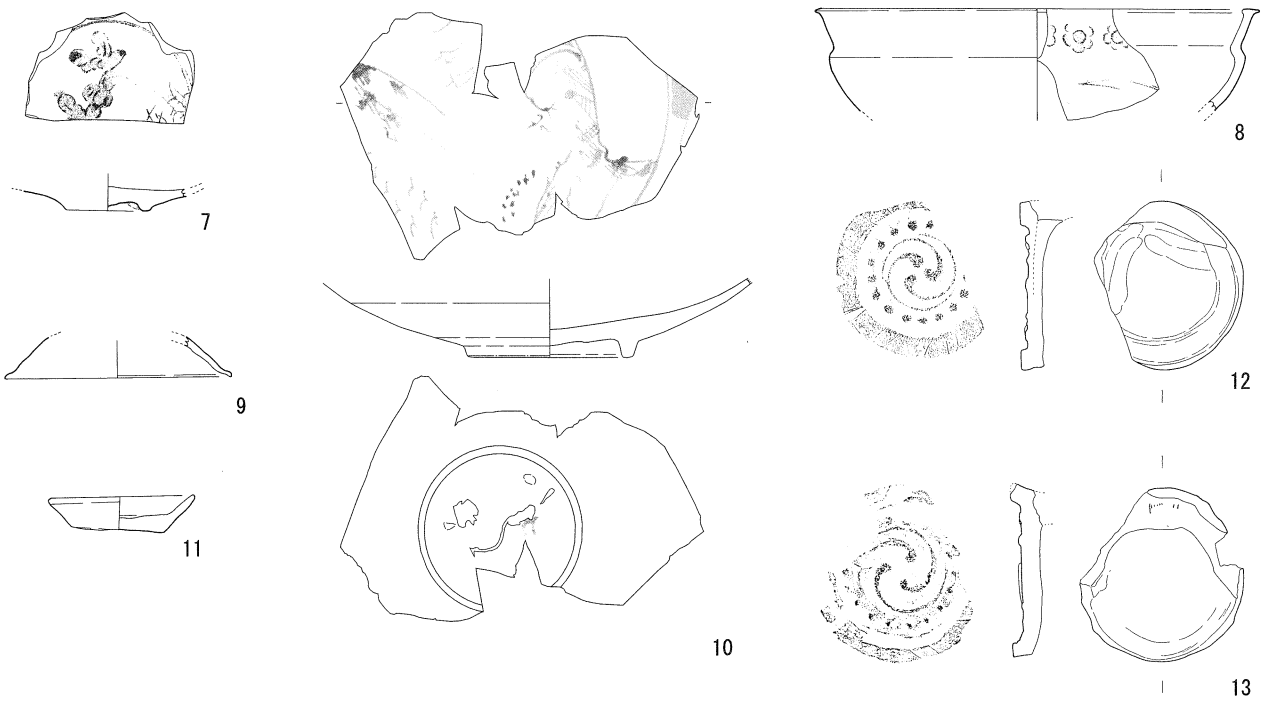
SK75

６は青磁の碗か鉢である。

第64図　SK75　出土遺物実測図（S=1/4）

SK91

７は磁器の染付皿。高台内兜巾を残す。８は青磁の鉢。９は軟質陶器の蓋で皿の可能性もある。10は白色釉を塗った陶器皿。11は土師質皿。12・13は巴文軒丸瓦。12の巴文の尾は長く、連珠文も密にあり、彫りは深い。13の巴文の瓦当に占める割合は広い。巴文の珠文は間隔が開き、尾も長く開いていく。連珠文は小さい。



第65図　SK91　出土遺物（S=1/4）・瓦（S=1/6）実測図

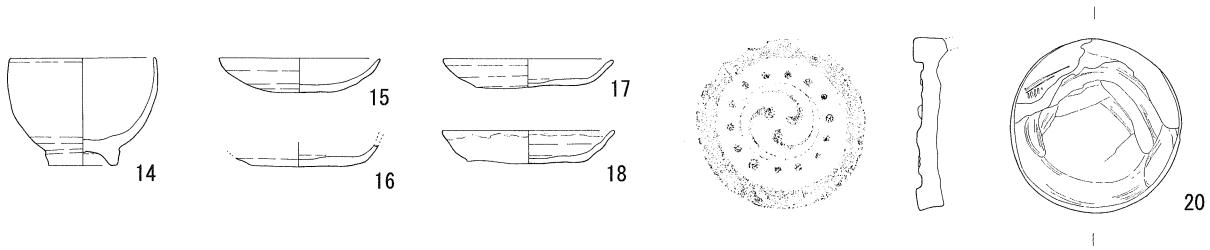
SK70

磁器碗、陶器碗、土師質皿、瓦、籠などが出土した。

14は陶器碗。肥前産の呉器手碗である。高台内は露胎する。15～18は土師質皿。15は黒色であり、17と18は灯明皿として使用された。19（写真のみ）は網目文の染付碗である。

20は巴文軒丸瓦である。巴文の瓦当に締める割合は広い。尾は細くて長く、一箇所で接合する。連珠文は小ぶりで14個ある。

編まれた籠（遺構写真図版18）が出土しているが、もろく取り上げ直後に破損したので写真による報告とする。

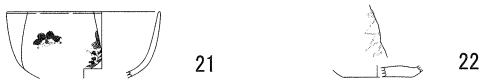


第66図　SK70　出土遺物（S=1/4）・瓦（S=1/6）実測図

第３期

SK26

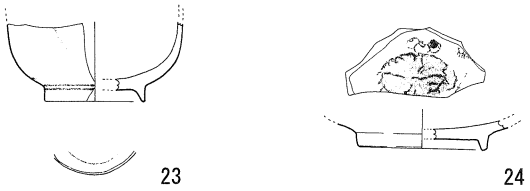
21は磁器の蝶と草花文の染付碗である。22は土師質皿で墨書がある。



第67図　SK26　出土遺物実測図（S=1/4）

SK62

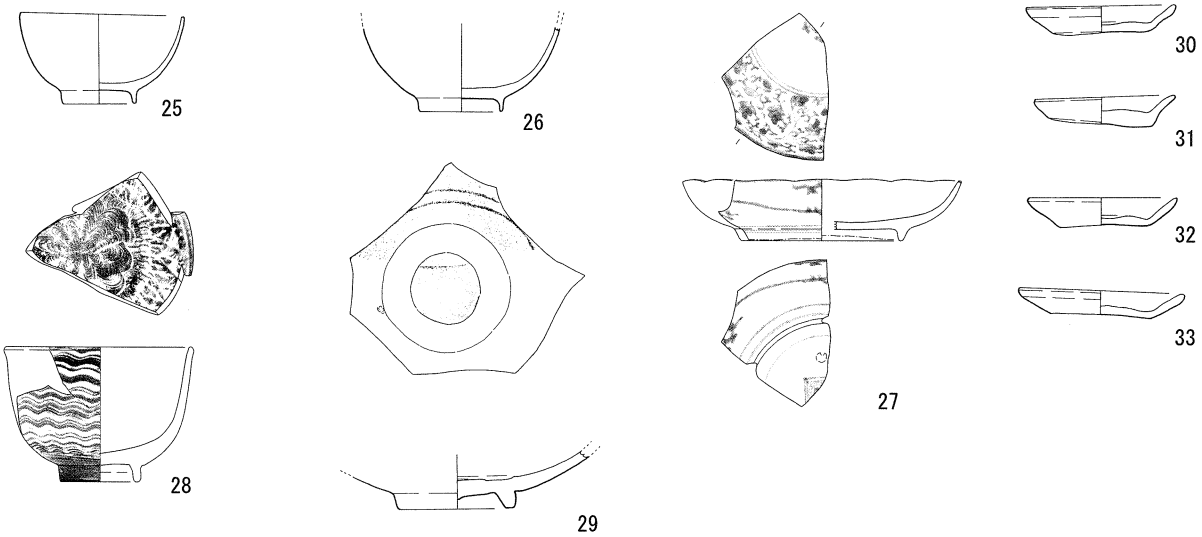
23は磁器の染付碗。24は磁器の皿である。



第68図　SK62　出土遺物実測図（S=1/4）

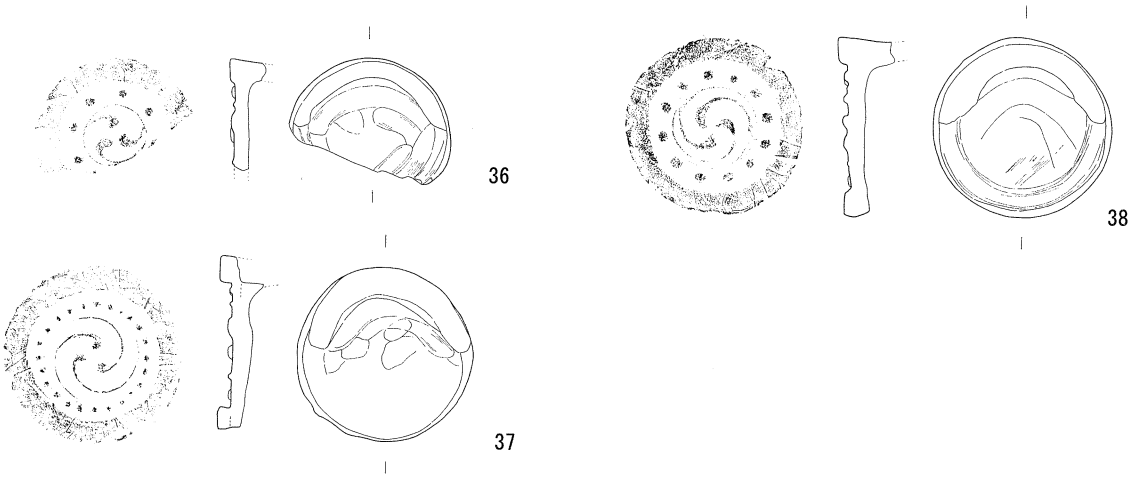
SK65

25・26は白磁碗。27は磁器の染付皿。見込みに五弁花、内側面・外側面に唐草文を施し、高台内渦「福」、口縁には口紅がつく。28は肥前系刷毛目碗。29は蛇の目釉剥ぎの陶器皿。30～33は土師質皿。34（写真のみ）は磁器の色絵。35（写真のみ）は備前産の擂鉢である。



第69図　SK65　出土遺物実測図（S=1/4）

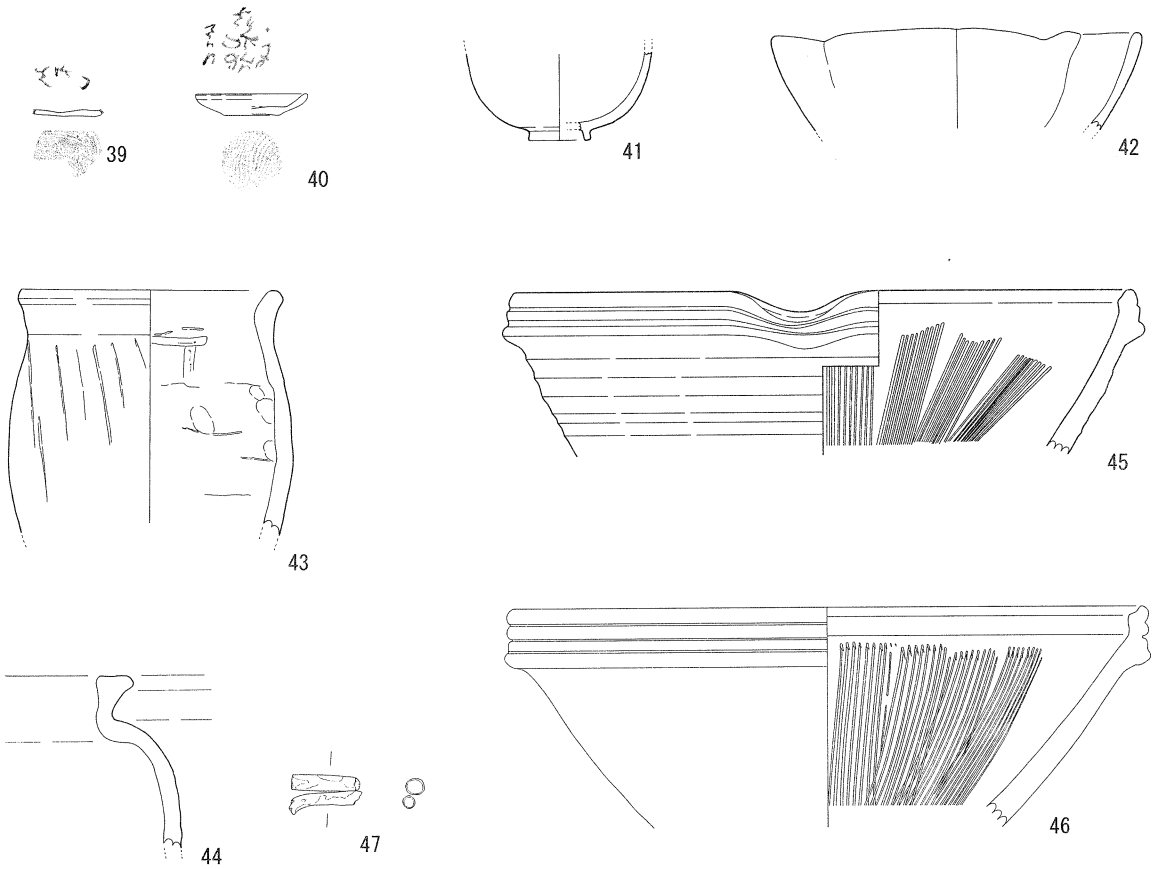
36～38は巴文軒丸瓦。36の巴文は短く、尾は接合する。連珠文の間隔は開いている。37は彫りが深い。巴文の瓦当に占める割合は広い。巴文は細くて長く、尾は開く。連珠文は24個あり、小さく密にある。38の巴文の珠文は繋がっており、尾は長い。連珠文は12個あり間隔が開く。１箇所で笵傷が見られる。



第70図　SK65　出土瓦実測図（S=1/6）

SK31

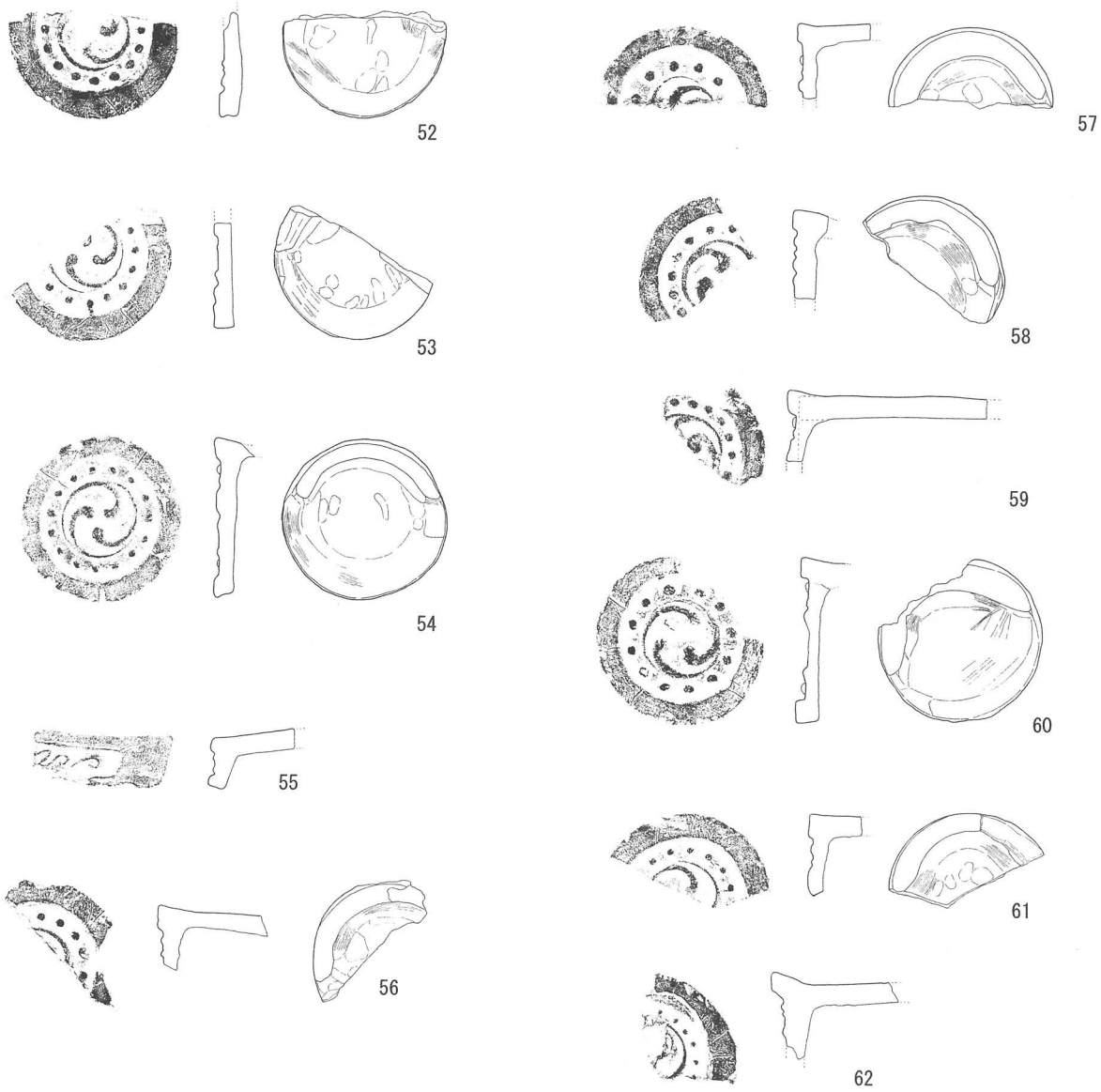
39と40は土師質皿でともに墨書がある。41は肥前系の碗である。42は青磁の鉢で口縁は波状となっている。43は土師質甕である。44は備前産の壷である。45と46は備前産の擂鉢である。47は青銅製の煙管。48～51（写真のみ）は磁器の染付碗である。



第71図　SK31　出土遺物実測図（S=1/4）

52～62は瓦である。下層（土層図７）から出土した瓦は52～55で、52～54は巴文軒丸瓦。55は軒平瓦である。52の巴文は細く、尾は接続する。連珠文はやや大きく密にある。彫りは良好である。53の巴文は細く、珠文も間隔が開く。連珠文は密にあり。１箇所に笵傷が見られる。SK28出土の201の軒丸瓦と同笵瓦である。54の瓦当に占める巴文の割合は広く、尾も接続する。連珠文は小ぶりで15個ある。55は三つ葉文軒平瓦である。

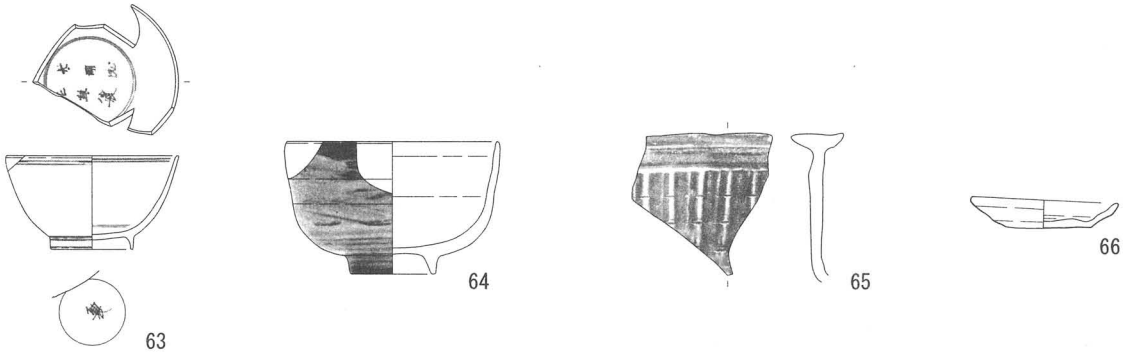
56～62は最下層（土層図８・９）出土の巴文軒丸瓦。56の巴文の尾は長く、連珠文は密にある。丸瓦部分の表側は縦方向のヘラ削り、裏側はコビキＢに布目痕がある。57の文様の彫りは深く、連珠文は間隔が開く。58の巴文は太く瓦当に占める割合も広い。尾も太く接続する。連珠文は密にある。59は巴文の瓦当に占める割合は広い。連珠文は小ぶりで密である。丸瓦部分の表側は縦方向にヘラ削り、裏側はコビキＢに布目痕が残る。60の巴文の瓦当に占める割合は広い。巴文の珠文も大きく尾も長い。連珠文は12個ある。61の巴文は細い。連珠文は小ぶりである。62の連珠文は小ぶりで密にある。丸瓦の取り付け位置は瓦当よりやや下がる。表側は縦方向のヘラ削りがあり、裏側は布目痕が残る。



第72図　SK31　出土瓦実測図（S=1/6）

SK18

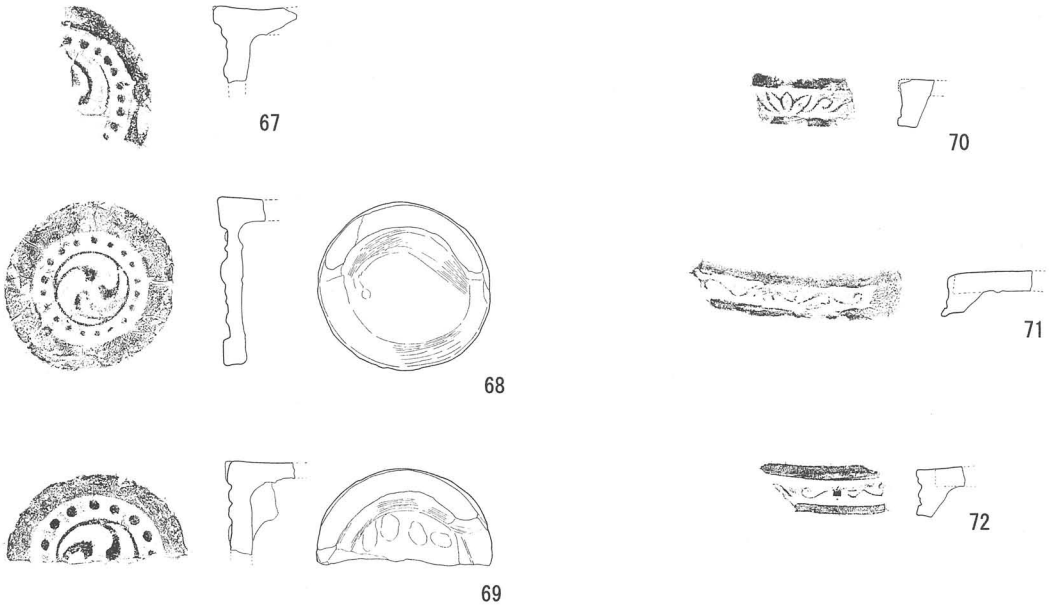
63は磁器の染付碗。見込み二重圏線に「大明成化年製」、高台裏に「製」の銘がある。64は肥前産の刷毛目碗。65は陶器甕の口縁。66は土師質皿である。



第73図　SK18　出土遺物実測図（S=1/4）

67～69は巴文軒丸瓦。70～72は軒平瓦である。67の巴文の瓦当に占める割合は広く長い。連珠文は密である。68の巴文の珠文部は大きく尾は長い。連珠文は密にある。69の巴文の瓦当に占める割合は広い。巴文は広くて長く、尾が接合する。連珠文は19個あり、小さく密にある。

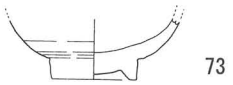
70は三つ葉唐草文軒平瓦である。71は下り三つ葉唐草文軒平瓦である。唐草の蔓は中心から外側へ上下上を向く。72は打ち出の小槌と唐草文の軒平瓦である。顎を貼り付けている。



第74図　SK18　出土瓦実測図（S=1/6）

SK63

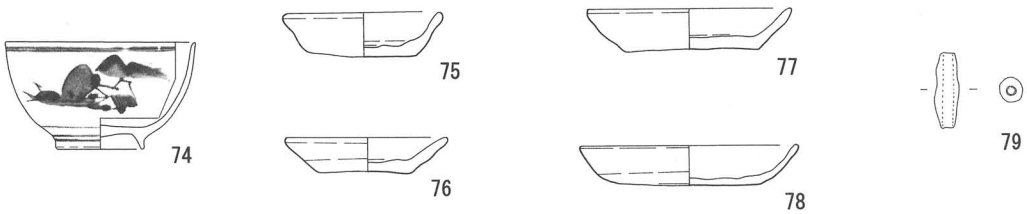
73は瀬戸美濃の天目茶碗の底部である。



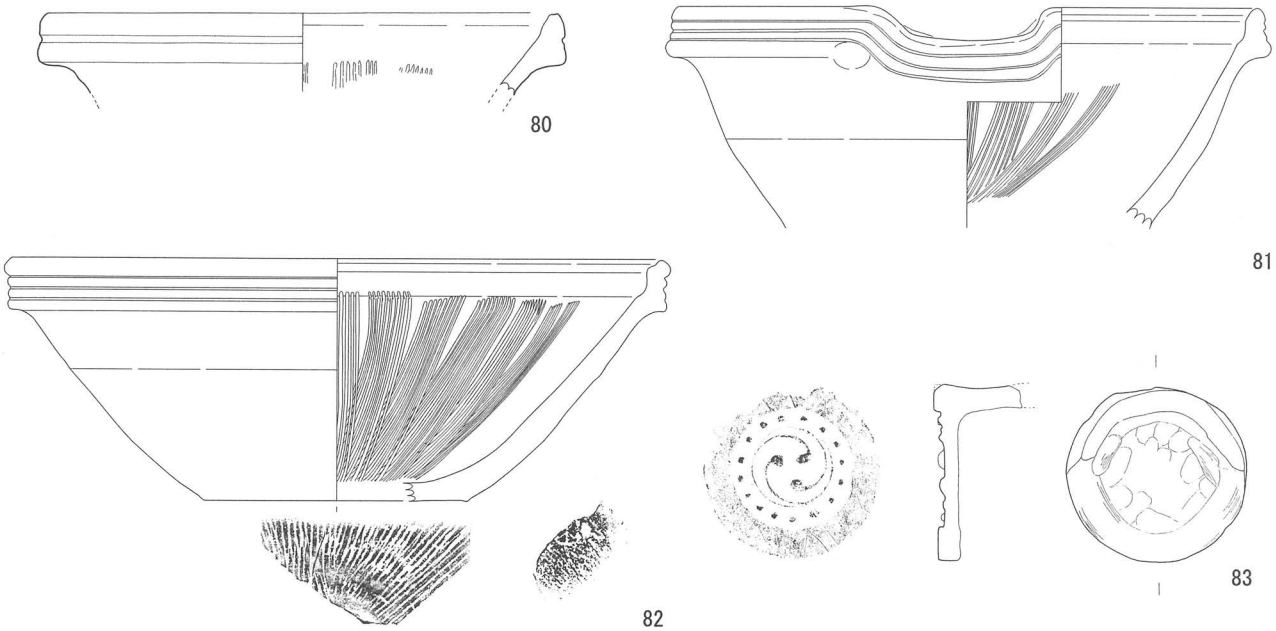
第75図　SK63　出土遺物実測図（S=1/4）

SK69

74は磁器で波佐見産の染付碗。75～78は土師質皿。79は土錘。80～82は備前産の擂鉢。82は底部に刻印がある。83は巴文軒丸瓦で巴文の尾は接合する。連珠文は16個あり小さく密である。



第76図　SK69　出土遺物実測図（1）（S=1/4）

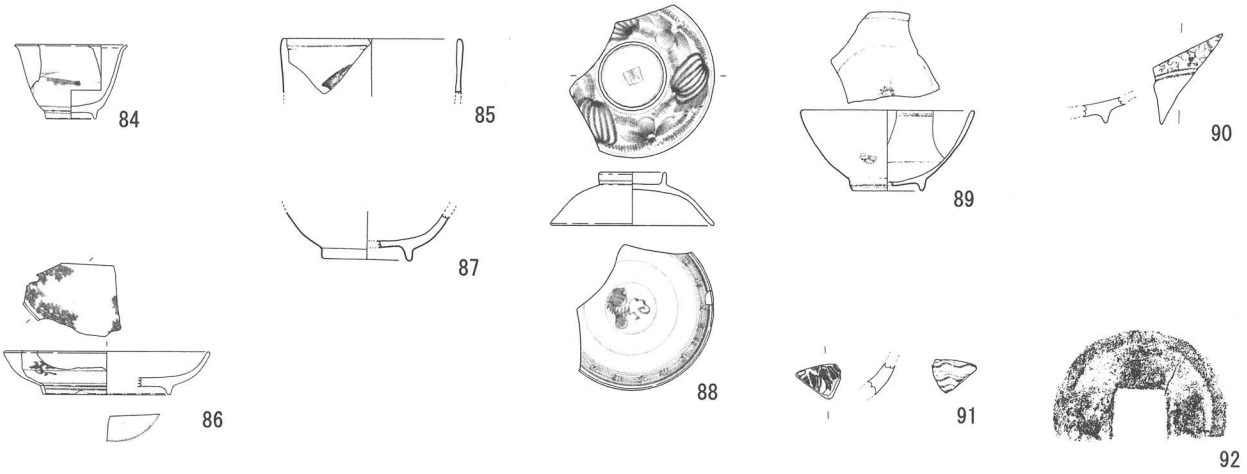


第77図　SK69　出土遺物（2）（S=1/4）・瓦（S=1/6）実測図

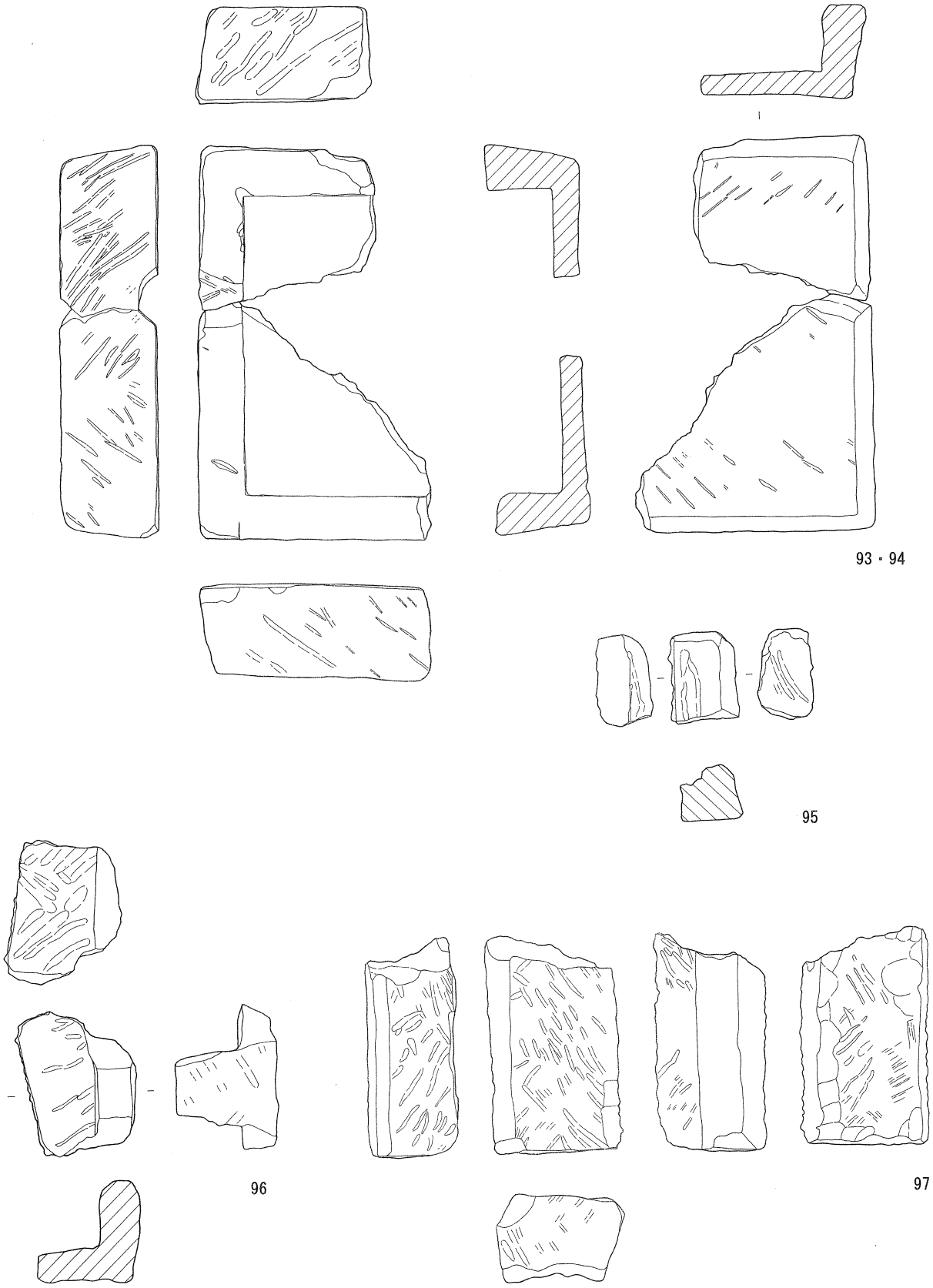
SE01掘り方　SE01井戸内・SX10（第５期）

84～87は井戸の掘り方から出土した遺物であり、88～108は井戸内及びSX10(第５期)より出土した遺物である。

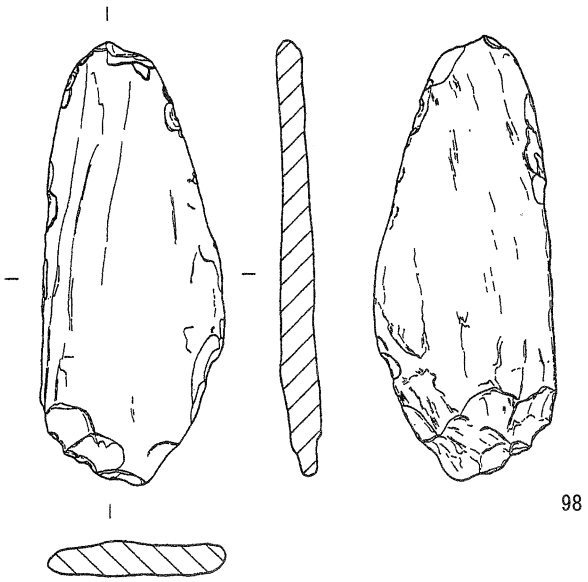
84は磁器の染付の小坏である。85は磁器の染付蓋物である。86は磁器のコンニャク印判のある染付皿である。87は肥前系の鉄釉のかかった陶器碗である。88は磁器の染付の蓋で幕末頃のもである。89は磁器の蝶文の染付碗である。90は磁器の染付皿である。91は肥前産の刷毛目碗の破片である。92は銅銭の寛永通宝である。93・94は凝灰岩製流しか排水路の破片で、上縁部に管を設置すると考えられる刳り貫き痕がある。98は緑泥片岩の板石であるが用途不明である。99は色絵の磁器碗、100は雨降し文の猪口である。101は備前産の擂鉢である。



第78図　SE01　井戸堀り方・SE01井戸内・SX10　出土遺物実測図（S=1/4・92　S=1/1）

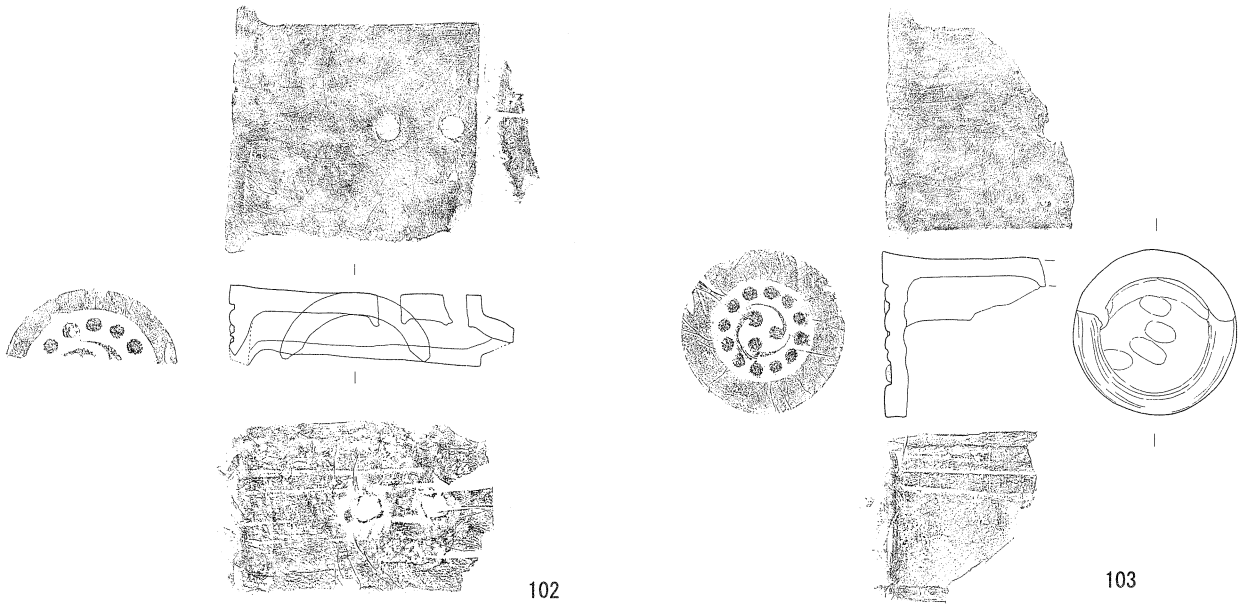


第79図　SE01　井戸内・SX10　出土石製品実測図（1）（S=1/6）

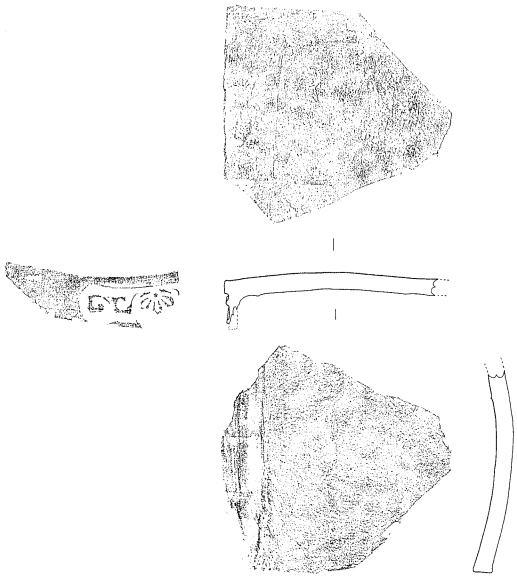


第80図　SE01　井戸内・SX10　出土石製品実測図（2）（S=1/6）

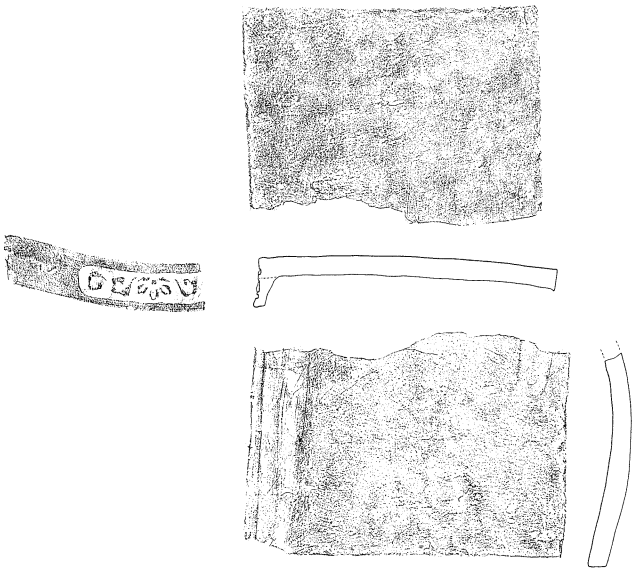
102～111は井戸内出土瓦である。102・103は巴文軒丸瓦である。102の巴文は太く、尾は短い。連珠文も大きく密にある。丸瓦部分の表側は縦方向に密なヘラ削り痕がある。縦方向に約７mmのヘラ削り痕がある。径1.8～2.0の釘穴が２箇所ある。103の連珠文は大きく密なるが尾は短い。連珠文は12個あり、大きく密である。丸瓦部分の表側は縦方向のヘラ削りの後に、縦横斜め方向に指なでをしている。縦方向へ1.1cm幅のヘラ削りがあり、径1.7cmの釘穴がある。104～106は軒平瓦である。104・105は桐文唐草文軒平瓦である。瓦当顎部貼り付け。唐草文の蔓は中心から外へ上・下向き。104と105は同文様である。106は菊文唐草文軒平瓦である。107～110は丸瓦である。製作痕を見ると107は表側に縦・横方向にナデ、裏側に３箇所で７mmのヘラ削り痕がある。108は表側に縦方向のヘラ削り後にナデ。裏側はコビキＢ痕に幅５mmのヘラ削り痕がある。110の表側は縦方向にヘラ削り、裏側はゴザ状痕あり。111は道具瓦で軒上瓦である。



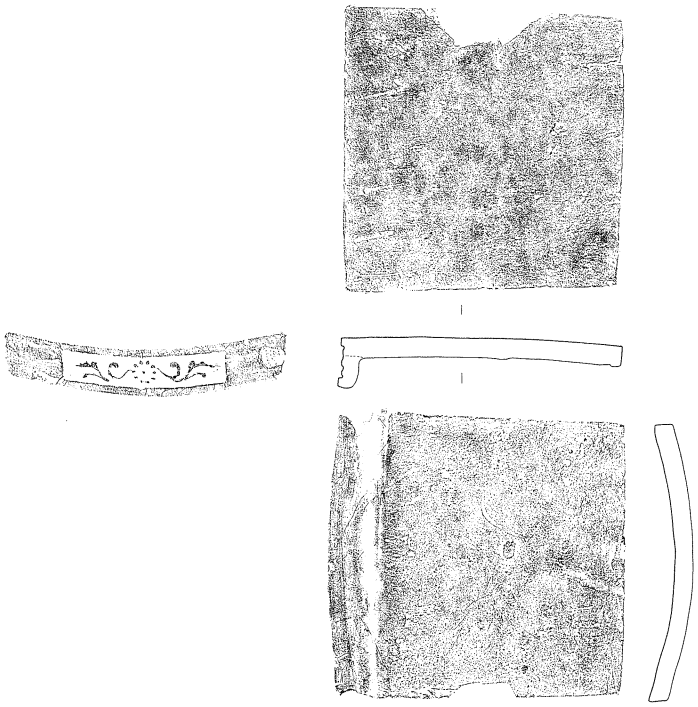
第81図　SE01　井戸内・SX10　出土瓦実測図（1）（S=1/6）



104

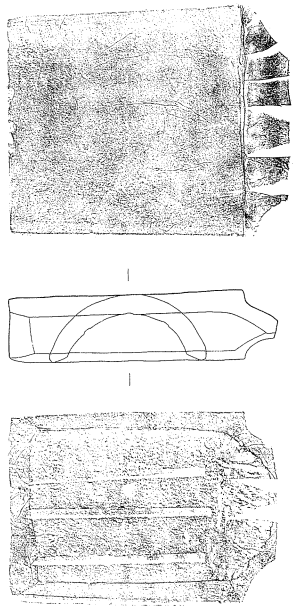


105

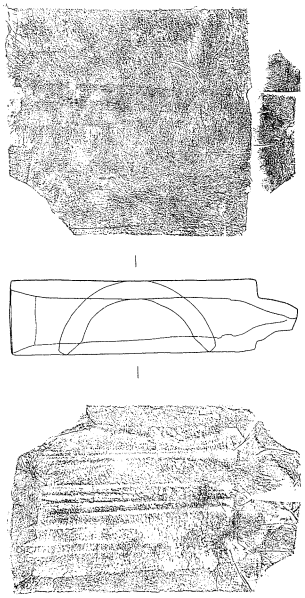


106

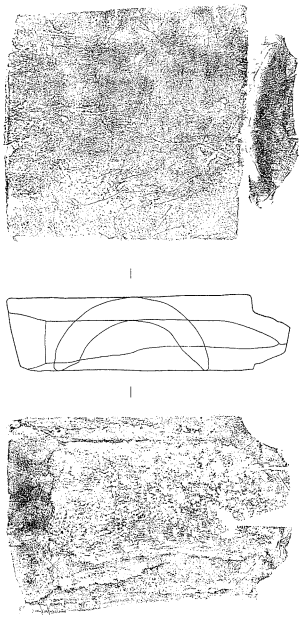
第82図　SE01　井戸内・SX10　出土瓦実測図（2）（S=1/6）



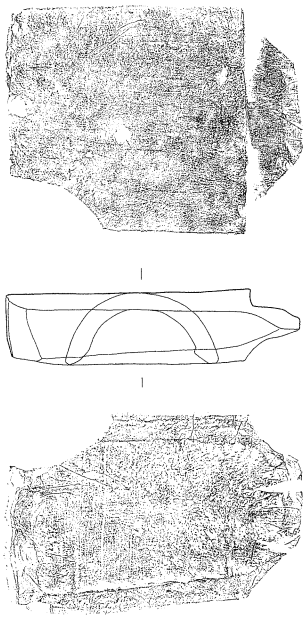
107



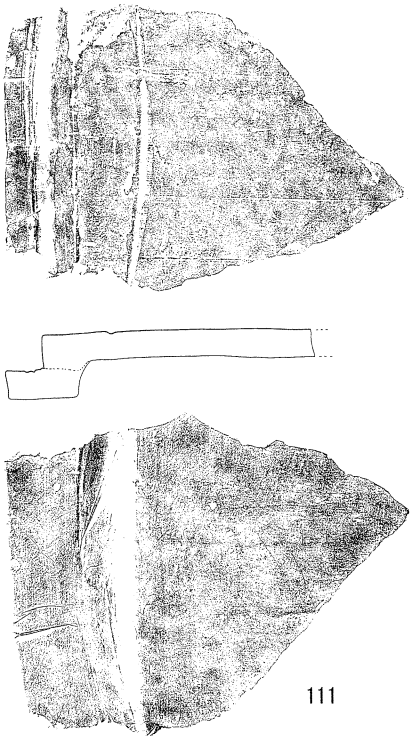
108



109



110



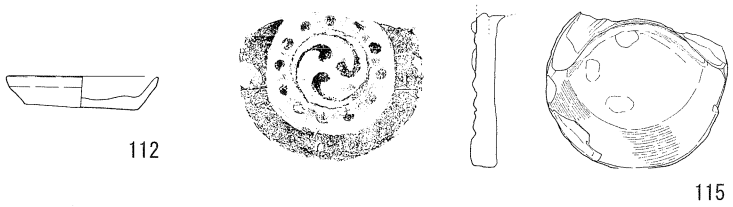
111

第83図　SE01　井戸内・SX10　出土瓦実測図（3）（S=1/6）

SK21

112は土師質の灯明皿である。113・114（写真のみ）は肥前産の白磁碗である。

115は巴文軒丸瓦である。巴文は長く、連珠文は12個ある。

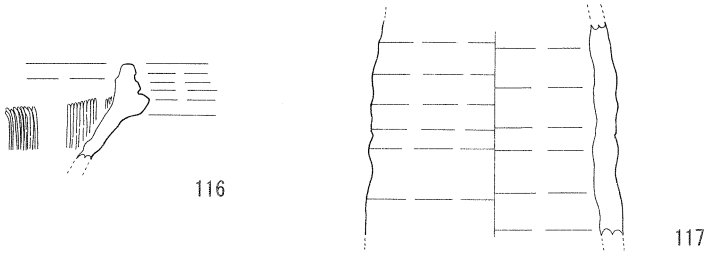


第84図　SK21　出土遺物（S=1/4）・瓦（S=1/6）実測図

SK74

116は備前産の擂鉢である。

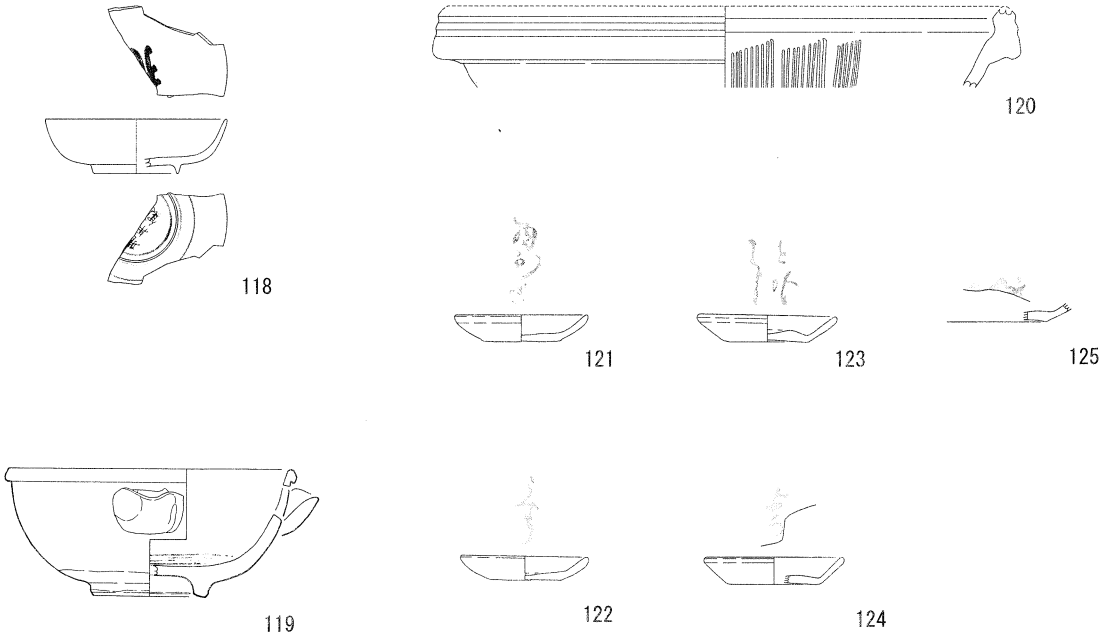
117は土師質の甕である。



第85図　SK74　出土遺物実測図（S=1/4）

SK32

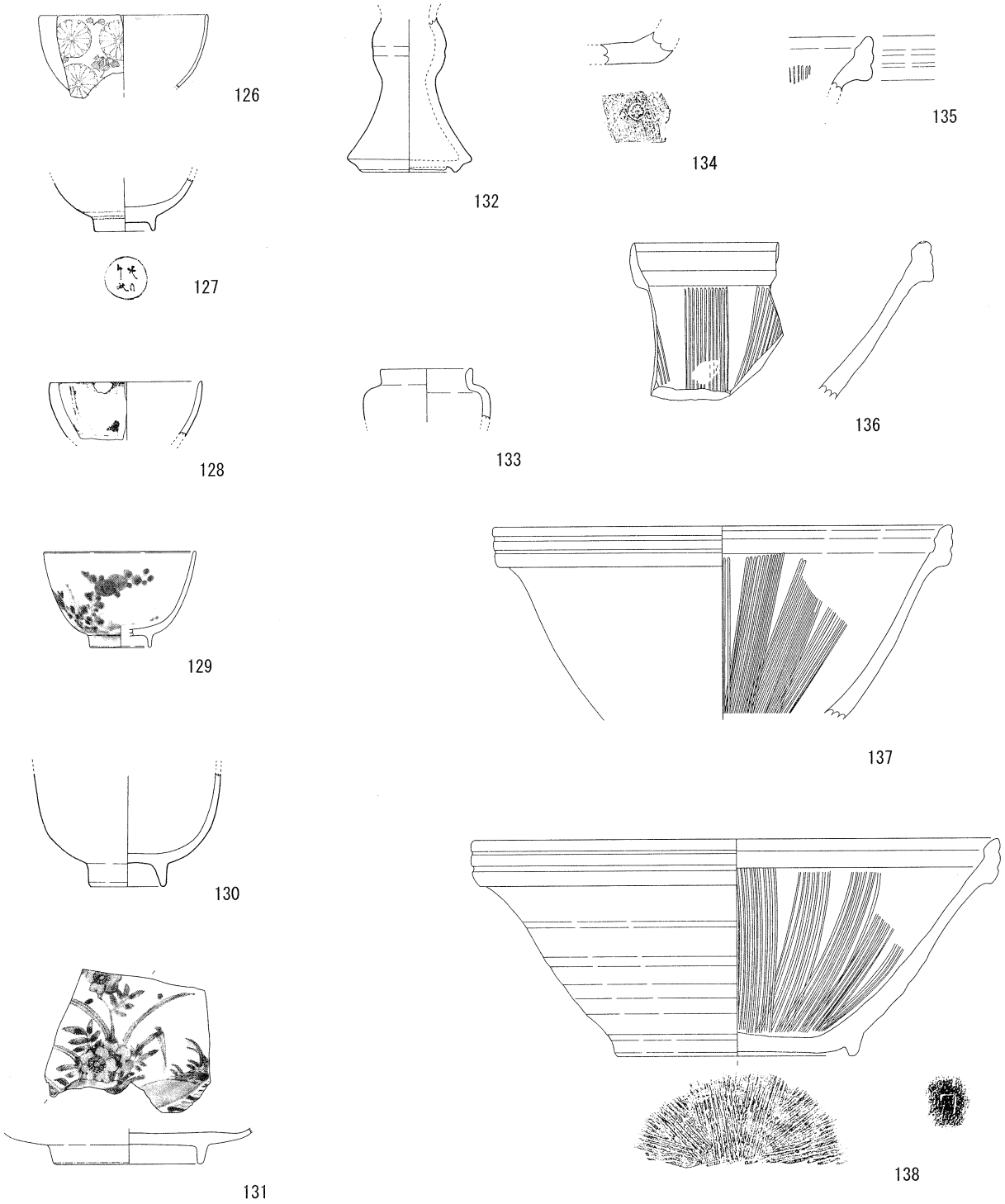
118は18世紀初頭の磁器の染付皿である。高台内に「・・・靖年製」の銘がある。119は片口鉢。120は備前産擂鉢。121～124は墨書の土師質皿である。121の墨書は「おかき」、122は「うす」、123～125は不明である。



第86図　SK32　出土遺物実測図（S=1/4）

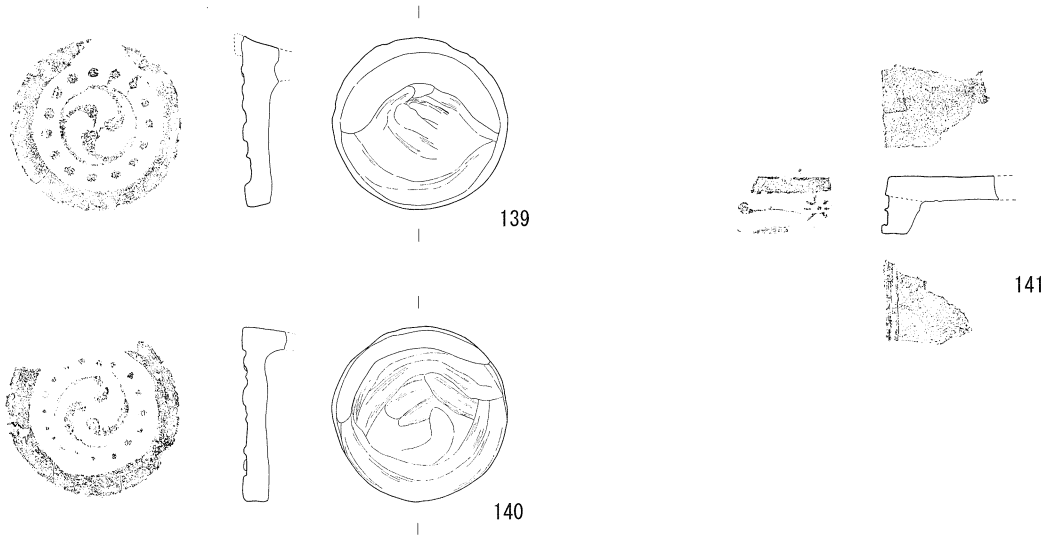
SK73

126～128は磁器の染付碗である。126は菊文である。127は高台内「成化年製」の銘がある。128は雨降し文である。129は草花文である。130は肥前産の高台の高い呉器手碗である。131は磁器皿で見込み内草花文が描かれる。132は青磁の花飾台である。133は備前産壷の口縁部である。134は備前産陶器の底部で「井」の刻印がある。135～138は備前産の擂鉢である。138は底部に高台をもち刻印がある。



第87図　SK73　出土遺物実測図（S=1/4）

139～141は瓦で、139・140は巴文軒丸瓦である。139の巴文の珠文は大きく。尾は接合する。連珠文は15点あり密にある。140の巴文は太く、尾は開いている。連珠文は18個あり小ぶりで密にある。141は軒平瓦である。日輪唐草文軒平瓦で、顎は後で貼り付けている。



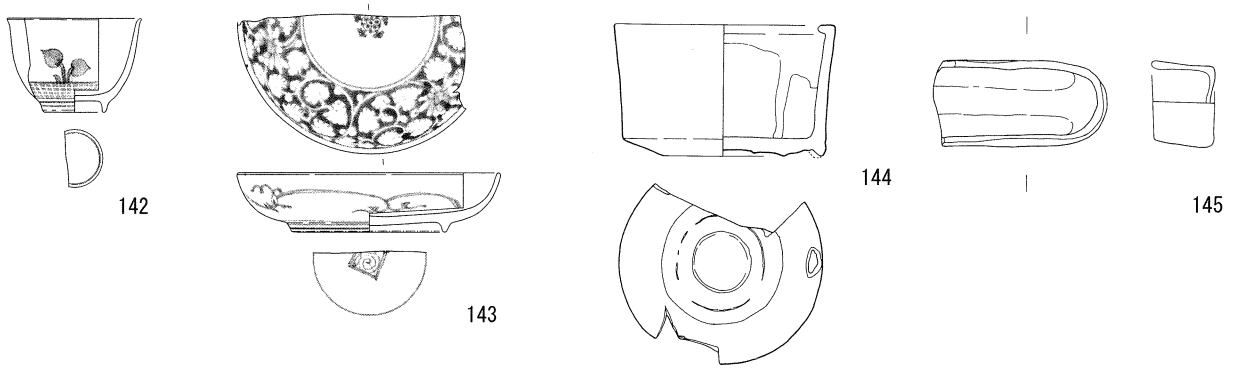
第88図　SK73　出土瓦実測図（S=1/6）

第４期

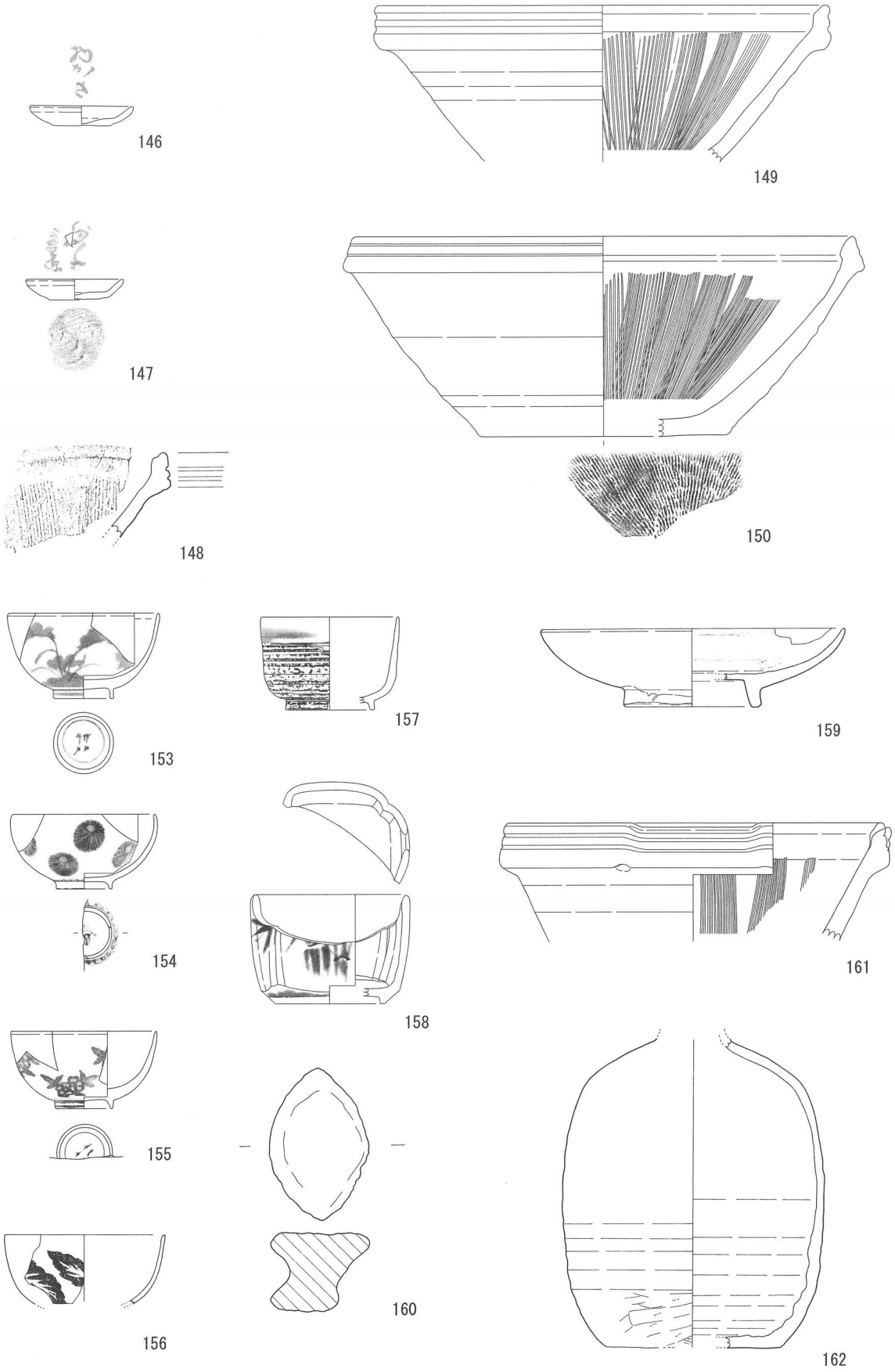
造成土１

142～152は上層出土遺物である。142は肥前産磁器の草文の染付碗である。143は磁器の染付皿、見込み五弁花、内側面に草花文、外側面に唐草文様と底部に二重方形内に渦「福」の銘がある。144は青磁の火入れである。145は磁器の鬢水入れ。146・147は土師皿で墨書が有る。146は「おかき」と書かれている。148～150は備前産の擂鉢である。151・152（写真のみ）は肥前産の刷毛目碗である。152は外面に刷毛目、内側と底部には釉薬はかかっていない。

153～162は下層出土遺物である。153～155は磁器の染付碗。153は草文で高台内に崩した「大明年製」。154は菊文である。155は花文のこんにゃく印判である。156は京・信楽系陶器碗である。157は瀬戸美濃産の腰サビ碗である。159は陶器の刷毛目皿。160は土錘。161は備前産擂鉢。162は備前産徳利である。.

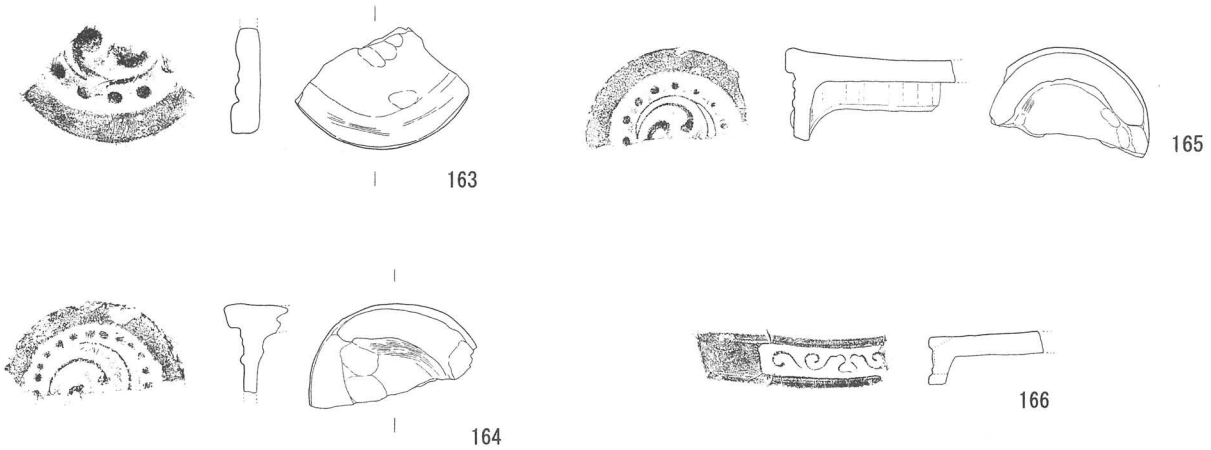


第89図　造成土１　出土遺物実測図（1）（S=1/4）



第90図　造成土１　出土遺物実測図（2）（S=1/4）

163～166は瓦である。163～165は巴文軒丸瓦である。163は巴文の珠文はかなり大きく連珠文も大きい。164は巴文の瓦当に占める割合は広い。巴文は細く長く、尾は開く。連珠文も小さく密である。165の文様はシャープで彫りが深い。巴文の尾は細く接合する。丸瓦部分の表面は縦方向に密なヘラ削り痕がり、裏側はコビキＢ痕がある。166は唐草文軒平瓦で顎貼り付けである。



第91図　造成土１　出土瓦実測図（S=1/6）

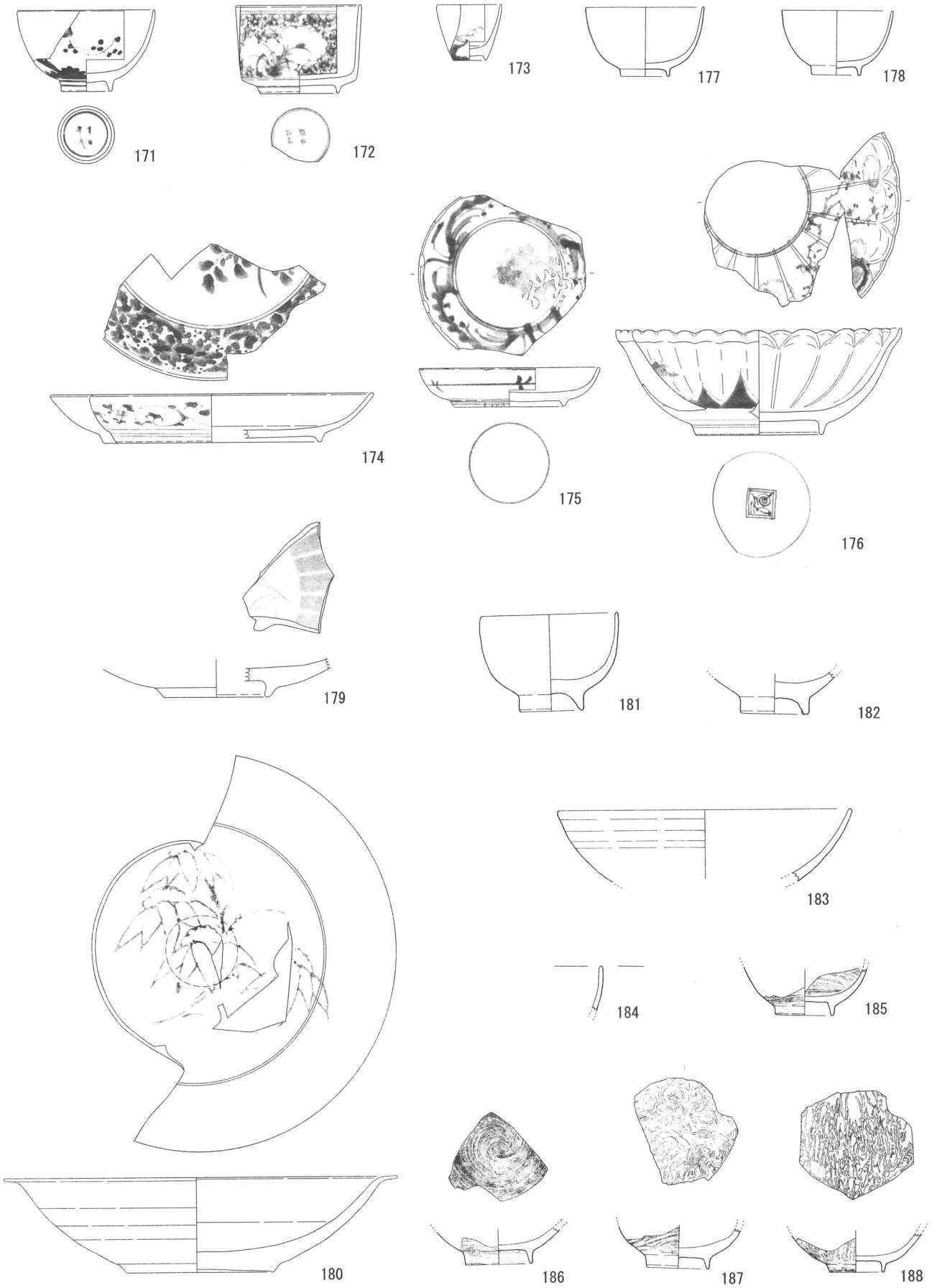
造成土２

167は磁器の染付碗。168は磁器の染付小坏。169は蛇の目釉つぎの皿である。170は土師質皿である。

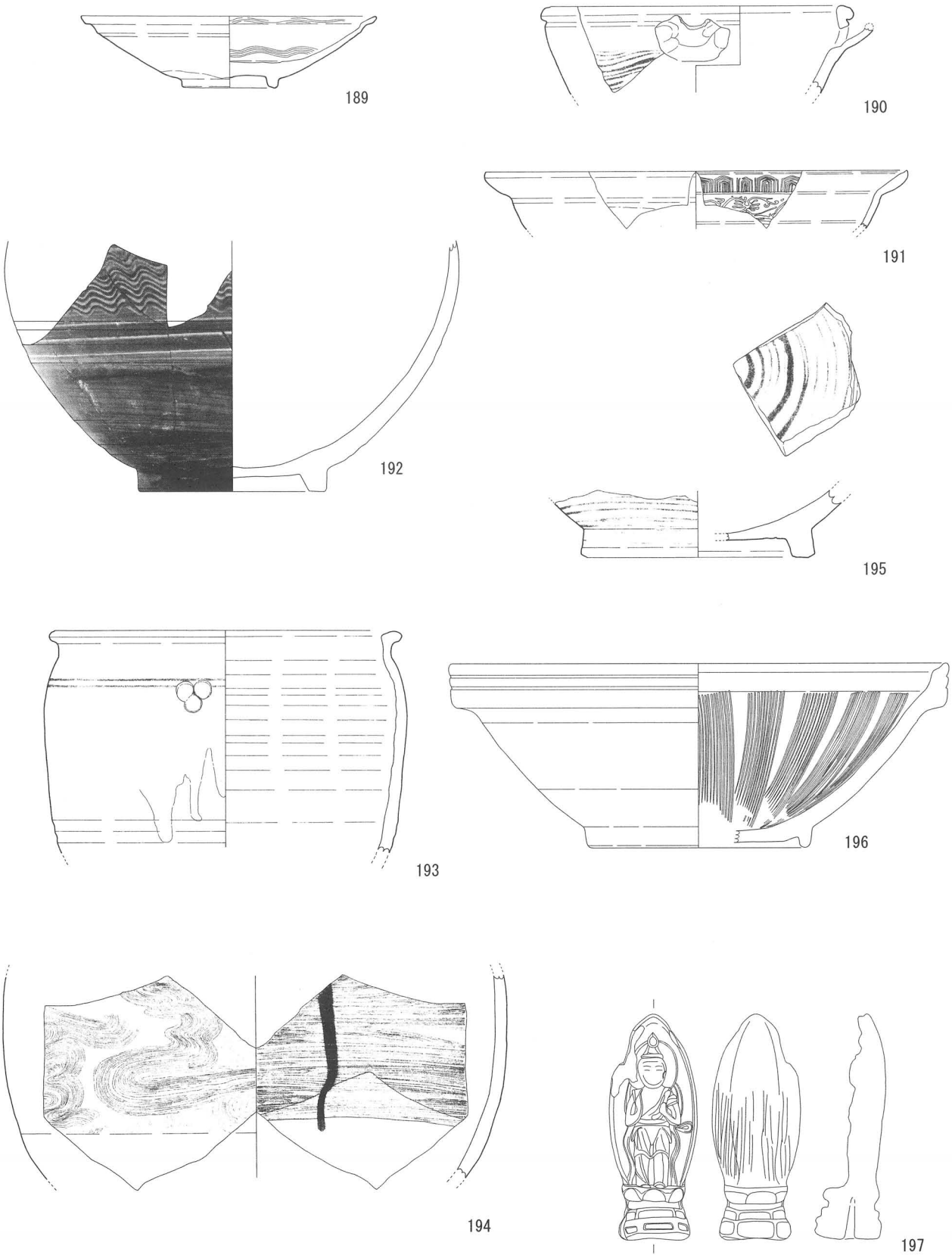
第92図　造成土２　出土遺物実測図（S=1/4）

SK28

171・172は磁器の染付碗で、171は外側面草花文、高台内は崩された「大明年製」の銘がある。172は筒型碗で草花文である。高台内に「宣徳年製」の銘がある。173は猪口である。174～176は磁器の染付皿である。174は内側に草花文、外側に唐草文を描く。SK73出土片と接合した。175は見込みに五弁花の文様がある。176は輪花型の深皿である。内側面は描写の細かい梅文で、高台内は渦「福」の銘がある。177と178は肥前産の白磁碗である。179・180は青磁の皿である。180は蛇の目高台鉄釉塗りで、SK73出土の破片と接合した。181・182は呉器手碗である。183は肥前系の皿である。184は天目茶碗である。185～188は肥前系の刷毛目碗である。189は肥前産陶器皿である。190は刷毛目の片口鉢である。191三島手の鉄釉の刷毛目皿である。192・193は陶器甕である。194は釉掛け分けの鉢、195は刷毛目の鉢である。196は備前産の高台をもつ擂鉢である。197は観音を模した泥人形である。



第93図　SK28　出土遺物実測図（1）（S=1/4）

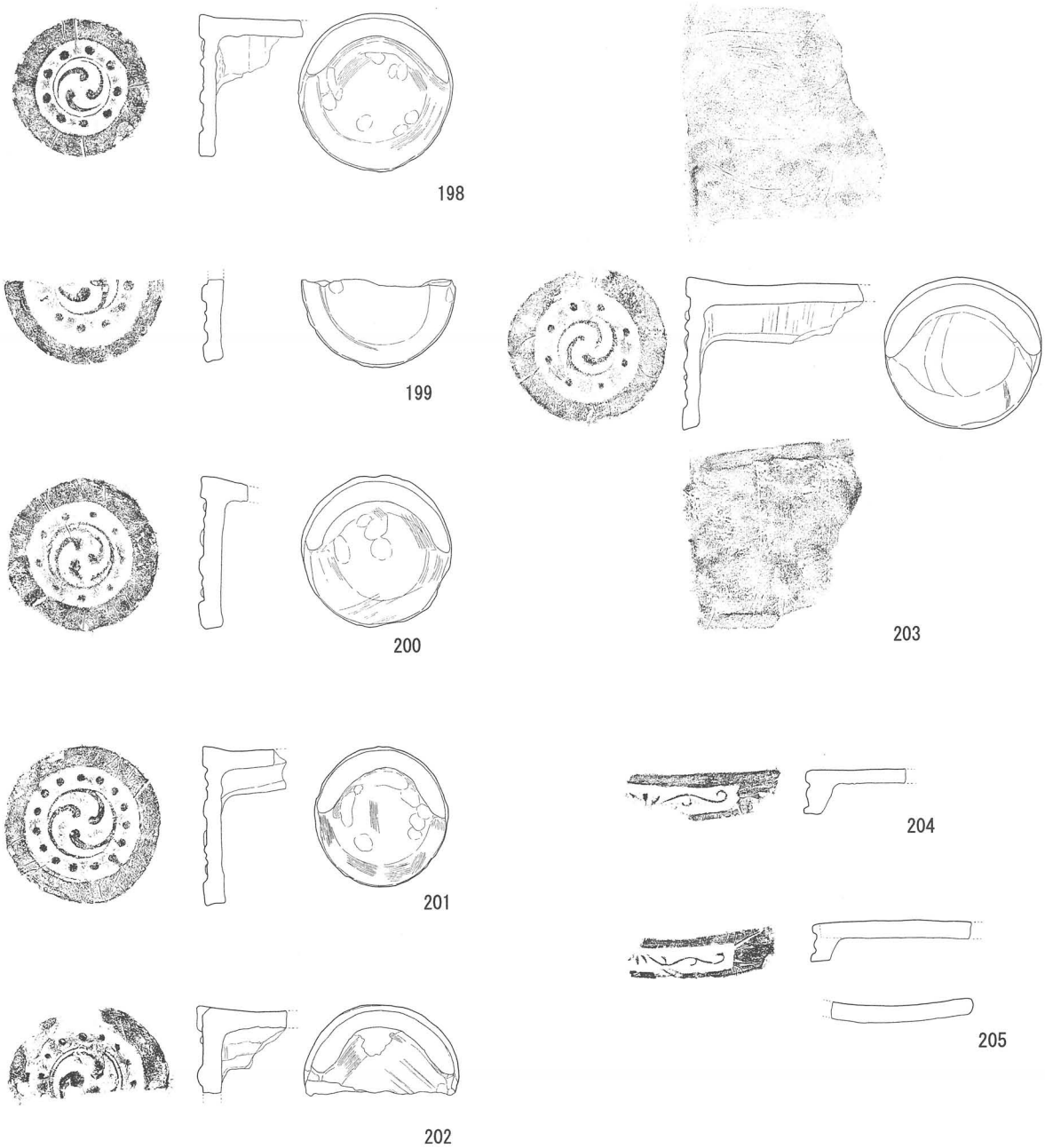


第94図　SK28　出土遺物実測図（2）（S=1/4・197　S=1/2）

198～205は瓦である。198～203は巴文軒丸瓦である。198の巴文の尾は長い。連珠文は９個ある。丸瓦部の表側は縦方向にヘラ削り痕があり、裏側はゴザ状痕がある。199の巴文の尾は接続する。巴文や連珠

文は明瞭である。径は約14cm程度である。200の瓦当面に占める巴文の面積は広く、尾も長く接続する。連珠文は９個あり、間隔は開く。201の瓦当面に占める巴文の面積は広く、尾も長い。連珠文は15個で密にあり、連珠文の３箇所で笵傷が見られる。丸瓦の表面は縦方向にヘラ削り痕があり、裏側にはコビキＢと布目痕が残る。SK31出土の53と同笵である。202の瓦当面の巴文の占める割合は広く、巴文の珠文は大きい。連珠文は小ぶりで密にある。丸瓦の表側は縦方向にヘラ削り痕があり、裏側は布目痕が残る。203の巴文は細く短い。連珠文は８個あり、間隔が開いている。丸瓦の表側は縦方向にヘラ削り痕があり、裏側はコビキＢの痕跡が残る。

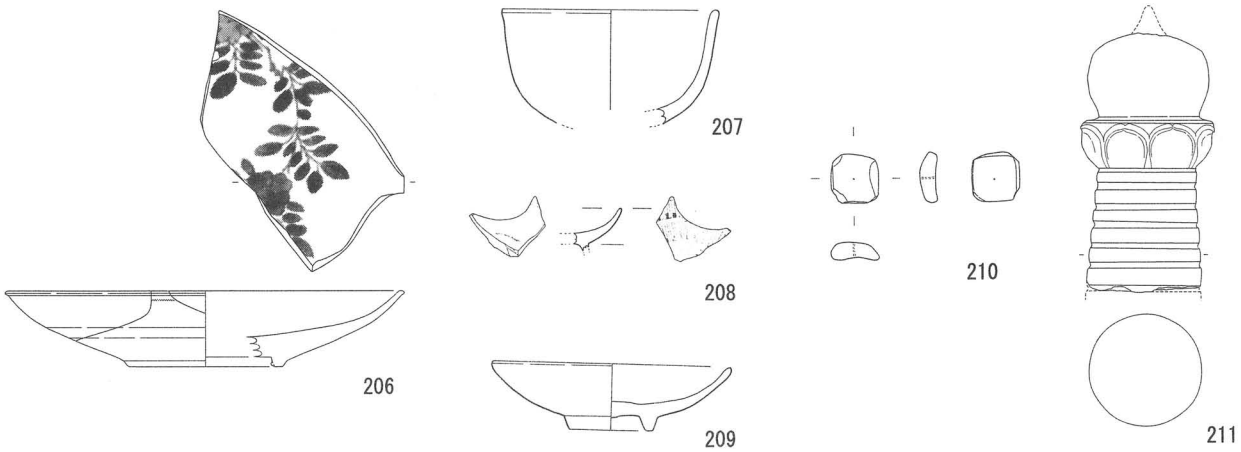
204・205は軒平瓦である。204は三つ葉唐草文である。唐草の蔓は中心から外側へ下・上へ向く。205も三つ葉唐草文軒平瓦で顎貼り付けである。



第95図　SK28　出土瓦実測図（S=1/6）

SX11

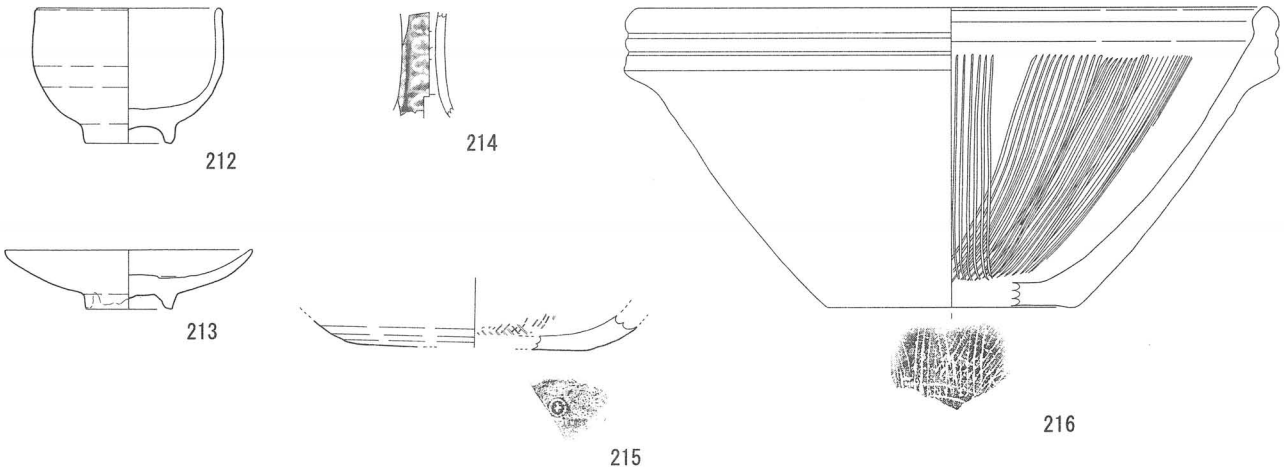
206は磁器の草花文の染付皿である。207は肥前産の呉器手碗。208は磁器の染付碗の底部。209は波佐見産の青磁釉の皿で見込み部分蛇の目釉剥ぎしている。210は土製品であるが、四辺とも擦り削られている。砥石として使用したのであろうか。中央部には穴をあけようとした跡もある。211は宝篋印塔の相輪部分である。



第96図　SX11　出土遺物（S=1/4）・石製品211（S=1/6）実測図

SK88

212は肥前産の呉器手碗。213は磁器の波佐見産の銅緑釉の皿である。214は磁器の染付瓶の頸部の破片である。215・216は備前産の擂鉢である。215は底部に刻印がある。



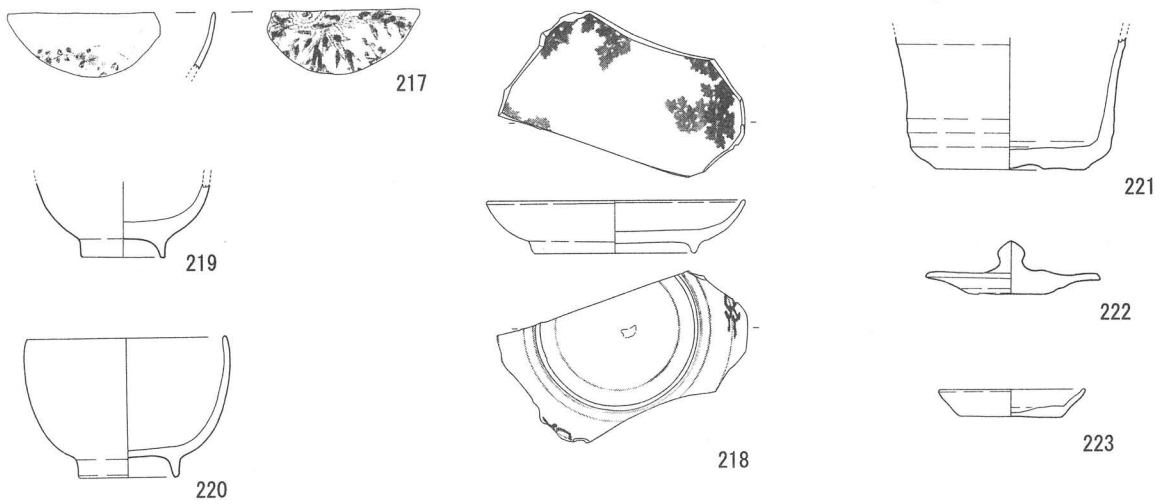
第97図　SK88　出土遺物実測図（S=1/4）

SK20

217は磁器の草花文の染付半球碗。218は磁器の染付皿、コンニャク印判、外側面唐草文、底部一条の圏線がある。

219は肥前産の呉器手腕である。220は肥前系の鉄釉碗。221は青磁の火入れ、底部蛇の目高台である。222は陶器の蓋。223は土師質の皿である。

224～229は写真のみ。224～226は磁器の染付碗である。224・225は半球碗で、225は217と接合した。226は外側面に鳥文である。227～229は磁器の皿。228は口縁内側面に七宝文、229は草花文のコンニャク印判、内側面墨弾き。

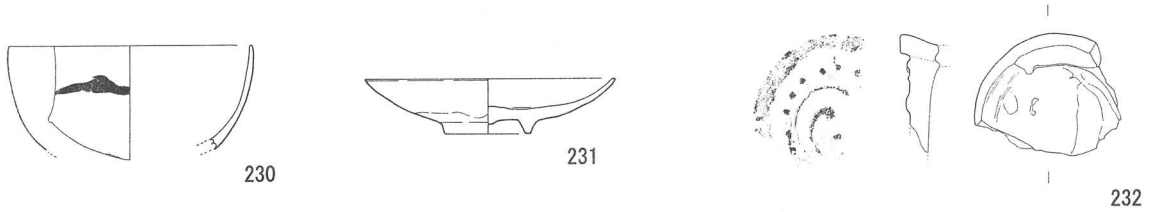


第98図　SK20　出土遺物実測図（S=1/4）

SK90

230は磁器の染付碗、231は波佐見産の銅緑釉の皿である。

232は巴文軒丸瓦。巴文の珠文は開いている。連珠文も小ぶりで密にある。



第99図　SK90　出土遺物（S=1/4）・瓦（S=1/6）実測図

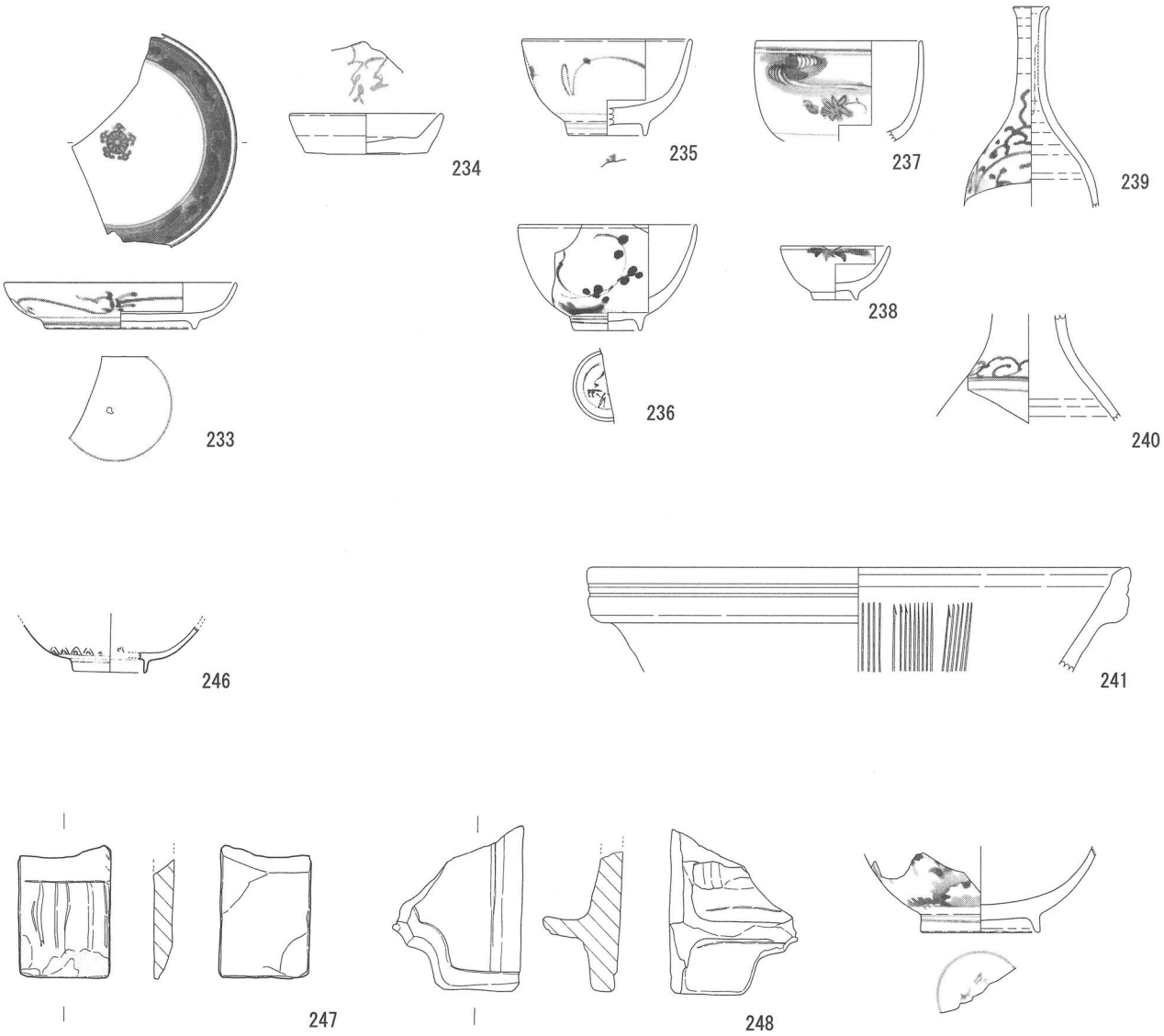
SK05

233は上層（第45図土層２）出土の肥前産磁器の染付皿である。見込みにコンニャク印判の五弁花、内側面口縁部墨弾き文様がある。234は墨書のある土師質皿である。

235は下層（第45図土層３～６）出土の磁器で波佐見産の染付碗である。236・237は肥前産磁器の染付碗である。238は肥前産の小坏である。239・240は磁器の染付瓶で蛸唐草文がある。241は備前産の擂鉢である。242～245（写真のみ）。242は肥前産磁器の染付蓋。243は肥前産磁器の染付の碗である。244は肥前産の花文の磁器の染付皿で口縁に口紅が付く。245は肥前産の花文の磁器の染付皿で、SK28からも同文の皿が出土している。246は色絵の磁器碗である。247は砥石。248は土師質焜炉の脚部である。249（写真のみ）は肥前産の刷毛目碗である。250～254は磁器碗の破片（写真のみ）である。250は網目文。251は丸に菊文。252は幾何学文である。254は松文様で高台は低い。255（写真のみ）青磁の製品である。

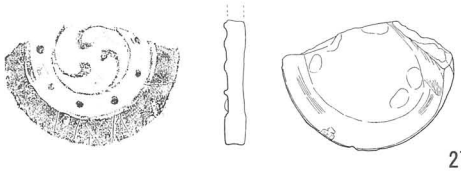
256は最下層（第45図土層７）出土の肥前産の磁器の染付碗である。高台内には略した「年製」の銘がある。

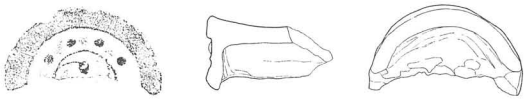
257～269は写真のみの報告である。257・258、260～265は磁器の染付碗、259は磁器の染付小坏である。263・264は網目文。266菊花形の型打ち成形された白磁である。267磁器の皿。268・269は京信楽系の碗である。



第100図　SK05　出土遺物実測図（S=1/4）

270～272は瓦である。270・271は巴文軒丸瓦である。270の巴文は細くて長く、尾が接続する。連珠文は小さく間隔が開く。271の巴文は細くて長く、尾が接続する。連珠文は270よりやや大きく間隔が開く。丸瓦部分の表面は縦方向に密なヘラ削り痕がある。272は唐草文軒平瓦で、顎を貼り付けしている。



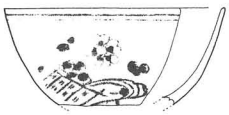


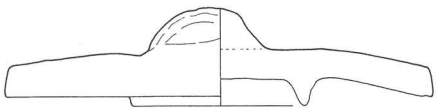
第101図　SK05　出土瓦実測図（S=1/6）

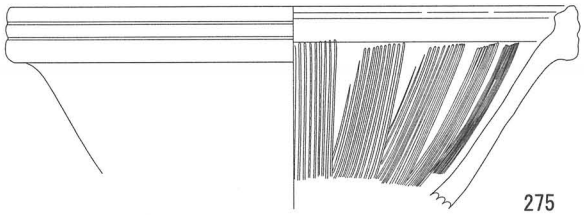
SK56

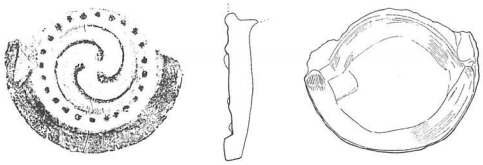
273は磁器の流水と花文の染付碗である。274は瓦質の蓋である。275～277は備前産の擂鉢である。

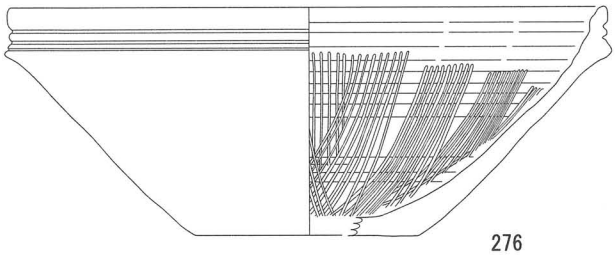
278～280は巴文軒丸瓦である。278（土層⑩出土）の巴文は瓦当に占める割合は広く、細くて長い。連珠文も24個あり小さく密にある。279と280は同笵である。巴文は細く長く、尾は接合する。巴文の瓦当に占める割合は広い。連珠文は９個あり小ぶりで間隔は開く。３箇所で笵傷が見られる。

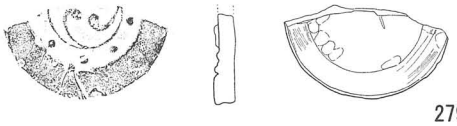


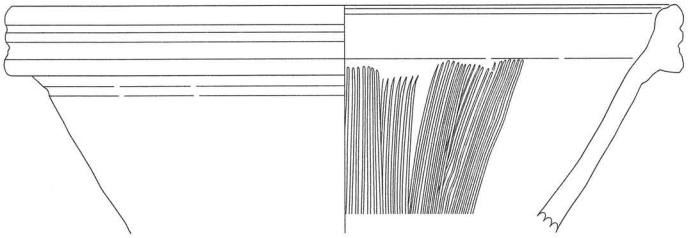


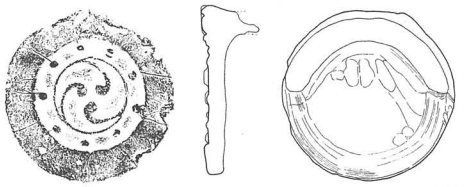










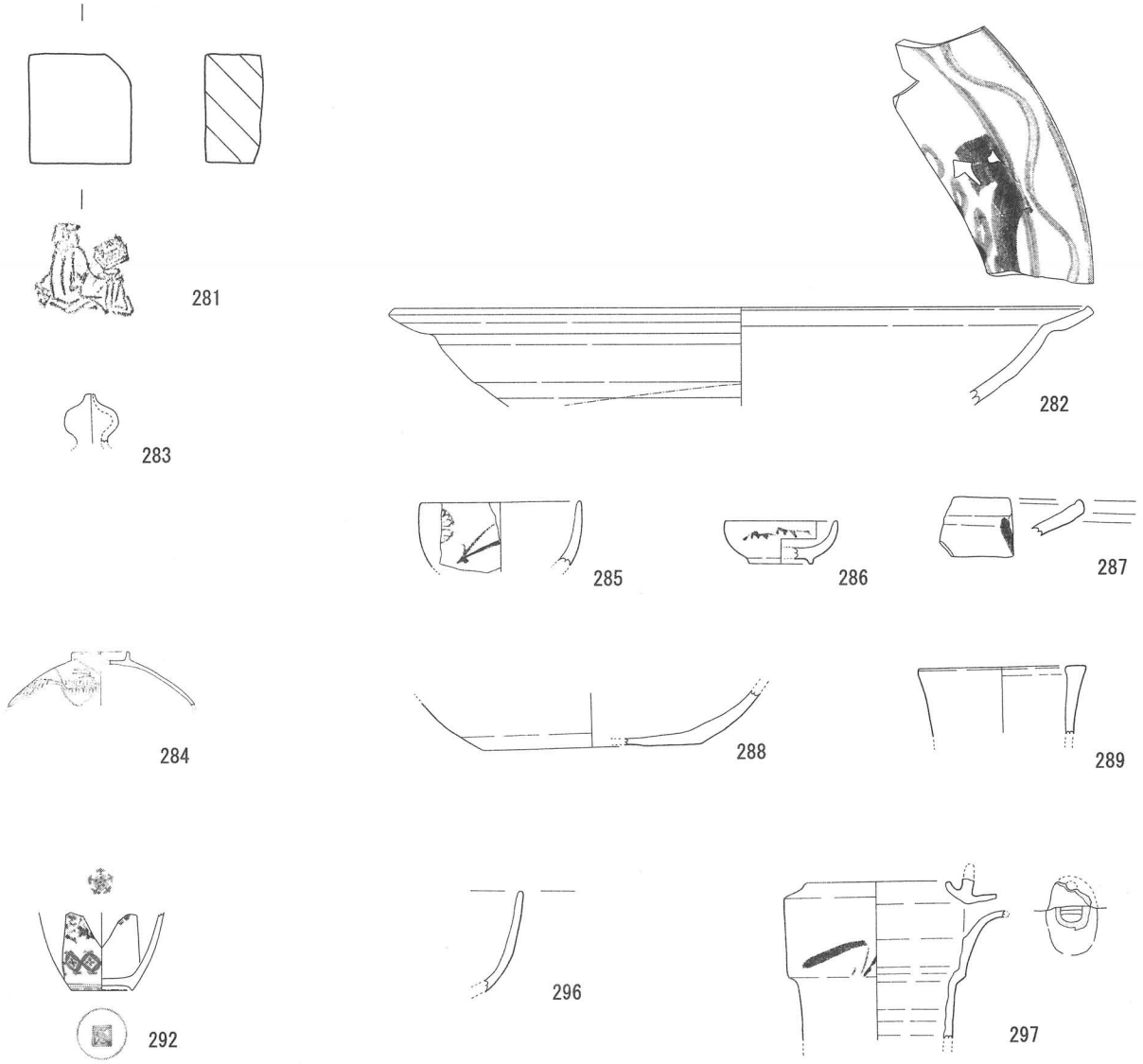


第102図　SK56　出土遺物（S=1/4）・瓦（S=1/6）実測図

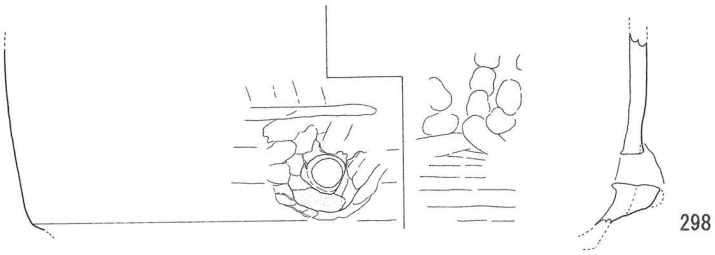
SD10

281～291は上層溝に伴う遺物で、292～299は下層溝に伴う遺物である。

281は石に彫った印判で、人物を描いている。溝の埋土に伴うもので、明治以降の遺物であると思われる。282は陶器皿である。284は行平鍋の蓋である。285は磁器の染付碗。286は笹文のある磁器の紅皿。288は唐津産の皿である。289は肥前産の青磁の火入れである。290（写真のみ）肥前産の碗。291（写真のみ）肥前産の鉢である。292肥前産磁器の猪口である。見込み五弁花、高台内渦「福」の銘がる。293～295は写真のみ。293は磁器の染付の碗である。294は肥前産磁器の染付皿で外側面に唐草文をもつ。295は波佐見産の青磁皿である。296は肥前系の呉器手腕。297は京・信楽系のチロリ。298は土師質の切立瓶である。299・300は写真のみ。299は肥前産磁器の段重の口縁部である。300は磁器の染付碗である。下層も部分的に溝の浚渫による掘り返しを受けているところがあり。297は上層からの出土であると思われるが、取り上げ時に下層遺物と混入した可能性が高い。



第103図　SD10　出土遺物実測図（1）（S=1/4）

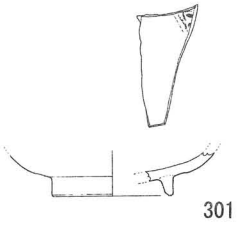


第104図　SD10　出土遺物実測図（2）（S=1/4）

第５期

SB01（SP48）

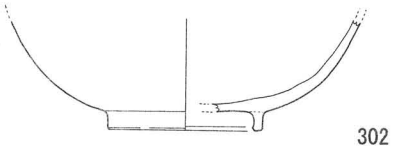
301は磁器の染付皿。内側面に草文。見込みにも文様あり。
高台内側角を内傾気みの強い削りが施されている。



第105図　SB01（SP48）　出土遺物実測図（S=1/4）

SK49

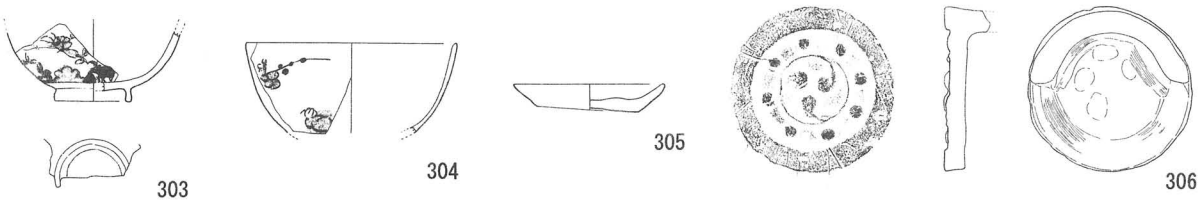
302は肥前産の呉器手碗である。



第106図　SK49　出土遺物実測図（S=1/4）

SK50

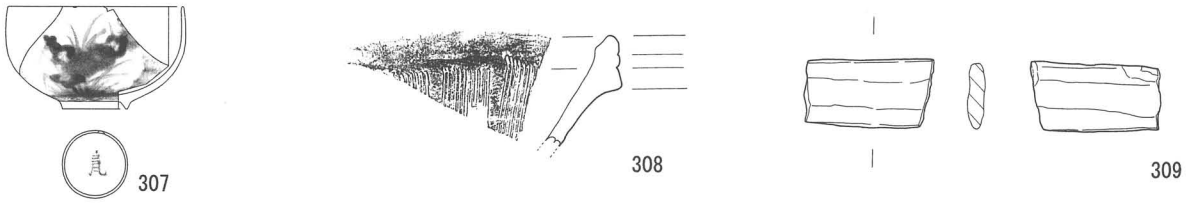
303と304は磁器の草花文の染付碗である。同固体となる可能性が高い。305は土師質皿である。
306は巴文軒丸瓦で巴文の珠文は大きく尾は細く結合する。連珠文は８個あり間隔は開いている。



第107図　SK50　出土遺物（S=1/4）・瓦（S=1/6）実測図

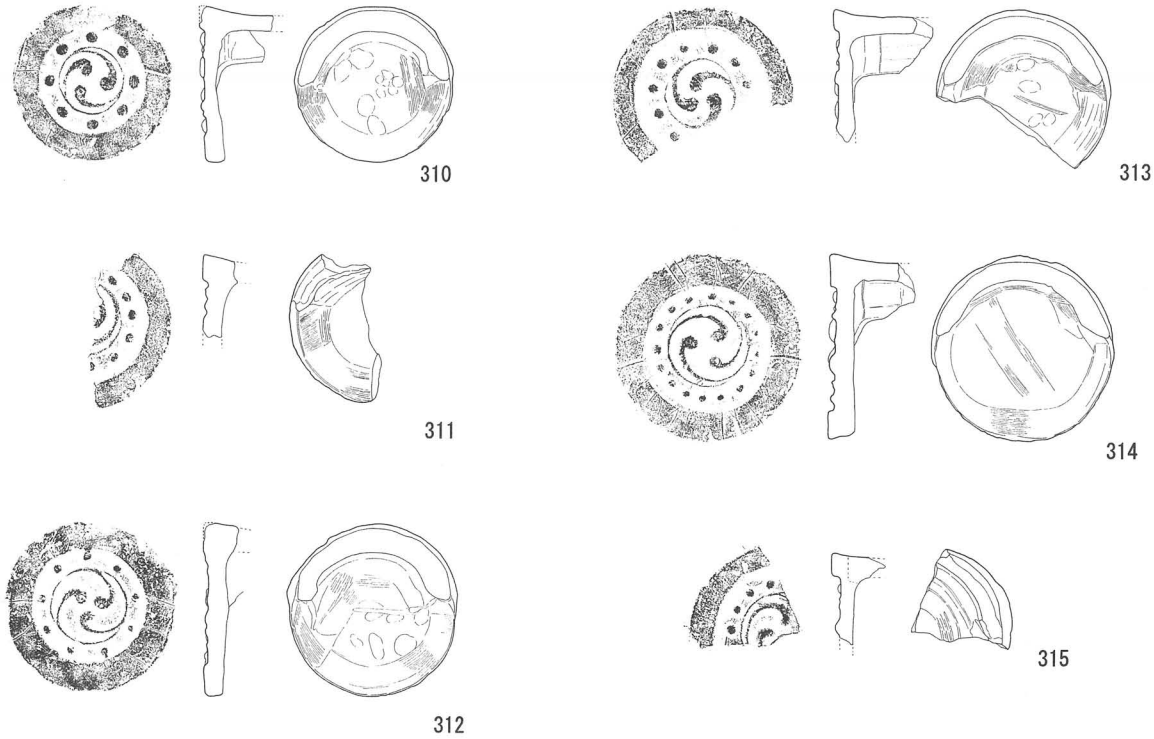
SK17

307は磁器の染付丸形碗である。308は備前産の擂鉢である。309は結晶片岩の石斧の破片であり、混ざり込み遺物である。



第108図　SK17　出土遺物実測図（S=1/4）

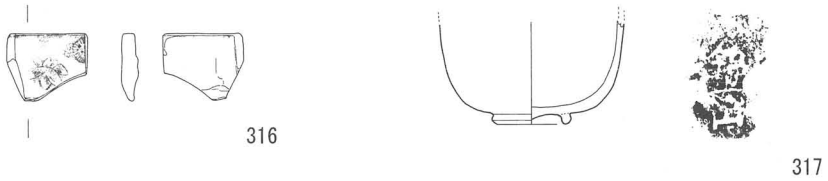
310～315は巴文軒丸瓦である。310はやや小ぶりである。巴文の珠文は大きく尾も長く接続する。連珠文は８個あり、大きく間隔は開く。連珠文には笵傷がある。311は、巴文は長く接続する。連珠文は小さく密にある。312の瓦当内での巴文の占める割合は大きく、細くて長く尾は接続する。連珠文は小さく９個ある。間隔は開き、彫りは浅い。313の巴文は細く、尾は接続する。連珠文は小さく間隔は開いている。314はやや大きく、巴文の尾は長い。連珠文は16個あり、小さく密にある。丸瓦部の表面は縦方向の密なヘラ削り痕がある。



第109図　SK17　出土瓦実測図（S=1/6）

SK52

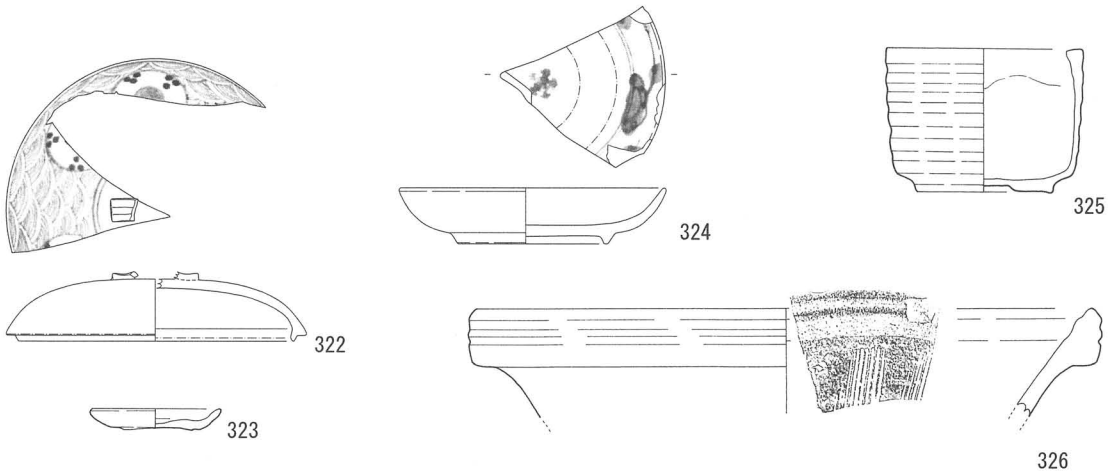
316は磁器製品である。箱形をしているが器種は不明である。317は粟田焼きで高台内に「錦光山」の銘がある。318～320は写真のみである。318は小坏。319は菊文の碗である。320は磁器の染付の碗。321は蓋付鉢の底部である。



第110図　SK52　出土遺物実測図（S=1/4）・拓本（S=1/1）

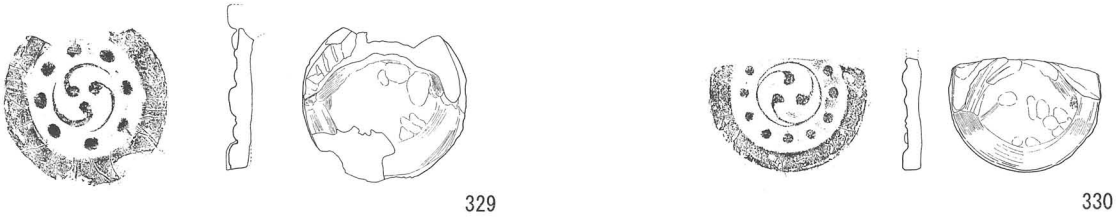
SK54

322は磁器の段重の蓋である。323は土師質皿である。324は磁器の染付皿である。見込み釉剥ぎで五弁花がある。325は波佐見の青磁の火入れである。326は備前産擂鉢である。327・328は写真のみである。327は磁器の染付碗で菊文で、328は磁器の碗である。



第111図　SK54　出土遺物実測図（S=1/4）

329と330は瓦である。329は上層出土の巴文軒丸瓦である。彫りは深い。連珠文は８個あり大きく間隔が開く。１箇所笵傷が見られる。330は下層出土の巴文軒丸瓦である。小ぶりで巴文の尾は接合する。

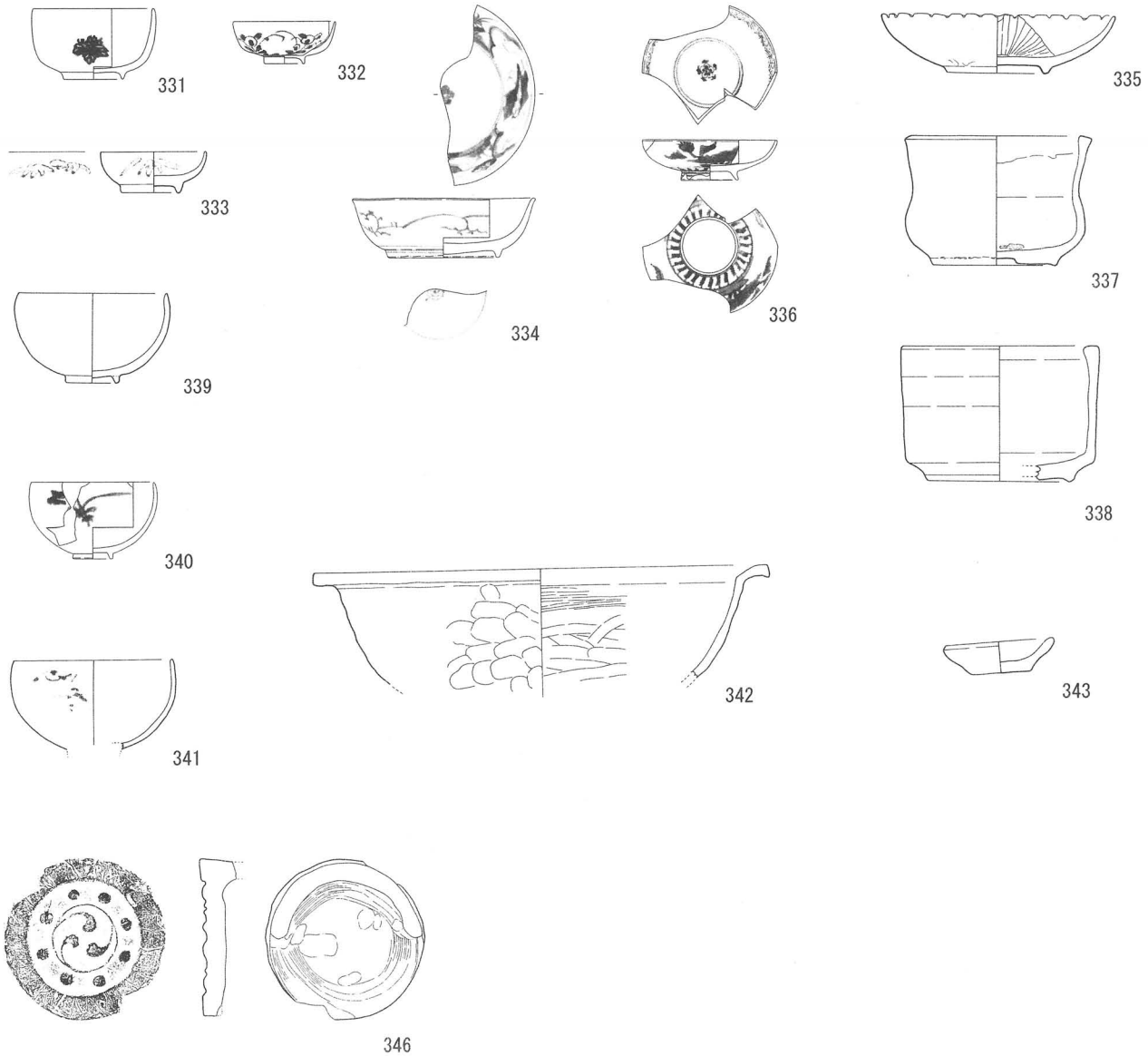


第112図　SK54　出土瓦実測図（S=1/6）

SK53

331は磁器の桐文染付碗である。332～333は磁器の紅皿、332は草花文。333は笹文である。334は磁器の染付皿。335は輪花の青磁皿。336は磁器の染付の蓋。337・338は青磁の火入れである。339～341は肥前系の陶器碗。342は瓦質の焙烙。343は土師質の皿。344～345は写真のみ。344は青磁釉の碗である。345は磁器の染付笹の葉文の紅皿である。

346は巴文軒丸瓦である。小ぶりであり、巴文の尾は接合する。連珠文は８個あり間隔が開いている。連珠文の１箇所に笵傷がある。

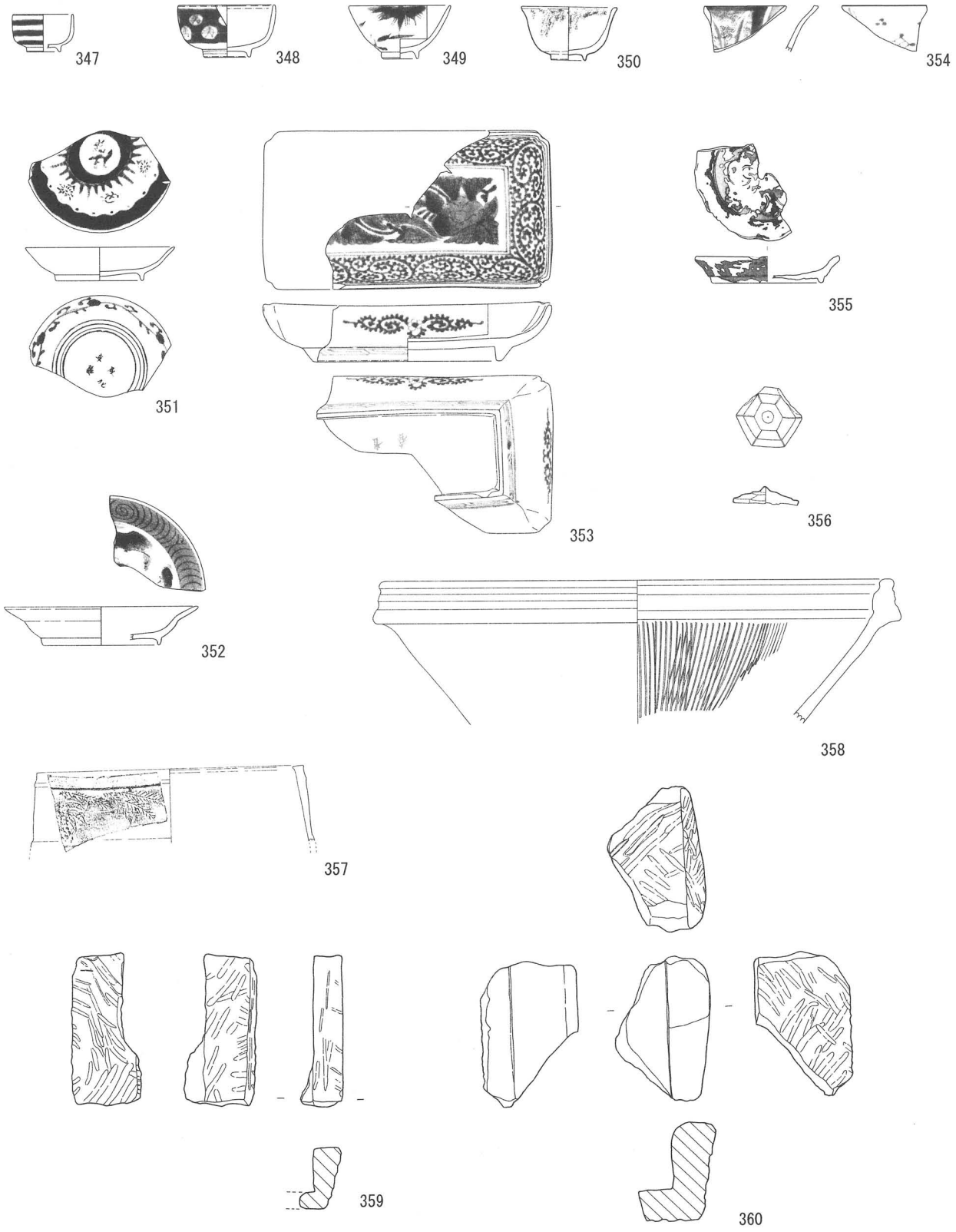


第113図　SK53　出土遺物（S=1/4）・瓦（S=1/6）実測図

SK03

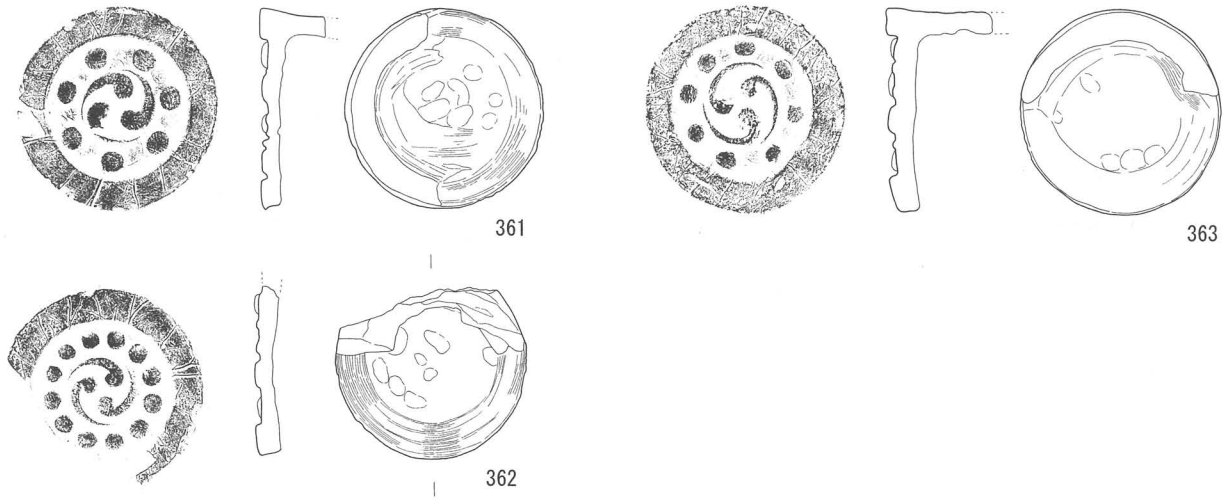
347は磁器の染付小坏である。348は染付小碗。349は猪口。350は京・信楽系の小坏である。351は磁器の色絵小皿である。352は磁器の染付皿である。内側面墨弾き。焼き継ぎをしている。353は肥前産の染付角皿。蛸唐草、見込みに牡丹文。高台内側に富豊長春。354は磁器の色絵製品である。355は源内焼きの皿である。形押し成形であり、色彩は深い緑色を主体としている。

356箱庭の蓋である。357瓦質の製品である。358は備前産の擂鉢である。359・360は凝灰岩の流しか水路の破片であると思われる。



第114図　SK03　出土遺物（S=1/4）・石製品（S=1/6）実測図

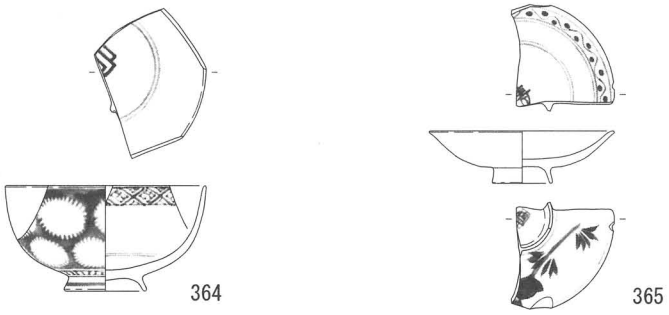
361～363は巴文軒丸瓦である。361の巴文は太く短い。連珠文は７個あり大きく間隔が開く。丸瓦部分の表側は縦方向に密なヘラ削り痕がある。362の巴文は361より太くて小さく短い。連珠文は12個あり大きく密にある。363の巴文は細く長い。連珠文は８個あり大きく間隔が開く。



第115図　SK03　出土瓦実測図（S=1/6）

SK10

364は磁器の染付碗、365は磁器の染付皿か蓋である。

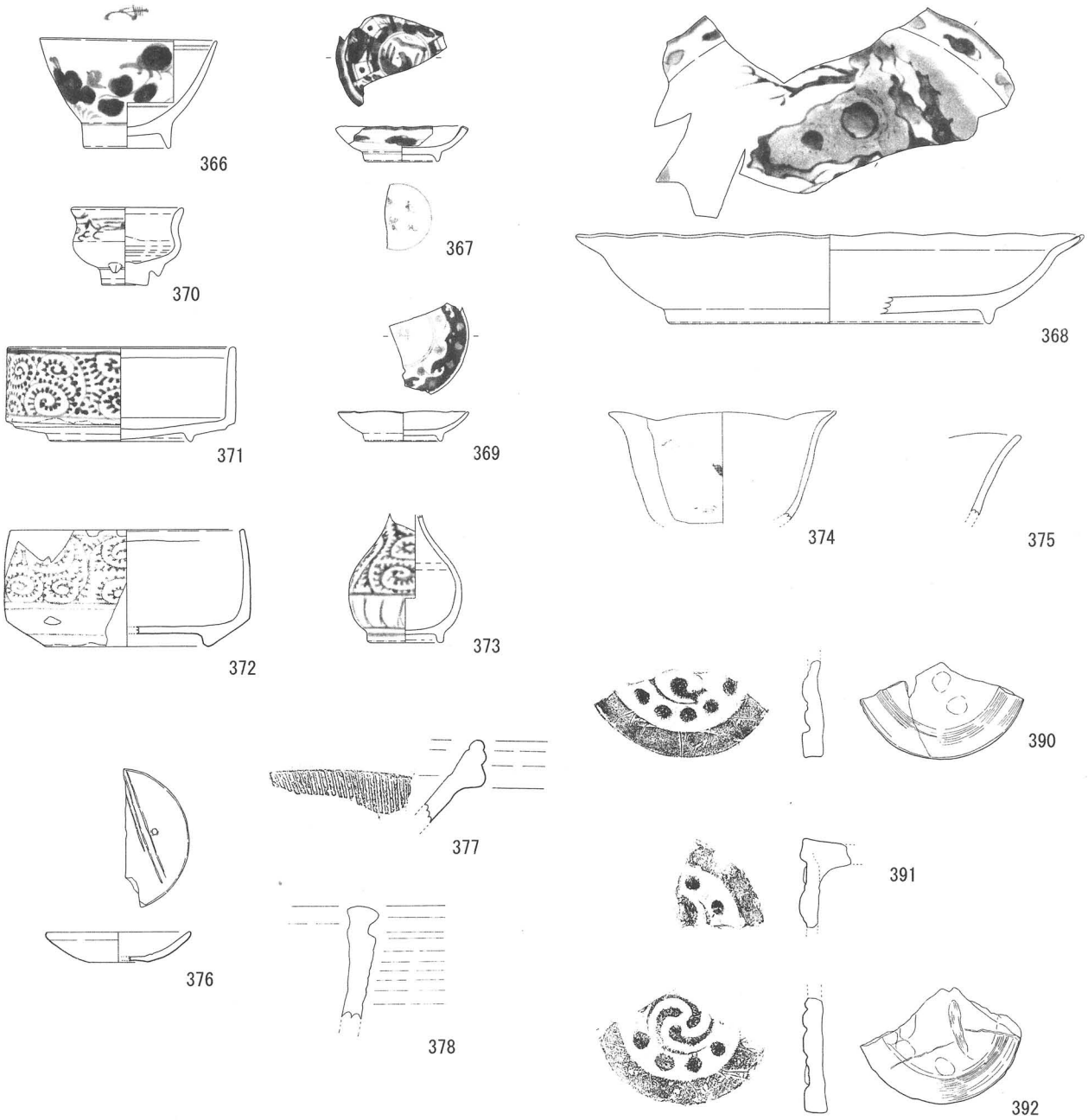


第116図　SK10　出土遺物実測図（S=1/4）

SK04

366は磁器の染付広東碗である。367は磁器の皿である。368は大型の磁器皿で波状口縁である。369は磁器の色絵の皿。370は磁器の香炉である。371・372は磁器の段重で蛸唐草文である。373は磁器の瓶で蛸唐草文である。374と375は瑠璃釉の碗である。376は京・信楽産の灯明皿である。377は堺・明石産の擂鉢である。378は備前産の甕である。379～389は写真のみである。379は瀬戸美濃産の端反り碗である。380～386は色絵の碗と蓋である。387・388は色絵の皿である。389は彩色の陶器であるが器種は不明である。

390～392は巴文軒丸瓦である。390の巴文は太く短い。連珠文は大きく密である。391の巴文は太く、連珠文はやや間隔が開く。392の巴文は長く、連珠文は大きく密にある。笵傷は多く見られる。



第117図　SK04　出土遺物（S=1/4）・瓦（S=1/6）実測図

SK02

393～402は上層出土遺物である。

393は瀬戸美濃産の磁器碗の端反り碗である。394は肥前産磁器の大型染付の蓋物である。395は磁器の猪口である。396は磁器の水滴である。397は磁器の波状口縁の鉢である。398は陶器の片口鉢である。399は土瓶である。400はおかめを描いた徳利である。401は箱庭で社である。402は土錘である。

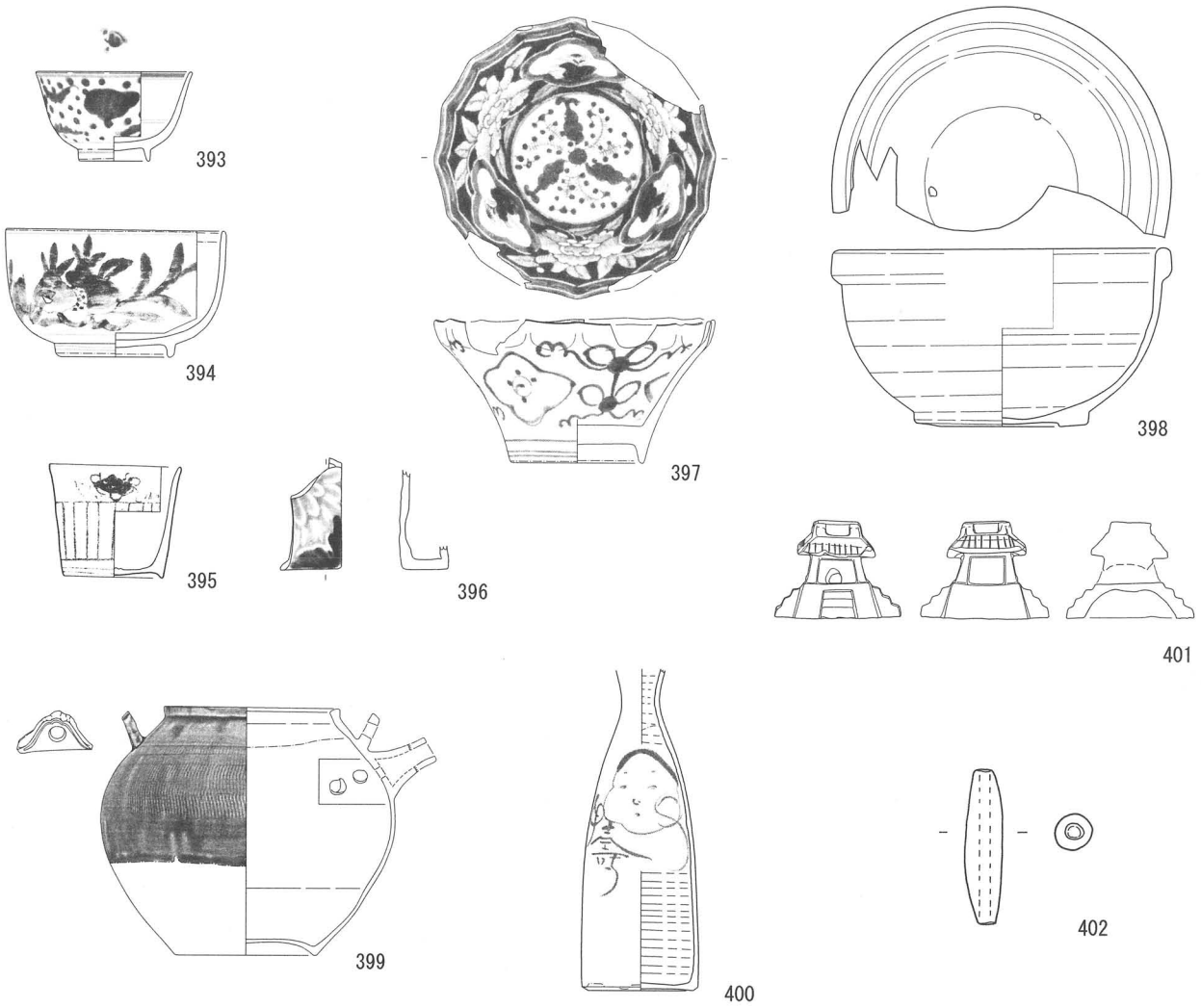
403～428は下層出土遺物である。

403は磁器の紅皿である。404は土錘であり、「中」の刻印がある。405～409は瀬戸美濃産磁器の端反り碗である。410・411は肥前産磁器の染付碗である。412は磁器の色絵の碗である。413は磁器の染付蓋である。414は413が蓋となる蓋付碗である。415・416は磁器の染付蓋である。417は磁器の染付小碗である。外面捻子花文描く。418は磁器の小坏である。419は磁器であるが器種は不明である。420は磁器の猪

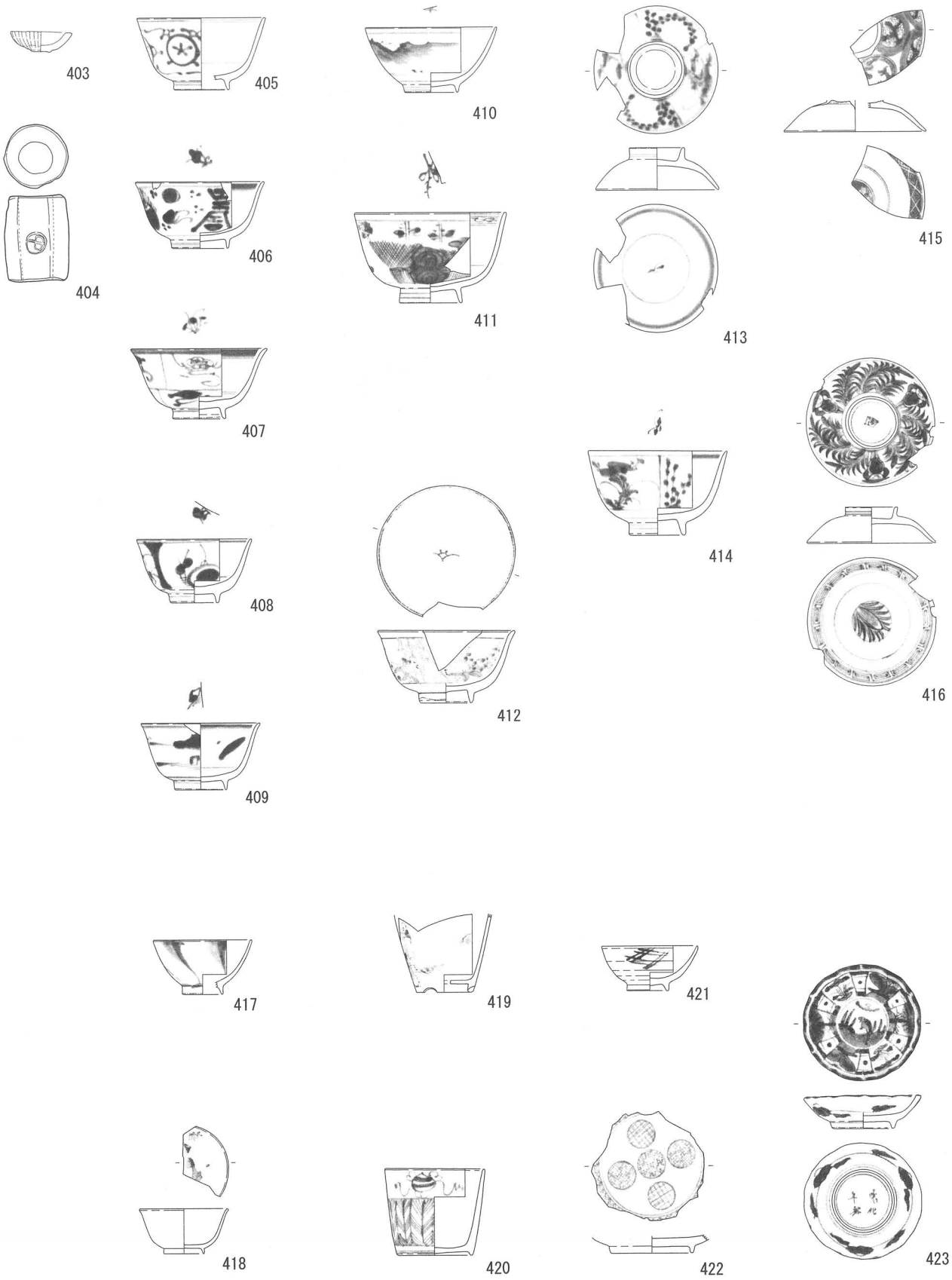
口である。421は磁器の紅皿である。422は磁器の皿である。423は磁器の染付小皿である。424は磁器の染付皿である。高台内に崩した「成化年製」の銘がある。425は磁器の花器である。426は仏飯具の脚部である。427は磁器の染付大皿である。428は磁器の花瓶である。

429～443は最下層出土遺物である。

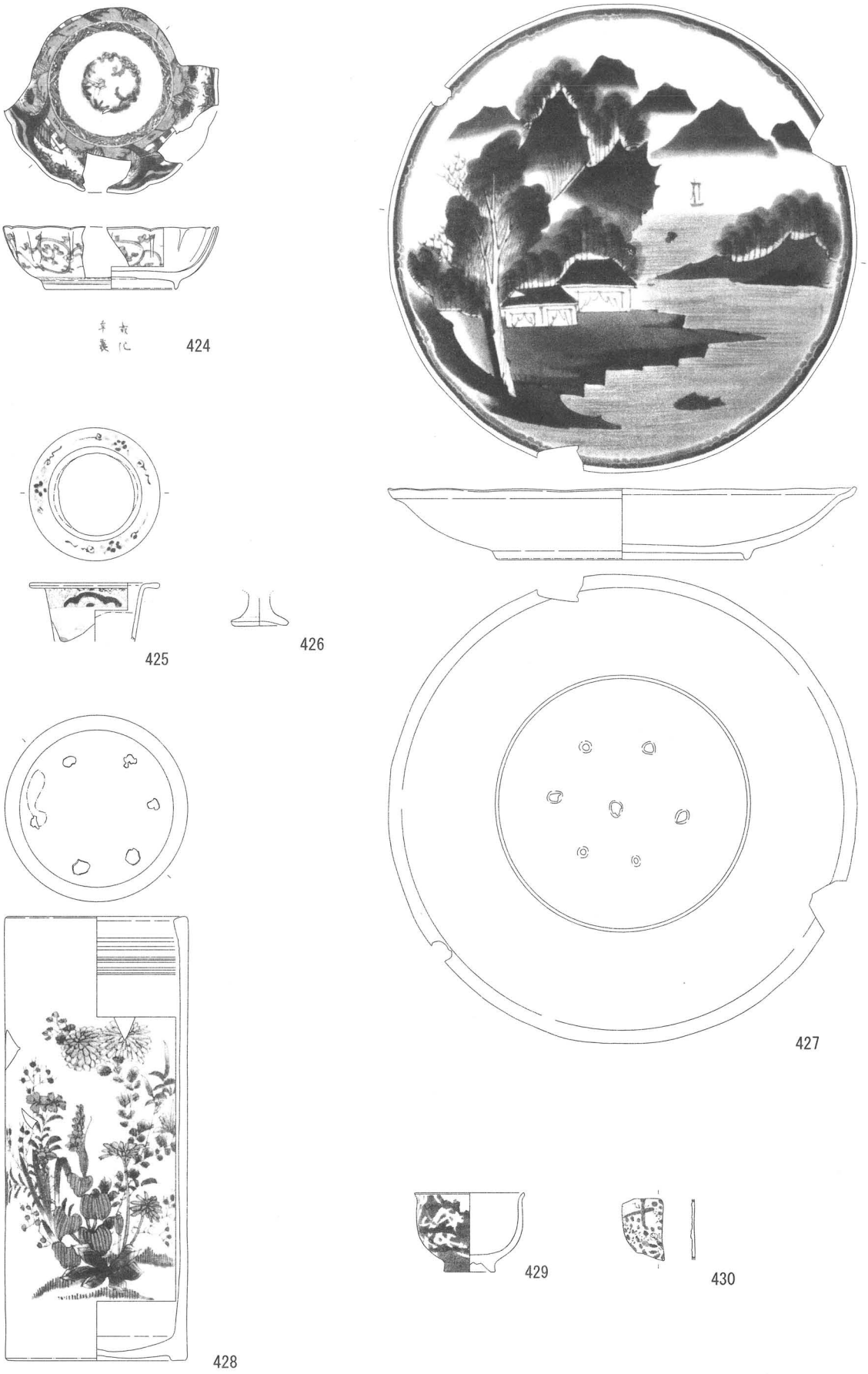
429は萩焼きのピラ掛け碗である。430は京・信楽系の色絵である。431は京・信楽系の土瓶。432は急須である。433は円柱状の陶器であるが器種は不明である。434は火入れである。435は花瓶である。底部に「アイ」「イキ」の墨書がある。436は瀬戸美濃産の馬の目大皿である。高台内に墨書がある。437は瀬戸美濃産の水鉢と思われる。438は信楽産の壷である。439は陶器の蓋である。440は399の土瓶の蓋である。441は京・信楽系の鳥鉢である。442は灯明皿である。443は羽釜である。444は土師質皿である。445はサナである。446は大谷焼きの鉢である。447と448は堺・信楽産の擂鉢である。449は備前産の擂鉢である。450～452は竈の脚である。453は焜炉で刻印がある。454は般若の顔を描いた泥面子である。455と456は箱庭である。457～460は泥人形である。457は恵比寿である。458は天神で、460は彩色された猪である。461～463は写真のみである。461は磁器の赤絵の碗である。462は磁器の染付小皿である。463は土瓶の破片である。



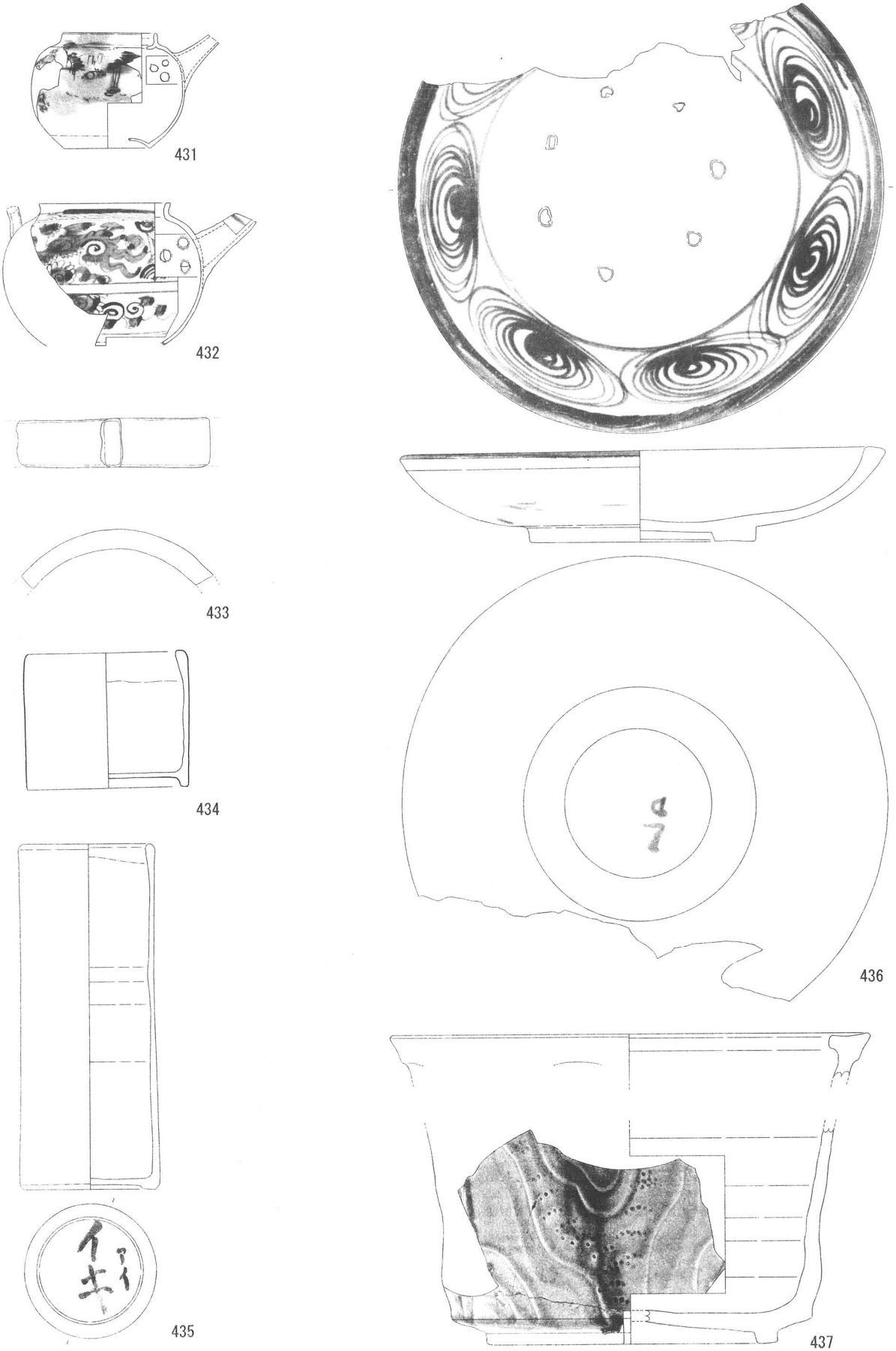
第118図　SK02　出土遺物実測図（1）（S=1/4・401　S=1/2・402　S=1/1）



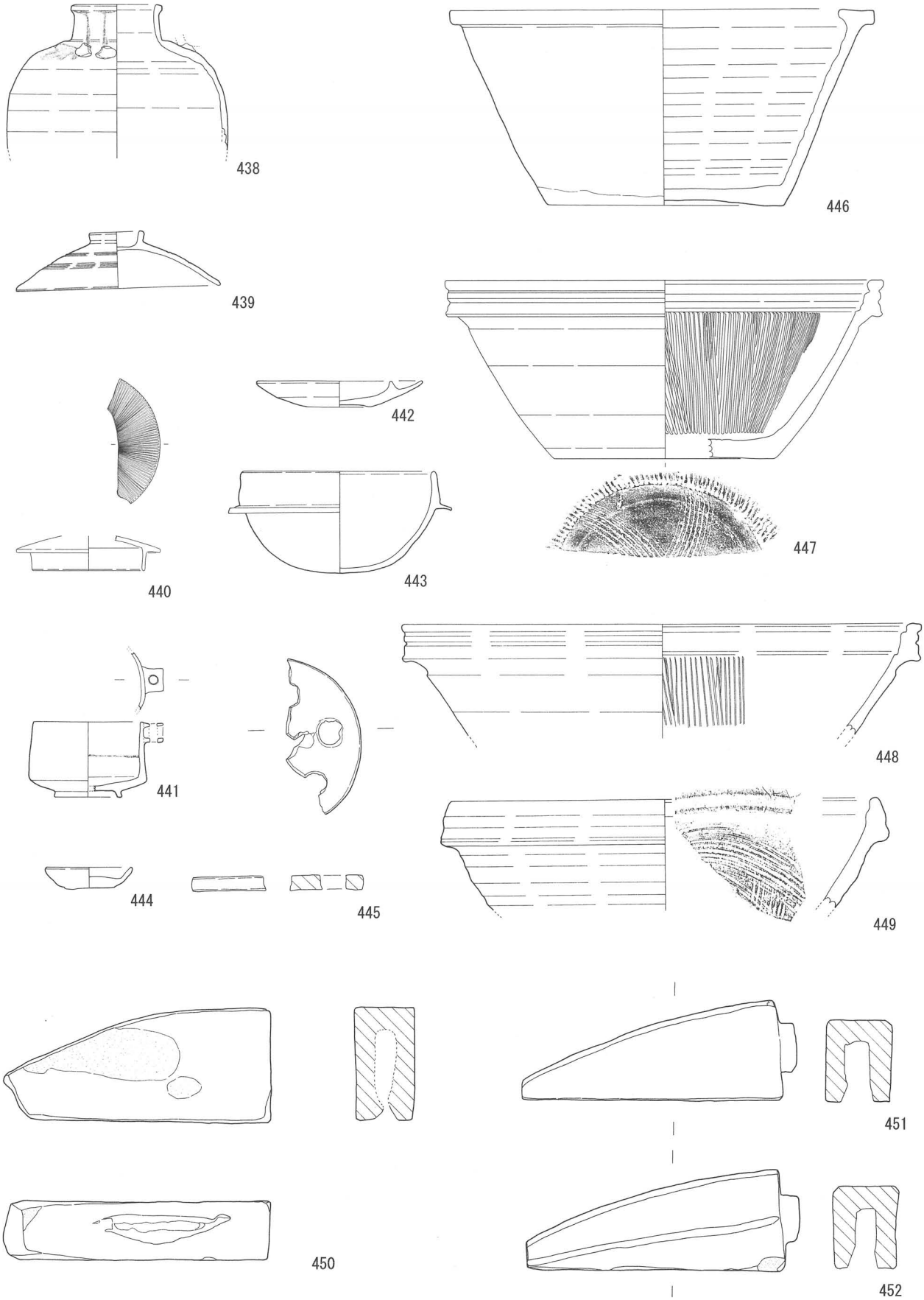
第119図　SK02　出土遺物実測図（2）（S=1/4）



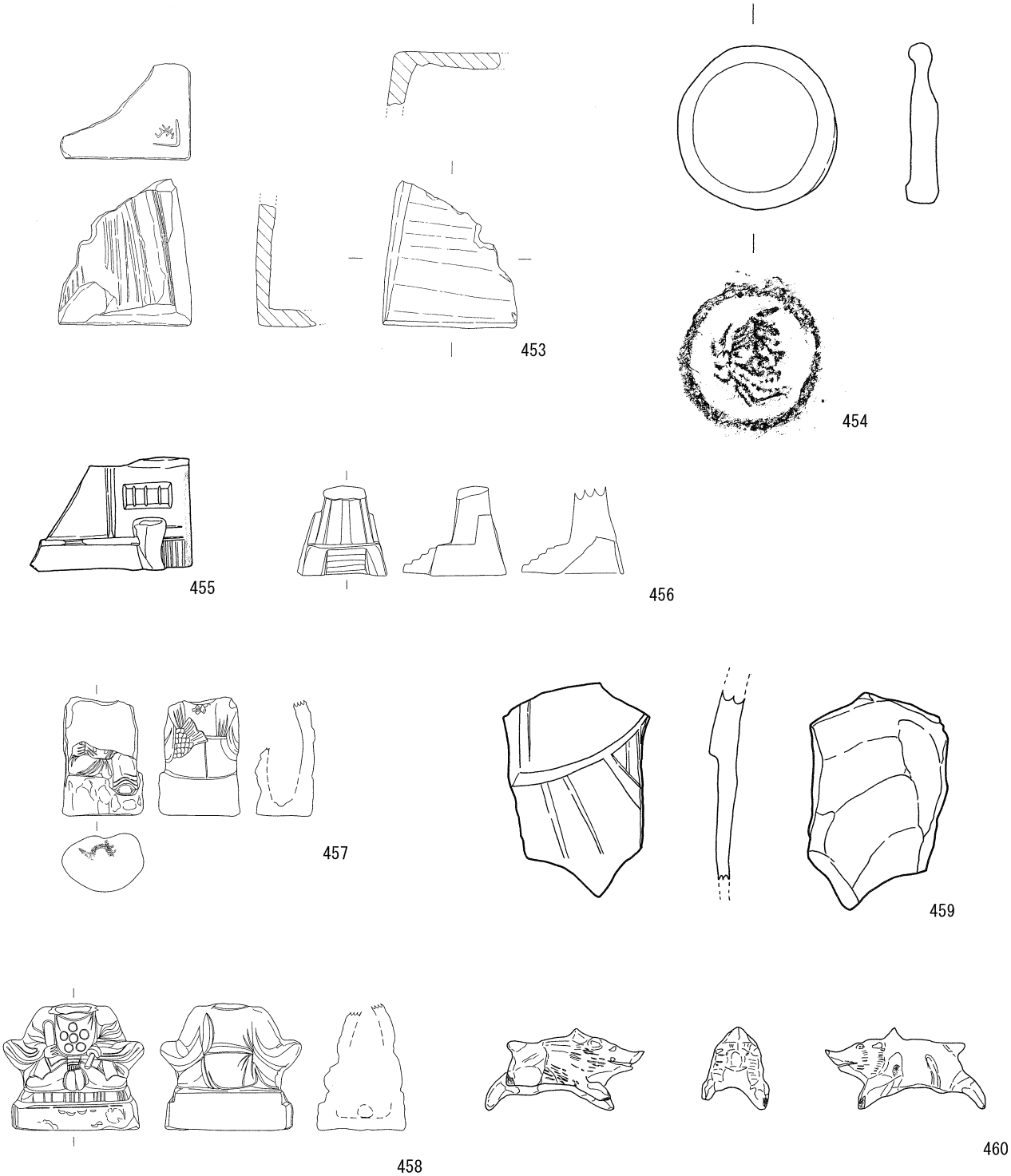
第120図　SK02　出土遺物実測図（3）（S=1/4）



第121図　SK02　出土遺物実測図（4）（S=1/4）



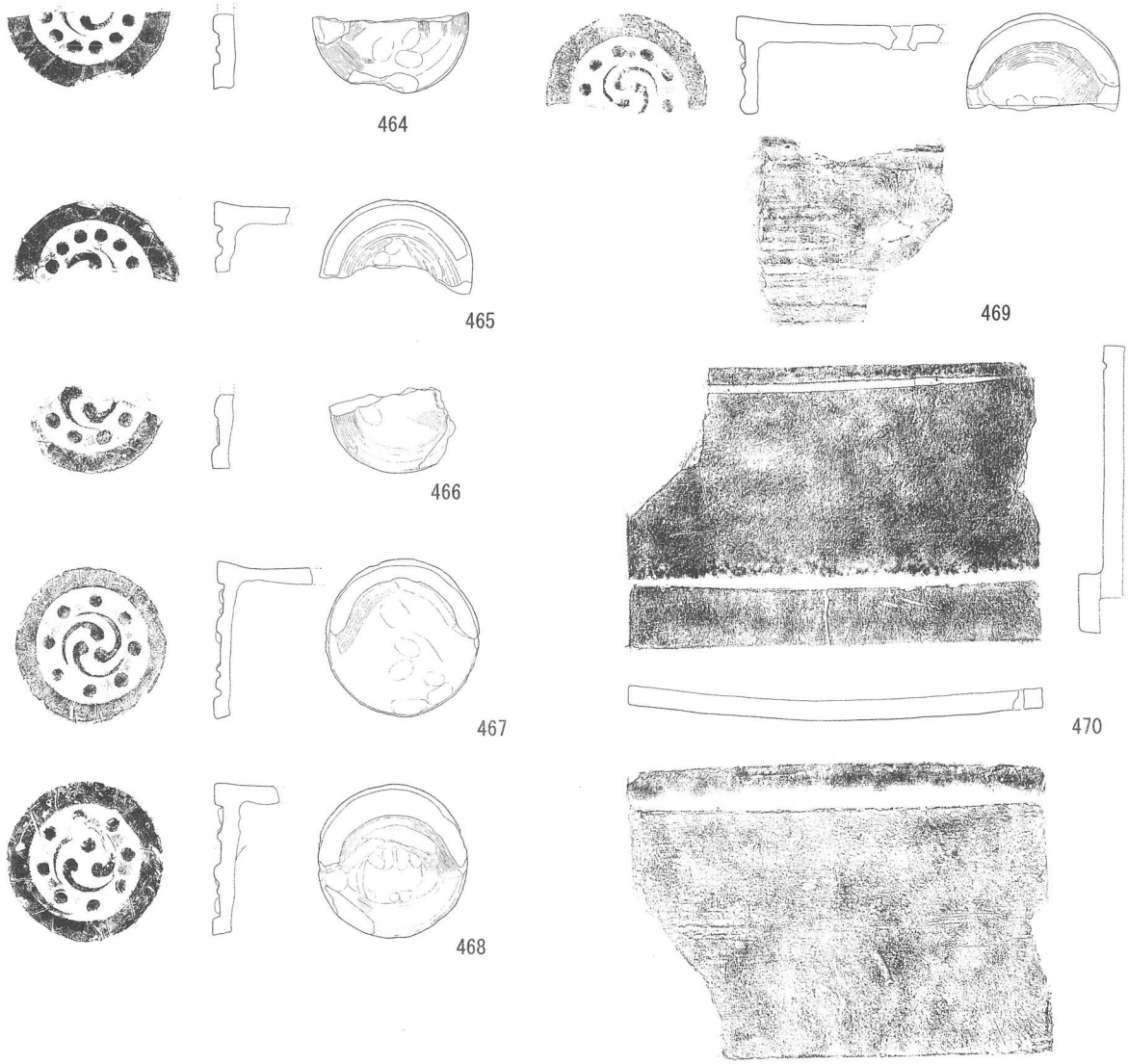
第122図　SK02　出土遺物実測図（5）（S=1/4）



第123図　SK02　出土遺物実測図（6）（S=1/4・454　S=1/1・455～460　S=1/2）

464～470は瓦である。

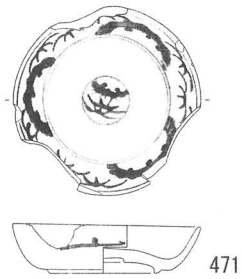
464～469は巴文軒丸瓦である。464の巴文は短い。連珠文は大きく間隔が密である。465の巴文は太く短い。連珠文は大きく、間隔は密である。466の連珠文は大きく、間隔は狭い。467の巴文の間隔は広く短い。連珠文は大きく、間隔は広く８個ある。468の巴文は短く、連珠文は大きく間隔が広い。469の巴文は小さく密である。連珠文は大きく、間隔は密。丸瓦表側は縦方向のヘラ削りが残り、裏側の瓦当側に11箇所の幅約５mmのヘラ削り痕がある。径1.7cmの釘穴がある。470は軒上瓦である。



第124図　SK02　出土瓦実測図（S=1/6）

SD02

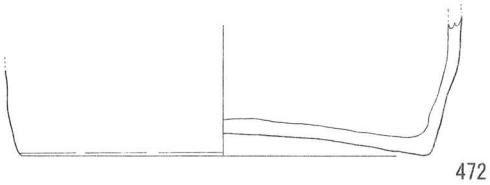
471は肥前産磁器の染付皿である。蛇の目高台で見込み一重圏線内笹文、内側面笹文、外側面唐草文が描かれる。溝の掘削埋土より出土した遺物である。



第125図　SD02　出土遺物実測図（S=1/4）

SX12

472は素焼きの甕。



第126図　SX12　出土遺物実測図（S=1/4）

第５章　出土瓦の分類と変遷

出土した巴文軒丸瓦について珠文や巴文を分類し、変遷を試みる。出土遺構からその文様が確実に成立している時期を検討し、巴文軒丸瓦の文様のありかたを見る。第127図に示す第２期から第５期は遺構時期を区分する時期であり、瓦の年代観を示すものでない。これは瓦の廃棄時を示すものであり、実際の使用及び製作年は当然遡るものである。今回の出土資料での編年は限界があり編年文様の傾向を検討し報告するものである。

瓦の分類は、まず連珠文（珠文・連珠）の数により分類した。連珠文は24、19、18、16、15、14、12、９、８あり、下記に示すⅠ　連珠文24個、Ⅱ　連珠文19・18個、Ⅲ　連珠文16・15・14個、Ⅳ　連珠文12個、Ⅴ　連珠文９・８個の５つのグループに分類し、検出した遺構の時期ごとに新旧を区分した。そのなかでさらに連珠文の小さいものと大きいもの、さらに大きくなるもの、巴文の接続しないものと巴文の接続するもの、巴文が短く接続するもの、巴文が接続しかけるものに細分した。

Ⅰ　連珠文24個のグループ
　－１　連珠文が小さく、巴文が接続しない
　－３　連珠文が大きく、巴文が接続しない

Ⅱ　連珠文19・18個のグループ
　－１　連珠文が小さく、巴文が接続しない
　－２　連珠文が小さく、巴文が接続する
　－３　連珠文が大きく、巴が接続しない

Ⅲ　連珠文16・15・14個のグループ
　－１　連珠文が小さく、巴文が接続しない
　－２　連珠文が小さく、巴文が接続する
　－５　連珠文が大きく、巴文が接続する
　－６　連珠文が大きく、巴文が短く接続する

Ⅳ　連珠文12個のグループ
　－３　連珠文が大きく、巴文が接続しない
　－４　連珠文が大きく、巴文が接続しかける
　－５　連珠文が大きく、巴文が接続する

Ⅴ　連珠文９・８個のグループ
　－３　連珠文が大きく、巴文が接続しない
　－５　連珠文が大きく、巴文が接続する
　－６　連珠文が大きく、巴文が短く接続する

例えば、

Ⅰの連珠文24個のグループでは連珠文の大小はあるがいずれも巴文は接続しない。

Ⅱの連珠文19・18個のグループでは、Ⅰの連珠文24個のグループより、珠文が小さく巴文が接続するものが増える。

Ⅲの連珠文16・15・14個のグループでは、連珠文が大きく巴文が接続するものが増え、さらに巴文が短く接続するものもある。

Ⅳの連珠文12個のグループでは、連珠文の小さなものがなくなり、連珠文が大きく巴文が接続しかけるものがある。

Ⅴの連珠文９・８個のグループでは、連珠文が大きく、巴文が接続しないものとするものがある。

文様の成立時期を決定する基準資料となるものは、第２期ではSK91出土の12、13とSK70出土の20の軒丸瓦であり、17世紀中頃までの遺構から出土した瓦である。

第３期前半はSK65、SK31、SK18、SK69、SK21からの出土瓦で18世紀前半頃の遺構から出土している。

第３期後半はSK73からの出土瓦で18世紀中頃以前に成立している文様である。

第４期は造成土１、SK28、SK05からの出土瓦で18世紀中頃から19世紀中頃の遺構から出土している。

第５期はSK17、SK50、SK53、SK54、SK03、SK02からの出土瓦である。19世紀中ごろから明治７年の家屋取り払いまでの遺構から出土している。ただし、SK03、02は近代にも掘り返しを受け、まれであるが近代の瓦が混入している可能性もある。

まとめ

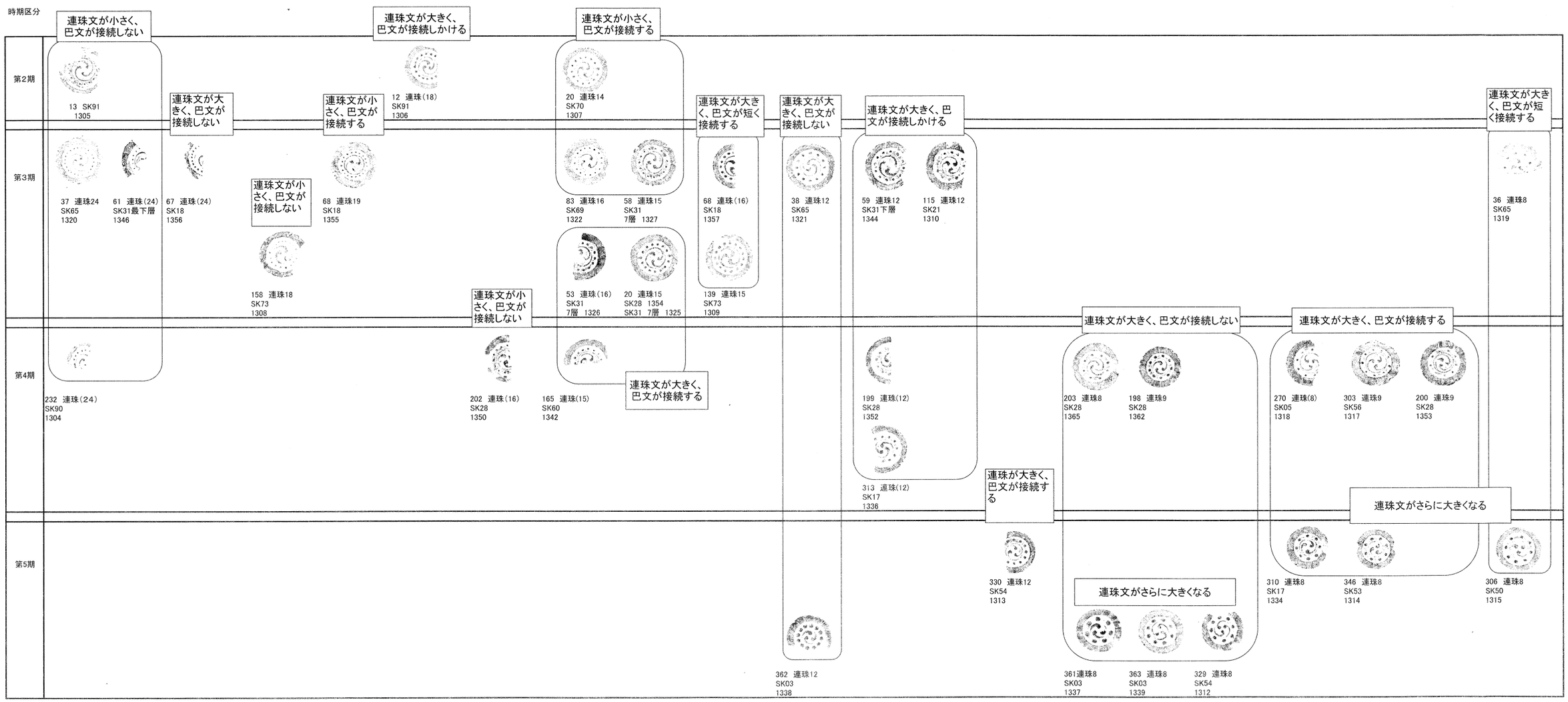
Ⅰのグループは、第２期や第３期に集中しており、第２期及びそれ以前の文様で17世紀中頃以前に成立している文様と推定される。

Ⅱ・Ⅲのグループは、Ⅰのグループと同様の時期区分であるが、特にⅢのグループは文様が多様化し、出土量も多くなる。18世紀前半以前に成立している文様が上段で、下段が18世紀中頃までに成立している文様であり、江戸初期から中頃の主要な文様と思われる。

Ⅳのグループは、Ⅱ・Ⅲグループ同様に江戸初期から中期が主体であるが、第４期、第５期の下段が19世紀中頃までの文様と推定されるものもある。連珠文がさらに大きくなる瓦が第５期に現れる。

Ⅴのグループは、連珠文が大きく、巴文が短くするもので第３期に属するものがあり、第３グループにも同時期から出土していることから、巴文が短く接続する文様がこの期か少し前より現れると推定される。Ⅴグループは第４期以降の出土量が多く、18世紀中頃以前から主要な文様として使用されたと推定できる。また、19世紀中頃以前にはⅣグループ同様に連珠文がさらに大きくなる。連珠文の大型化は江戸後期の特徴といえる。

軒丸瓦の文様の分類・変遷について



第127図　軒丸瓦の文様の分類・変遷について

第６章　出土遺物の集計について

各遺構から出土した遺物の個体数を集計した。破片数量のカウントであるため同個体を重複している可能性が高く、実際の数量は少なくなる。また、報告書に掲載していない遺構の遺物については不明なものが多く、報告書掲載遺構だけの数量報告に止めている。このことから出土遺物の実質的な数量と集計データには若干の誤差はあるが、出土遺物の割合や時期的な傾向を検討する素材としては活用できると思われ、集計した結果を報告する。

報告書掲載遺構の出土遺物の総点数は2169点あり、磁器が854点で全体の39％、陶器が646点で30％、土師質土器が630点で29％、瓦質製品が38点で２％である。（第１表出土遺物種類別集計表参照）、磁器が最も多く、陶器や土師質土器がほぼ同じ割合で出土している。

さらに時期別に遺構から出土した遺物を集計し、出土した割合や出土量の変化を見ると（第２表出土遺物時期別集計表参照）第１期が２点、第２期が39点で１％程度、第３期が492点で23％、第４期が641点で30％、第５期が995点で46％ある。遺構時期が新しいほど遺物の出土量は増加している。第５期は、特に廃棄土こうからの出土点数がかなり多い。

次に各時期の種類別遺物の出土状況を見る。

第１期では出土総数が２点のみであり、ともに唐津産の陶器碗と皿である。

第２期は、出土遺物数が39点あり、磁器が10点で26％、陶器が９点で25％、土師質土器が17点で40％、瓦質製品が３点で８％となっている。出土総数は少ないが土師質土器の割合が高い。

第３期は、出土遺物数が492点あり、磁器が142点で29％、陶器が134点で27％、土師質土器が210点で43％、瓦質製品が６点で１％となっている。第２期同様、土師質土器の出土割合が43％と最も高く、磁器や陶器がほぼ同率の出土量である。

第４期は出土遺物数が641点あり、磁器が249点で39％、陶器が188点で29％、土師質土器が199点で31％、瓦質製品が５点で１％となっている。土師質土器も皿や坏は減少し、磁器や陶器の出土量が増加している。

第５期は出土遺物数が、995点あり、磁器が453点で45％、陶器が314点で32％、土師質土器が204点で21％、瓦質製品が24点で２％となっている。土師質土器は第３期や第４期とほぼ同数量を出土しているが、皿や坏は減少している。磁器や陶器の出土量が増加し、特に磁器の出土量が増加したため、土師質土器の割合が減少し、磁器の割合が全体の３分の１以上を占めるようになった。

出土種別で見ると、江戸後期の肥前磁器の増加が増加する。特に碗や皿、蓋の増加が著しい。第５期では瀬戸美濃系の磁器も出現する。擂鉢についても従来指摘されているように堺・明石産の擂鉢が第４期から出現し、第５期に増加している。

種類	磁器合計							陶器合計										土師質土器	瓦質土器	集計
		白磁	青磁	染付合計	肥前系磁器	瀬戸美濃系磁器	産地不明		陶器（産地不明）	備前系陶器	京・信楽系陶器	瀬戸美濃系陶器	肥前系陶器	源内焼	粟田焼	唐津系陶器	堺・明石系陶器			
個体数	854							646										630	38	2169
		47	12	795	759	21	15		563	38	8	4	19	1	1	4	9			
%	39							30										29	2	100%
		2	0.5	36.5	35.0	0.9	0.6		26	1.8	0.38	0.2	0.88	0.05	0.05	0.2	0.44			

第１表　出土遺物種類別集計表

	種別	磁器	白磁製品	青磁製品	肥前系磁器碗	肥前系磁器皿	肥前系磁器蓋	瀬戸美濃系磁器碗・皿	その他・不明	陶器	碗	皿	鉢	擂鉢	備前系擂鉢	堺・明石系擂鉢	甕	行平鍋	灯明皿	その他	土師質土器	土師質小皿・皿・坏	焙烙	火鉢・焜炉	甕	その他	瓦質製品
総個体数	2169																										
第1期	2	0								2																	
											1	1															
%		0								100											0						0
第2期	39	10								9											17						3
			0	2	4	2	0	0	2		1	2	2	1	0	0	1	0	0	2		13	2	0	0	2	
%	1	26								25											40						8
第3期	492	142								134											210						6
			10	1	84	24	1	0	22		29	2	12	12	17	0	16	1	3	42		142	19	1	18	30	
%	23	29								27											43						1
第4期	641	249								188											199						5
			22	7	150	35	1	0	34		52	8	18	17	9	2	21	0	8	53		86	21	11	15	66	
%	30	39								29											31						1
第5期	995	453								314											204						24
			15	2	220	60	41	21	94		41	8	16	28	3	7	23	31	22	135		73	11	5	45	70	
%	46	45								32											21						2

第２表　出土遺物時期別集計表

第7章　総　括

調査の成果

前述したように丸亀城は生駒、山崎、京極氏三代が入城し、城郭の整備や武家屋敷地、城下町及び港湾の整備を実施し、丸亀の発展に努めた。

生駒氏は慶長２年（1597）～寛永17年（1640）、山崎氏は寛永18年（1641）～明暦３年（1657）、京極氏は万治元年（1658）～幕末まで入封している。明治７年には郭内の民家取り払いが行われ、軍隊の営舎が築かれ近代化を迎える。

丸亀城及び武家屋敷地の画期を考えると

Ⅰ期	慶長元年以前(1596)	生駒氏丸亀城築城以前
Ⅱ期－１	慶長２年(1597)～元和元年(1615)	生駒氏の丸亀城築城から丸亀城廃城まで
－２	元和元年(1615)～寛永17年(1640)	生駒氏の丸亀城廃城から生駒氏改易まで
Ⅲ期	寛永18年(1641)～明暦３年(1657)	山崎氏時代
Ⅳ期－１	万治元年(1658)～宝永４年(1707)	京極氏入封以後
－２	宝永４年(1707)～文政12年(1829)	丸亀で大地震（宝永大地震）から多度津藩関係者が多度津陣屋へ移住した年。（調査地周辺は多度津藩主及び多度津藩家臣が居住し移住後、居住者の変更が見られるため）
－３	文政12年（1829）～明治７年（1874）	郭内の民家取り払い
Ⅴ期	明治７年（1874）以降	陸軍第十二連隊以降

である。遺物の出土状況から見るとⅣ期－２は細分できる。

調査地の遺構面の残りは悪く、虫食い状態でかく乱が深く及ぶところもあり、それぞれの遺構を面で捕らえることは困難であったが、土層の上下関係や出土遺物や画期となる事象等を考慮し、第１～５期に分類し報告している。これを上記の年代にあてはめると、

第１期下層は、屈曲する落ち込みがある。、出土遺物もなくⅠ期かⅡ期の判断は今回の調査ではできていない。

第１期上層はⅡ期の時期で17世紀初頭頃の時期と考えている。
調査地東側で検出されたSK82やSK86などの土こうがこの時期のものである。

第２期はⅡ期－２、Ⅲ～Ⅳ期－１の頃で、18世紀初頭まで、主に17世紀中頃の遺構と推定される。調査地東側のSK75、SK67、SK68、SK70、SK91などの土こうがこれにあたる。土こうも整理された一定方向を向く規則性が見られる。また、遺物の出土はないが区画溝である。西側の掘り方は外濠土塁との境界であると思われる。

第３期はⅣ期－１～Ⅳ期－２の時期のなかの時期で、18世紀初頭から18世紀後半の遺構である。土塁との境の場所には廃棄土こうが掘られる。土こうは調査地北側で、弧の字状にSK63、SK31、SK18、SK32、SK65、SK21、SK26、SK69、SK73、SK74、SK56、SK62などの土こうが検出されている。遺物を多く包含する土こうも見られる。東側のSD10の素掘り溝に接して西側にも古い溝跡と考えられる掘り込みがる。これらは道との境界であると考える。また、この時期には石組み井戸（SE01）が造られる。井戸は掘り方内の遺物から17世紀初頭頃に造られている。

第４期はⅣ期－２の頃の遺構で、18世紀後半～19世紀中頃までの遺構であると考える。調査地南側に大型の土こうが集中する。造成土１により土塁内側の肩口は埋められている。18世紀末～19世紀初頭には屋敷地として利用されているその造成と思われる。SK90、SK88、SK48、SK28、SK05、SK20などの土こうや礫敷き遺構であるSX11などがある。SX11からは宝篋印塔の相輪が出土しており、庭園などあった可能性もある。SD10は調査地東側で検出された素掘り溝であり、屋敷地と道路の境界をなす。

第５期下層はⅣ期－３は19世紀中頃～明治７年（1874）まで、上層はⅤ期の頃で明治７年以降の遺構と考える。

５期下層は屋敷地の素掘り溝は縮小されに西側に石列が配される。溝のすぐ西側にSB01も確認されている。毀損が著しく遺構の検出は悪い。また、SK02、SK03、SK04、SK10、SK17、SK53、SK54、SK52などの土こうがあるが、これらの土こうからは主に19世紀初～中頃の遺物が主に出土しており、主に幕末から明治初頭頃までの遺構である。多く廃棄されている土こうは、明治７年の武家屋敷地の立ち退きにあたる廃棄土こうと思われ、これらの遺物は幕末に当該地に居住していた網干郡代斉藤氏の生活雑器の可能性が高い。

近現代は軍隊の遺構があり外濠へ排水する溝跡SD02・03・05が確認された。建物跡では調査地の西側の外濠端で建物礎石やコンクリート基礎、地下貯蔵庫のある木枠のある建物SX20や水溜施設と考えられる施設SK40、SX08・09は厠の受け甕と考えられる遺構が検出された。調査地の南側は市営翠山荘アパート建設及び取り壊しによるかく乱を受けていた。

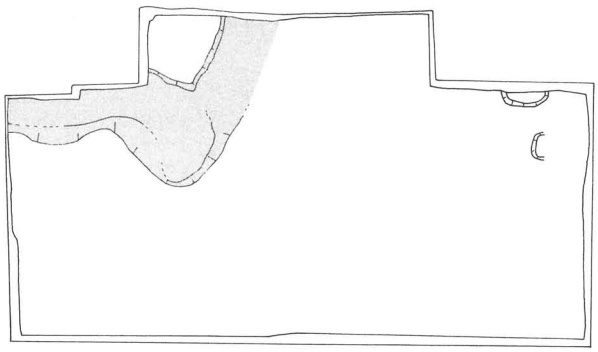
総括

今回の調査は近代以降のかく乱により全体の遺構の残りは悪いが、外濠土塁の境界や屋敷地と道路の境界など絵図資料にあるような17世紀中頃～18世紀、19世紀代の武家屋敷地の土地利用を見ることができた。

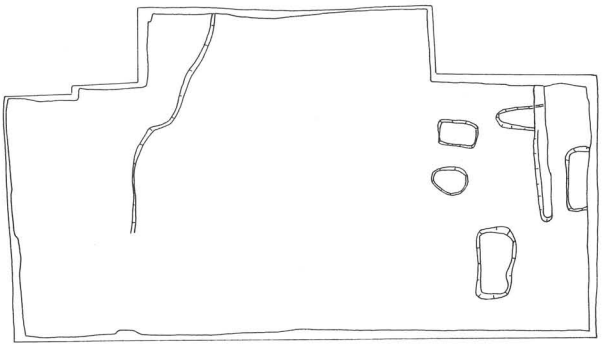
当初は土こうなどによるゴミ捨て場から造成され屋敷地へと利用される状況も少なからず絵図資料と対応する年代観が得られたことの意義は大きい。

今回、武家屋敷地を発掘調査するにあたり、後世のかく乱や造成につぐ造成など判断が難しく、判断ミスも少なからずあり、文献や絵図資料の事前調査や調査中でのこれらの資料収集が大事であることを痛感した。

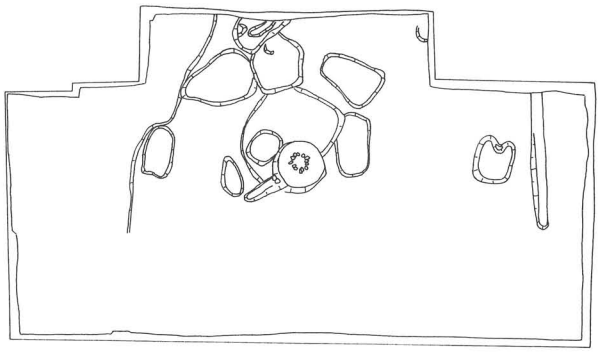
また、可能な限り文献調査を行い、調査成果を検討すると武家屋敷地の変遷をたどることができる。江戸時代の生活を復元する資料ともなりえ、丸亀城郭内の生活を再現できる重要な資料となる。



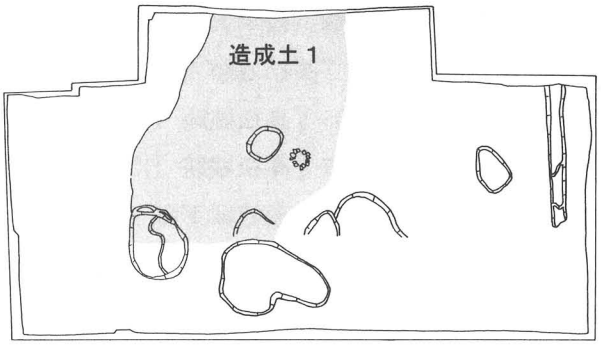
第１期



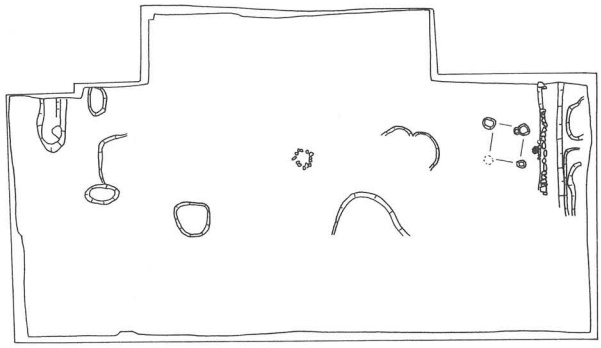
第２期



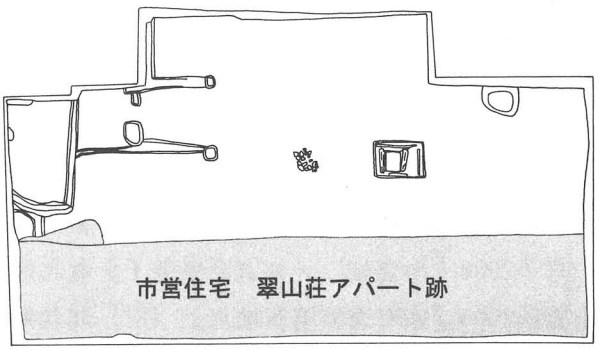
第３期



第４期



第５期　下



第５期　上

第128図　出土遺構変遷図（S=1/400）

参考文献

乘岡実2002「近世備前焼擂鉢の編年案」『岡山城三之曲輪跡－表町一丁目地区再開発ビル建設に伴う発掘調査－』岡山市教育委員会

乘岡実1997『史跡岡山城跡本丸中の段発掘調査報告書』岡山市教育委員会

『木村コレクション　古備前図録』1984．3　岡山市教育委員会

西田宏子・大橋康二1988『別冊　太陽　古伊万里』　株式会社平凡社

大橋康二1989『肥前陶磁器』ニュー・サイエンス社

大橋康二1994『古伊万里の文様　初期肥前磁器を中心に』理工学社

佐藤竜馬2003『高松城跡（西の丸町地区）Ⅱ』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

松本和彦・陶山仁美2003『高松城跡（西の丸地区）Ⅲ』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

北山健一郎2006『栗林公園東門周辺再整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　栗林公園』香川県埋蔵文化財センター

大嶋和則2002『高松城跡（松平大膳家中屋敷跡）』高松市教育委員会

小川賢・片桐節子2004『高松城跡（松平大膳家上屋敷跡）』高松市教育委員会

大嶋和則　中西克也2005『高松城跡（無量壽院跡）』高松市教育委員会

大嶋和則　中西克也2007『高松城跡（寿町一丁目）』高松市教育委員会

荒木幸治2005『発掘された赤穂城下町－赤穂駅前大石神社線街路整備事業に伴う赤穂城下町跡発掘調査報告書1』赤穂市教育委員会

楠正勝　庄田知充2007『石川県金沢市　広坂遺跡（１丁目）Ⅳ』金沢市・金沢市埋蔵文化財センター

諏訪間順・井上由美子・小林竜一1999『小田原城下　欄干橋町遺跡第Ⅴ地点』小田原市教育委員会

戸田哲也・小林義典2002『小田原城三の丸藩校集成館跡第Ⅲ・第Ⅳ地点―小田原市立三の丸小学校新校舎建設に伴う発掘調査－』小田原市教育委員会

山口剛志・山口由美子2002『平成11年度小田原市緊急発掘調査報告書７　小田原城下　香沼屋敷第Ⅳ地点』小田原市教育委員会

小林義典2003『小田原城三の丸・城下　城下日向屋敷跡第１地点　三の丸元蔵堀第Ⅱ地点　三の丸元蔵堀第Ⅱ・第３地点　三の丸真田口第Ⅰ・Ⅳ地点　三の丸東堀第Ⅲ地点　三の丸大久保雅楽介邸跡第Ⅳ地点　三の丸大久保弥六郎跡邸第Ⅱ地点　三の丸新堀第Ⅳ地点』小田原市教育委員会

北篠ゆうこ・山口剛志2003『小田原城下　本町遺跡第Ⅰ地点』小田原市教育委員会

高山京子2006『小倉城二ノ丸家老屋敷Ⅰ』北九州市教育委員会

川上秀秋2006『室町遺跡第５地点』（財）北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室

川崎義雄・高山優・毎田佳奈子・園村維敏・乾有乃2004『備中新見藩関家屋敷跡発掘調査報告書』国際航業株式会社文化財事業部

大橋康二2000「九州陶磁概論」『九州磁器の編年　九州近世陶磁学会10周年記念』

盛峰雄2000「肥前（佐賀県）の製品について　陶器の編年１．碗・皿」『九州磁器の編年　九州近世陶磁学会10周年記念』

家田淳一2000「肥前（佐賀県）の製品について　陶器の編年　２．擂鉢・鉢・片口・水指・茶入土瓶・水注・灯火具」『九州磁器の編年　九州近世陶磁学会10周年記念』

船井向洋2000「肥前（佐賀県）の製品について　陶器の編年　３．火入・瓶」『九州磁器の編年　九州近世陶磁学会10周年記念』
野上建紀2000「磁器の編年（色絵以外）１．碗・小坏・皿・紅皿・紅猪口」『九州磁器の編年　九州近世陶磁学会10周年記念』
中野雄二2000「波佐見」『九州磁器の編年　九州近世陶磁学会10周年記念』
九州近世陶磁学会2000『九州磁器の編年　九州近世陶磁学会10周年記念』
大橋康二2002「肥前磁器の流通（西日本）」『国内出土の肥前陶磁　西日本の流通をさぐる』九州近世陶磁学会
九州近世陶磁学会2002『国内出土の肥前陶磁　西日本の流通をさぐる』
九州近世陶磁学会2004『受容層の違いによる九州陶磁の様相』
徳島大学総合科学部歴史学研究室・考古フォーラムくらもと2000『四国・淡路の陶磁器―生産と流通』
徳島大学総合科学部歴史学研究室・関西近世考古学研究会・考古フォーラムくらもと2001『四国と周辺の土器―炮烙の生産と流通―』
四国城下町研究会・東洋陶磁学会・宇多津町文化財保護協会2002『四国・淡路の陶磁器Ⅱ－理兵衛焼と京焼－』
四国城下町研究会・土佐史談会・高知県文化財団埋蔵文化財センター2003『四国と周辺の土器Ⅱ－火鉢・焜炉類にみる流通と生活形態－』
佐賀県立九州陶磁文化館2004『古伊万里の見方　シリーズ１種類』
佐賀県立九州陶磁文化館2005『古伊万里の見方　シリーズ２成形』
佐賀県立九州陶磁文化館2006『古伊万里の見方　シリーズ３装飾』
世界・焱の博覧会波佐見町運営委員会1996『波佐見青磁展・くらわんか展』
波佐見焼400年実行委員会1999『波佐見焼400年の歩み』

出土遺物観察表（1）

遺物番号		写真番号	遺構番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	残存量	胎土
第1期									
1		なし	SK82	陶	皿	唐津	口(12.0)、底(3.6)	口径1/8	細
2		1147	SK86	陶	碗	唐津	底4.8		細
3		1115-2	SK67	土師質	皿		口8.9、底5.8、高2.0	口径3/4	細(0.5mm以下の微砂含む)
4		1115-1	SK67	土師質	皿		口8.8、底5.3、高2.3	口径5/6	細
5		1083	SK68	磁	小杯	肥前	口7.0、底2.8、高4.6	口径2/7	微
6		1227	SK75	磁	鉢		—	破片	微
7		1257-1	SK91	磁	皿	肥前	底4.4	高台径5/8	微
8		1257-2	SK91	磁	鉢	肥前	口(23.6)	口径1/12	微
9		1257-3	SK91	陶	蓋		口(12.0)	口径1/8	細
10		1258	SK91	陶	皿		底8.5	高台径5/6	微
11		1105	SK91	土師質	皿		口7.8、底4.8、高1.8	口径2/7	中
14		1041	SK70	陶	碗	肥前	口9.7、底4.5、高7.1	口径1/4	細
15		1113	SK70	陶	皿		口(10.7)、底3.7、高2.2	口径1/8	微
16		1111	SK70	土師質	皿		底6.7	口径1/3	細
17		1112	SK70	灯明皿	皿		口11.2、底7.3、高1.9	口径5/8	細(1mm以下の砂粒を僅かに含む)
18		1110	SK70	灯明皿	皿		口10.4、底7.8、高2.2	ほぼ完形	細
19	写真のみ	1226	SK70	磁	碗	肥前	—	口縁部破片	微
21		1232	SK26	磁	碗	肥前	口(5.7)	口径1/6	微
22		1180	SK26	土師質	皿		底(4.4)	底部1/2	中
23		1235-2	SK62	磁	碗	肥前	底(5.0)	高台径1/4	微
24		1235-1	SK62	磁	皿	肥前	底(6.6)	高台径3/8	微
25		1289-2	SK65	磁	碗	肥前	口(8.6)、底(3.9)高4.8	高台径3/4	微
26		1289-1	SK65	磁	碗	肥前	底4.2	高台完形	微
27		1084	SK65	磁	皿	肥前	口(14.6)、底(8.5)、高3.1	口径1/8	微
28		1044	SK65	陶	碗	肥前	口(10.0)、底(4.2)、高7.2	高台径1/2	細
29		1094	SK65	陶	皿	肥前	底6.0	高台完形	微(微砂含む)
30		1116-4	SK65	土師質	皿		口7.5、底4.7、高1.8	口径5/8	細(0.1mm以下の微砂含む)
31		1116-3	SK65	土師質	皿		口7.1、底5.0、高1.8	口径3/4	細
32		1116-2	SK65	土師質	皿		口7.5、底4.3、高1.4	完形	細(0.1mmの微砂含む)
33		1116-1	SK65	土師質	皿		口(8.3)、底(5.0)、高1.8	口径1/3	細(1～2mmの砂粒を僅かに含む)
34	写真のみ	1225	SK65	磁	不明	肥前	—	胴部破片	微
35	写真のみ	1217	SK65	陶	擂鉢	備前	口(14.6)	口径1/8	細(微砂、黒色粒含む)
39		1186-2	SK31	土師質	皿		口(7.3)、底(3.6)、高1.4	口径1/6	細
40		1186-1	SK31	土師質	皿		—	底部破片	細
41		1269	SK31	陶	碗	肥前	底(3.2)	高台径1/4	細
42		1268-1	SK31	磁	鉢	不明	口(19.4)	口径1/4	微
43		1274-1	SK31	土師質	甕	不明	口(12.6)	口径3/8	良(1mm程の石英・長石含む)
44		1274-2	SK31	陶	壺	備前	口(25.8)	口径1/9	細
45		1275	SK31	陶	擂鉢	備前	口(33.0)	口径1/7	細(微砂、黒色粒を含む)
46		1276	SK31	陶	擂鉢	備前	口(33.4)	口径1/6	細(微砂、黒色粒を含む)
47		1252	SK31		煙管		長さ、(7．2)、幅1．0	ほぼ完形	—
48	写真のみ	1250-4	SK31	磁	碗	肥前	—	破片	微
49	写真のみ	1250-1	SK31	磁	碗	肥前	口(12.0)	口径1/9	微
50	写真のみ	1250-2	SK31	磁	碗	肥前	口(8.4)	口径1/4	微
51	写真のみ	1250-3	SK31	磁	碗	肥前	口(8.4)	口径1/6	微
63		1024	SK18	磁	碗	肥前	口(9.2)底4.4、高5.0	口径1/4	微
64		1023	SK18	陶	碗	肥前	口(11.0)、底4.4、高7.0	高台完形	細
65		1247	SK18	陶	甕		—	口径1/12	微
66		1098	SK18	土師質	皿		口7.8、底4.5、高1.5	口径5/9	細(0.1mmの微砂を含む。雲母)
73		1085	SK63	陶	碗	瀬戸美濃	底4.5	高台完形	細
74		1050	SK69	磁	碗	肥前	口9.9、底5.0、高6.0	口径5/8	微
75		1107	SK69	土師質	皿		口8.5、底5.8、高2.3	口径6/7	細(1mm以下の微砂含む)
76		1106	SK69	土師質	皿		口8.6、底5.0、高1.8	ほぼ完形	細(1mm以下の微砂を含む)雲母
77		1108	SK69	土師質	皿		口10.8、底7.1、高2.1	完形	細(1mm以下の微砂含む)
78		1109	SK69	土師質	皿		口11.6、底7.6、高2.9	ほぼ完形	細
79		1222	SK69	土師質	土錘		長さ4.0、幅1.3	完形	微
80		1220	SK69	陶	擂鉢	備前	口(27.0)	口径1/10	細
81		1219	SK69	陶	擂鉢	備前	口(31.0)	口径1/5	細
82		1161	SK69	陶	擂鉢	備前	口(34.2)、底(8.3)、高(12.8)	口径1/4	細
84		1087	SE01	磁	小杯	肥前	口(7.3)、底3.2、高4.9	高台完形	微
85		1296-2	SE01	磁	蓋物	肥前	口(9.4)	口縁部破片	微
86		1140	SE01	磁	皿	肥前	口(13.4)、底(8.3)、高2.8	高台径2/9	細
87		1296-1	SE01	陶	碗	肥前系	底(4.6)	高台径1/3	細
88		1088	SE01	磁	蓋	肥前	径(8.7)、高2.8	つまみ完形	微
89		1298-3	SE01	磁	碗	肥前	口(9.0)、底(3.6)、高4.25	高台径1/2	微
90		1298-2	SE01	磁	皿	肥前	—	底部破片	微
91		1298-1	SE01	陶	碗	肥前	—	破片	細
92		1299	SE01		銭		径2.2、厚0.1	残存2/3	
93		1177-1	SE01埋土	石	流し		長55.0、最大幅31.1、高13.4、厚6.4		
94		1177-2	SE01埋土	石	流し		同上		
95		1175-2	SE01	石			—		
96		1175-1	SE01	石	流し		—		
97		1176	SE01	石			—		
98		1303	SE01	石	不明		—		

焼成	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調製	製作年代	備考	接合備考
—	2.5Y8/2灰白色	釉:白濁釉 内:2.5Y7/2灰黄色			17c前葉		
—	5YR7/3にぶい橙色	釉:灰及び白濁釉			17c前半	灰釉碗	
良	7.5YR8/4浅黄橙色						
良	7.5YR8/6浅黄橙色			内:回転ナデ後仕上げナデ　外:ナデ 外底:静止糸切り			
—	N8/0灰白色	釉:透明釉			17c前半	高台内施釉、口縁端反、畳付露胎	
—	白色	釉:7.5GY7/1明緑灰色				青磁	
—	N7/0灰白色	釉:5BG7/1明青灰色	呉須:淡青色		17c第二四半	畳付露胎。高台内砂粒付着。 波佐見Ⅱ期-ⅡかⅢ期	
—	2.5GY8/1灰白色	釉:10GY7/1明緑灰色				青磁	
—	2.5Y7/2灰黄色	内外:2.5Y7/1灰白色		内外:ナデ		軟質陶器　蓋の可能性もある	
—	N7/0灰白色	釉:N8/0灰白色	文様:黒色				
良	5YR6/6橙色			内外:ナデ 外底:静止糸切り			
—	5Y8/1灰白色	釉:5Y7/2灰白色(内中央:2.5GY7/1明オリーブ灰色)			17c中葉	呉器手碗、高台内露胎、砂付着	
—	2.5YR4/4にぶい赤褐色	内外:2.5YR3/1暗赤灰色		内外:ナデ 外体下半:ヘラ削り 内底:仕上げナデ 外底:回転糸切り			
やや軟	7.5YR8/3浅黄橙色			内底:回転ナデ後ナデ仕上げ 外底:回転糸切り			
良	10YR8/1灰白色			内外:ナデ 外底:ヘラ切り板目痕		口縁部に煤付着	
良	内外10YR8/2灰白色			内外:ナデ 外底:回転糸切り		口縁部内外に煤付着	
—	白色	釉:透明釉	呉須:明青色		17世紀中葉	大橋Ⅲ期	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉	呉須:淡暗青色		17世紀中葉～後半	大橋Ⅲ期	
良	5YR7/6橙色					墨書あり	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:7.5GY8/1明緑灰色	呉須:淡青色・暗青色		17c第三四半	丸形碗、高台内、高台外面に一条圏線 波佐見Ⅳ期	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:10BG7/1明青灰色	呉須:淡暗青色			釉切れあり	
—	白色	釉:透明釉				白磁　大橋Ⅲ期	
—	白色	釉:透明釉　内外:白色				白磁　大橋Ⅲ期	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉	呉須:淡明青色		17c第四四半	見込み五弁花、内側面唐草文、外側面唐草文、高台内渦福、口紅、 底部高台内砂付着　大橋Ⅳ期	
—	10R5/4赤褐色	内外:10YR4/2灰黄褐色		刷毛目:5Y8/2灰白	18世紀前半	刷毛目碗	
—	2.5Y7/2灰黄色	内:水色・青・茶色 外:2.5Y7/2灰黄色		外:透明釉・4方向に釉の滴れ	17c後半	蛇の目釉剥ぎ	
良	10YR8/3浅黄橙色			内外:ナデ 外底:静止糸切り			
良	10YR8/3浅黄橙色			内外:ナデ 外底:静止糸切り			
良	10YR8/4浅黄橙色			内外:ナデ 外底:静止糸切り			
良	7.5YR8/4浅黄橙色 口縁部外:2.5YR6/6橙色			内外:ナデ 外底:静止糸切り			
—	白色	釉:透明釉　内外:白色	呉須:淡青色 上絵:赤・緑色			色絵	
—	N6/0灰色	内外:5YR4/2灰褐色			17c後半～18世紀初	乗岡2期b	
良	10YR8/3浅黄橙色			外底:静止糸切り		墨書あり	
良	10YR8/3浅黄橙色					墨書あり	
—	10YR8/1灰白色	釉:2.5GY8/1灰白色 外底:10YR8/2灰白色		外底:回転ナデ			
—	白色	釉:10GY8/1明緑灰色			17c中葉～後半	青磁　大橋Ⅲ期	
良	7.5YR8/3浅黄橙色						
—	2.5YR5/3にぶい赤褐色	内:2.5YR5/4にぶい赤褐色 外:7.5YR3/3暗褐色		内外:回転ナデ			
—	10R5/6赤色	内外:10R5/6赤色			17c末～18c初頭か	スリ目9本　乗岡3期か	
—	10R5/6赤色	内外:10R5/6赤色			17c末～18c初頭か	スリ目8本、口縁帯3条の凹線　乗岡3期	
—						二つに折れている	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:2.5GY8/1灰白色	呉須:淡青色			波佐見Ⅴ-1	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉	呉須:淡青色				
—	N8/0灰白色	釉:透明釉	呉須:淡青色		17世紀末	桐文　大橋Ⅲ・Ⅳ期	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉	呉須:淡明青色				
—	N8/0灰白色	釉:透明釉	呉須:明青色		17c中～後半	見込み内二条圏線、「大明成化年製」高台内『製』 大橋Ⅲ期	
—	2.5Y7/1灰白色	内外:2.5Y5/2暗灰黄色	刷毛目:白色		18世紀前半	刷毛目碗　畳付砂付着	
—	N5/0灰色						
良	10YR8/3浅黄橙＋5YR7/4にぶい橙色			内外:ナデ 外底:静止糸切り			
—	2.5Y8/2灰白色	釉:10YR1.7/1黒色 外底:2.5Y8/2灰白色			17c前半	天目茶碗　高台内露胎	
—	N8/0灰白色	釉:5G7/1明緑灰色	呉須:淡青色		17c中葉	波佐見Ⅳ期	
やや軟	7.5YR7/4にぶい橙色			内外:ナデ 外底:静止糸切り			
やや軟	10YR8/2灰白色			内外:ナデ 外底:静止糸切り			
やや軟	7.5Y7/2明褐灰色			内外:ナデ 外底:静止糸切り			
良	N2/0黒			内外:ナデ 外底:静止糸切り		口縁部内外に煤付着	
良	7.5YR7/4にぶい橙色						
—	10R5/3赤褐色	内外:10R5/1赤灰色				スリ目8本　口縁3条　乗岡Ⅰbか	
—	2.5YR5/3にぶい赤褐色	内外:10R5/1赤灰色			17c初頭から中葉	スリ目8条　乗岡Ⅱ期a	
—	10R6/8赤橙色	内外:10R5/6赤色			17c末～18c初頭	スリ目9条　底部刻印有　乗岡3期	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉	呉須:淡暗青色・7.5Y4/3暗オリーブ色		17c後半	大橋Ⅲ～Ⅳ期	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉	呉須:5G7/1明緑灰色			口縁部内露胎	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:2.5GY8/1灰白色	呉須:(内)明青色 (外)暗青色		1680～1690	コンニャク印判　大橋Ⅳ期	SK20　出土片と接合する
—	2.5Y8/3浅黄色	釉:7.5YR3/4暗褐色			17c後半	鉄釉	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉	呉須:明青色		19c初頭～幕末	大橋Ⅴ期	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:10YR8/1灰白色	呉須:淡青色		1680～1700		
—	7.5Y8/1灰白色	釉:透明釉	呉須:5B5/1青灰色		1680～1700		
—	2.5Y5/1黄灰色	内外:5Y3/2オリーブ黒色			1680～1700	刷毛目碗	
						寛永通宝	
						凝灰岩製の流しの破片	
						凝灰岩製の流しの破片	
						凝灰岩製の流しの破片	
						片岩の板石	

出土遺物観察表（2）

遺物番号		写真番号	遺構番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	残存量	胎土
99	写真のみ	1224	SE01	磁	碗	肥前	底(5.9)	底部破片	微
100	写真のみ	1297-1	SE01	磁	猪口	肥前	—	口縁部破片	微
101	写真のみ	1297-2	SE01	陶	擂鉢	備前	—	口径1/12	細(微砂、黒色粒含む)
112		1100	SK21	土師質	灯明皿		口8.0、底6.0、高1.7	口径3/4	細
113	写真のみ	1248-1	SK21	磁	碗	肥前	—	口径1/12	微
114	写真のみ	1248-2	SK21	磁	碗	肥前	口(10.0)	口径1/5	微
116		1216	SK74	陶	擂鉢	備前	—	口径1/12	中(微砂、1mm以下の砂粒をわずかに含む)
117		1267	SK74	土師質	甕		—		中(赤粒含む)
118		1148	SK32	磁	皿	肥前	口(9.8)、底(4.6)、高3.9	高台径3/7	微
119		1036	SK32	陶	片口鉢		口(15.4)、底(6.2)高6.7	口径3/8	細
120		1215	SK32	陶	擂鉢	備前	口(30.0)	口径1/10	細(微砂含む)
121		1183	SK32	土師質	皿		口7.1、底4.2、高1.4	口径5/9	細
122		1182	SK32	土師質	皿		口6.9、底3.8、高1.3	口径6/7	細
123		1181	SK32	土師質	皿		口7.3、底4.4、高1.4	口径5/8	細
124		1184	SK32	土師質	皿		口(7.3)、底(4.4)、高1.5	口径1/4	細
125		1185	SK32	土師質	皿		—	底部のみ	細
126		1265-3	SK73	磁	碗	肥前	口(11.0)	口径1/7	微
127		1265-1	SK73	磁	碗	肥前	底4.0	底部のみ	微
128		1265-2	SK73	磁	碗	肥前	口(10.0)	口径1/8	微
129		1043	SK73	磁	碗	肥前	口(9.8)、底(3.9)、高6.2	口径4/9	微
130		1042	SK73	陶	碗	肥前	底4.8	高台径3/5	細
131		1266	SK73	磁	皿	肥前	底(9.4)	高台径4/9	微
132		1129	SK73	磁	花飾台	肥前	底6.0	底部完形	微
133		1221-1	SK73	陶	小壷	備前	口(6.0)	口径2/9	微
134		1221-2	SK73	陶	不明	備前	—	破片	細(微砂含む)
135		1286	SK73	陶	擂鉢	備前	—	口径1/10	中(1m大の小石を僅かに含む)
136		1288	SK73	陶	擂鉢	備前	—	口縁部破片	微(微砂含む)
137		1287	SK73	陶	擂鉢	備前	口(30.0)	口径1/12	微
138		1285	SK73	陶	擂鉢	備前	口(34.0)、底(15.2)、高(13.7)	高台径1/2	微
142		1055	造成土1	磁	碗	肥前	口(7.2)、底3.8、高5.0	口径1/3	微
143		1090	造成土1	磁	皿	肥前	口(13.9)、底8.1、高3.1	高台径1/2	微
144		1054	造成土1	磁	香炉・火入れ	肥前	口(11.8)、底6.4、高7.2	口径3/7	微
145		1091	造成土1	磁	鬢水入れ	肥前	幅4.5、高3.3	残存1/2	微
146		1178	造成土1	土師質	皿		口7.1、底3.9、高1.3	口径5/8	細
147		写12	造成土1	土師質	皿		口6.7、底3.6、高1.4	口径5/8	細
148		1281	造成土1	陶	擂鉢	備前	口(30.8)	口径1/6	細
149		1280	造成土1	陶	擂鉢	備前	口(34.0)、底(16.8)、高13.5	口径1/8	細(微～粗砂含む)
150		1282	造成土1	陶	擂鉢	備前	—	口径1/12	細(微砂含む)
151	写真のみ	1052	造成土1	陶	碗	肥前系	口11.0、底(4.0)、高5.1	口径5/9	細
152	写真のみ	1053	造成土1	陶	碗		底5.0	高台径1/2	細
153		1045	造成土1	磁	碗	肥前	口10.2、底4.1、高5.8	底部完形	微
154		1046	造成土1	磁	碗	肥前	口9.1、底3.4、高5.1	高台径2/3	微
155		1047	造成土1	磁	碗	肥前	口9.8、底4.0、高5.3	高台径2/3	微
156			造成土1	陶	碗	京・信楽系	口(11.0)	口径1/8	微
157		1049	造成土1	陶	碗	瀬戸美濃	口(9.4)、底(3.0)、高6.4	口径1/5	細
158		1048	造成土1	陶	鉢	肥前	口(10.4)、底(7.6)、高7.3	高台径1/4	細
159		1152	造成土1	陶	皿	肥前	口(20.6)、底(9.0)、高5.8	口径3/7	微
160		1126	造成土1	土師質	土錘		長10.3、幅6.7. 厚5.1	ほぼ完形	中(1mm以下の石粒多量に含む)
161		1218	造成土1	陶	擂鉢	備前	口(25.6)	口径1/7	細(微砂を含む)
162		1302	造成土1	陶	徳利	備前	底(11.0)	底部1/3	細(微砂多量に含む)
167		1234-3	造成土2	磁	碗	肥前	—	破片	微
168		1234-2	造成土2	磁	小杯	肥前	底(3.0)	高台径1/3	微
169		1234-1	造成土2	磁	皿	肥前	底(4.4)	高台径1/3	微
170		1104	造成土2	土師質	皿		口8.4、底5.3、高1.6	口径2/3	中(1mm以下の砂粒を含む)
171		1040	SK28	磁	碗	肥前	口11.0、底4.0、高6.4	口径3/8	微
172		1037	SK28	磁	碗	肥前	口(9.1)、底(5.7)、高6.4	口径3/8	微
173		1082	SK28	磁	猪口	肥前	口4.5、底2.3、高3.9	口径5/9	微
174		1271	SK28	磁	皿	肥前	口(24.0)、底(16.1)、高3.6	口径1/7	微
175		1095	SK28	磁	皿	肥前	口(13.4)、底8.2、高2.8	口径1/3	微
176		1154	SK28	磁	深皿	肥前系	口(21.2)、底(9.4)、高7.8	口径1/6	微
177		1038	SK28	磁	碗	肥前	口(8.2)、底3.6、高4.8	口径1/2	微
178		1039	SK28	磁	碗	肥前	口(8.8)、底3.6、高5.15	高台完形	微
179		1268-2	SK28	磁	皿	肥前	底(7.8)	底部破片	微
180		1167	SK28	磁	大皿	肥前	口(30.0)、底(10.8)、高7.0	口径1/2	微
181		1270-1	SK28	陶	碗	肥前	口(10.0)、底4.6、高7.1	高台径3/4	細
182		1270-3	SK28	陶	碗	肥前系	底5.3	高台完形	細
183		1270-2	SK28	陶	皿	肥前系	口(22.0)	口径1/12	細
184		1393	SK28	陶	碗		—	口縁部破片	細
185		1270-5	SK28	陶	碗	肥前系	底(4.4)	高台径1/2	細
186		1270-4	SK28	陶	碗	肥前系	底5.0	高台完形	細
187		1074	SK28	陶	碗	肥前	底4.4	高台完形	細
188		1073	SK28	陶	碗	肥前	底4.0	高台完形	細
189		1153	SK28	陶	皿	肥前	口(11.0)、高5.0	口径1/3	細

焼成	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調製	製作年代	備考	接合備考
―	N8/0灰白色	釉:透明釉	呉須:淡青色 上絵:赤色				
―	N8/0灰白色	釉:透明釉	呉須:淡青色 外面:雨降文		17c末～18c前半		
	10R4/3赤褐色	内外:10R4/3赤褐色　口縁部: 2.5YR5/3にぶい赤褐色					
良	7.5YR8/4浅黄橙色			内:回転ナデ　外底: 静止糸切り		口縁部内外に煤付着	
―	N8/0灰白色	釉:透明釉　内外:灰白色				磁器碗、器壁やや厚手	
―	白色	釉:透明釉　内外:白色				白磁碗、器壁薄手	
―	10R4/1暗赤灰色	内外:5YR5/2灰褐色 口縁部:10R1.7/1赤黒色				スリ目9本	
良	7.5YR8/4浅黄橙色			内外:ナデ			
―	N8/0灰白色	淡青灰白色	呉須:明青色		18中頃～後半	高台内　大明嘉靖年製か　底部高台内 砂付着　大橋Ⅲ期	
―	5Y7/1灰白色	釉:5Y6/3オリーブ黄色 底部高台:白色釉		内:釉剥ぎ 刷毛目:白色			
―	7.5R4/3にぶい赤褐色	内外:2.5YR4/2灰赤色			17c後半～18世紀初	スリ目9本　乗岡2期b	
良	10YR8/3浅黄橙色			内外:ナデ 外底:静止糸切り		墨書あり「おかき」	
良	10YR8/4浅黄橙色			内外:ナデ 外底:静止糸切り		墨書あり「うす」	
良	10YR8/3浅黄橙色			内外:ナデ 外底:静止糸切り		墨書あり	
良	10YR8/2灰白色			内外:ナデ 外底:静止糸切り		墨書あり	
良	10YR8/3浅黄橙色			内外:ナデ 外底:静止糸切り		墨書あり	
―	白色	内外:白色	呉須:明青色			外側面丸に菊と花文	
―	白色	内:2.5GY8/1灰白色 外:5GY8/1灰白色	呉須:淡青色		17c後半～18c中葉	高台内崩された「大明年製」　波佐見 Ⅴ-1期	
―	白色	内外:7.5GY8/1明緑灰色	呉須:淡青色			外側面雨降し文	
―	灰白色	釉:透明釉	呉須:明青色		18c初頭～中葉	外側面花草文　大橋Ⅳ期	
―	2.5Y8/3淡黄色	内外:2.5Y7/4浅黄色			17c中～後葉	呉器手碗　高台高く、畳付露胎　大橋3期	
―	N8/0灰白色	内外:淡青灰白色	呉須:淡暗青色		18c第三四半	見込み内草花文	
―	N8/0灰白色	外:5G7/1明緑灰色				青磁、3ヵ所の砂目付着　大橋Ⅲ期	
―	10R5/6赤色	内:10R5/6赤色 外:5YR4/6赤褐色			16c末～17c初頭		
―	10YR5/6赤色	―		外底に刻印あり		底部に丸に「井」の刻印あり	
―	10R4/4赤褐色	内外:10R4/4赤褐色			17c末～18c初頭	スリ目12本　乗岡3期	
―	N5/0灰色	内外:2.5YR4/3にぶい赤褐色			17c末～18c初頭	乗岡3期	
―	10R4/4赤褐色	内外:10R4/4赤褐色			17c末～18c初頭	スリ目11本　塗り土　乗岡3期	
―	10R5/6赤色	内:10R5/6赤色 外:10R4/6赤色 口縁部外:暗赤褐色			17c末～18c初頭	スリ目8本　塗り土　高台　ヘラ記号あり 乗岡3期	
―	白色	釉:透明釉 内外:5GY8/1灰白色	呉須:明青色	高台高くやや内反する。底部はやや丸みを持って張り出し、口縁は少し端反っている	17世紀後半	草文	
―	N8灰白色	釉:透明釉 内外:2.5Y8/1	呉須:淡明青色		18c初頭～18c中葉	見込み五弁花、内側面菊唐草文　外面 側唐草門、高台内渦福	
―	10BG7/1明青灰色	釉:10GY7/1明緑灰色 底:5YR3/4暗赤褐色			17c後半	青磁　三脚の足あり　蛇の目高台　畳付 にチャツ痕、底部鉄銹	
―	2.5Y8/1灰白色	釉:透明釉 内外:2.5Y8/1灰白色				底部無釉	
良	10YR8/3浅黄橙色					墨書あり「おかき」	
良	10YR8/3浅黄橙色					墨書あり	
―	10R6/6赤橙色	内外:10R5/4赤褐色		内面下半分摩滅	17c末～18c初頭	スリ目8本、塗土　乗岡3期	
―	10R5/6赤色	内外:10R5/6赤色 口縁部:5YR4/1褐灰色			17c後半～18世紀初	スリ目12本、ベタ底　乗岡2b期	
―	N6/0灰色	内外:2.5YR4/3にぶい赤褐色				スリ目12本	
―	5YR8/1灰白色	釉:透明釉　内外:5YR5/2灰褐 色～5YR4/2灰褐色				刷毛目碗　見込み重ね焼きの痕跡あり、 砂付着。畳付にも砂付着。	
―	2.5YR6/3にぶい橙	釉:(外)透明釉 内外:5YR6/3にぶい橙色	内・外底:無釉	外:白色波状刷毛目		畳付砂付着	
―	灰白色	釉:透明釉	呉須:淡青色		17c末～18c中葉	波佐見Ⅴ-Ⅰ	
―	灰白色	釉:透明釉　内:白色 外:5G7/1明緑灰色	呉須:淡明青色		18c初頭～18c中葉	大橋Ⅳ期	
―	灰白色	釉:透明釉	呉須:淡暗青色		17c末～18c中葉	コンニャク印判、波佐見Ⅴ-Ⅰ	
―	7.5Y8/1灰白色	内外:5Y7/2灰白色	文様:淡青色、白			草文	
―	2.5Y8/2灰白色				18c後半	腰サビ碗	
―		釉:2.5GY7/1明オリーブ灰色				竹文	
―	5Y7/1灰白色	釉:5Y5/3灰オリーブ色	刷毛目:白色		17c末～18c中葉	刷毛目文、蛇の目釉剥ぎ　大橋Ⅳ期	
やや軟	7.5Y7/6橙色						
―	10R5/6赤色	内外:10R5/6赤色			17c末～18c初頭	スリ目12本、塗り土　乗岡Ⅲ期	
―	N6/0灰色	内:10R4/2灰赤色 外:10R3/2暗赤褐色		内外:ロクロ成型 外:縄目・ヘラ削り・ナデ　内:ナデ	江戸前期		
―	5YR7/2明褐灰色	釉:5BG7/1明青灰色	文様:5BG7/1明青灰色				
―	白色	釉:透明釉	呉須:淡青色		1680～1740	大橋Ⅲ～Ⅳ期	
―	白色	釉:5G7/1明緑灰色			1690～1780	蛇の目釉剥ぎ　大橋Ⅳ期	
やや軟	10YR8/3浅黄橙色			内外:ナデ　外底:静 止糸切り			
―	N8/0灰白色	釉:5G7/1明緑灰色	呉須:淡青色		17c末～18c中葉	外側面草花文　崩された「大明年製」 波 佐見Ⅴ-1	
―		釉:透明釉	呉須:淡明青色		18c	筒型碗外側面花と草花文　高台内二条 の圏線「宣徳年製」 大橋Ⅲ期か	
―	N8/0灰白色	釉:透明釉	呉須:明青色		19世紀代	大橋Ⅳ期	
―	10Y8/1灰白色	釉:透明釉	呉須:5B4/1暗青灰色		18c初頭～中葉	大橋Ⅲ期	SK73出土皿と接合
―	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:10GY8/1明緑灰色	呉須:淡青色		17c後半～18世紀初	見込み五弁花　内側面草花文　外側面 唐草文　波佐見Ⅴ-1	
―	N8/0灰白色	釉:透明釉	呉須:明青色			輪花型深皿　内側面梅文　高台内渦福 大橋Ⅲ期	
―	白色	釉:透明釉　内外:白色		外:ナデ調製痕顕著に残る		白磁	
―	白色	釉:透明釉 内外:5GY8/1灰白色				白磁	
―	灰白色	釉:10GY7/1明緑灰色				青磁	
―	N8/0灰白色	内外:10GY7/1明緑灰色	模様:淡青色		17c中頃～後半	青磁蛇の目高台鉄釉塗り　波佐見Ⅳ期	SK73　出土皿と接合
―	10YR8/3浅黄橙色	内外:10YR7/4にぶい黄橙色			17c中葉～後葉	呉器手碗　畳付露胎	
	2.5Y8/2灰白色	内外:2.5Y7/3浅黄色		高台内に砂目	17c中葉～後葉	呉器手碗　畳付露胎・砂付着	
	2.5Y8/3淡黄色	内外:5Y7/3浅黄色		内外:ナデ			
―	5YR8/2灰白色	内外:2.5YR2/3極暗赤褐色				天目茶碗	
―	2.5Y7/2灰黄色	内外:2.5Y6/3にぶい黄色		白色刷毛目調製あり	18c前半	刷毛目碗	
―	5YR7/4にぶい橙色	内外:5YR5/4にぶい赤褐色		内外:白刷毛目		刷毛目碗	
―	10R5/4赤褐色	内外:10R4/1暗赤灰色		内面:同心円状刷毛目後円状の刷毛目 外面:多方向の白刷	18c前半	刷毛目碗	
―	10R6/3にぶい赤橙色	内外:10R5/1赤灰色			18c前半	刷毛目碗	
―	5YR8/2灰白色	内外:7.5YR7/4にぶい橙色		刷毛目:白色	17c後半	蛇の目釉剥ぎ	

出土遺物観察表（3）

遺物番号		写真番号	遺構番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	残存量	胎土
190		1392-1	SK28	陶	片口鉢	肥前系	口(21.0)	口径1/8	細
191		1392-2	SK28	陶	大皿	肥前系	口(30.0)	口径1/11	細
192		1164	SK28	陶	甕		底(13.4)、高(17.5)	高台径3/4	細
193		1300	SK28	陶	甕		口(25.0)	口径2/9	細(1mm以下の砂粒を僅かに含む)
194		1391	SK28	陶	鉢		口(35.8)	破片	細
195		1097	SK28	陶	甕		底(15.6)、高(4.7)	高台径1/6	密
196		1160	SK28	陶	擂鉢	備前	口(35.0)、底(15.2)、高13.9	口径1/5	細(微砂、黒色粒を含む)
197		1138	SK28	土師質	泥人形		幅3.2、高7.9	ほぼ完形	微
206		1254	SX11	磁	皿	肥前	口(21.4)、底(8.3)、高4.0	高台径1/3	微
207		1290-1	SX11	陶	碗	肥前	口(11.4)	口径3/8	細
208		1290-3	SX11	磁	碗	肥前	—	底部破片	微
209		1290-2	SX11	磁	皿	肥前	口(12.6)、底4.4、高3.5	口径3/8	微
210		1223	SX11	土師質	土製品		幅2.5×2.5、厚み0.8	完形	微
211		1162	SX11	石	宝篋印塔相輪	花崗岩	高19.2、最大幅10.2		
212		1051	SK88	陶	碗	肥前	口(10.0)、底4.6、高7.1	高台完形	微
213		1093	SK88	磁	皿	肥前	口13.2、底4.7、高3.1	口径2/3	微
214		1251	SK88	磁	瓶	肥前	—	頸部破片	細
215		1284	SK88	陶	擂鉢	備前	—		微
216		1283	SK88	陶	擂鉢	備前	口(34.0)、底(13.2)、高(15.8)	口径1/4	中(微砂多量に含む)
217		1272-5	SK20	磁	碗	肥前	口(10.0)	口径1/4	微
218		1072	SK20	磁	皿	肥前	口(13.8)、底(8.6)、高2.8	高台径5/8	微
219		1075	SK20	陶	碗	肥前	底4.4	高台完形	細
220		1026	SK20	陶	碗	肥前系	口10.5、底5.2、高7.4	口径1/3	細
221		1025	SK20	磁	火入れ	肥前	底8.0	高台径3/4	微
222		1124	SK20	陶	壺蓋		径(9.3)、高1.8	つまみ完形	細
223		1099	SK20	土師質	皿		口7.8、底5.5、高1.5	口径3/4	細
224	写真のみ	1272-4	SK20	磁	碗	肥前	口(10.0)	口径1/6	微
225	写真のみ	1272-1・5	SK20	磁	碗	肥前	口(10.0)	口径1/4	微
226	写真のみ	1272-6	SK20	磁	碗	肥前	口(10.0)	口径1/5	微
227	写真のみ	1272-7	SK20	磁	皿	肥前	—	口径1/18	微
228	写真のみ	1272-2	SK20	磁	皿	肥前	—	口径1/15	微
229	写真のみ	1272-3	SK20	磁	皿	肥前	底(8.0)	高台径2/5	微
230		写7－2	SK90	磁	碗	肥前	口(12.0)	口径1/9	微
231		1092	SK90	磁	皿	肥前	口13.4、底4.6、高2.9	口径1/2	微
233		1070	SK05	磁	皿	肥前	口(13.5)、底8.7、高2.6	口径1/3	微
234		1179	SK05	土師質	皿		口(8.9)、底(7.2)、高2.3	口径1/4	細
235		1019	SK05	磁	碗	肥前	口(9.8)、底(4.4)、高5.5	口径1/2	細
236		1020	SK05	磁	碗	肥前	口10.5、底4.0、高6.1	高台径1/2	微
237		1204	SK05	磁	碗	肥前	口(9.6)	口径1/3	微
238		1065	SK05	磁	小杯	肥前	口6.2、底2.6、高3.1	ほぼ完形	微
239		1205-1	SK05	磁	瓶	肥前	口2.1	残存1/4	微
240		1205-2	SK05	磁	瓶	肥前	—	破片	微
241		1212	SK05	陶	擂鉢	備前	口(32.0)	口径1/13	微
242	写真のみ	1264-3	SK05	磁	蓋	肥前	—	破片	微
243	写真のみ	1264-4	SK05	磁	碗	肥前	口(10.0)	口縁部破片	微
244	写真のみ	1244-2	SK05	磁	皿	肥前	—	口縁部破片	微
245	写真のみ	1244-1	SK05	磁	皿	肥前	口(30.0)	口径1/18	微
246		1200	SK05	磁	碗	肥前	底(4.4)	高台径1/6	細
247		1243	SK05	石	砥石		幅5.3、厚1.2		
248		1155	SK05	土師質	焜炉		—		細
249	写真のみ	1067	SK05	陶	碗	肥前	底(3.7)	高台径1/2	微
250	写真のみ	1262-1	SK05	磁	碗	肥前	口(10.0)	口径1/5	細
251	写真のみ	1262-2	SK05	磁	碗	肥前	—	口縁部破片	微
252	写真のみ	1262-3	SK05	磁	碗	肥前	口(12.0)	口径1/15	微
253	写真のみ	1262-4	SK05	磁	碗	肥前	口(12.0)	口径1/8	微
254	写真のみ	1262-5	SK05	磁	碗	肥前	底(4.0)	底部破片	微
255	写真のみ	1245-3	SK05	磁	不明	肥前	口(18.0)	口径1/9	微
256		1069	SK05	磁	碗	肥前	底(6.7)	高台径1/3	微
257	写真のみ	1206-1	SK05	磁	碗	肥前	口(11.0)	口径1/10	細
258	写真のみ	1263-1	SK05	磁	碗	肥前	—	破片	微
259	写真のみ	1263-2	SK05	磁	小坏	肥前	—	口縁部破片	微
260	写真のみ	1263-3	SK05	磁	碗	肥前	口(8.0)	口径1/6	微
261	写真のみ	1263-4	SK05	磁	碗	肥前	—	底径2/3	微
262	写真のみ	1263-5	SK05	磁	碗	肥前	底(3.0)	高台部破片	微
263	写真のみ	1264-1	SK05	磁	碗	肥前	—	破片	微
264	写真のみ	1264-2	SK05	磁	碗	肥前	—	口縁部破片	微
265	写真のみ	1066	SK05	磁	碗	肥前	底(5.0)	高台径1/4	細
266	写真のみ	1202	SK05	磁	鉢	肥前	口(11.0)	口縁部破片	微

焼成	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調製	製作年代	備考	接合備考
—	2.5YR5/2灰赤色	内外:7.5Y4/2灰オリーブ色		内外体部:白刷毛目 片口貼り付け指押さ	18c初頭～中頃まで	刷毛目鉢　大橋Ⅳ期	
—	2.5YR4/4にぶい赤褐色	鉄釉:2.5YR3/1暗赤灰色 内:2.5YR4/4にぶい赤褐色 外:10R4/4赤褐色			17c後葉～18c初頭	三島手の皿　鉄釉の刷毛目	
—	10R5/4赤褐色	釉:5YR4/2灰褐色	文様:2.5YR3/1暗赤灰色・浅黄色				
—	7.5YR4/1褐灰色	灰釉, 内:5YR3/4暗赤褐色 外:5YR3/4暗赤褐色		円形状の飾り			
—	7.5YR5/1褐灰色	外面:緑　7.5YR2/2黒褐色　内面:緑　7.5Y2/1黒色, 白濁釉				釉掛け分け	
—	2.5YR7/2明赤灰色＋5YR5/1褐灰色	釉:5YR4/2灰褐色 外底:5YR6/2灰褐色	文様:2.5YR3/1暗赤灰色			刷毛目鉢	
—	10R6/6赤橙色	内外:10R4/4赤褐色 口縁部:2.5YR3/2			17c末～18c中頃まで	スリ目12本、高台付き　乗岡3期か4期a	
良	7.5YR7/4にぶい橙色					観音	
—	N8/0灰白色	釉:7.5GY8/1明緑灰色	呉須:暗青色		17c第三四半	草花文	
—	2.5Y8/2灰白色	釉:透明釉 内外:2.5Y8/3淡黄色			呉器手碗		
—	白色	釉:透明釉　内外:白色	呉須:5B7/1明青灰色		18c末～19c初頭		
—	N8/0灰白色	釉:10GY8/1明緑灰色		内外:回転ナデ 内:蛇の目釉剥ぎ	17c中葉～後葉	銅緑釉薬.高台内露胎。高台内と蛇の目釉剥ぎ部分に砂粒付着。波佐見Ⅳ期	
良	7.5YR8/4浅黄橙色						
—	2.5Y8/2灰白色	釉:透明釉 内外:2.5Y8/2灰白色			17c中葉～後葉	呉器手碗　大橋Ⅲ期	
—	N8/0灰白色	釉:5G7/1明緑灰色		内:蛇の目釉剥ぎ	17c中葉～後葉	銅緑釉薬。高台内露胎。高台内と蛇の目釉剥ぎ部分に砂粒付着。波佐見Ⅳ期	
—	白色	釉:5G7/1明緑灰色	呉須:淡青色			大橋Ⅳ期か	
—	10R5/1赤灰色	外:10R4/3赤褐色 内:10R5/2灰赤色			17c後半～18c初頭	底部○に十の刻印あり　乗岡3期	
—	2.5YR5/6明赤褐色	内外:10R3/4暗赤色			17c中葉	スリ目11本　乗岡2期b	
—	灰白色	釉:透明釉　内外:灰白色	呉須:明青色			草花文　半球碗	
—	灰白色	釉:透明釉　内外:	呉須:明青色・暗青色		17c第四四半	コンニャク印判、外側面唐草文 、底部一条の圏線、ハリ　大橋Ⅳ期	SX10出土皿と接合する
—	2.5Y8/2灰白色	内外:2.5Y7/4浅黄色				呉器手碗、畳付露胎	
—	10YR6/2灰黄褐色	釉:2.5YR2/1赤黒～2.5Y2/2極暗赤褐色			鉄釉17c後半	鉄釉、畳付砂粒付着	
—	7.5Y7/2灰白色	10GY7/1～10GY8/1明緑灰色				青磁、蛇の目高台、畳付露胎でチャツ痕あり	
—	10R5/6赤色	釉:7.5YR2/2黒褐色 内:10R5/6赤色		底:回転糸きり　無釉			
良	10YR8/2灰白色			内外:ナデ　外底:静止糸切り			
—	灰白色	釉:透明釉 内外:5GY8/1灰白色	呉須:淡暗青色		18c後半	半球碗、 大橋Ⅳ期か	
—	灰白色	釉:透明釉 内外:5GY8/1灰白色	呉須:淡暗青色		18c後半	半球碗、内側面菊文、外側面笹文　大橋Ⅳ期か	217と接合
—	白色	釉:透明釉　内外:白色	呉須:淡青色			外側面　鳥文	
—	灰白色	釉:透明釉　内外:5Y6/1灰色					
—	灰白色	釉:透明釉	呉須:明青色			口縁内側面に七宝文	
—	灰白色	釉:透明釉 内外:7.5GY8/1明緑灰色	呉須:明青色			見込みコンニャク印判草花文、内側面墨弾き、ハリ　大橋Ⅳ期	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉　内外:白色	呉須:淡青色		17c末頃か	波佐見Ⅴ期か	
—	N8/0灰白色	釉:10GY8/1明緑灰色		内:蛇の目釉剥ぎ	17c中葉～後葉	銅緑釉薬。高台内露胎。高台内と蛇の目釉剥ぎ部分に砂粒付着。波佐見Ⅳ期	
—	灰白色	釉:透明釉 内外:淡青灰白色	呉須:明青色	内面:花波文を墨弾き　見込:五弁花のコンニャク印判　外面:唐草文	18c後半～19c初頭	見込みコンニャク印五弁花、口縁内面墨弾き　大橋Ⅳ期か	
良	7.5YR8/4浅黄橙色					墨書あり	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉	呉須:淡暗青色		17c中葉～18c後半	草文　波佐見Ⅴ-2期	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:10GY8/1明緑灰色	呉須:淡暗青色		17c後半～18c中葉	草花文　高台内「大明年製」の崩し字　波佐見Ⅴ-1期	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉	呉須:淡青色			流水と花の文様	
—	N8/0灰白色	内外:5GY7/1明オリーブ灰色～白色	呉須:10BG5/1青灰色		17c後半～18c中葉	笹文　紅猪口　波佐見Ⅴ-1期	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 外:7.5GY8/1明緑灰色	呉須:淡暗青色	内部:無釉	18c中葉	蛸唐草文　大橋Ⅳ－1期か	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 外:7.5GY7/1明緑灰色	呉須:淡暗青色	内部:無釉		蛸唐草文	
—	10R5/6赤色	内外:2.5YR4/2灰赤色			1800年以降	スリ目9本　乗岡4期c	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉	呉須:淡明青色			湛壷の蓋、漆継ぎ痕あり	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉	呉須:淡青色		18c初頭～18c中葉	大橋Ⅳ期	
—	白色	釉:透明釉 内外:5G7/1明緑灰色	呉須:明青色			口紅、大橋Ⅲ期か	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:7.5Y8/1灰白色	呉須:5B4/1暗青灰色		17c後半～18c初頭	染付皿　SK28からも同文様の皿出土	
—	白色	釉:透明釉	呉須:　上絵:赤・青緑			色絵碗　漆の焼継痕あり　大橋Ⅲ期か	
—	2.5Y8/2灰白色						
良	7.5YR8/1＋5YR8/2灰白色			内面:工具ナデ　ケズリ　外面:ミガキ			
—	10R5/2灰赤色	釉:透明釉 内外:5YR4/2灰褐色	刷毛目:白色			刷毛目碗	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:7.5GY8/1明緑灰色	呉須:淡青色		18c初頭～中葉	網目文　大橋Ⅳ期	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:5GY8/1灰白色	呉須:淡青色			丸に菊文	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:2.5GY7/1明オリーブ灰色	呉須:淡暗青色		18c初頭～中葉	幾何学文　大橋Ⅳ期	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉	呉須:暗青色			松文	
—	白色	釉:透明釉　内外:白色	呉須:暗青色		18c初頭～中葉	松文様、高台低い　大橋Ⅳ期	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:5G7/1明緑灰色				青磁	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:5G7/1明緑灰色	呉須:淡青色		17c中葉～後葉	草花文　大碗　波佐見Ⅳ期	
—	N7/0灰白色	釉:透明釉 内外:5GY7/1明オリーブ灰色	呉須:淡青色				
—	N8/0灰白色	釉:透明釉	呉須:明青色				
—	N8/0灰白色	釉:透明釉	呉須:淡暗青色		17c後半～18c中葉	草の文様　大橋Ⅲ・Ⅳ期	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉	呉須:暗青色		17c後半～18c中葉	草の文様　大橋Ⅲ・Ⅳ期	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:10GY8/1明緑灰色	呉須:淡暗青色		18c中葉	波佐見Ⅴ-2期	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉	呉須:淡青色				
—	N8/0灰白色	釉:透明釉	呉須:淡青色		17c中葉	網目文　二重圏線　大橋Ⅲ期	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 2.5GY7/1明オリーブ灰色	呉須:淡青色		18c初頭～18c中葉	網目文　大橋Ⅳ期	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉　内外:2.5GY7/1明オリーブ灰色	呉須:淡青色		18c初頭～18c中葉	網目文　大橋Ⅳ期	
—	白色	釉:透明釉　内外:白色			17c末～18c初頭	白磁　菊花形鉢　型打ち成形	

出土遺物観察表（4）

遺物番号		写真番号	遺構番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	残存量	胎土
267	写真のみ	1245-1	SK05	磁	皿	肥前	—	破片	微
268	写真のみ	1206-2	SK05	陶	碗	京・信楽系	—	破片	微
269	写真のみ	1245-2	SK05	陶	碗	京・信楽系	底(3.8)	高台径2/3	微
273		1231	SK56	磁	碗	肥前	口(11.6)	口径1/4	細
274		1127	SK56	瓦質	蓋		径(21.0)	つまみ完形	細
275		1279	SK56	陶	擂鉢	備前	口30.2	口径2/3	細
276		1277	SK56	陶	擂鉢	備前	口(32.0)、底(12.0)、高(12.0)	口径1/4	細
277		1278	SK56	陶	擂鉢	備前	口(36.0)	口径1/8	細(微砂を含む)
281		1228	SD10	石	印判		幅3.0×2.8、厚1.6	完形	
282		1255	SD10	陶	皿		口(39.4)	口径1/8	微
283		1295	SD10	陶	不明	肥前	—		細
284		1294	SD10	陶	蓋	不明	径(5.1)、つまみ5.0、高(5.0)	口径3/2	微
285		1291-1	SD10	磁	碗	肥前	口(9.0)	口縁部破片	微
286		1291-2	SD10	磁	紅皿	肥前	口(6.2)、底(3.6)、高2.4	高台径1/2	微
287		1291-3	SD10	陶	不明	不明	底(12.4)	高台径1/3	細
288		1291-7	SD10	陶	皿	唐津	—	口縁部破片	細
289		1291-4	SD10	磁	火入れ	肥前	口(9.4)	口径1/3	微
290	写真のみ	1291-6	SD10	陶	碗	肥前	—	破片	微
291	写真のみ	1291-5	SD10	陶	鉢	唐津	—	破片	細
292		1086	SD10	磁	猪口	肥前	底3.4	底部完形	微
293	写真のみ	1292-1	SD10	磁	碗	肥前	—	口縁部破片	微
294	写真のみ	1292-2	SD10	磁	皿	肥前	底(11.0)	高台径1/4	微
295	写真のみ	1292-3	SD10	磁	皿	肥前	底(11.0)	高台径1/3	微
296		1293-3	SD10	陶	碗	肥前系	—	口縁部破片	細
297		1293-5	SD10	陶	チロリ	京・信楽系	口(8.0)	残存1/3	微
298		1293-4	SD10	土師質	切立瓶	不明	—	残存1/6	良(石英・長石・雲母・含む。1mm以下の微砂を含む)
299	写真のみ	1293-1	SD10	磁	碗	肥前	—	口縁部破片	微
300	写真のみ	1293-2	SD10	磁	段重	肥前	—	口径1/10	微
301		1149	SB01(SK48)	磁	皿	肥前	底(7.8)	高台径3/10	微
302		1027	SK49	陶	碗	肥前	底(8.0)	高台径6/1	微
303		1236-1	SK50	磁	碗	肥前	底(4.0)	高台径1/3	微
304		1236-2	SK50	磁	碗	肥前	口(11.0)	口径1/6	微
305		1101	SK50	土師質	皿		口3.9、底5.3、高2.5	口径1/4	細(微砂含む)
307		1022	SK17	磁	碗	肥前	口(9.5)、底3.6、高5.5	高台完形	微
308		1213	SK17	陶	擂鉢	備前	口(32.6)	口径1/8	細(微砂、黒色粒含む)
309		1246	SK17	結晶片岩	石斧		—		
316		1230	SK52	磁	不明	肥前	—	口縁部破片	微
317		1035	SK52	陶	碗	京・粟田焼	底3.6	高台完形	密
318	写真のみ	1249-1	SK52	磁	小杯	肥前	底(3.4)	高台径1/4	微
319	写真のみ	1249-2	SK52	磁	碗	肥前	—	底部破片	微
320	写真のみ	1249-4	SK52	磁	碗	肥前	底(4.0)	高台径1/3	微
321	写真のみ	1249-3	SK52	磁	蓋付鉢	肥前	底(4.0)	高台径1/3	微
322		1125	SK54	磁	段重蓋	肥前	径(14.7)、高(3.6)	口径3/7	微
323		1103	SK54	土師質	皿		口7.0、底3.8、高1.1	口径3/4	細
324		1081	SK54	磁	皿	肥前	口(14.2)、底(8.0)、高3.0	口径1/4	微
325		1034	SK54	磁	火入れ	肥前	口(10.5)、底7.0、高7.6	口径1/2	微
326			SK54	陶	擂鉢	備前	口(33.0)	口径1/12	中(微砂含む)
327	写真のみ	1233-1	SK54	磁	碗	肥前	口(10.0)	口縁部破片	微
328	写真のみ	1233-2	SK54	磁	碗	肥前	—	破片	微
331		1032	SK53	磁	碗	肥前	口7.1、底3.6、高4.2	ほぼ完形	微
332		1076	SK53	磁	紅皿	肥前	口(6.0)、底2.3、高2.5	口径2/5	微
333		1077	SK53	磁	紅皿	肥前	口6.2、底2.9、高2.4	ほぼ完形	微
334		1079	SK53	磁	皿	肥前	口(13.4)、底(8.1)、高4.3	口径3/7	微
335		1080	SK53	磁	皿	肥前	口14.0、底6.0、高3.3	高台径3/5	微
336		1089	SK53	磁	蓋	肥前	径10.0、底4.1、高3.0	口径1/4	微
337		1033	SK53	磁	火入れ	肥前	口10.8、底7.2、高7.5	口径3/4	微
338		1028	SK53	磁	火入れ	肥前	口(11.2)、底(8.4)、高7.85	口径1/3	微
339		1030	SK53	陶	碗	肥前	口(8.7)、底(3.1)、高5.25	高台径3/4	微
340		1031	SK53	陶	碗	肥前	口(9.0)、底(2.9)、高5.7	口径4/5	微
341		1237	SK53	陶	碗	肥前系	口9.4	口径1/2	微
342		1238	SK53	瓦質	焙烙		口(26.8)	口径1/5	細
343		1102	SK53	土師質	皿		口6.4、底3.6、高1.8	口径1/2	細
344	写真のみ	1029	SK53	磁	碗	肥前	口(9.0)、底(4.0)	口径1/3	微
345	写真のみ	1078	SK53	磁	紅皿	肥前	口6.0、底2.4、高2.5	口径4/9	微
347		1240-1	SK03	磁	小杯	肥前	口(4.2)、底(2.4)、高2.6	口径1/3	微
348		1060	SK03	磁	小碗	肥前	口(6.6)、底3.0、高3.6	高台径2/3	微
349		1240-2	SK03	磁	猪口	肥前	口(7.1)、底(2.7)、高3.7	口径1/3	微
350		1061	SK03	陶	小杯	京・信楽系	口(6.6)、底(2.4)、高3.7	口径1/6	細
351		1059	SK03	磁	皿		口(10.6)、底(6.1)、高2.3	口径2/5	微
352		1240-3	SK03	磁	皿	肥前	口(13.6)、底(8.2)、高2.7	口径1/4	微

焼成	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調製	製作年代	備考	接合備考
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:10GY7/1明緑灰色				青磁皿	
—	7.5Y8/1灰白色	釉:透明釉　内:7.5Y8/1灰白色 外:7.5Y7/2灰白色	7.5Y2/2オリーブ黒色				
—	5Y7/1灰白色	内外:7.5Y7/1灰白色　外底: 5YR6/4にぶい橙色		高台内:無釉			
—	N8/0灰白色	釉透明釉 内外:10Y8/1灰白色	呉須:5B7/1明青灰 ～5B6/1青灰色		17c中葉	流水・花の文様　大橋Ⅲ期	
良	7.5Y4/2灰褐色						
—	10R5/4赤褐色	内外:10R5/4赤褐色 口縁部:10R4/1暗赤灰色				スリ目11本　乗岡2期bか	
—	7.5R4/2灰赤色	内外:7.5R4/2灰赤色			17c中葉	スリ目9本　乗岡2期b	
—	10R5/6赤色	7.5R4/4にぶい赤色			18c後半	スリ目8本　乗岡4期c	
						石製印判　人物の刻印	
—	5YR6/4にぶい橙色	内:2.5Y8/2灰白色 外:2.5Y8/1灰白色	文様:2.5Y4/3オリーブ褐色	外底:無釉			
—	10YR8/2灰白色	釉:透明釉 外:7.5Y8/3淡黄色					
—	2.5YR7/4淡赤橙色	内面:2.5Y4/4オリーブ褐色 外面:10R5/3赤褐色	文様:白色	外面:回転ナデ	19c	行平鍋の蓋	
—	白色	釉:10GY8/1明緑灰色	呉須:5B5/1青灰色			菊文　草文	
—	N8/0灰白色	釉:10GY8/1明緑灰色	文様:7.5Y5/2灰オリーブ色		17c後半～18c中葉	笹文　波佐見Ⅴ-1期	
—	N8/0灰白色	釉:2.5GY7/1明オリーブ灰色		外底:回転ナデ			
—	2.5Y6/1黄灰色	釉:白濁釉					
—	N8/0灰白色	釉:7.5Y6/3オリーブ黄～ 7.5Y5/3灰オリーブ色				青磁	
—	7.5Y7/1灰白色	内外:2.5Y6/2にぶい黄色	文様:2.5Y8/2灰白色			刷毛目碗	
—	10R6/3にぶい赤橙色	内:10R2/1赤黒色 外:10YR4/2灰黄褐色	文様:2.5Y8/3淡黄色				
—	白色	内外:N8/0灰白色	呉須:明青色		18c初頭～中葉	見込み五弁花　高台渦「福」 大橋Ⅳ期	
—	2.5Y8/1灰白色	釉:透明釉 内外:7.5Y8/1灰白色	呉須:淡暗青色				
—	N8/0灰白色	釉:10GY8/1明緑灰色	呉須:明青色				
—	N8/0灰白色	釉:10GY7/1明緑灰色	文様:淡青色		17c後半～18c中葉	青磁　草文　釉剥ぎ	SK28出土と同じ文様のものが出土
—	2.5Y8/3淡黄色	内外:2.5Y8/4淡黄色				呉器手碗	
—	10YR8/2灰白色	内:2.5Y7/3浅黄色　外: 10YR7/3にぶい黄橙色	文様:10Y3/2オリーブ黒色		19c後半以降		
良	7.5YR7/4にぶい橙色			注口貼り付け		草花文	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:2.5GY8/1灰白色	呉須:淡暗青色				
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:5GY8/1灰白色	呉須:淡明青色			大橋Ⅴ期	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉　内外:白灰色	呉須:淡青色		1820～1840	大橋Ⅳ期	
—	10YR7/2にぶい黄橙色	内外:7.5Y5/4にぶい褐色			17c後半	呉器手碗	
—	白色	釉:白色	呉須:淡青色		17c中葉～後半	草花文　大橋Ⅲ期	
—	白色	釉:白色	呉須:淡青色		17c中葉～後半	草花文　大橋Ⅲ期	
やや軟	10YR8/3浅黄橙色			内外:横ナデ 外底:静止糸切り			
—	白色	釉:透明釉　内:白色 外:7.5GY8/1明緑灰色	呉須:淡明青色		1820～1860	草花文　丸形碗　大橋Ⅴ期	
—	2.5YR7/4淡赤橙色	内外:10R5/6赤色		内外:回転ナデ	19c	スリ目11本　乗岡4期c	
						片岩製の石斧	
—	白色	釉:白色	呉須:明青色			花文様	
—	5YR7/4にぶい橙色	釉:白色 外底:7.5YR8/3浅黄橙色		外底:回転ナデ		高台内に「錦光山」の刻印あり	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉	呉須:淡青色				
—	N8/0灰白色	釉:透明釉	呉須:淡青色		18c末～19c初頭	菊文　大橋Ⅴ期	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉　内外:灰白色	呉須:淡青色				
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:5GY8/1灰白色	呉須:淡青色		18c	大橋Ⅳ期	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:5B7/1明青灰色	呉須:淡明青色		1690～1860	大橋Ⅴ期	
良	5YR7/4にぶい橙			内外面:ナデ　外底: 静止糸切り			
—	N8/0灰白色	内外:10Y7/1灰白色			18c中葉～後半	内側面草花文　見込み釉剥ぎコンニャク印判五弁花文　波佐見Ⅴ-Ⅱ	
—	N8/0灰白色	釉:5G7/1明緑灰色　鉄釉: 5YR3/6暗赤褐色　内:白色			17c後半～18c中葉	青磁　波佐見Ⅴ－1か	
	5PB6/1青灰色	内外:10R3/4暗赤色			18c中葉～19c中葉	スリ目9本か　乗岡4c期	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:10GY8/1明緑灰色	呉須:淡明青色		1780～1810頃		
—	白色	釉:透明釉　内外:白色	呉須:淡青色		1780～1810頃		
—	N8/0灰白色	釉:透明釉	呉須:淡暗青色		1680～1740	波佐見Ⅴ-Ⅰ	
—	白色	釉:透明釉　内外:白色	呉須:明青色			呉須　口縁内部僅かに付着	
—	白色	釉:淡明オリーブ灰色	文様:10Y5/2オリーブ灰色		18c末～幕末		
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:10GY8/1明緑灰色	呉須:淡青色		18c中葉～19c初頭	波佐見Ⅴ-Ⅱ・Ⅲ	
—	N8/0灰白色	内外:5GY7/1明緑灰				輪花　高台内に僅かに砂付着	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉	呉須:明青色		18c中葉	大橋Ⅳ期	
—	N8/0灰白色	釉:10GY8/1明緑灰色 内:7.5YR8/2灰白色		内:砂痕あり			SK54焼土層出土片と接合
—	白色	釉:2.5GY8/1灰白色 内:7.5YR8/1灰白色		内・外底:回転ナデ		青磁。高台内に砂粒付着	
—	白色	釉:5Y8/3浅黄色　外底:白色		外底:回転ナデ			
—	N8/0灰白色	釉:2.5GY7/1明オリーブ灰色 外底:2.5Y7/1灰白色	外底:無釉				
—	2.5Y8/2灰白色	内外:5Y7/3浅黄色				外底:無釉	
良		内外:2.5Y4/1黄灰～2.5Y3/1 黒褐色		内・内外口縁部:ナデ 外:指押さえ痕		外体上半に煤付着	
良	7.5YR7/4にぶい橙色			内外:ナデ　外底:板			
—	N8/0灰白色	釉:10GY7/1明緑灰色 内:7.5GY8/1明緑灰色 外:10G7/1明緑灰色	呉須:淡青色・暗青色		Ⅳ期18c中葉	染付青磁碗	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉	呉須:淡青色		18c末～幕末		
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:7.5GY8/1明緑灰色	呉須:淡明青色				
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:7.5GY8/1明緑灰色	呉須:暗青色			寿文	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:2.5GY8/1灰白色	呉須:淡暗青色				
—	2.5Y8/3淡黄色	内外:緑釉　模様あり			18c後半		
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内:2.5GY8/1灰白色	呉須:暗青色　上絵: 赤・緑色		18c前半	色絵	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:7.5Y8/1灰白色	呉須:淡青色			焼継ぎ痕あり	

出土遺物観察表（5）

遺物番号		写真番号	遺構番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	残存量	胎土
353		1143	SK03	磁	皿	肥前	—	残存1/2	微
354		1197	SK03	磁	鉢	肥前	—	口縁部破片	微
355		1058	SK03	陶	皿	源内・屋島	口(10.1)、底(7.9)、高1.8	口径1/3	細
356		1123	SK03	陶	箱庭		幅4.7、高1.2	ほぼ完形	細
357			SK03	瓦質			口(18.6)	口径1/6	細
358		1209	SK03	陶	擂鉢	堺・明石	口(35.4)	口径1/6	細(微砂、5～1cm大の小石を僅かに含む)
359		1173	SK03	石	流しか水路		—		
360		1174	SK03	石	流しか水路		—		
364		1021	SK10	陶	碗	肥前	口(10.8)、底(4.4)、高5.6	高台径2/5	微
365		1203	SK10	陶	皿	肥前	—	口径1/6	微
366		1018	SK04	磁	碗	肥前系	口10.9、底5.4、高6.5	高台完形	微
367		1064	SK04	磁	皿	肥前系	口(7.5)、底(4.5)、高2.2	高台径4/7	微
368		1259	SK04	磁	皿	肥前	口(30.8)、底(19.4)、高5.4	高台径1/3	微
369		1068	SK04	磁	皿		口(7.9)、底(4.6)、高1.8	口径1/4	微
370		1062	SK04	磁	香炉	肥前	口6.8、底2.8、高4.7	口径2/3	微
371		1145－1	SK04	磁	段重	肥前	口(13.9)、底8.8、高5.7	高台径3/4	微
372		1145－2	SK04	磁	段重	肥前	口(14.4)底(10.0)、高7.1	高台径1/4	微
373		1063	SK04	磁	瓶	肥前	底4.2	高台完形	微
374			SK04	磁	鉢	肥前系	—	口径1/6	愛
375			SK04	磁	鉢	肥前系	—	破片	微
376		1199-1	SK04	陶	灯明皿	京・信楽系	口(8.8)、底3.0、高1.85	口径1/2	微
377		1210	SK04	陶	擂鉢	堺・明石	口(32.2)	口径1/10	良(微砂含む)
378		1211	SK04	陶	甕	備前	口(19.0)	口径1/11	良(1mm以下の砂粒を含む)
379	写真のみ	1198	SK04	磁	碗	瀬戸美濃	口(8.0)	口径1/4	微
380	写真のみ	1241-1	SK04	磁	碗		口(11.0)	口径1/6	微
381	写真のみ	1241-2	SK04	磁	碗		—	破片	微
382	写真のみ	1241-3	SK04	磁	碗		—	口縁部破片	微
383	写真のみ	1260-1	SK04	磁	蓋		つまみ4.2	つまみ径3/4	微
384	写真のみ	1260-2	SK04	磁	碗		底5.0	高台ほぼ完形	微
385	写真のみ	1260-3	SK04	磁	碗		底5.2	高台径1/2	微
386	写真のみ	1260-4	SK04	磁	碗		底(4.0)	高台径1/3	微
387	写真のみ	1201	SK04	磁	皿		口8.4、底(5.0)、高1.8	口径1/6	微
388	写真のみ	1242	SK04	磁	皿		口(19.0)、底(16.0)、高5.0	口縁部破片	微
389	写真のみ	1199-2	SK04	陶	不明		—	破片	細
393		1003	SK02	磁	碗	瀬戸美濃	口8.6、底3.8、高4.9	ほぼ完形	微
394		1014	SK02	磁	蓋物	肥前	口12.0、底6.1、高6.9	ほぼ完形	微
395		1010	SK02	磁	猪口	肥前	口7.2、底5.4、高6.1	口径2/3	微
396		1133	SK02	磁	水滴	肥前	高(3.3)	残存1/2	微
397		1144	SK02	磁	鉢	肥前	口15.3、底7.2、高7.9	ほぼ完形	微
398		1158	SK02	陶	(片口)鉢	瀬戸美濃	口17.7、底9.3、高9.7	口径3/7	微
399		1395	SK02	陶	土瓶		口9.7、底7.7、高13.5	ほぼ完形	—
400		1130	SK02	陶	徳利		底5.8、高(17.6)	ほぼ完形	微
401		1134	SK02	陶	箱庭		幅3.5	ほぼ完形	微
402		1196	SK02	土師質	土錘		長4.2、厚1.0	完形	細
403		1121	SK02	磁	紅皿	肥前	口4.4、底1.4、高1.4	口径3/4	微
404		1117	SK02	土師質	土錘		長6.0、厚4.6	ほぼ完形	中(2mm大の石粒稀に含む)
405		1016	SK02	磁	碗	瀬戸美濃	口(8.9)、底(3.7)、高5.1	口径1/3	微
406		1011	SK02	磁	碗	瀬戸美濃	口(9.0)、底(3.9)、高4.6	口径1/3	微
407		1007	SK02	磁	碗	瀬戸美濃	口(9.7)、底3.8、高4.9	口径1/4	微
408		1008	SK02	磁	碗	瀬戸美濃	口(8.1)、底3.3、高4.5	口径3/7	細
409		1001	SK02	磁	碗	瀬戸美濃	口(8.3)、底3.5、高4.6	口径1/2	微
410		1002	SK02	磁	碗	肥前	口9.2、底3.6、高4.5	口径1/2	微
411		1015	SK02	磁	碗	肥前	口10.6、底4.2、高6.3	口径5/7	微
412		1012	SK02	磁	碗	肥前	口9.5、底3.4、高5.1	ほぼ完形	微
413		1119	SK02	磁	蓋	肥前	径8.7、つまみ3.8、高2.9	口径3/4	微
414		1013	SK02	磁	碗	肥前	口9.8、底4.0、高5.9	ほぼ完形	微
415		1188	SK02	磁	蓋	肥前	—	口径1/10	微
416		1118	SK02	磁	蓋	肥前	径9.0、つまみ3.6、高2.5	ほぼ完形	微
417		1151	SK02	磁	小碗	肥前	口(6.9)、底(2.8)、高3.8	口径3/8	微
418		1139	SK02	磁	小杯	肥前	口(6.2)、底(2.8)、高(3.2)	口径1/3	微
419		1006	SK02	磁	不明		底(4.0)	高台径3/4	微
420		1009	SK02	磁	猪口	肥前	口6.9、底5.2、高6.1	ほぼ完形	微
421		1005	SK02	磁	紅皿	肥前	口7.0、底3.0、高3.3	ほぼ完形	微

焼成	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調製	製作年代	備考	接合備考
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外5G7/1明緑灰色	呉須:明青色			蛸唐草　見込みに牡丹文　高台内側に富貴長春	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉	呉須:淡青色　上絵:赤・暗赤褐・金色				
—					18c後半以降	源内・屋島焼きの皿	
—	2.5Y8/3淡黄色	外:緑釉					
—	5Y8/1灰白色	内:N6/0灰色 外:5PB3/1暗青灰色					
—	5YR6/4にぶい橙色	内外:5YR6/4にぶい橙色 口縁部:10R4/2灰赤色			18c後半～19c		
—						凝灰岩　流しか水路	
—						凝灰岩　流しか水路	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:5GY8/1灰白色	呉須:淡暗青色		18c後半～19c初頃		
—	N8/0灰白色	釉:透明釉	呉須:明青色			蛸唐草	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:7.5GY8/1明緑灰色	呉須:暗青色		18c末～19c前半	広東碗　大橋Ⅴ期	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:7.5GY8/1明緑灰色	呉須:暗青色		18c後半	高台「大明年製」の崩し文字	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:7.5GY8/1明緑灰色	呉須:淡青色			口縁は波型整形　Ⅴ期か	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:5GY8/1灰白色	上絵:7.5R4/6赤・金色			赤絵皿　金箔を施す	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:5B7/1明青灰色	呉須:淡明青色	内部下半:無釉	19初頭～幕末	流水文、三足　大橋Ⅴ期	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:7.5GY8/1明緑灰色	呉須:暗青色			口縁部内無釉　蛸唐草　大橋Ⅴ期	
—	白色	釉:5B7/1明青灰色	呉須:暗青色			蛸唐草段重の最下段　大橋Ⅴ期	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 外:5G7/1明緑灰色	呉須:淡青色	内部:無釉	19c	蛸唐草　大橋Ⅴ期	
—	N8/0灰白色	釉:暗青色			19c初頭～幕末	瑠璃釉	
—	N8/0灰白色	釉:暗青色			19c初頭～幕末	瑠璃釉	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉　内:7.5Y7/2灰白色 外2.5Y8/1灰白色		内口縁部:施釉　外:回転ナデ	18c後半～19c	京・信楽系の灯明皿	
—		内外:2.5YR7/6橙色		口縁部外:回転ナデ	18c後半～19c		
—	N6/0灰色	内外:7.5R4/3にぶい赤褐 7.5R3/3暗赤褐色		内外:回転ナデ	18c		
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:2.5GY8/1灰白色	呉須:暗青色		18c末～19c前半	端反碗　波飾り	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:5GY8/1灰白色	上絵:10R5/6赤色・緑(剥落しかかっている)			赤絵碗　花の模様あり。下書きのようなものあり。	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:2.5GY8/1灰白色	上絵:10R4/8赤色			赤絵碗	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:2.5GY8/1灰白色	上絵:10R4/8赤色			赤絵碗	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:5GY8/1灰白色	上絵:10R5/8赤色		18c後半	赤絵蓋	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:5GY8/1灰白色	上絵:10R5/8赤色		18c後半	赤絵碗	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:5GY8/1灰白色	上絵:7.5R4/4にぶい赤色			赤絵碗	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:5GY8/1灰白色	上絵:10R4/8赤色			赤絵碗	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:7.5GY8/1明緑灰色	上絵:10R4/6赤色			赤絵皿　文様は1068と同じ	
—	N7/0灰白色	釉:透明釉 内外:5BG7/1明青灰色	上絵:10R5/6赤色			赤絵大皿	
—	2.5Y8/2灰白色	釉:深緑色					
—	N8/0灰白色	釉:透明釉　内外:淡青灰白色	呉須:暗青色		18c末～19c前半	端反碗	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:7.5GY8/1明緑灰色	呉須:暗青色			柘榴の文様、縁部内露胎　大橋Ⅴ期	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:2.5GY8/1灰白色	呉須:淡青色		18c中葉～後半	宝珠と矢羽根文　大橋Ⅳ期	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉　内:N8/0灰白色 外:5G7/1明緑灰色	呉須:淡暗青色	内・外底:無釉	18c末～19c前半	水滴	
—		釉:透明釉 内外:5B7/1明青灰色	呉須:明青色			見込み内銀杏の文様　大橋Ⅴ期か	
—		内外:2.5Y5/4黄褐色		外底:無釉			
—	2.5Y7/1灰白色	釉:10YR4/6褐色 外(無釉部):10R3/4暗赤色 内:2.5Y7/1灰白色		釉薬掛けわけ			
—	2.5Y8/2灰白色	釉:透明釉 内外:2.5Y8/2灰白色	鉄絵:黒	外底:無釉		お多福文様	
やや硬	5YR6/4にぶい橙色	外:5YR6/4にぶい橙色	白・緑色			社	
やや軟	10R6/4にぶい赤橙色						
—	白色	釉:10GY8/1明緑灰色		底:無釉	18c～19c	白磁紅皿	
やや軟	10YR8/3浅黄橙～5YR7/3にぶい橙色					刻印あり	
—	白色	釉:透明釉 内外5G7/1明緑灰色	呉須:明青色		18c末～19c前半	端反碗	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:5B7/1明青灰色	呉須:明青色		18c末～19c前半	端反碗	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉	呉須:淡青色		18c末～19c前半	端反碗	
—	白色	釉:透明釉 内外:2.5GY8/1灰白色	呉須:明青色		18c末～19c前半	端反碗	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:2.5GY8/1灰白色	呉須:明青色		18c末～19c前半	端反碗	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:7.5GY8/1明緑灰色	呉須:淡青色		1810年頃	大橋Ⅴ期	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉	呉須:淡暗青色		1820～1860	大橋Ⅴ期	
—	灰白色	釉:透明釉	上絵:青緑・緑・赤・紫		19c	色絵碗	
微	N8/1灰白色	釉:透明釉 内外:5G7/1明緑灰色	呉須:淡青色		1820～1860	大橋Ⅴ期	
—	5PB7/1明青灰色	釉:透明釉 内外:5B7/1明青灰	呉須:淡暗青色		1820～1860	U字形高台で高台高い。1119が蓋　大橋Ⅴ期	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:5GY8/1灰白色	呉須:明青色				
—		釉:透明釉 内外:2.5GY8/1灰白色	呉須:明青色		1820～1860	大橋Ⅴ期	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉　内外:淡青灰白色	呉須:淡青色		18c末～19c初頃	捻じ花文　大橋Ⅴ期	
—	白色	釉:透明釉　内外:白色	上絵:赤・緑・黄・茶色		19c	色絵端反小杯	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉(内・高台内無釉) 内・高台内:7.5YR8/2灰白色 外:7.5GY7/1明緑灰色	上絵:赤・青緑・緑色			色絵 高台に3方向の割高台。底部穿孔	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:7.5GY8/1明緑灰色	呉須:淡青色		18c中葉～後半	宝珠と矢羽根文　大橋Ⅳ期	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:5GY8/1灰白色	呉須:淡暗青色				

出土遺物観察表（6）

遺物番号		写真番号	遺構番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	残存量	胎土
422		1190	SK02	磁	皿	肥前	底5.7	高台完形	微
423		1056	SK02	磁	小皿	肥前	口7.7、底4.2、高2.3	完形	微
424		1142	SK02	磁	皿	肥前	口(14.7)、底9.1、高4.3	高台完形	微
425		1141	SK02	磁	花器	肥前	口9.1	口縁部完形	微
426			SK02	磁	仏飯器		底4.0	底部完形	微
427		1168	SK02	磁	大皿	肥前	口32.3、底17.5、高5.0	ほぼ完形	微
428		1171	SK02	磁	花瓶	肥前	口12.5、底12.4、高30.4	ほぼ完形	微
429		1004	SK02	陶	碗	萩	口(7.7)、底3.5、高3.5	口径2/5	微
430		1187	SK02	陶	不明	京・信楽系	—	破片	微
431		1131	SK02	陶	土瓶	京・信楽系	口6.6、底6.2、高8.2	残存1/2	微
432		1132	SK02	陶	急須		口9.3	残存4/5	微
433			SK02	陶	不明		—	—	細
434		1146	SK02	陶	火入れ		口11.6、底、11.8、高9.4	ほぼ完形	微
435		1170	SK02	陶	花瓶		口(9.3)、底9.4、高24.3	底部完形	微
436		1169	SK02	陶	大皿	瀬戸美濃	口32.8、底16.0、高6.4	口径3/4	微
437		1166	SK02	陶	水鉢	瀬戸美濃	底(20.8)	高台径1/3	細
438		1239	SK02	陶	壷	信楽	口6.7	口径3/4	中(微砂含む)
439		1122	SK02	陶	蓋		径(15.0)、つまみ4.0、高4.0	つまみ完形	微
440		1120	SK02	陶	土瓶蓋		口(8.3)、最大径(10.5)、高(2.5)	口径1/3	微
441		1017	SK02	陶	鳥鉢	京・信楽系	口(8.0)、底(5.0)、高5.4	口径5/9	微
442		1096	SK02	陶	灯明皿		口12.0、底4.5、高1.9	口径3/4	微
443		1157	SK02	瓦質	羽釜		口13.9、高7.3	ほぼ完形	中
444		1114	SK02	土師質	小皿		口6.4、底3.6、高1.6	完形	中
445		1194	SK02	土師質	サナ		径(12.6)、厚1.0	口径1/3	中
446		1165	SK02	陶	鉢		口31.0、底17.0、高14.0	底部ほぼ完形	細
447		1159	SK02	陶	擂鉢	明石・堺	口(31.8)、底(8.0)、高12.8	口径3/7	細
448		1208	SK02	陶	擂鉢	明石・堺	口(38.0)	口径1/6	細
449		1207	SK02	陶	擂鉢	備前	口(31.0)	口径1/9	細(微砂粒含む)
450		1172-3	SK02	土師質	竈の脚		長19.5	ほぼ完形	中(1～2mmの小石を僅かに含む)
451		1172-2	SK02	瓦質	竈の脚		長20.0	ほぼ完形	細
452		1172-1	SK02	瓦質	竈の脚		長19.8	ほぼ完形	細
453		1156	SK02	瓦質	焜炉		—	—	中
454		1195	SK02	土師質	泥面子		径2.7、厚0.6	完形	細
455		1191	SK02	陶	箱庭		—	—	細
456		1135	SK02	陶	箱庭		幅3.0	—	微
457		1136	SK02	土師質	泥人形		幅2.7	—	細
458		1394	SK02	土師質	泥人形		幅4.7、高4.2	人形の頭部以外完形	微
459		1189	SK02	土師質	人形		—	破片	細(雲母多く含む)
460		1137	SK02	土師質	いのしし		幅1.8、長5.3、高3.7	ほぼ完形	微
461	写真のみ	1193	SK02	磁	碗		口(7.0)	口縁部破片	微
462	写真のみ	1057	SK02	磁	小皿	肥前	口8.0、底4.5、高1.4	口径1/3	微
463	写真のみ	1192	SK02	陶	土瓶		—	破片	微
471		1071	SD02	磁	皿	肥前	口13.8、底8.0、高3.6	口径7/12	微
472		1163	SX12	土師質	甕		底21.6	底部4/5	細(微砂含む)

焼成	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調製	製作年代	備考	接合備考
—	白色	釉:透明釉 内外:5GY8/1灰白色	呉須:淡青色			見込みに幾何学文	
—		釉:透明釉 内外:2.5GY8/1灰白色	呉須:暗青色		18c後半	高台内「成化年製」	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:5GY8/1灰白色	呉須:明青色		18世紀後半	高台内「成化年製」、蛇の目凹形高台 大橋Ⅳ期	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉	上絵:赤・緑	内:無釉		赤絵の花器の口縁部	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉	上絵:10R4/8赤色			脚部の破片	
—		釉:透明釉 内外:5G7/1明緑灰色	呉須:暗青色		19c		
—	N8/0灰白色	内外:10GY8/1明緑灰色	呉須:明青色			草花文	
—	N6/0灰色	釉:(内)白色 外:5YR4/8赤褐色	ビラ掛け:白・濃茶色		19c前葉	萩焼きのビラ掛け模様。高台外に砂付着	
—		釉:透明釉	上絵:青・赤・黄・黒色			京焼きの色絵	
—	7.5YR6/1褐灰色	釉:透明釉　内:7.5YR4/4褐色 外:5GY8/1灰白色	呉須:淡暗青色	外底:無釉			
—	7.5YR7/3にぶい橙色	釉:透明釉　内:7.5YR5/4にぶい褐色　外:5Y8/1灰白色	文様:黒・緑・茶	外底:無釉	19c後半	色絵丸形	
—	5Y7/1灰白色	内外:5G5/1緑灰色＋2．5Y8/1灰白色					
—	2.5GY7/1明オリーブ灰色	釉:透明釉　外:白色					
—	7.5YR7/3にぶい橙色	内:5YR4/4にぶい赤褐色 外・口縁部:5Y8/2灰白色		外底:無釉		底部「イキ」「アイ」の墨書	
—		釉:透明釉　内外:灰黄色	文様:黒褐色	底:無釉	19c前半	馬の目大皿 墨書あり	
—	7.5Y8/1灰白色	釉:7.5Y8/3淺黄色		外底:無釉	18c	灰釉地に緑釉を流しかけ・外面に太く強いヘラ劃きで曲線や烈点文による波濤文が描かれる富田焼きの可能性もある	
—	10YR8/2灰白色	外:5YR3/4暗赤褐色		外:液だれ　把手3方向に付く　内:ロクロ成形			
やや軟	5YR6/6橙色	内外:5YR5/8明赤褐色					
—	2.5Y7/1灰白色	釉(外):7.5YR3/4暗褐色 内:2.5Y7/1灰白色				399の土瓶の蓋	
—	N8/0灰白色	釉:7.5Y7/1灰白色	文様:10YR4/6褐色	外底:釉なし　回転ナデ			
—	7.5Y8/1灰白色	釉:7.5Y7/2灰白色		外:ナデ		外:無釉	
やや硬	N8/0灰白色	内外:2.5Y3/1黒褐色		内外:回転ナデ		瓦質羽釜	
良	7.5YR8/4浅黄橙色			内外:ナデ　外底:糸切り			
良	10YR8/3浅黄橙色～ 7.5YR7/6橙色			内外:ナデ			
-	10R4/4赤褐色	内外:2.5YR2/3極暗赤褐色		内:ナデ　円形状の滴れた痕　外:口縁部ナデ　無釉　底:横方向のナデ		捏ね鉢	
—	10R5/6赤色	内外:7.5R4/2灰赤色			18c後半～19c		
—	10R5/8赤色	内外:7.5R3/1暗赤灰色		内外口縁部:ナデ 体上半:ヘラ削り	18c後半～19c	スリ目12本	
—	N4/0灰色	内外:2.5YR4/4にぶい赤褐色 口縁部:7.5R2/1赤黒色			17c初頭	スリ目　乗岡1期c	
やや軟	5YR7/2明褐灰色						
良	5B2/1青黒色						
やや軟	5B2/1青黒色						
良		外:7.5YR3/1黒褐色 内:7.5YR8/2灰白色～ 7.5YR8/4浅黄橙色		内:工具痕　外:ミガキ		刻印あり	
良	7.5YR8/4浅黄橙色					般若の文様	
—	7.5YR7/3にぶい橙色	表:白色(窓)・10YR4/6褐色		裏:ていねいなナデ			
やや硬	5YR6/4にぶい橙色	外:5YR6/4にぶい橙色	白色			社	
良	10YR8/3浅黄橙色					恵比寿　底に墨書あり	
やや硬	10YR8/3浅黄橙色					表面にキラコ付着	
良	10YR8/3浅黄橙色			表:工具による　裏:指圧痕			
やや硬	5YR6/4にぶい橙色	釉:透明釉 外:5YR5/8明赤褐色	白・黒色			釉薬の掛かった猪	
—	N8/0灰白色	釉:透明釉　内外:白色	上絵:赤色			赤絵碗	
—	白色	釉:透明釉 内外:7.5GY8/1明緑灰色	呉須:暗青色				
—	10YR7/3にぶい黄橙色	釉:透明釉　内:10YR5/3にぶい黄褐色　外:白色	絵:黒・青・茶・緑色				
—	N8/0灰白色	釉:透明釉 内外:5GY8/1灰白色	呉須:淡暗青色		19c初～中	蛇の目高台	
良	10YR8/3浅黄色			内:横ナデ　外体:縦ナデを横ナデで消す 外底:中央部は不定			

出土瓦観察表（1）

遺物番号	遺構名	写真番号	遺物種別	瓦当面(cm)								法量(cm)					胎土	色
				径(幅)	内区	外区	上外区	下外区	最大長	最大幅	厚さ	長さ(現存長)	厚さ	幅(現存長)	玉縁長さ	高さ		胎土
12	SK91	1306	軒丸瓦	13.3	9.5												良(微砂含む)	7.5Y8/1灰白色
13	SK91	1305	軒丸瓦	13.8	10.0												良好	7.5Y7/1灰白色
20	SK70	1307	軒丸瓦	13.9	9.8												良好	7.5Y8/1灰白色
36	SK65	1319	軒丸瓦	12.8	8.5												良(微砂を多く含む)	7.5Y8/1灰白色
37	SK65	1320	軒丸瓦	13.6～14.0	9.2～9.7												良好	7.5Y8/1灰白色
38	SK65	1321	軒丸瓦	14.0	10.0												良	7.5Y8/1灰白色
52	SK31	1326	軒丸瓦	13.8	10.0	2.2					1.7						やや粗(径1mm以下の赤色粒子を含む)	5YR8/3淡橙色
53	SK31	1325	軒丸瓦	13.7	9.9	2.2					1.2～1.7						やや密(径1mm以下の石英、黒色石粒を含む)	7.5Y8/1灰白色
54	SK31	1327	軒丸瓦	13.5～14.0	10.0	1.8～2.0					1.7						やや粗(径1mm以下の赤色、黒色粒子、石英、雲母を含む)	7.5Y8/1灰白色
55	SK31	1370	軒平瓦	4.2	2.0		1.2	1.0	7.9	11.8							やや密(径1mm以下の赤色粒子、石粒を含む)	5Y8/2灰白色
56	SK31	1348	軒丸瓦						9.5	11.2	1.5						粗(径1～3mmの赤色粒、石英、石粒を含む)	10YR8/2灰白色
57	SK31	1347	軒丸瓦						6.2	13.0	1.2						やや密(径1mm以下の石英、赤色粒子、石粒を含む)	7.5Y8/1灰白色
58	SK31	1343	軒丸瓦						10.5	12.3	1.8						やや密(黒色粒子を多く含む)	7.5Y8/1灰白色
59	SK31	1349	軒丸瓦						16.9	10.1	1.6～1.7						密	7.5Y8/1灰白色
60	SK31	1344	軒丸瓦	13.7	10.2	1.8～2.0					1.5						やや密(径1mm以下の石粒、石英を含む)	7.5Y8/1灰白色
61	SK31	1345	軒丸瓦						6.9	13.3	1.3～1.4						やや粗(径1mm以下の石英、石粒を多く含む)	7.5Y8/1灰白色
62	SK31	1346	軒丸瓦						10.8	11.1	2.2						密	5PB7/1明青灰色
67	SK18	1356	軒丸瓦			1.5			6.2	12.3	1.4						やや粗(径1mm以下の石粒を含む)	7.5Y8/1灰白色
68	SK18	1355	軒丸瓦	13.4～13.7	8.7	2.8					1.4～1.8						やや粗(径1mm以下の石粒を含む)	7.5Y8/1灰白色
69	SK18	1357	軒丸瓦	14.0	10.1	2.0					1.5～1.95						やや密	7.5Y8/1灰白色
70	SK18	1368	軒平瓦	3.8			1.0	0.6			1.5～2.5						やや密(径1mm以下の赤色粒子、黒色粒子を含む)	7.5Y8/1灰白色
71	SK18	1373	軒平瓦	3.0						16.8							やや密(径1mm以下の石粒を含む)	7.5Y8/1灰白色
72	SK18	1369	軒平瓦	3.7	1.6		1.2	0.7									やや密(粘土マーブル状に含む)	7.5Y8/1灰白色
83	SK69	1322	軒丸瓦	14.0	9.1												良好	7.5Y8/1灰白色
102	SE01	1354	軒丸瓦									22.7		12.0		5.4	良好	7.5Y8/1灰白色
103	SE01	1351	軒丸瓦	13.0	7.8												良(微砂を含む)	7.5Y8/1灰白色
104	SE01	1375	軒平瓦									17.8	1.3～1.5	17.8			良(径1mm程度の砂粒を僅かに含む)	7.5Y8/1灰白色
105	SE01	1376	軒平瓦									24.4		(17.0)			良好	7.5Y8/1灰白色
106	SE01	1377	軒平瓦									23.0	1.5	22.0			良好	7.5Y8/1灰白色
107	SE01	1385	丸瓦									21.7	1.5	12.2	2.6	5.5	良好	7.5Y8/1灰白色
108	SE01	1387	丸瓦									23.1		12.6		5.7	良(微砂含む)	7.5Y8/1灰白色
109	SE01	1381	丸瓦									22.8		12.4		6.8	良好	7.5Y8/1灰白色
110	SE01	1383	丸瓦									23.8		12.4		5.6	良好	7.5Y8/1灰白色
111	SE01	1379	軒上瓦									(30.0)	2.2	(23.0)			良好(微砂を含む)	外側：7.5Y8/1灰白色、内側：N5/0灰色
115	SK21	1310	軒丸瓦	14.8	10.0	2.6					1.7～2.1						やや粗(径1mmの石粒を含む)	外側：7.5Y2/1灰白色　内側：N5/0灰色
139	SK73	1309	軒丸瓦	14.0	10.2												良(微砂を含む)	7.5Y8/1灰白色
140	SK73	1308	軒丸瓦	13.7～14.3	10.0												良(微砂を含む)	7.5Y8/1灰白色
141	SK73	1367	軒平瓦														良好	7.5Y8/1灰白色
163	SK60	1340	軒丸瓦						6.9	8.3	1.4～1.9						やや密(径1mm以下の石英、黒色粒子を含む)	10Y8/1灰白色
164	SK60	1341	軒丸瓦						6.6	13.0	1.0～1.5						やや粗(径1mmの赤色粒子を含む)	7.5Y8/2灰白色
165	SK60	1342	軒丸瓦						13.6	12.8	1.2						やや粗(径1mm以下の石英を含む)	7.5Y8/1灰白色

調	丸瓦部分の調製		焼成	文様構成	備考
表面	内面	外面			
内:2.5Y7/1灰白色 外:5YR6/3にぶい橙色			甘い	連珠文:(推定18) 現存16個 巴文:3条	巴文の尾は長い。連珠文も密にある。彫りは深い。
内外:N5/0灰色～N3/0暗灰色			良	連珠文:(推定20以上)現存18個 巴文:3条	巴文の瓦当に占める割合は広い。巴文の珠文は間隔が開き、尾も長く開いていく。連珠文は小さい。
内:N5/0灰色～N6/0灰色 外:N5/0灰色			良好	連珠文:14個 巴文:3条	巴文の瓦当に占める割合は広い。尾は細くて長く、1箇所で接合する。連珠文は小ぶりである。
内外:N3/0暗灰色			甘い	連珠文:8個 巴文:3条	巴文は短く、尾は接合する。連珠文の間隔は開いている。
外:10YR7/2にぶい黄橙色 内:10YR6/1褐灰色			良	連珠文:24個 巴文:3条	彫りが深い。巴文の瓦当に占める割合は広い。巴文は細くて長く、尾は開く。連珠文は24個あり、小さく密にある。
内:N7/0灰白～N3/0暗灰色 外:2.5Y7/1灰白～N3/0暗灰色			良	連珠文:12個 巴文:3条	巴文の珠文は繋がっており、尾は長い。連珠文は12個あり間隔が開く。1箇所で笵傷が見られる。
N5/0灰色			やや良	連珠文:(推定16) 現存9個 巴文:3条	巴文は細く、尾は接続する。連珠文はやや大きく密にある。彫りは良好である。
7.5Y8/1灰白色			甘い	連珠文:(推定15) 現存8個 巴文:3条	巴文は細く、珠文も間隔が開く。連珠文は密にあり、1箇所で笵傷が見られる。
7.5Y8/1灰白色			やや不良	連珠文:15個 巴文:3条	瓦当の巴文の占める割合は広く、尾も接続する。連珠文は小ぶりで15個ある。
5Y8/2灰白色			やや不良	三つ葉唐草文	
N6/0～N4/0灰色	コビキBと布目痕。	縦方向のヘラ削り痕。	不良	連珠文:現存5個 巴文	巴文の尾は長く、連珠文は密にある。
凹凸面・裏面:N7/0灰白色 瓦当面:5Y7/1灰白色			やや不良	連珠文:現存5個 巴文	巴文。文様の彫りは深い。連珠文は間隔が開く。
N6/0灰色～7.5Y8/1灰白色			良	連珠文:現存7個 巴文:3条	巴文は太く瓦当に占める割合も広い。尾も太く接続する。連珠文は密にある。巴文の頭の所に笵傷2個あり
N6/0灰色～7.5Y8/1灰白色	コビキBと布目痕。	縦方向のヘラ削り痕。	やや良	連珠文:現存7個 巴文	巴文。巴文の瓦当に占める割合は広い。連珠文は小ぶりで密である。
7.5Y8/1灰白色			甘い	連珠文:12個 巴文:3条	巴文の瓦当に占める割合は広い。巴文の珠文も大きく尾も長い。連珠文は12個である。
凸面:7.5Y8/1灰白色 瓦当面・裏面・凹面:N6/0灰色			やや不良	連珠文:現存6個 巴文	巴文。巴文は細い。連珠文は小ぶり。
N6/0～N4/0灰色	布目痕。	縦方向のヘラ削り痕。	不良	連珠文:(推定24)現存5個 巴文	巴文。連珠文は小ぶりで密にある。丸瓦の取り付け位置は瓦当よりやや下がる。
7.5Y8/1灰白色			不良	連珠文:(推定24)現存10個 巴文	巴文の瓦当に占める割合は広い。巴文は広くて長い。連珠文は密である。
7.5Y8/1灰白色			やや不良	連珠文:19個 巴文:3条	巴文の瓦当に占める割合は広い。巴文は広く長く、尾が接続する。連珠文は19個あり、小さく密にある。
N8/0灰白色～N5/0灰色			良	連珠文:(推定16)現存8個 巴文:3条	巴文の珠文部は大きく尾は長い。連珠文は密にある。
7.5Y8/1灰白色			不良	三つ葉唐草文	
N8/0灰白色～N6/0灰色			やや不良	下り三つ葉唐草文	唐草の蔓は中心から外側へ上下上を向く。
N7/0灰白色～N6/0灰色			良好	打ち出の小槌唐草文	顎貼り付け。
内外:2.5Y5/1黄灰色～N5/0灰色	コビキB痕と布目痕。	縦方向のヘラ削り	良(やや甘い)	連珠文:16個 巴文:3条	巴文の尾は接合する。連珠文は16個あり、小さく密にある。
内外:N2/0黒色	コビキB痕。縦方向に約7mmのヘラ削り痕。	縦方向に密なヘラ削り痕。	良好	連珠文:現存5 巴文	巴文は太く、尾は短い。連珠文も大きく密にある。径1.8～2.0の釘穴が2箇所ある。
内:N2/0黒色 外:N3/0暗灰色	コビキB痕と縦方向へ1.1cm幅のヘラ削り	縦方向のヘラ削りの後縦横斜め方向に指なで	良好	連珠文:12個 巴文:3条	巴文の珠文は大きく密なるが尾は短い。連珠文は大きく密である。
表:10YR6/2灰黄褐色 裏:N3/暗灰色			良好	桐文唐草文	顎貼り付け。唐草文の蔓は中心から外へ上・下向き。
表:N3/0暗灰色 裏:N3/0暗灰色～N2/0黒色		横なで	良好	桐文唐草文	104と同笵。顎貼り付け。
内外:N2/0黒色			良好	菊文唐草文	
内:N2/0黒色 外:N3/0暗灰色	3箇所で7mmのヘラ削り痕。	縦・横方向にナデ。	良好	―	
内:N2/0黒色 外:N2/0黒色＋N4/0灰色＋5Y7/2灰白色	コビキB痕に幅5mmのヘラ削り。	縦方向にヘラ削りの後にナデ。	良好	―	
内:N3/0暗灰色 外:N4/0灰色～N3/0暗灰色		縦方向にナデ。	良好	―	
内外:N2/0黒色	ゴザ状痕。	縦方向にヘラ削り。	良好	―	
表:N2/0黒～N4/0灰色 裏:N2/0黒色			良好	―	道具瓦
N6/0灰色			やや甘い	連珠文:12個 巴文:3条	巴文は長い。
内外:N4/0灰色			良(やや甘い)	連珠文:15個 巴文:3条	巴文の珠文は大きく、尾は接合する。連珠文は密にあり、笵傷がある。
内:2.5Y7/1灰白色～N5/0灰色 外:N5/0灰色			不良	連珠文:18個 巴文:3条	巴文は太く、尾は開いている。連珠文は18個あり小ぶりで密にある。
内:N3/0暗灰色 外:2.5Y7/1灰白色			良	日輪唐草文	顎は後で貼り付けている。
N5/0灰色			不良	連珠文:現存4個 巴文	巴文の珠文はかなり大きく連珠文も大きい
N5/0灰色			良	連珠文:現存13個 巴文:3条	巴文の尾は細く長い。連珠文は密にある。
N6/0灰色	細いコビキB痕。	縦方向に密なヘラ削り痕。	良好	連珠文:(推定15個)現存8個 巴文:3条	文様はシャープで彫りが深い。巴文の尾は細く接合する。

出土瓦観察表（2）

166	SK60	1371	軒平瓦	3.5	2.0		0.8	0.8			1.6						やや粗(1mm以下の黒色粒子、石粒を多く含む)	7.5Y8/1灰白色
198	SK28	1362	軒丸瓦	12.6	8.0	2.0					1.2～1.5						やや粗(径1mm以下の石粒を含む)	7.5Y8/1灰白色
199	SK28	1352	軒丸瓦	14.0	10.7	1.9					1.5～1.8						やや密(径1mm以下の石粒を含む)	7.5Y8/1灰白色
200	SK28	1353	軒丸瓦	13.7	9.5	2.0～2.3					1.6～1.9						やや密(径1mm以下～2,3mmの石粒を含む)	7.5Y8/1灰白色
201	SK28	1354	軒丸瓦	14.1	10.0	1.8～2.1					1.7～1.9						やや密(径1mm以下の石英、石粒を含む)	7.5Y8/1灰白色
202	SK28	1350	軒丸瓦	14.0	10.0	2.3					1.7						密(径1mm以下の石粒を僅かに含む)	7.5Y8/1灰白色
203	SK28	1365	軒丸瓦	13.6～14.1	9.2	1.8					1.4						やや密(径1mm以下の黒色粒子、石英を含む)	7.5Y8/1灰白色
204	SK28	1372	軒平瓦	3.8			1.4	0.7	9.2	15.7	1.7						やや密	7.5Y8/1灰白色
205	SK28	1374	軒平瓦	3.3	1.9		0.85	0.8			1.5						やや粗(径1mm以下の石英、石粒、赤色粒子を多く含む)	7.5Y8/1灰白色
232	SK90	1304	軒丸瓦														良(微砂、小石を僅かに含む)	7.5Y8/1灰白色
270	SK05	1318	軒丸瓦	14.0	9.3	2.5					1.7						密	7.5Y8/1灰白色
271	SK05	1361	軒丸瓦	12.0	8.3	1.2					1.4						密(径1mm以下の石英をまばらに含む)	7.5Y8/1灰白色
272	SK05	1366	軒平瓦	3.9	2.2					1.4(下外区)							やや粗(径1mm以下の赤色粒子を多く含む)	7.5Y8/1灰白色
278	SK56	1311	軒丸瓦	13.7	9.8	2.0					1.4～1.6						密	7.5Y8/1灰白色
279	SK56	1316	軒丸瓦						7.1	13.0	1.7						やや粗(径1mm程の黒色、赤色粒子を含む)	7.5Y8/1灰白色
280	SK56	1317	軒丸瓦	13.4～13.7	8.8	2.3					1.3						やや粗(径1mm～3mmの赤色粒子、黒色粒子、石英を含む)	7.5Y8/1灰白色
306	SK50	1315	軒丸瓦	13.1	9.2	1.8					1.5～1.6						やや粗(径1mm以下の石英、石粒、黒色粒子を多く含む)	7.5Y8/1灰白色
310	SK17	1334	軒丸瓦	12.4	8.6	1.7～2.0					1.7						密	7.5Y8/1灰白色
311	SK17	1331	軒丸瓦						9.8	10.3	1.5						密	7.5Y8/1灰白色
312	SK17	1333	軒丸瓦	13.7	8.8	2.5					1.5						密	7.5Y8/1灰白色
313	SK17	1336	軒丸瓦	14.0	10.4	1.8					1.4～1.6						やや密(径1mm以下の石粒を僅かに含む)	7.5Y8/1灰白色
314	SK17	1335	軒丸瓦	14.7	9.6	2.3～2.6					1.7～2.2						やや密(径1mm以下の黒色粒子、石粒を僅かに含む)	7.5Y8/1灰白色
315	SK17	1332	軒丸瓦						8.0	8.2	1.4						やや密(径1mm以下の石英、石粒を含む)	7.5Y8/1灰白色
329	SK54	1312	軒丸瓦	13.1	9.2	2.0～2.3					1.8						密	7.5Y8/1灰白色
330	SK54	1313	軒丸瓦	12.2	8.7	1.7					1.3						やや密(径1mm以下の石英、赤色粒子を含む)	2.5Y8/2灰白色
346	SK53	1314	軒丸瓦	11.6～11.8	8.0	1.6					1.5						やや密(径1mm以下の黒色粒子を含む)	7.5Y8/1灰白色
361	SK03	1337	軒丸瓦	13.0	9.2	2.0					1.2						密	7.5Y8/1灰白色
362	SK03	1338	軒丸瓦	12.8	8.8	2.1					1.5						密	7.5Y8/1灰白色
363	SK03	1339	軒丸瓦	13.5	9.0	1.8～2.5					1.1						密	5Y8/1灰白色
390	SK04	1330	軒丸瓦						7.4	12.5	1.6							7.5Y8/1灰白色
391	SK04	1329	軒丸瓦						6.8	9.2	1.5						密	7.5Y8/1灰白色
392	SK04	1328	軒丸瓦						8.9	12.3	1.7						密	7.5Y8/1灰白色
464	SK02	1324	軒丸瓦	13.0	8.0	2.0					1.4						密	7.5Y8/1灰白色
465	SK02	1359	軒丸瓦	12.6	8.8	2.0					1.4						密	7.5Y8/1灰白色
466	SK02	1358	軒丸瓦						(6.1)		1.4						密	7.5Y8/1灰白色
467	SK02	1360	軒丸瓦	13.0	9.1	1.9					1.4						密	7.5Y8/1灰白色
468	SK02	1323	軒丸瓦	12.6	9.4	1.5～1.7					1.4	(5.3)	1.3				やや密	灰白色
469	SK02	1364	軒丸瓦	13.0	8.8	2.0					1.6						密	7.5YR8/1灰白色
470	SK02	1378	軒上瓦									24.8	1.7	34.8			密	7.5YR8/1灰白色

N5/0灰色			やや良	唐草文	顎貼り付け
10YR6/1褐灰色	ゴザ状痕。	縦方向にヘラ削り痕。	やや不良	連珠文:9個　巴文:3条	巴文の尾は長い。連珠文は9個ある。
瓦当面:7.5Y8/1灰白色 裏面:N8/0灰白より淡い			不良	連珠文:現存6個　巴文:3条	巴文の尾は接続する。巴文や連珠文は明瞭である。
瓦当面:7.5Y8/1灰白色 凸面・裏面:N6/0灰白色			不良	連珠文:9個　巴文:3条	瓦当面に占める巴文の面積は広く、尾も長く接続する。連珠文は9個あり、間隔は開く。
7.5Y8/1灰白色 凹面:N6/0～N5/0灰色	コビキBと布目痕。	縦方向にヘラ削り痕。	甘い	連珠文:15個　巴文:3条	瓦当面に占める巴文の面積は広く、尾も長い。連珠文は15個で密にあり、連珠文の3箇所で笵傷がみられる。
N4/0灰色	布目痕。	縦方向にヘラ削り痕。	甘い	連珠文:(推定16個)現存8点　巴文:3条	瓦当面の巴文の占める割合は広く、巴文の珠文は大きい。連珠文は小ぶりで密にある。
瓦当面・裏面:7.5Y8/1灰白色	コビキB痕。	縦方向にヘラ削り痕。	やや不良	連珠文:8個　巴文:3条	巴文は細く短い。連珠文は8個あり間隔が開いている。
N8/0灰白色～N6/0灰色			良	三つ葉唐草文	唐草の蔓は中心から外側へ下・上へ向く。
凹面:7.5Y7/1灰白色＋10Y5/1灰色　凸面:N5/0灰色 瓦当面:7.5Y7/1灰白色			やや不良	三つ葉唐草文	顎貼り付け。
内外:N4/0灰色			良	連珠文:(推定24個)現存8個　巴文	巴文の珠文はひらいている。連珠文も小ぶりで密にある。
瓦当:7.5Y8/1灰白色＋N6/0灰色　裏面:5Y8/2灰白色～N6/0灰色			やや不良	連珠文:(推定8個)現存6個　巴文:3条	巴文は細くて長く、尾が接続する。連珠文は小さく間隔が開く。
瓦当・凸面:N8/0～N7/0灰白色 裏面・凹面:N6/0灰色		縦方向に密なヘラ削り痕。	やや良	連珠文:現存4個　巴文	巴文は細くて長く、尾が接続する。連珠文は270よりやや大きく間隔が開く。
N6/0灰色～N8/0灰白色			良好	唐草文	唐草文軒平瓦。顎貼り付け。
N6/0灰色			やや良	連珠文:24個　巴文:3条	巴文は瓦当に占める割合は広く、細くて長い。連珠文も24個あり小さく密にある。タイプ的に古い瓦である。
N5/0灰色			やや不良	連珠文:現存5個　巴文	巴文は細く長く、尾は接合する。巴文の瓦当に占める割合は広い。連珠文は9個あり小ぶりで間隔は開く。3箇所で笵傷が見られる。
N6/0灰色			やや良	連珠文:9個　巴文:3条	279と同笵瓦
N5/0灰色			やや不良	連珠文:8個　巴文:3条	巴文の珠文は大きく、尾は短く結合する。連珠文は8個あり間隔は開いている。
N6/0灰色			良好	連珠文:8個　巴文:3条	巴文の珠文は大きく尾も長く接続する。連珠文は8個あり、大きく間隔は開く。連珠文には笵傷がある。
N6/0灰色～N8/0灰白色			やや不良	連珠文:6個　巴文	巴文は長く接続する。連珠文は小さく密にある。
N8/0～N7/0灰白色			やや不良	連珠文:9個　巴文:3条	瓦当内での巴文の占める割合は大きく、巴文は細く長く、尾で接続する。連珠文は小さく9個あり、間隔は開く。彫りは浅い。
7.5Y7/1灰白～N6/0灰色			やや良好	連珠文:(推定12個)現存8個　巴文:3条	巴文は細く、尾は接続する。連珠文は小さく間隔は開いている。
7.5Y7/1灰白～N6/0灰色		縦方向の密なヘラ削り痕。	やや不良	連珠文:16個　巴文:3条	巴文で尾は長い。連珠文は16個あり、小さく密にある。
N6/0灰色～N8/0灰白色			やや良	連珠文:現存4個　巴文	巴文は細く長い。連珠文は小さくやや開く。
N7/0灰白色～N5/0灰色			良好	連珠文:8個　巴文:3条	彫りは深い。連珠文は8個あり大きく間隔が開く。1箇所笵傷がみられる。
N4/0灰色			良	連珠文:現存9個　巴文:3条	巴文の尾は接合する。
N5/0灰色			良好	連珠文:8個　巴文:3条	巴文の尾は接合する。連珠文は8個あり間隔が開いている。連珠文の1箇所に笵傷がある。
N4/0灰色		縦方向に密なヘラ削り痕。	良好	連珠文:7個　巴文:3条	巴文は太く短い。連珠文は7個あり大きく間隔が開く。
N4/0灰色			良好	連珠文:12個　巴文:3条	巴文は361より太くて小さく短い。連珠文は12個あり大きく密にある。
N6/0灰色			良好	連珠文:8個　巴文:3条	巴文は細く長い。連珠文は8個あり大きく間隔が開く。
N5/0灰色			良好	連珠文:現存5個　巴文	巴文。巴文は太く短い。連珠文は大きく密である。
N5/0灰色～N7/0灰白色			不良	連珠文:現存2個　巴文	巴文。巴文は太く、連珠文はやや間隔が開く。
N8/0～N7/0灰白色			やや不良	連珠文:現存4個　巴文:3条	巴文。巴文は長い。連珠文は大きく密にある。笵傷は多く見られる。
瓦当・裏面:N4/0灰色			良好	連珠文:現存6個　巴文	巴文は短い。連珠文は大きく間隔が密。
瓦当・裏面:N4/0灰色			良好	連珠文:現存6個　巴文	巴は太く短い。連珠文は大きく間隔は密。
瓦当・裏面:N4/0灰色			良好	連珠文:現存4個　巴文:2条	連珠文は大きく、間隔は狭い。
N7/0灰白色			良好	連珠文:8個　巴文:3条	巴文の間隔は広く短い。連珠文は大きく、間隔は広く8個ある。
5PB7/1明青灰色～5B3/1暗青灰色			良好	連珠文:8個　巴文:3条	巴文は短い。連珠文は大きく間隔が広い。
N7/0～N8/0灰白色	瓦当側に11箇所の幅約5mmのヘラ削り痕。	縦方向のヘラ削りが残る。	良好	連珠文:現存6個　巴文:3条	巴文は小さく密である。連珠文は大きく、間隔は密。径1.7cmの釘穴あり。
5PB4/1暗青灰色			良好	―	

層位表

検出遺構面	標高	遺構																																							
	5.8																																								
	5.7																																								
	5.6																																								
	5.5																																								
	5.4																																								
	5.3																																								
近現代	5.2																																								
	5.1																																								
	5																																								SD02
	4.9																																					SK03	SK10		SK02	
明治7年～	4.8																																								SD05
19世紀中頃	4.7																													SD10上											
第4期19世紀中頃～	4.6																	SE01埋土							SK22				SD10下										SK04		
18世紀後半	4.5																			造成土1							SK05				SB01				SK52	SK53		SK10下			
第3期18世紀後半～	4.4								SK31						SK74	SK63	SK62																	SK17							SK02下	
18世紀初頭	4.3											SK18	SK65	SK73				SK69						SX11				SK56		造成土2						SK54	SK03下				
第2期17世紀中頃 第1期17世紀前半	4.2			SK67	SK68	SK75		SK70			SK32											SK20									SK49	SK50									
	4.1		SK86				SK91			SK26								SK21			SK88				SK90															
	4	SK82																																							
	3.9																																								
	3.8																		SK28																						
	3.7																																								
	3.6																																								
																		SE01																							

＜写真図版＞

遺構写真図版１～９

出土遺物図版１～22

※遺構番号右側の４桁の数字は写真（整理）番号

１　調査前

２　下層　西区　完堀

３　下層　西区　石検出

４　下層　西区　石取り除き完堀　東から

５　航空写真　調査地西側

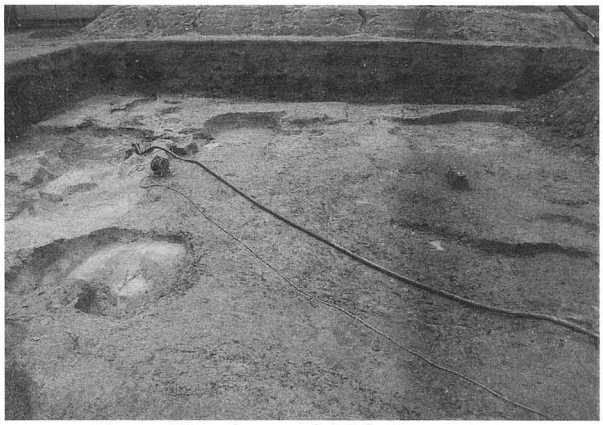
６　航空写真　調査地東側

７　完堀西区１　北から１

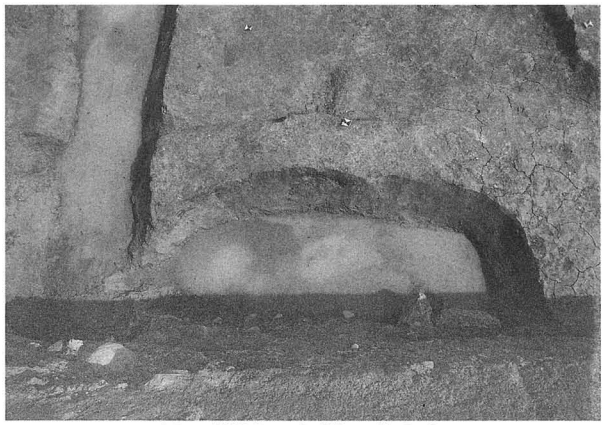
８　完堀西区２　東から

遺構写真図版２

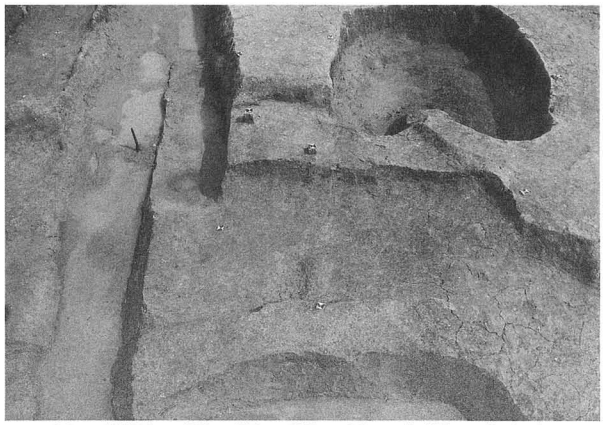
9　完堀西区3 南から２



10　下層　東区　完堀全景　西から



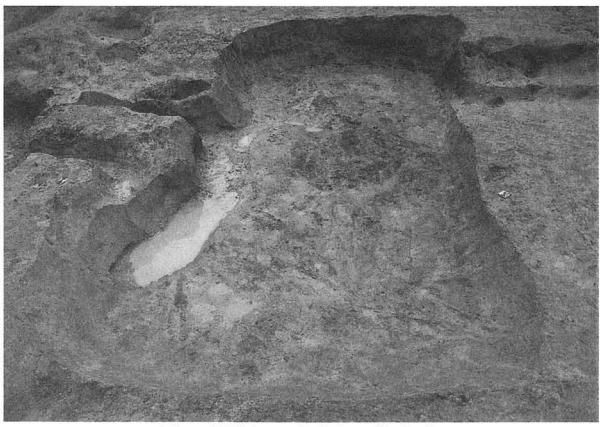
11　SK82　完堀　北から



12　SK86・75・76・77・69　完掘　北から

13　SK67　完掘　北から

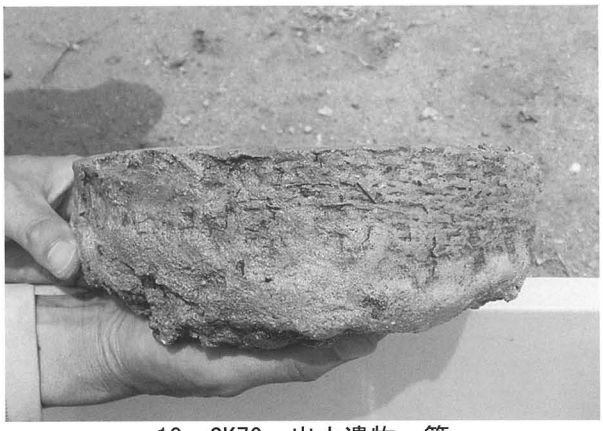
14　SK68　完掘　南から



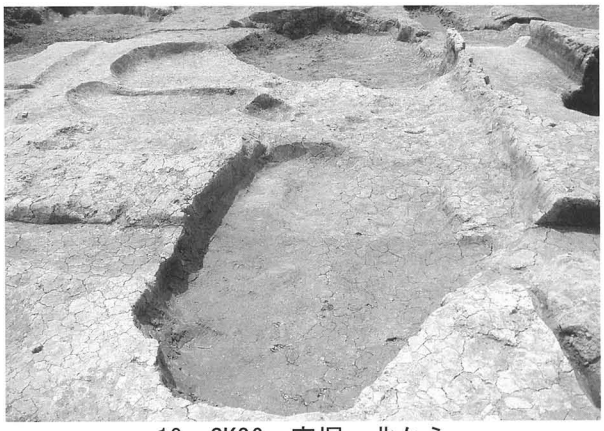
15　SK91　完堀　北から

16　SK70　完堀　東から

17　SK71・70　完掘　北から



18　SK70　出土遺物　籠

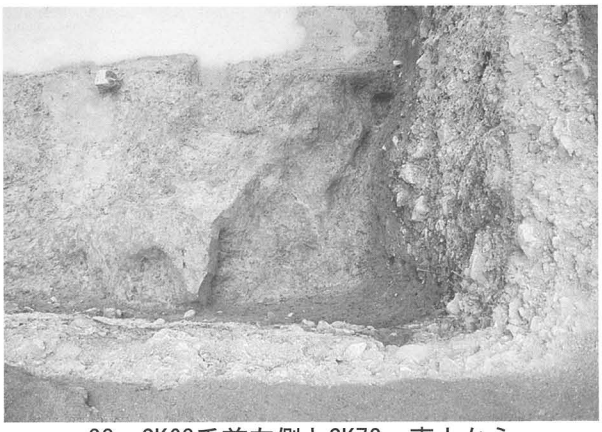


19　SK26　完堀　北から

20　SK59・62・60・65・73・74　完堀　北から

21　SK31　完堀　西から

22　SK18　完堀　南から

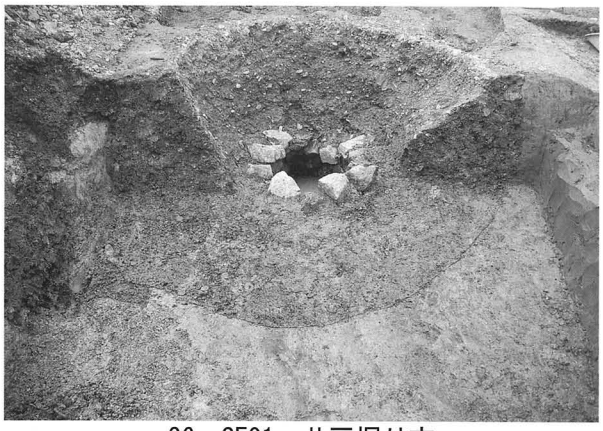


23　SK63手前左側とSK72　東上から

24　SE01航空写真

遺構写真図版４

25　SK21　完堀　西から



26　SE01　井戸掘り方

27　SE01　井戸上から

28　SE01 井戸完堀２

29　SE01 井戸半さい

30　SE01 井戸底

31　SX10井戸の埋められた状況　南から

32　SX10井戸の埋められた状況　西から

33　SK74　検出作業

34　SK32　完堀　西南から

35　SK33・65・SK32　完堀　南から

36　SK73　西南から

37　SK28　完堀　西から

38　SK33・SK28土層　中央部やや左よりは試掘トレンチ
造成土１がSK33上層で見られる

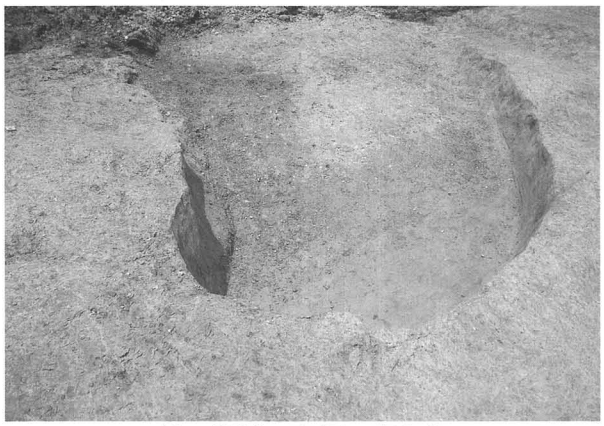
39　SX11　南から

40　SX11　南西から

遺構写真図版６

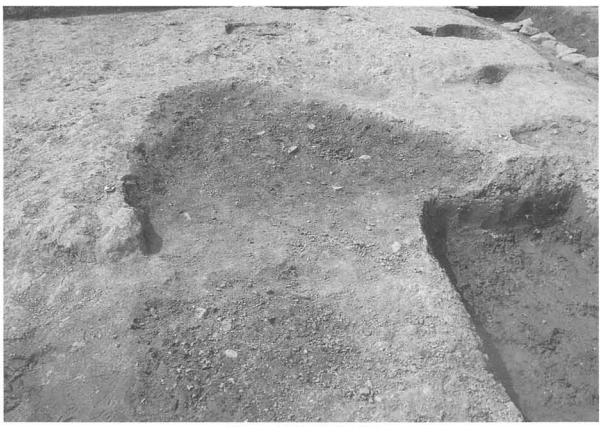
41　SK87・88　完掘　南から

42　SK20土層　西から



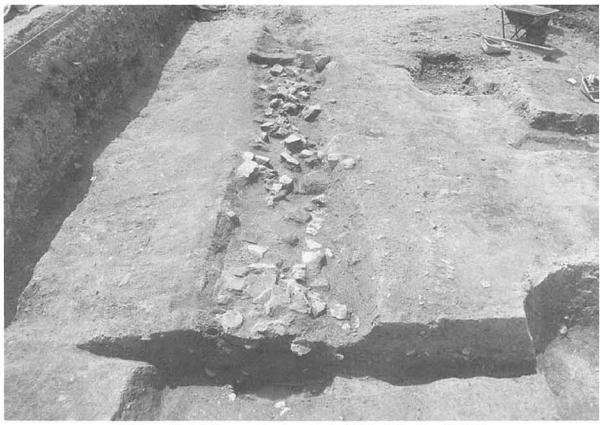
43　SK90　完掘　東から

44　SK05　完堀　南から



45　SK56完堀

46　SD10・SX04　完堀北から



47　SD10　北から遺物散布状況

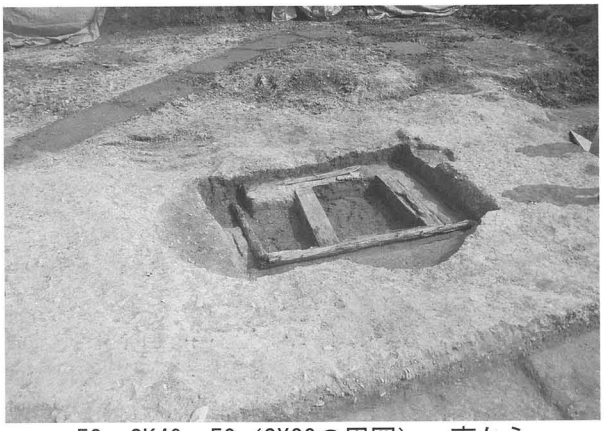
48　SD10・SK52　検出　東から

49　SD10・SK52　検出　北から

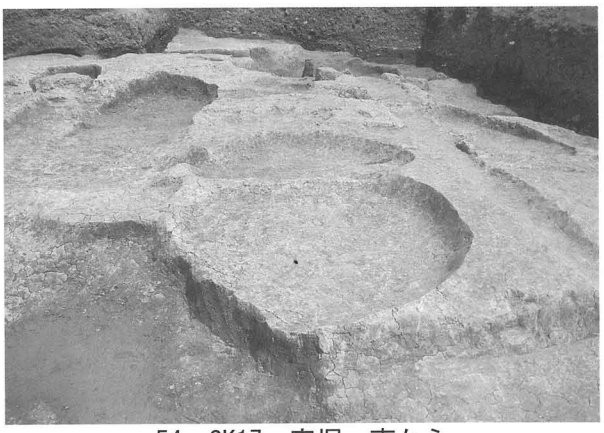
50　SD10　石列取外し　北から

51　SK56・SP11・SP12　完堀　北から

52　SP12西から



53　SK49・50（SX20の周囲）　南から



54　SK17　完堀　南から

55　SK53・54西から

56　SK03　完堀　東から

57　SK10　完堀　東から

58　SK04他遺構検出状況　南から

59　SK02東西土層　南から

60　SX12検出状況

61　SD02　完堀　東南から

62　SD03　完堀　東から

63　SX20検出東から２

64　SK40　完掘　東から